

# 年報

# いのちの輝き

2023年度 第20号



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL

宮城県立こども病院

---

「宮城県小児総合医療整備基本計画基本理念」  
すべての子どもにいのちの輝きを

「子ども病院設計理念」  
元気のなるファミリーホスピタル

---

「病院理念」

私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。  
私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

「基本方針」

1. チーム医療・成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
  5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
  7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
  8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

「看護理念」

1. こどもとご家族の権利を尊重し、倫理に基づいた看護を提供します。
2. こどものいのちをまもり成長・発達を促すとともに、安全な看護を提供します。
3. こどもとご家族をひとつとしてとらえ、あたたかな看護を提供します。
4. 小児専門病院として質の高い看護を実践し社会に貢献します。

「病院のこども憲章」

1. こどもたちは、こどもの病気を治すことを専門とする職員によって、適切な治療を受けられます。
2. こどもたちは、みずからの健康に関するすべてのことについて、年齢や理解度に応じた方法で説明を受けられます。
3. こどもたちとその家族は、検査や治療について事前に十分な説明を受け、納得したうえで診療を受けられます。
4. こどもたちは、いつでも安心して治療が受けられるような環境のなかで、安全で痛みの少ない治療を受けられます。
  5. 家族はこどもたちの治療に積極的に参加することができます。
6. こどもたちは、年齢や病状にあった遊びやレクリエーションを提供され、教育を受けられます。
  7. こどもたちとその家族のプライバシーはいつでも守られます。

(この憲章は、宮城県立こども病院でのこどもたちやご家族の権利を示すものです。)

宮城県立こども病院 理事長 今 泉 益 栄

2023年度（令和5年度）は病院の創立20周年の年であり、同時に次のことで社会状況が病院に大きく影響した年となりました。第一に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の第五類移行にも係らず、入院患者数の回復が遅延したこと、第二は医師の働き方改革への対応策がやや遅れ人件費の増加を招いたことです。これらの要因で2023年度の病院収支は厳しい結果となりました。

感染症患者数はかなり回復したのですが、全体の患者数はなお低調で2023年度病床利用率は66.8%（前年度比1.1%増）でした。一方、医師の働き方改革に向けて勤怠管理等を整備しましたが、宿日直許可取得の困難な診療科で時間外勤務時間が大幅に増加しました。対応策として、新生児科と集中治療科にフレックスタイム制の導入に踏み切りました。当院NICUは未熟児や先天奇形児の、またPICUは重症小児患者や先天性心臓病児の「最後の砦」として広域から患者を受けいれています。

この様な要因に加えて物価高による病院経費の増加も病院収支の悪化に拍車をかけました。コロナの3年間は多額の補助金で辛うじて維持できた収支バランスが2023年度は補助金削減で悪化が顕在化しました。しかし、この厳しさは業務の効率化とコスト意識の醸成などの病院改革に取り組む契機になると考えています。

COVID-19パンデミックが加速した重要な社会変化の一つが少子化です。2023年の出生数は72.7万人で前年から4.3万人減少しました。加速する小児人口の減少が社会のあり方と小児医療に大きなインパクトを与えています。この様な状況で高度小児専門病院として継続・発展させるために、東北全域を視野に患者を広くリクルートし同時に小児医療の若手医師を育成する仕組みの構築を急ぐ必要があります。当院の強みとなり得る拓桃園の統合や循環器センターの活用が重要です。

将来的に少子化が小児医療に及ぼす変化を止めることは出来ません。さらに、病院職員の働き方改革と就労環境整備は継続してゆく必要があります。創立20周年の節目の年は、その後、小児医療の流れの変換点であったと振り返る分かれ目になるかも知れません。一方、安全と信頼の小児医療を提供し病院を持続するために、宮城県立こども病院は地域社会から必要とされる病院であり続けることに変わりはありません。

今後ともご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

---

---

## 巻頭言

---

---

宮城県立こども病院 院長 呉 繁 夫

日頃より宮城県立こども病院の運営にご理解、ご支援を頂き、ありがとうございます。  
当院の2023年度年報が出来ましたのでお送りいたします。

新型コロナウイルス感染が我が国で2021年に初めて確認され、2023年に5類移行となり制度上はインフルエンザ・ウイルス感染症と同様に扱われるようになりました。今年度最も注力したことは、2024年度から始まる「医師の働き方改革」への対応です。特に、NICUやPICUの時間外勤務が長く、その対応が急務でした。この問題の解決のためにフレックスタイム制の勤務を導入しました。業務が立て込んでいる時と余裕のある時で勤務医数を柔軟に変化させ、各自の時間外勤務時間を出来るだけ低く抑えるシステムをスタートさせました。前例のないフレックス制の導入にあたっては、事務部と診療部の関係者の多大なご尽力を頂きました。実際、パイロット運用してみると時間外勤務は堅調に低減し本格運用に至りました。「医師に働き方改革」の本来の目標である、「医師の長時間労働を無くし、健康を守る」を達成できるように職員の英知を結集してこの改革を進めてまいります。

2023年の我が国の年間出生数は、72万となりました。急速な少子化により小児疾患の患者数が減少すると専門診療を必要とする小児疾患への対応が困難となる地域が増えてくると予想されます。特に東北地方は少子化の進行が早く、乏しい小児医療資源の更なる有効活用が問題になってきます。これらの小児医療の課題はこども病院のみでは解決できないものばかりで、小児医療機関はもとより、教育機関、行政、民間企業など多くの方面で活動の輪を広げていく必要があります。

小児医療の向上のため、今後ともご理解、ご支援の程、どうぞよろしく願いいたします。

# 目 次

病院の理念・基本方針

挨拶

巻頭言

## 第1部 業務編

第1章 診療部	1
新生児科	1
総合診療科	2
消化器科	4
アレルギー科	5
腎臓内科	6
リウマチ・感染症科	7
血液腫瘍科	8
循環器科	11
神経科	12
外科	14
心臓血管外科	15
脳神経外科	16
整形外科	18
形成外科	20
泌尿器科	21
産科	23
歯科口腔外科・矯正歯科	25
リハビリテーション科	27
発達診療科	28
放射線科	30
麻酔科	30
集中治療科	31
臨床病理科	33
第2章 看護部	34
I. 看護部基本方針	34
II. 看護部目標と取り組み・成果	34
III. 組織・要員	36
VI. 教育活動	38
V. 委員会活動	50
VI. 各部署紹介	58
第3章 薬剤部	67
第4章 医療技術部門	70
放射線部	70
検査部	71

栄養管理部	73
臨床工学部	76
リハビリテーション・発達支援部	76
診療支援部	78
第5章 医療情報部	81
第6章 地域医療連携室	82
第7章 事務部	85
第8章 成育支援部門	88
第9章 各種委員会 等	95
感染管理室	95
医療安全推進室	96
褥瘡対策委員会	99
栄養サポートチーム (Nutrition Support Team)	100
療育支援室	100
臨床研究推進室	101
入退院センター	103
緩和ケアチーム	103
第10章 ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい	106

## 第2部 資料編

第1章 診療状況	107
第2章 経営収支状況	121
第3章 業績	124
講演	124
学会発表	130
発表論文	139
著書	143
表彰	145
治験・研究	146
認定医・専門医、学会・研究会等の役職	156
院内講演会・研修会・勉強会等	173
第4章 こどもの行事・慰問・視察 等	175
第5章 寄付	179
第6章 ボランティア活動	180
第7章 施設概要	181
沿革	181
施設・設備概要 (配置図)	182
組織 (組織図、職員数、委託職員数)	193
会議・委員会	198
許認可・施設基準等一覧	200
編集後記	204

# 第 1 部 業 務 編

# 第1章 診療部

## 新生児科

小児専門病院の新生児科として、内科系、外科系合併疾患のある新生児を優先して受け入れ、各分野の専門科との協力体制のもと入院診療にあたっている。先天性疾患合併例では当院産科に紹介されることが多く、出生前から産科や各診療科から病状や出生後の治療について説明を行っている。また、病棟スタッフや臨床心理士、遺伝カウンセラーとチームになり、ご家族の病気の理解や受け入れに尽力している。各疾患の内訳や集中治療の詳細は下記に記した。

外来診療では早産低出生体重児のほか、発達遅滞のリスクがある先天性心疾患や他の胎児診断例のフォローアップをおこなっている。ほかに、ダウン症療育指導外来の運営や複雑心奇形の乳児期栄養管理なども行っている。また、医療的ケア児の増加のため、外来での在宅医療管理や特別支援学校の巡回指導などに協力した。

### スタッフ

医師 渡邊達也、内田俊彦、高梨愛佳、熊坂衣織（4-9月）、武蔵克志

後期研修医 頓所滉平（4-9月）、宍戸悠華（10-3月）、八木悠貴（10-3月）

非常勤医師 齋藤潤子（外来のみ、週1.5日）、当直応援医師（月1回）

当科の人事は、東北大学新生児グループとプログラム in MIYAGI の特定分野研修ローテート医師（6カ月）から成り立っている。

新生児グループの人事では、4月に及川剛医師が神奈川県立こども医療センター新生児科に、10月に熊坂衣織医師が栗原中央病院に異動となった。また、4月に高梨愛佳医師が東北大学病院から着任した。

### 入院症例

入院患者数は、新生児病棟226名、産科病棟57名で合わせて283名であった。283名中院内出生は130名で、そのうち母体搬送は39名、産科外来紹介は91名であった。院外出生児の入院数は94名であった。また、新生児病棟と産科病棟の移動のほか、ICUから13名の患者を受け入れた。

- 1) 新生児病棟妊娠週数別入院患者数：226名  
22～25週：3名、26週以降：223名
- 2) 新生児病棟出生体重別入院：226名  
出生体重1,000g未満：15名、1,000～1,499g：17名、1,500～1,999g：25名、2,000～2,499g：48名、2,500g以上：121名
- 3) 合併症（重複あり、手術は延べ件数）
  - ① 心臓：81名 手術件数6件  
動脈管結紮術 6件  
心臓カテーテル検査 3件
  - ② 脳神経：24名 手術件数9件  
VPシャント 3件  
オンマヤリザーバー留置 3件  
髄膜瘤修復 3件  
骨縫合切除・頭蓋形成 1件  
開頭減圧術 1件
  - ③ 腎泌尿器：26名 手術件数3件  
腎瘻造設 1件  
膀胱皮膚瘻造設 1件  
総排泄腔外反手術 2件
  - ④ 内臓：45名 手術件数31件  
stoma造設 5件  
stoma閉鎖 1件  
CV挿入 3件  
気管切開 3件  
十二指腸閉鎖 1件  
中腸軸捻転 3件  
肛門形成 2件  
癒着性イレウス 1件  
臍帯ヘルニア 3件  
卵巣嚢腫開窓術 1件  
鼠径ヘルニア 3件  
腹膜透析カテーテル 1件  
横隔膜縫縮術 1件  
腹膜炎手術 5件  
試験開腹 1件  
梨状窩嚢胞摘出 3件
  - ⑤ 外表奇形：32例
  - ⑥ 骨：7例
  - ⑦ 血液：5例

⑧ 染色体・症候群：36例	
21トリソミー	10例
18トリソミー	4例
13トリソミー	1例
22q11.2欠失	5例
Noonan症候群	4例
VATER連合	1例
Potter症候群	2例
Kabuki症候群	1例
内臓逆位	1例
Beare Stevenson症候群	1例
Prune Belly症候群	1例
点状軟骨異形成症	1例
結節性硬化症	1例
Sotos症候群	1例
Pierre Robin症候群	1例
Beckwith-Wiedemann症候群	1例
⑨ その他：未熟児網膜症治療2例(眼内注射2例)	
4) 集中治療(重複あり)	
・人工換気療法	105例
・経鼻持続陽圧／高流量鼻カニューラ療法	91例

・一酸化窒素吸入療法	11例
・低酸素療法	4例
・低体温療法	1例
・血液透析＋血漿交換	1例
・腹膜透析	1例

#### 5) 死亡症例

2023年度入院の死亡症例は7例で、詳細は下記のとおり(出生順に記載)。

・37週、3,935g	先天性脳腫瘍
・40週、2,652g	低酸素性虚血性脳症、敗血症
・27週、1,086g	極低出生体重児、1絨毛膜2羊膜性双胎、壊死性腸炎
・25週、940g	超低出生体重児、胎児水腫
・32週、1,332g	VATER症候群、左肺欠損、食道閉鎖、大動脈縮窄
・38週、2,116g	18トリソミー
・35週、2,614g	Potter症候群 剖検あり

死亡症例数は例年通りであった。  
剖検1例、Autopsy Imaging 0例であった。

(埴田 卓志)

## 総合診療科

総合診療科は、病院の窓口として新患紹介患者への対応、小児一般疾患および救急疾患の診療、先天異常や多発奇形など専門科に振り分けにくい患児の主治医、各専門科間のコーディネーターとしての役割、胃瘻・中心静脈栄養・酸素吸入・気管切開・人工呼吸管理など在宅医療を要する児の外來フォローおよび入院治療などを担っている。

虻川大樹副院長・科長、三浦克志科長、稲垣徹史科長、梅林宏明科長、角田文彦部長、堀野智史部長、桜井博毅部長、木越隆晶医長、星雄介医長、秋はるか医長、宮林広樹医師(フェロー)、山口祐樹医師(フェロー)、成重勇太医師(フェロー)に加えて、2023年4月より谷河翠医師、齋藤秀嘉医師(フェロー)、篠崎まみ医師(フェロー)が着任した。一方、3年間在籍した加藤歩医師(フェロー)が2023年3月末で退職し、仙台市立病院小児科へ異動した。また、泉田亮平医長が2023年3月末で退職し、新潟大学医学部小児科学教室へ戻った。

東北大学小児科研修プログラム in MIYAGIの一環として、専攻医(後期研修医)の池田麻衣子医師(卒後4年目)が2024年1月～3月の3か月間当科に着任し

て、一般ならびに専門診療に従事した。また、陸上自衛隊東北方面衛生隊(自衛隊仙台病院)より研修(通修)として、山西智裕医師(卒後5年目)が2023年4月～5月にアレルギー科、6月にリウマチ・感染症科をローテートして、一般ならびに専門診療に従事した。さらに研修基幹病院の初期研修医5名(仙台厚生病院2名、東北労災病院2名、総合南東北病院1名)が、それぞれ当科で1か月間の小児科研修を行い、感染症など小児の急性疾患・二次救急を中心に経験するとともに、専門診療を見学した。

総合診療科としての業務は、従来通り消化器科、アレルギー科、腎臓内科、リウマチ・感染症科の4診療科の医師が協力・分担して行っている。総合診療科としての新患外來を各科長4名(虻川、三浦、稲垣、梅林)が分担し、平日日中の外來救急当番を総合診療科医師が午前・午後に分けて担当して、地域医療機関からの紹介患者や救急搬送患者の対応に当たっている。川目裕医師(非常勤、東京慈恵会医科大学附属病院遺伝診療部教授)による先天性疾患(先天異常)・遺伝性疾患を対象とした遺伝外來を月2回行い、院内外からの相談・紹介に対応している。

表. 2023 年度総合診療科入院患者内訳

疾患	延べ人数	疾患	延べ人数	疾患	延べ人数
アレルギー	721	腎臓	41	先天性トキソプラズマ感染症	4
食物アレルギー (疑いを含む)	651	ネフローゼ症候群 (初発・再発)	14	先天性ヘルペス感染症	2
アナフィラキシー	22	薬剤性腎障害 (疑い含む)	1	ノロウイルス感染症	3
食物蛋白誘発胃腸炎	14	IgA 腎症	5	カポジ水痘様発疹症	1
気管性喘息/気管支喘息発作	23	ループス腎炎	1	带状疱疹	2
アトピー性皮膚炎	10	紫斑病腎炎	1	結核	3
多型滲出性紅斑	1	急性糸球体腎炎	1	ウイルス性発疹症	1
消化器	298	急性腎盂腎炎	2	ウイルス感染症	1
胃食道逆流症・逆流性食道炎	7	尿細管間質性腎炎	1	その他	144
胃炎・十二指腸炎	2	先天性腎尿路奇形	4	川崎病 (疑い含む)	23
胃・十二指腸潰瘍	9	慢性腎不全	1	不明熱	2
胃潰瘍癒痕	1	慢性腎臓病	5	熱性痙攣	27
ヘリコバクターピロリ感染症	3	腎移植後合併症	1	無熱性痙攣	4
上部消化管出血	5	末期腎不全 (腹膜透析)	1	痙攣重積発作	1
食道胃静脈瘤	3	腎血管性高血圧	1	てんかん	11
肥厚性幽門狭窄症	1	腎性尿崩症	2	胃腸炎関連けいれん	1
消化管異物	15	膠原病	14	ドラバ症候群	1
好酸球性食道炎・胃腸症	6	若年性特発性関節炎	10	局所性痙攣	2
腸重積症	8	全身性エリテマトーデス	3	アセトン血性嘔吐症・周期性嘔吐症	20
消化管ポリープ・ポリポース	19	皮膚筋炎	1	脱水症	1
ポイツ・ジェガース症候群	2	呼吸器	122	IgA 血管炎	3
クローン病	66	急性上気道炎・咽頭炎・扁桃炎	6	組織球性壊死性リンパ節炎	6
潰瘍性大腸炎	63	急性中耳炎	3	血球貪食症候群	1
腸管バーチエット病	4	クループ性気管支炎	4	血小板減少性紫斑病	1
過敏性腸症候群	6	急性気管支炎・細気管支炎	36	好中球減少症	1
機能的ディスペプシア	7	急性肺炎	32	新生児発熱	2
蛋白漏出性胃腸症	1	無気肺	1	新生児無呼吸発作	3
自己免疫性腸症	1	気道狭窄	22	新生児頭血腫	1
下部消化管出血	11	急性呼吸不全	1	薬物中毒	4
イレウス	5	慢性呼吸不全	5	薬物過敏症	1
急性虫垂炎	1	誤嚥性肺炎	11	溺水	3
腸管膜リンパ節炎・回腸末端炎	8	胸郭奇形	1	トリソミー 13	1
便秘症	1	感染症	157	トリソミー 21	1
痔瘻・痔核	2	急性胃腸炎・腸炎	21	トリソミー 18	2
直腸脱	2	尿路感染症	10	Vacter 連合	1
鎖肛	1	敗血症	2	奇形症候群	1
急性肝炎・肝障害	5	化膿性関節炎	1	ピエールロバン症候群	1
慢性肝炎	1	蜂窩織炎	8	染色体欠失症候群	2
肝不全	1	細菌性髄膜炎	1	甲状腺機能亢進症	1
非アルコール性脂肪性肝疾患	2	ウイルス性髄膜炎	3	症候性炎症性ミオパチー	1
サイトメガロウイルス性肝炎	1	突発性発疹症	1	神経線維腫症 1 型	1
脂肪肝	1	手足口病	1	仙尾部奇形腫	1
ウイルソン病	2	COVID-19 感染症	19	脊髄髄膜瘤	2
胆汁うっ滞	1	RS ウイルス感染症	29	頭蓋骨癒合症	1
胆道閉鎖症	2	ヒトメタニューモウイルス感染症	16	頭部外傷	1
新生児黄疸	2	インフルエンザ感染症	16	先天性中枢性低換気症候群	1
新生児肝内胆汁うっ滞症	1	パラインフルエンザ感染症	1	成長ホルモン分泌不全性低身長症	1
先天性胆道拡張症	3	ヒトパレコウイルス感染症	1	乳幼児突発性危急事態	1
隣管胆管合流異常	1	アデノウイルス感染症	2	低血糖	1
原発性硬化性胆管炎	8	エンテロウイルス感染症	1	熱中症	1
アラジール症候群	2	溶連菌感染症	2	卵巣出血	2
膵炎 (薬剤性含む)	2	連鎖球菌性咽頭炎	1	鼻涙管閉塞	1
摂食障害	1	ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群	1	総 計	1,497
肥満症	2	先天性サイトメガロウイルス感染症	3		

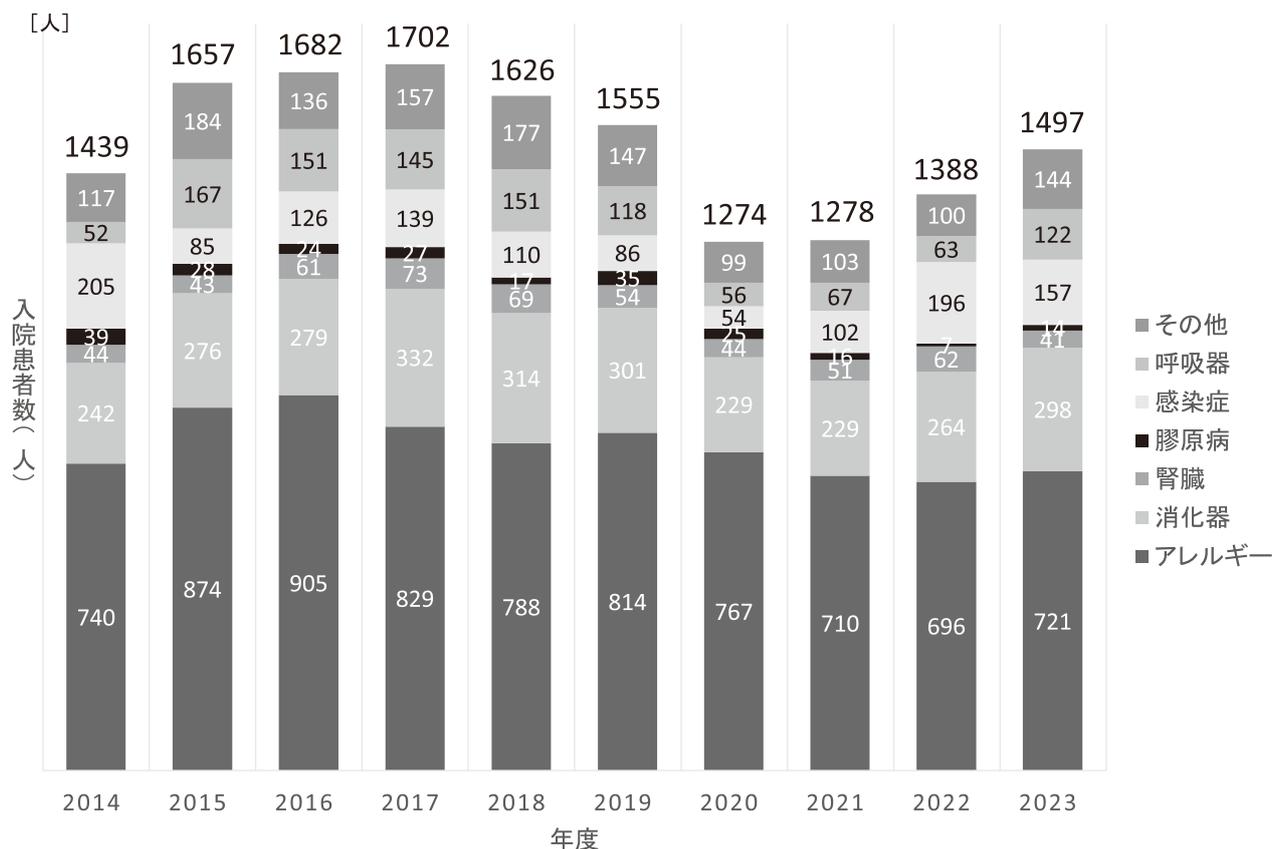


図. 領域別入院患者内訳の年次推移

2023年度の総合診療科入院患者総数は延べ1,497名で、前年度に比べてプラス109名増加した。疾患内訳を表に示す。領域別入院患者数の年次推移(図)では、感染症の入院患者が前年度196名だったのが2023年度は157名に減少した。小児COVID-19患者が前年度に比べて大幅に減少したが、2023年5月にCOVID-19が5類に移行したことにより人と人との接触機

会が増加し、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、インフルエンザウイルスなど多種のウイルス感染症が過去3年間よりも増加し、呼吸器疾患の入院患者数も増えた。また、COVID-19の5類移行に伴ってアレルギー、消化器の入院検査件数が増加した。

(虻川 大樹)

## 消化器科

2023年度は虻川大樹科長、角田文彦部長、星雄介医長、成重勇太医師(フェロー)、篠崎まみ医師(フェロー)のスタッフ5人で小児消化器診療に従事した(図1)。このうち日本小児栄養消化器肝臓学会認定医は虻川、角田、星の3人である。加えて、専攻医(後期研修医)の池田麻衣子医師が1か月間消化器科にローテートして小児消化器診療を研修した。

当科は宮城県のみならず東北地方における小児消化器診療の拠点として認知されており、全国的にみても消化器疾患症例数の多い施設である。宮城県内の重症もしくは慢性小児消化器疾患患者の大多数が当院に集中しており、隣県からも多くご紹介いただいている。東北大学病院小児科・小児外科・消化器内科など他の

高度専門病院からも小児消化器疾患に関して当院に依頼・転送される件数が増えており、その多くは炎症性腸疾患の難治例など重症度の高い症例である。また、当院外科・神経科・血液腫瘍科・循環器科・心臓血管外科など各診療科と協力して、外科的消化器疾患の術前後の検査・治療や、様々な基礎疾患をもつ重症患児における消化器合併症に対する診療を多数行っている。消化器科の2023年度新患総数392人(入院94人、外来298人)と前年度より16人減少した。

2023年度の消化管内視鏡検査・治療は計267件(上部102件、大腸76件、ダブルバルーン小腸内視鏡55件、カプセル小腸内視鏡15件、治療・処置19件)であった(図2)。2020年度以降は新型コロナウイルス



図1 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会にて消化器科スタッフ：前列右から篠崎、成重、一人おいて虻川、角田、星

感染症流行に伴う検査・入院の抑制と受診控えの影響により、消化管内視鏡件数が減少していたが、前年度から増加に転じた。内視鏡の治療・処置として消化管異物摘出術 11 件、内視鏡的大腸ポリープ切除術 6 件、内視鏡的止血術 2 件を行った。他にも上部消化管造影、24 時間食道内 pH モニタリング、注腸造影を施行している。炎症性腸疾患の新規患者数(2023 年 1 月～12 月)は潰瘍性大腸炎 21 名、クローン病 22 名と過去最も多く、栄養療法やステロイド薬・免疫調節薬・生物学的製剤等による薬物療法を行った。2020 年以降炎症性腸疾患の新規患者数が著明に増加しており、とくにクローン病の増加が顕著で、潰瘍性大腸炎との比率がほぼ 1:1 となっている。肝疾患は原因不明の肝障害、新生児・乳児胆汁うっ滞、肥満に伴う非アルコール性脂肪性肝疾患など 9 例に対してエコーガイド下経皮的肝生検を施行した。その他、消化管出血、慢性腹痛、膵炎、胆道閉鎖症、機能的消化管障害、慢性機能的便秘症、体重増加不良、肥満症、摂食障害といった消化器・栄養疾患患者を外来および入院で多数診療している。

学術的活動については、学会・研究会・カンファレンスでの発表 13 回、講演・講義 13 回、論文・総説(共

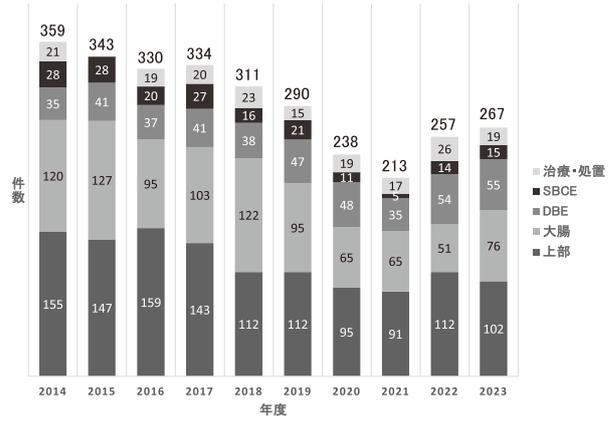


図2 消化器内視鏡検査・治療件数の年次推移

著を含む) 6 編と活発に行った。また、2023 年 5 月 27 日に当科が事務局となって第 18 回仙台小児 IBD 研究会(代表世話人・虻川大樹)を完全オンライン形式で主催した。

2023 年 10 月 20 日～22 日に第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会(会長・虻川大樹)を仙台市・江陽グランドホテルにてハイブリッド形式で主催した(図 1)。現地参加者 304 名、オンライン登録を加えると参加登録 400 名以上のご参加をいただき、講演・発表ならびに活発な討論により盛会に開催することができた。

また、多くの多機関共同研究や治験、厚生省研究班・AMED 研究班(炎症性腸疾患、小児期ウイルス性肝炎、小児希少難治性消化管疾患、消化管ポリポーシス)、診療ガイドライン・治療指針作成(小児炎症性腸疾患、小児消化器内視鏡、胆道閉鎖症、小児好酸球性胃腸疾患、消化管ポリポーシス)に参与している。

一方、当科は消化器診療だけではなく、気管切開・人工呼吸管理の必要な呼吸器疾患をもつ患児や、トータルケアを要する重症心身障害児に対する入院・外来・在宅医療にも多数関わっている。

(虻川 大樹)

## アレルギー科

2023 年度は日本アレルギー学会認定指導医・専門医である三浦克志科長、堀野智史部長、秋はるか医長(専門医)、宮林広樹医師、山口祐樹医師の 5 人のスタッフで診療に従事した。さらに、日本小児臨床アレルギー学会認定の小児アレルギーエデュケーター(PAE)の看護師 3 人と管理栄養士 1 人を中心としたメディカル・スタッフの協力もあり、アレルギー疾患に対して

きめ細かい診療を行った。

当科は宮城県のアレルギー学会認定(小児科)のアレルギー専門医教育研修正施設である。2014 年に制定された「アレルギー疾患対策基本法」に基づき、2018 年に東北大学病院と共に宮城県のアレルギー疾患医療拠点病院に指定された。これにより宮城県の小児のアレルギー疾患医療拠点的な位置づけになっている

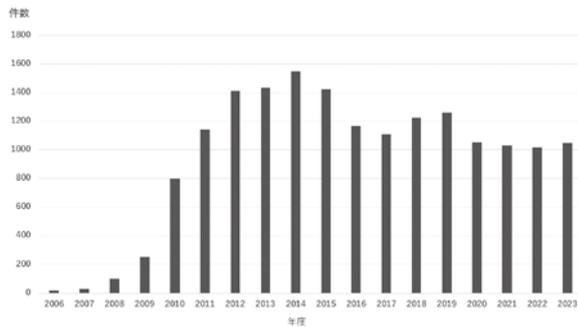


図1. 年度別食物経口負荷試験件数

る。当科のアレルギー診療の認知度は高く、宮城県内ばかりでなく東北6県からアレルギー疾患の患者の紹介を多数受けている。

対象疾患は、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎・結膜炎、アナフィラキシー（食物依存性運動誘発性アナフィラキシーを含む）、蕁麻疹、金属や薬物アレルギーなどのアレルギー疾患全般である。

食物アレルギー患者に対しての食物経口負荷試験はコロナ禍の中でも積極的に行い、2022年度は延べ1,047件（図1）行った。食物負荷試験の結果をもとに食物アレルギーの患者に対して管理栄養士によるきめ細かい栄養指導をしている。さらに、経口免疫療法（経口減感作療法）にも安全性に十分配慮し、倫理委員会の承認を得た上で、患者と家族の必要に応じて取り組んでいる。未だ確立された治療法ではないが、今までアナフィラキシー等の症状のため、食物除去を余儀なくされていた患者が少しずつ増量して食べられるようになってきている。327例が治療中であるが、食物アレルギーが寛解した症例も出てきている。対象食物は、鶏卵、牛乳、小麦が主であるが、ピーナッツ、そば、くるみなどの食品も患者と家族の希望に応じて対応している。気管支喘息やアトピー性皮膚炎患者に対しては急性期の治療入院だけでなく、コントロール目的にプログラムを作成した教育入院も行っている。気管支喘息に対しては、発達診療科やリハビリテーション・発達支援部と連携して発作時の呼吸理学療法を、また心理的要因の強い症例には児童精神科や臨床

心理士と連携して心理的ケアを行っている。

さらに、ガイドラインに基づく標準治療に抵抗性の重症気管支喘息患者に生物学的製剤であるオマリズマブ（抗IgE抗体製剤）、メボリズマブ（抗IL-5抗体製剤）、テゼベルマブ（抗TSLP抗体製剤）を症例の適応を考慮して、5症例に使用し、喘息の症状の改善を認めている。標準治療に抵抗性の重症アトピー性皮膚炎患者6症例にデュピルマブ（抗IL-4/13受容体抗体製剤）を、1症例にネモリズマブ（抗IL-31抗体製剤）を使用し、4症例に経口JAK阻害薬を使用しアトピー性皮膚炎の症状の改善を認めている。スギとダニによるアレルギー性鼻炎に対しての舌下免疫療法を患者と保護者の希望に応じて実施している。これらの新規治療においては、副作用に留意しながら安全に施行中である。

アレルギーのため予防接種が困難と思われる患者への予防接種も積極的に行っている。また、薬物アレルギー患者への薬物負荷試験や局所麻酔薬アレルギー患者への診断的皮膚テストや負荷試験も行っている。

主要な関連学会（日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、日本小児臨床アレルギー学会など）において積極的に参加し、精力的に論文執筆、演題・講演発表を行っている。2023年度には（英文誌：2編、和文誌：4編、発表：8題）を発表した。日本小児アレルギー学会発刊の小児気管支喘息治療・管理ガイドラインには、三浦がガイドライン作成委員として、堀野が執筆協力者として参画した。厚生労働科学研究班による食物経口負荷試験の手引き2023には三浦が検討委員として作成に協力した。アレルギーの社会啓発活動としては、医師とPAEで宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、消防署の依頼により、教育関係者や救命救急士に対して講演や講習を行っている。宮城県アレルギー疾患連携推進事業として医療従事者、教育関係者、一般市民向けの講習会・研修会（現地開催、WEB開催）を計2回実施した。いずれも100名程度の参加があり有意義に実施された。

（三浦 克志）

## 腎臓内科

2023年度は稲垣、木越の2人体制であり、そのため一人当たりの業務量の増加が継続している。ただ、非常勤で東北公済病院の古川医師が非常勤で外来を週1回担当して頂き、外来の負担は減少し、病棟での診

療に余裕ができた。

3歳半検尿により、当院へも紹介患者は増加し、昨年度は新患外来に103件と昨年度より40人多い新規患者が紹介された。3歳半の検尿異常については尿が

薄いなど、数値の算定不能のための偽陽性が変わらず多かったが、血尿症例で経過観察となるものが多かった。

腎炎、ネフローゼの新規入院患者は8名と昨年に比して減少したが、IgA腎症の初発が目立った。

腹膜透析の患者数は、2023年度末で5名となっている。本年度は新生児1名を新規導入し、1名は成人移行した。

今年度は当院初の先行的腎移植を施行して頂いた。

急性血液浄化療法は例年通りで、特別多くはなかった。PICUでの血液浄化については比較的PICUのDr.にお任せすることも多くなった。

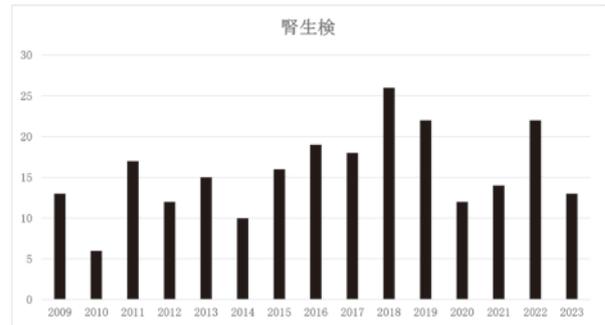
学会発表については、小児腎臓病学会で1件、日本小児腎不全学会1件、日本小児PD・HD研究会1件であった。

治験については、2023年度は引き続き降圧剤、尿酸降下薬の治験を施行しており、それぞれ割り当てについて達成できていた。

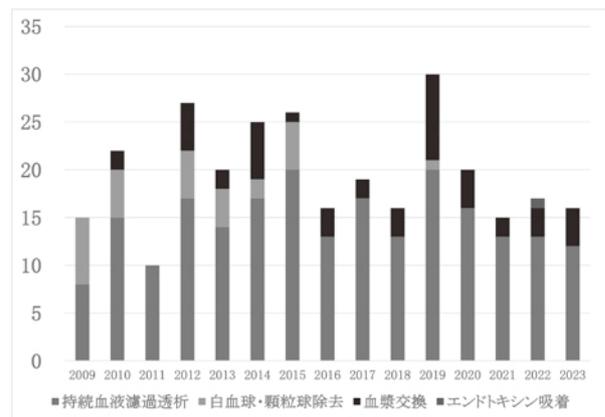
急性血液浄化は持続血液（濾過）透析12件、血漿交換4件と昨年と同様であった。腎生検は12件であった。

(稲垣 徹史)

(下記グラフ参照)



腎生検件数



急性血液浄化件数

## リウマチ・感染症科

2023年度は、リウマチ性疾患の診療を日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医である梅林宏明科長ならびに齋藤秀嘉医師が行い、感染症の診療を日本小児感染症学会指導医かつICD (Infectious Control Doctor)である桜井博毅部長ならびに谷河翠医師 (ICD)が行った。

他の疾患領域に違わず、小児リウマチ診療においても専門性が必要となるが、当院は日本小児リウマチ学会ホームページで公開されている「小児リウマチ診療中核施設MAP」にも登録されている。また小児感染症分野も専門性が高まり、当院は日本小児感染症学会の専門医教育研修プログラム施設に東北大学病院小児科等とともに組み込まれている。

2023年度は新たに65例がリウマチ性疾患（疑いを含む）としてリウマチ外来に紹介されてきた。患者住所の内訳は、宮城県60例、青森県2例、岩手県1例、福島県1例、山形県1例であった。他県患者の割合は約8%と昨年（約13%）に比べて低下した。

年度別のリウマチ外来紹介患者数の推移を図1に示す。受診者の主な疾患別（実数）では、若年性特発性

関節炎 (JIA) 9例、全身性エリテマトーデス (SLE) 3例、皮膚筋炎1例、などとなっている。また、不明熱などで当科を紹介受診した例の中で4例が最終的にクローン病と診断された。不明熱の鑑別として、消化器症状が目立たない場合でも炎症性腸疾患を挙げる必要性を再認識させられた。

前年度から引き続き行った治験では「若年性特発性関節炎患者を対象としたバリシチニブの安全性及び有効性を評価する二重盲検無作為化プラセボ対照治療中止試験」において1例に対して治験薬投与を継続した。また、「多関節型若年性特発性関節炎の小児被験者におけるウパダシチニブの薬物動態、安全性及び忍容性

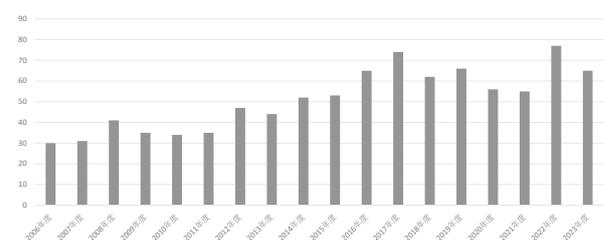


図1. リウマチ外来新規受診者数

を評価する非盲検反復投与試験]、「高安動脈炎の被験者を対象としてウパダシチニブの有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照試験」などの臨床試験も継続した。

研究活動として、梅林は厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）＜自己免疫疾患における患者レジストリを包含した難病プラットフォーム体制の構築と、それを利活用した長期にわたる全国規模の多施設共同研究＞、同じく（難治性疾患政策研究事業）自己免疫疾患に関する調査研究班 AOSD/JIA 分担班 JIA 分科会において、JIA 診療ガイドラインの作成に向けて作業を行った。

感染症領域において、2023 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応が一区切りついた年となった。詳細は感染管理室の項に譲るが、5 月から COVID-19 の感染症法上の位置付けが 5 類感染症になったことから、院内の各種対応も変更された。

一方、例年通り各科から予防接種やその他感染症に

関わる症例の紹介、コンサルテーションを多数受けたが、2023 年度のコンサルテーション数は 400 件以上であった。引き続き、PICU での感染症には全例介入している。そして感染症に関する各種学会や研究会等においても発表・講演を行った。さらに、感染管理室、ICT（Infection control team）、AST（Antimicrobial Stewardship Team）として毎週の病棟環境ラウンドを行うなど、感染管理業務に従事するとともに、抗菌薬適正使用に関する活動にも力を入れ、AST ミーティングを年間通して開催した。

また、潜在結核小児患者の対応や先天性トキソプラズマ感染症に対する治療なども行っている。

さらに、当院総合診療科で研修を行った後期研修医や学生に対して、小児感染症診療についての講義を行うとともに細菌検査室での実習も行い、若手医師と学生に対する教育的活動を行った。

（梅林 宏明・桜井 博毅）

## 血液腫瘍科

### 診療の概要

2023 年度血液腫瘍科では、前年度に引き続き常勤医 4 名（佐藤 篤、力石 健、小沼 正栄、南條 由佳）、と後期研修医 1 名（佐藤 幸恵 [4-6 月]）の体制で診療を行った。一年間の延べ患者数は、外来患者 21,732,213 人（一日平均 9.0 人）、入院患者 4,484 人（一日平均 12.3 人）であり、前年度と比較して外来患者数は同等で入院患者数は 16.0% 減少した。2023 年度は 7 例の造血幹細胞移植（血縁者間骨髄移植 1 例、非血縁者間骨髄移植 5 例、非血縁者間臍帯血移植 1 例）を行った。非血縁者間骨髄移植の 1 例では、当科で初めて大量シクロフォスファミドを用いた GVHD 予防法（Post-CY）による移植を実施した。骨髄移植推進財団の採取施設としてのバンクドナー骨髄採取について 2023 年度の実施はなかった（前年度まで累計 22 例に実施）。なお、2022 年度に引き続き当科通院中の血友病患者とその家族を対象とした夏の勉強会は 2023 年度もオンライン・当院のハイブリッド開催にて実施した。

### 診療対象の新規患者（表 1）

2023 年度血液腫瘍科における新規の悪性腫瘍疾患患者は 7 例で、その内訳として血液腫瘍の初発例は急

性リンパ性白血病（ALL）4 例、急性骨髄性白血病（AML）1 例、慢性骨髄性白血病（CML）1 例であった。一方、固形腫瘍は悪性末梢神経鞘腫が 1 例であった。2023 年度も良性腫瘍は形成外科から内科的治療目的で紹介による乳児血管腫症例が 10 例と多く、うち 9 例には経口プロプラノロール療法を行った。血液・免疫疾患の新規受診患者は 23 例でその内訳は貧血 9 例、血小板減少症 7 例（うち初発の免疫性血小板減少性紫斑病 [ITP] が 6 例）、好中球減少症 1 例、再生不良性貧血 2 例などであった。2023 年度の血液凝固異常疾患については、血友病新規患者は 6 例で、例年に比べて多いことが特徴であった。血液腫瘍科医師が救急外来で主に診療する感染症患者は 23 例であった。2023 年 10 月で開設 12 年目を迎えた造血幹細胞移植後フォローアップ外来（通称、SCT 外来）は、毎月第 2 火曜および第 4 金曜日に、造血細胞移植学会の指定研修を終了した看護師とともに引き続き実施し、2023 年度 1 年間で延 43 名を診察した。また 2017 年度以降、移植ドナー検索目的の HLA 検査について外来で十分な説明のもとで実施しており、本年度も外来で HLA 検査目的のドナー新患数 5 例となっている。

### 入院患者の診療（表 2）

2022 年度の血液腫瘍科入院患者の人数は 152 例で、

表 1 血液腫瘍科新規受診患者 (2023.4~2024.3)

症例数	疾患	(内 訳、備 考)
1. 腫瘍疾患	25	
血液腫瘍	10	白血病 5 初発: ALL 4, AML 1 慢性骨髄性白血病 1 初発: 1 ランゲルハンス細胞組織球症 1 経過観察: 1 TAM 2 初発: 2 セカンドオピニオン 1 T細胞性急性リンパ性白血病: 1
固形腫瘍	1	悪性末梢神経鞘腫 1 初発: 1
良性腫瘍	14	乳児血管腫 10 血管奇形 2 クリッペル・トレノネー症候群 1 石灰化上皮腫 1
2. 血液・免疫疾患	26	
貧血	9	鉄欠乏性貧血 4 遺伝性球状赤血球症 4 その他 1
血小板減少	7	特発性血小板減少性紫斑病 7 初発: 6 血小板減少症 3
白血球異常	2	白血球増多 1 慢性良性好中球減少症 1
汎血球減少	5	血球貪食症候群 1 初発: 1 再生不良性貧血 2 初発: 2 その他 2
3. 血液凝固異常	13	
血友病	6	血友病 A 5 初発: 5 血友病 B 1
その他	4	第 VII 因子欠乏症 1 初発: 1 先天性血栓性血小板減少性紫斑病 1 プロテイン S 欠乏症 2 初発: 2 その他 3
4. その他	62	
感染症	23	
ドナー関連	6	移植ドナー: 1 ドナー候補 HLA 採血: 5
けいれん	1	
リンパ節腫大	2	
壊死性リンパ節炎	3	
その他	27	
合計	126	

2020年度の173名からと10%程度減少した。入院した悪性腫瘍性疾患は58例であり、内訳は血液腫瘍においては、急性白血病の初発症例5例、再発2例、およびCMLの初発1例などであり、固形腫瘍の入院症例はなかった。さらに悪性疾患患者の検査・処置・再入院による継続治療が38例であった。2022年度と同じく白血病プロトコールに則った治療目的再入院も多く、固形腫瘍として悪性末梢神経鞘1例は、腹部腫瘍として診断治療目的で東北大学病院小児科に転院し、同小児科にて診断を受けている。また良性腫瘍への治療としては、血管腫（カポジ肉腫様血管内皮腫）の難

治例に対してmTOR阻害剤等で加療したことが特記すべき診療であった。

主な血液・免疫疾患、血液凝固異常症は、初発のITP6例、再生不良性貧血2例のほか、先天性無フィブリノゲン血症患児の定期補充入院が多かった。

### 血液腫瘍患者の治療

新規の初発悪性腫瘍患者は前述の通り7人であるが、ALL4例、AML1例、CML1例は当科で診療を行った。ALLの再発2例のうち、1例は当科で化学療法を行い、もう1例は東北大学小児科でキメラ抗原受容体

表 2. 血液腫瘍科入院数と疾患概要 (2023.4~2024.3)

疾患	入院数	(内 訳、備 考)
1. 腫瘍疾患	73	
急性白血病	43	初発: ALL 4、AML 1 再発: ALL 2 TAM: 0 合併症: 5 検査・治療: 31
悪性リンパ腫	1	合併症: 1
慢性骨髄性白血病	6	初発: 1 検査・治療: 5
乳児血管腫	18	初発: 9 2回目入院: 9
血管腫	2	治療: 2
若年性骨髄単球性白血病	2	検査: 1、合併症: 1
ランゲルハンス細胞組織球症	1	検査: 1
2. 血液・免疫疾患	46	
遺伝性球状赤血球症	3	輸血 3
特発性血小板減少性紫斑病	32	初発: 6、再燃: 12、治療: 14
再生不良性貧血	5	初発: 2、検査・治療: 1、合併症: 2
血球貪食症候群	3	初発: 2、再燃: 1
汎血球減少	1	初発: 1
鉄欠乏性貧血	2	初発: 1、輸血: 1
3. 血液凝固異常	27	
血友病	1	出血: 1
先天性無フィブリノゲン血症	25	補充: 25
先天性血栓性血小板減少性紫斑病	1	治療: 1
4. その他	6	
感染症	2	
骨髄移植ドナー	1	
壊死性リンパ節炎	3	
合計	152	

T細胞療法 (CAR-T療法) を実施した。CAR-T療法について2023年度は、前述の症例の他、フィラデルフィア染色体陽性 (Ph+) ALL の再発1例を東北大学病院小児科に依頼し、一方 Ph+ALL の CNS 再発例1例は名古屋大学に依頼し PiggyBac トランスポゾン法を用いた CAR-T療法を実施した。2023年度は思春期および若年成人 (AYA) 世代である患者の入院は私立高校生が1名であった。なお、大学生による高校生への学習支援ボランティアは2023年度においては実施されなかった。

## 研究活動

血液腫瘍科は小児白血病研究会 (JACLS)、日本小児がん研究グループ (JCCG) 施設として小児血液腫瘍および固形腫瘍の臨床研究に参加している。2023年度は、専門学会ならびに研究会等で計26回の筆頭演者としての研究発表を行った。また血液腫瘍科領域において重要な疾患の病態や病因解析の共同研究に参

加し、筆頭著者2編を含む13編の総説や原著論文報告を行った主な総説、原著論文を以下に示す。特に2023年度は、当科医師が日本小児血液・がん学会2023年度大谷賞を受賞したことから、同じく当科医師が共同筆頭著者、責任著者を務める論文 (ALL-T11 臨床試験の成果報告) が Lancet Haematology 誌に掲載され、当院においてプレスリリースを行うとともに、NHKの全国版テレビニュースでも報道されたことが特記すべき研究成果であった。

1. Irie M et al. Int J Hematol 117(4): 598-606, 2023. (MECOM 関連症候群の移植前処置に関する検討)
2. Kawaguchi K et al. Bone Marrow Transplant 58(5): 600-602, 2023. (免疫不全や骨髄不全症等への同種移植後予後に関する検討)
3. Ishida H et al. Br J Haematol 201(6): 1200-1208, 2023. (JACLS ALL-02におけるL-asparaginase 中止例の予後に関する検討)

4. Imai C et al. Int J Hematol 118(1) : 99-106, 2023. (本邦の小児 ALL における寛解導入不能例の検討)
5. Sato A et al. Lancet Haematol 10(6) : e419-e432, 2023. (ALL-T11 臨床試験の結果報告)
6. Ishida H et al. Am J Hematol 98(8) : E200-E203, 2023. (CML BC に対する同種移植後予後に関する検討)
7. Fujii N et al. Int J Hematol 118(2) : 242-251, 2023. (同種移植後遅発性間質性肺炎の臨床的特徴に関する検討)
8. Yano M et al. Int J Hematol 118(3) : 364-373, 2023. (JACLS ALL-02 登録例における非寛解期移植後の予後に関する検討)
9. 佐藤篤. 小児科診療 86(8) ; 893-896, 2023. (小児の T-ALL に関する総説)
10. 名古屋祐子 他. Palliat Care Res18(4) : 235-240, 2023 (緩和ケアの困難感に関する宮城県立こども病院職員調査の結果報告)
11. Horino S et al. Pediatr Transplant 28(1) : e14653, 2024 (同種移植後のアトピー性皮膚炎診断例に関する検討)
12. Ishida H et al. Ann Hematol 103(3) : 843-854, 2024. (Ph 染色体陽性 ALL の骨髄非破壊的前処置による移植後予後に関する検討)
13. Shimomura Y et al. Transplant Cell Ther 30(3) : 326.e1-326.e14, 2024. (同種移植後の慢性 GVHD について移植施設症例数が与える影響の検討)

(佐藤 篤)

## 循環器科

循環器科では、先天性心疾患を中心に小児の心臓に関する疾患全てを診療の対象としている。2006 年の開設以来、心臓血管外科、集中治療科と協力し徐々に経験を重ねてきたが、近年他県からの紹介、依頼が増加してきたことを踏まえ、小児循環器病センターとして発足し、人員、設備のさらなる充実をはかり、より良い医療の提供を目指すべく、さらなる一步を踏み出すに至った。さらに 12 月に新たにリカバリー室が稼動する運びとなり、センターとして機能の充実が期待されている。小児循環器科医 5 名、レジデント 2 名、看護師、フロア専属の保育士、栄養、リハビリ、心理等の専門スタッフが協力、診療する体制をとっており、大変恵まれた状況が大きな特徴となっている。

### 1. 外来、在宅医療

循環器科の外来は、月曜日午後には新患外来、火曜日、木曜日に通常外来を開設し、年間 5,000 人程の診療を行っている。また外来診療の一環として、在宅での呼吸管理、経管栄養他、特殊な持続療法など、在宅医療の重要度が急速に増しており、機材を扱う担当者、ソーシャルワーカー等の協力を強化している。

### 2. 入院

入院は、心臓外科手術術前、術後管理、心臓カテーテル検査および治療が主だが、他に新生児科より移行、転棟されるケース、緊急での紹介、外来経過中の症状の悪化等がある。近年、外科手術成績向上に伴い、よ

り重症度の高い患者の入院の割合が高く、入院が長期化する傾向は変わらず、県外中核施設への転院、加療継続依頼が増え、県内外を問わず周辺施設、東北県内の基幹施設との連携が重要になっている。

### 3. 検査

心臓カテーテル検査、心臓エコー検査を主体として、

2023 年外来初診患者数 (2023 年 1 月～12 月)

疾患	例数
心室中隔欠損症	49
心房中隔欠損症	33
動脈管開存症	18
両大血管右室起始症	8
完全大血管転位症	7
ファロー四徴症	7
房室中隔欠損症	6
川崎病 (他院から)	5
肺動脈狭窄症	5
心室性期外収縮	4
肺動脈閉鎖症	3
大動脈縮窄症	3
大動脈離断症	2
エプスタイン病	2
修正大血管転位症	2
総肺静脈還流異常症	2
急性心筋炎	2
三心房心	2
三尖弁閉鎖症	2
その他	15
計	177

2023年カテーテル検査件数

病名	例数	カテーテルインターベンション	例数
評価カテーテル	180	バルーン（血管 or 弁）拡張術	40
術前	38	コイル塞栓術他	28
姑息術後	34	心房中隔欠損拡大術	4
根治術後	108	動脈管デバイス閉鎖術	10
カテーテルインターベンション	124	心房中隔デバイス閉鎖術	30
		その他（ステント、異物回収他）	12
計	304	計	124

心筋シンチグラム、胸部 CT 検査、胸部 MRI 検査、運動負荷検査等を行っている。特にエコー、CT、MRI は性能の向上がめざましく、3D、4D 等の最新の評価は、外科診療に大きく寄与している。

心臓カテーテル検査、治療は、年々増加し現在年間約 300 件を超えるまでに至っている。その 1/3 に相当する約 100 件は、カテーテルによる治療で、東北唯一の ASD、PDA 治療デバイス小児認定施設として、他県から依頼紹介増加の原動力となっている点は変わらない。

#### 4. 研究、教育

胎児エコー検査、心臓カテーテル検査治療について

は、最新の治療デバイスの導入、年度毎学会に報告あるいは研究発表を行っている。毎週木曜日に心臓血管外科と合同で抄読会を開催、火曜日に症例検討会、月 1 回大学小児循環器科スタッフと合同症例検討会、東北各県の主要な施設とテレビ会議システムを利用した胎児診断遠隔セミナーに参加している。年一回東北発達心臓病研究会の開催等も行っている。

大学との連携の一環として、実習、研修の受け入れを積極的に行い、後進の育成指導にも力を入れている。

高度化が進む診療に対応できるようセンター化による内外の連絡網の効率化、診療の充実、スタッフの研究を進めることを目標としている。

(小澤 晃)

## 神 経 科

神経科は成長発達期の脳・神経・筋肉の病気を対象としている。重症心身障害から軽度発達障害までの発達障害全般に対する医療および療育、発作性疾患・神経感染症などの急性および慢性疾患の治療、希少疾患の診断・治療が大きな 3 本柱である。

2023 年度の神経科は 2009 年 12 月から現職の富樫、拓桃医療療育センター小児神経科との統合のため 2016 年 3 月から加わった萩野谷和裕科長・副院長、乾健彦医師、2016 年 10 月より加わった大久保幸宗医師、2019 年 4 月から加わった遠藤若葉医師、2020 年 10 月から加わった児玉香織医師、2021 年 9 月から加わった川嶋有朋医師、2022 年 4 月から加わった中村春彦医師（2023 年 9 月まで）と 2024 年 1 月から加わった長谷山知奈未医師（2024 年 3 月まで）の 8 人体制であった。

神経科単独の患者さんの他にリハビリテーション科や関連各科での包括的な医療を求めて来院する患者さんが多いのが当科の特徴である。

#### 1. 外来、在宅医療

新患外来患者の内訳を表 1 に示す。脳性麻痺・運動発達遅滞・自閉症・ADHD などの発達相談、熱性痙攣・てんかんなどの発作性疾患、頭痛、神経筋疾患など多岐にわたっており、疾患の種類が多いのが神経科の特徴である。COVID-19、インフルエンザ等の感染症の流行に伴い熱性けいれんが更に増加した。

神経科医師は県内の特別支援学校への巡回指導、仙台市北部発達相談支援センターでの定期的な発達相談等、地域での障害を持つことも達への医療にも貢献した。

Duchenne 型筋ジストロフィー、Dravet 症候群への治験も継続して実施している。

#### 2. 入院

入院患者内訳を表 2 に示す。入院数は本年度 648 名と、昨年とほぼ同じ水準であった。吸引・酸素・経管栄養・人工呼吸等の医療的ケアを必要としているような重症心身障害児の体調不良による入院、在宅調整のため入院、重症心身障害児のレスパイトを目的とした

表 1. 外来新患の内訳（他科よりの併診を含む）

		2023 年度	2022 年度
発作性疾患	てんかん・無熱性けいれん	25	35
	熱性けいれん	108	75
	憤怒けいれん	1	0
	けいれん様運動・失神	12	22
発達の問題	脳性麻痺	6	11
	運動発達遅滞	5	3
	精神運動発達遅滞	5	11
	知的障害	14	6
	PDD・自閉症	11	13
	ADHD・LD	4	2
	特発性尖足歩行 発達相談	4 18	5 7
神経筋疾患	筋ジストロフィー	0	1
	CMT	2	0
	その他	6	16
チック・不随意運動	チック	0	1
	不随意運動	1	3
先天異常・奇形症候群	染色体異常	11	11
	脳形成異常	2	0
	その他	8	9
脳血管障害	もやもや病	2	0
	脳静脈洞血栓症	1	0
神経感染症	急性脳症	2	0
	髄膜炎	1	0
精神・行動障害	睡眠障害	0	2
	身体表現性障害	2	5
その他	頭痛	5	5
	起立性調節障害	0	1
	頭部外傷後遺症	0	3
	心因反応	0	2
	その他の神経疾患	8	21
	一般小児科	134	151
計	398	421	
	2018 年度	280	
	2019 年度	450	
	2020 年度	212	
	2021 年度	353	
	2022 年度	421	

体調管理入院等は感染症の流行のためか昨年より増加し全体の約 60% を占めていた。脳波モニタリングや MRI・髄液検査・脳波モニタリング等の検査入院に加え、2ヶ月間親子で集中して療育を行う親子入院、目的のために集中してリハビリを行う訓練入院、特に片麻痺に対する CI 療法・HABIT の入院が充実して行われた。

表 2. 入院患者の内訳

		2023 年度	2022 年度
発作性疾患	てんかん	40	45
	熱性けいれん	39	42
	無熱性けいれん	13	13
	頭痛・意識障害	5	3
免疫性神経疾患	ADEM	13	12
	CIDP	0	4
	ギラン・バレー症候群	0	0
	脳炎・脳症	11	4
	自己免疫性脳炎 その他	3 1	44 4
感染症	髄膜炎	3	0
代謝疾患	ミトコンドリア病	1	2
神経筋疾患	SMA	0	2
	筋ジストロフィー	8	5
	ミオパチー	9	0
	その他	0	2
重症心身障害児	感染症・全身管理	135	98
	在宅調整・手技獲得	19	12
	その他	0	14
	体調管理入院	234	204
訓練入院	CI 療法	2	
	HABIT 療法	3	
	その他	16	19
親子入所		15	13
検査入院	脳波モニタリング	9	10
	PH モニタリング	1	2
	MRI	5	9
	その他	11	9
SMA ヌシネルセン治療		0	3
その他の神経疾患		8	11
一般小児科		44	53
計		648	639
	2018 年度	728	
	2019 年度	712	
	2020 年度	588	
	2021 年度	608	
	2022 年度	639	

### 3. 検 査

本年度神経科関係の脳波検査は 371 件（2022 年度 364 件）、てんかんモニタリングが 51 件（2022 年度 46 件）、神経生理検査 37 件（2022 年度 107 件）であり、昨年度と同水準であった。誘発電位・筋電図などの神経生理検査は診断に不可欠であり今後も必要性が高まっていくものと思われる。

## 4. 研 究

神経科医師は各々、臨床研究の結果に関して積極的

に学会発表、論文発表を行った。

(富樫 紀子)

## 外 科

### 医 師

遠藤 尚文、佐々木 英之(2023年10月～)、西功太郎、遠藤 悠紀(～2023年12月)、中島 雄大、武士 明弘(2024年1月～)

### 件 数\* (2023年1月1日～2023年12月31日)

宮城県立こども病院小児外科(以下、当科)における入院診療件数は400件(2022年332件)と前年比+20%で大きく増加した。COVID-19感染症流行前は概ね400件前後の入院数だったことから、2023年はCOVID-19感染症流行前の水準に戻った形である。一方、手術件数は325例(2022年315件)で+3%の増加だった。COVID-19感染症流行前は370件程度だったので、少子化の影響を受けている可能性がある。内訳として、新生児手術は30件(2022年38件)、乳児57件(2022年64件)、幼児以上238件(2022年213件)だった。

東北大学総合外科小児外科グループ(以下、大学小児外科)とその関連12病院の統計によれば、COVID-19の5類移行に伴い、2022年の1,291件と比べて2023年は1,333件・+3%と若干の増加傾向が見られた。

手術例の主な内容については表に示すように例年と大きく異なる所はなく、頭頸部から腹部、骨盤部にかけて代表的な疾患を網羅した。

### 診 療

宮城県内の小児外科施設では、当院外科(2023年手術325件)、大学小児外科(同200件)、仙台赤十字病院・仙台医療センター・石巻赤十字病院他(同計247件)があり、当科は手術件数として県内症例の42.1%を担当した。一方で、新生児症例は30件と昨年(38件)より減少したが、これは少子化の影響を直接反映しているものと考えられた。宮城県内の小児外科施設では48件の新生児手術症例があったが、当院ではそのうち63%の症例を担当していた。

診療内容では、胆道閉鎖症や消化器系希少難治性疾患、小児固形腫瘍に関しては大学小児外科と連携し、互いに施設として特徴が活かせる治療・療育を行っている。

小児外科は、消化器内科・小児泌尿器科や整形外科とは重複する領域が多く、日常的に様々な場面で、共同の手術や加療が行われている。神経内科を主科とする重症心身障がい児では、長期に渡り体幹の変形が進んで行くことによる様々な合併症(呼吸・消化器)が生じ、保護者の方々に、諸問題に対する理解を促すとともに、細かな対応を心掛けている。

### 研究・発表

日本小児外科学会をはじめ、各地方会や研究会で発表を行い、厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業等に参加している。

### 教 育

当科では東北大学医学部5年生と6年生に対する臨床修練を行っている。

また、当科は東北大学病院及び東北医科薬科大学病院の外科専門医研修施設群の連携施設として日本外科学会専門研修プログラムを実施しており、外科専門医育成を行なっている。さらに日本小児外科学会専門医、指導医の修練施設でもあり、次世代の小児外科医育成に尽力している。大学小児外科との人事交流の中で、一定の期間で医師が入れ替わりつつ修練をおこなっている。さらに2024年1月からは山形大学第二外科との人事交流も開始されるなど、さらに充実した教育を行っている。

(\*当科手術統計は『一般社団法人 National Clinical Database』(NCD)からの引用で2022年1月1日から12月31日までの登録症例である。)

(佐々木英之)

表 1.

疾患名	新	乳	幼	疾患名	新	乳	幼
(1) 頭頸部 (除リンパ管腫、血管腫) 先天性瘻孔・嚢腫・嚢胞切除 気管切開 喉頭気管分離 その他		6	3 1 7 28	(7) Hirschsprung 病 人工肛門造設術・閉鎖術 その他		1	1 1
(2) 肺、横隔膜 Bochdalek 孔ヘルニア根治 肺切除術 膿胸、気胸ドレナージ	2	1 2	1 3	(8) 直腸肛門奇形 人工肛門造設術・閉鎖術 後方矢状切開による直腸肛門形成術 (PSARP) その他	5 2	2 3	2 3
(3) 食道 先天性食道閉鎖症手術 胃食道逆流症手術	1		4	(9) 肝胆道系 先天性胆道拡張症手術 その他		1 1	4 2
(4) 胃、十二指腸 胃破裂手術 肥厚性幽門狭窄症根治 胃軸捻転症手術 十二指腸閉鎖狭窄症根治 胃瘻造設 (食道閉鎖分割手術除く) その他	1	2	1 12 1	(10) 門脈圧亢進症、脾摘脾術 (11) 腫瘍 脂肪腫摘出術 成熟奇形腫摘出術 その他 腫瘍症例への CV 挿入		2	3 1 1 2 18
(5) 小・大腸、腹膜炎、イレウス (ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形を除く) 腸瘻・人工肛門造設 腸瘻・人工肛門閉鎖 腸回転異常症根治 虫垂切除術 (ドレナージを含む) 腸重積症観血的整復術 臍腸管遺残、メッケル憩室手術 イレウス手術 (腸管非切除) イレウス手術 (腸管切除) その他腹膜炎へのドレナージのみ その他	1 3 1 1 1 4	3 2	1 15 1 5 4 1 2	(12) 鼠径ヘルニア等 鼠径ヘルニア根治 陰嚢水腫根治 その他 (13) その他の泌尿器系疾患 その他 (14) 外傷 (15) 火傷、熱傷 (16) 痔・肛門周囲膿瘍 痔瘻根治術 (17) その他全麻下処置 CV 挿入 (悪性腫瘍を除く) その他 (18) その他の全麻下手術 その他		22	51 1 1 2 23 6 13 4
(6) 胸腹壁異常 腹壁破裂手術 臍帯ヘルニア手術 臍ヘルニア根治 漏斗胸手術 白線ヘルニア その他	2 2		3 1 1 2	合計	30	57	238

## 心臓血管外科

### 1. 概要

宮城県立こども病院の心臓血管外科は循環器科とともに 2005 年度より開設され以来、17 年目を迎えた。当初スタッフ 3 人体制からスタートし 2011 年 3 月の東日本大震災の影響により、手術数の一時的減少などの変遷を経て徐々にその手術数を増やし 2012 年度以降年間 120~130 例の手術数を達成した。2018 年以降手術数は山形県を中心に東北全般からの患児紹介が増

加し 160 例に達し以降も 150~160 例/年の手術数を維持されている。2019 年以降山形大学、弘前大学から若手スタッフ派遣が得られ概ね 4 人体制となっている。2022 年度からは新専門医制度のプログラム改正に伴って近隣の大学、基幹病院と連携し修練医教育を目的とし若手医師を随時受け入れる方針となった。また東北地方をリードする小児循環器部門の組織基盤を再構築し更に充実することにより診療の質を向上させることを目的として循環器センターが 2022 年度から

開設された。循環器センターの掲げる目標の一つとして将来の小児循環器医療の支える人材の育成があり先に述べた専門医制度の改正の機と合わせて内科系外科系問わず修練医を受け入れる方針とした。また2022年10月に小児循環器関連学会より共同提言がなされ日本における小児心臓血管外科手術の治療成績がまとめられ、手術症例数が手術成績自体に直結しているデータが明示され「年間150例以上の手術を行う拠点施設を中核とした地域の拠点化（集約化）を学会主導で推進すること」、「基本的には年間手術件数が50件以下の手術症例数の施設は低リスクの手術術式のみにとどめることが望ましい」という踏み込んだ内容が示された。この背景も後押しとなり今後も円滑な体制の維持に努め、診療の質を落とさず、健康に留意して今後も更なる手術数増加を目標に関連するすべての医師、看護師、技師、スタッフが相互に信頼の元連携したone teamを作って診療にあたり、広くできるだけ多くの患者さんを受け入れ心臓に病気を持つ子供たちがそれぞれに元気で充実した人生が送れるようこれからも努力して行きたい。

## 2. 診療実績

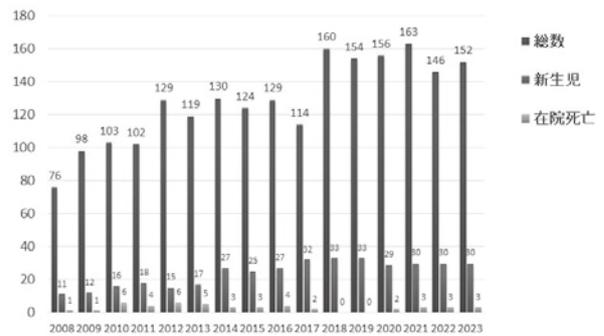
<年間手術件数の推移（非心臓血管関連手術は除く）>

## 3. 研究

学術活動においても積極的に参加発表しており計12題の発表を行った。特に国内関連学会（日本小児循環器学会、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本肺高血圧・肺循環学会）で9題の演題を発表し、その他の地方会、研究会で9題の発表を行った。

## 4. 教育

卒前教育として当院は東北大学病院および東北医科薬科大学附属病院の関連施設となっている。また、卒後教育として当院は、心臓血管外科専門医機構の基幹施設となっており、2022年度からは前述の新制度下、



年間手術件数の推移（非心臓血管関連手術は除く）

### 手術内訳 (2023)

術式	手術数
動脈管開存症手術	7
体肺動脈短絡手術	21
肺動脈絞扼術	6
心房中隔欠損症手術	9
心室中隔欠損症手術	18
完全型房室中隔欠損症根治手術	2
ファロー四徴症根治手術	14
両方向性 Glenn 手術	15
Fontan 型 (TCPC) 手術	5
Jatene 手術	3
CoA/IAA 複合根治術	6
総肺静脈還流異常症根治術	5
Norwood 手術	5
その他	38
計	154

東北地区の4大学および1病院と連携契約を締結し、心臓血管外科専門医を目指す修練医の受け皿として教育体制を強化していく方針とした。2023年度は修練医2人を受け入れた。今後も全国の小児心臓血管外科を志す若手医師を積極的に受け入れ、教育的病院としての場を提供していき、全国的に困窮しつつある次世代の担い手を育てていく方針である。また、個人的には東北大学医学部臨床教授、東北医科薬科大学非常勤講師および山形大学病院非常勤講師を拝命して、臨床実習および授業の学生教育にも力を注いでいる。

(崔 禎浩)

## 脳神経外科

2023年度はこれまで脳神経外科専門医／小児神経外科認定医である林／君和田と脳外科専攻医ローテートの3人体制でありましたが、君和田医師の島根大学小児脳神経疾患治療センター・センター長（准教授）への転任に伴い、4月より林と脳神経外科専攻医1人

(水野／鈴木)のローテートによる2人体制となりました（病棟写真）。

長く宮城県立こども病院脳神経外科を支えてくれた君和田医師のこれまでの当科、ひいては東北地方の小児神経外科医療に対する貢献に心から感謝を申し

上げるとともに今後の益々のご発展を祈念いたします。

本年の当科の年間手術例は昨年同様で108例でありました(グラフ)。当科では安全性、低侵襲性を求めた治療手技(6ヶ月未満の頭蓋骨縫合早期癒合症に対する縫合切除術およびヘルメット療法、脳腫瘍の内視鏡下低侵襲手術、終糸脂肪腫の鍵穴手術など)を積極的に行い、患者家族の多様なニーズに対応できるよう取り組んでいます。本年は整形外科、神経科、リハビリ科と連携し脳性麻痺に対して選択的後根切除術の症例を増やし、下肢機能の改善に向けた診療を促進しています。

当科の特徴は患者、家族のADLに配慮し、“普段の生活に速やかに移行”できるような術後管理で、患者家族および病棟スタッフと連携することにより、手術後の鎮痛を十分行うことで安全に十分留意した上で術翌日より可能な限り安静度に制限なく過ごせるようになっていきます。また早期退院を希望する家族には患者さんの安全を確保した上で、可能な限り対応するようにしています。

外来診療では外来/放射線部スタッフの協力を得て、乳幼児に対するCT検査の代替えとして放射線被曝のない高速MRI(HASTE法)を鎮静を行うことなく施行しており、検査における鎮静リスク、放射線被曝低減を実現しています。

当科では二分脊椎症治療における泌尿器科、整形外科、リハビリテーション科との連携、頭蓋骨縫合早期癒合症での形成外科との連携、脳・脊髄障害による精神運動発達や神経症状に対する神経内科やリハビリテーション、臨床心理士、ソーシャルワーカーとの連携、など“オールこども病院による治療”を行っており、患者さんが多くの科を尋ねて回るのではなく、患者さんのニーズに合わせて関係各科、スタッフが寄って集って診療するのを理想としています。

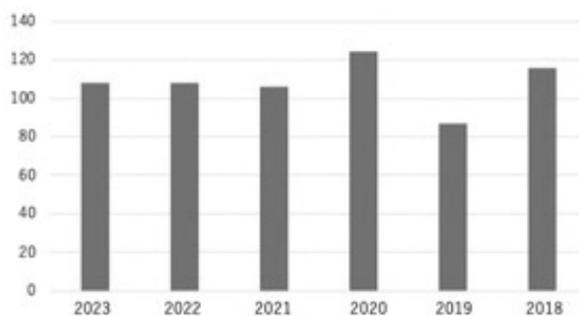
## 診療実績

外来診療：当科は東北地方で唯一小児神経外科を標榜しており、二分脊椎症が疑われる仙骨部皮膚病変、頭蓋変形に対する相談などを東北地方一円より多数ご紹介いただいています。前者に対しては精査すべき皮膚所見、手術が必要な検査所見や症状などについて、後者については手術が必要な疾患と位置性頭蓋変形の鑑別について、保存的対応、ヘルメット治療についてなどを当科独自の説明用資料・プレゼンテーションを用いて患者家族に説明し必要な治療/対応を勧めてい

ます。多くは治療を要する“病気”ではありませんが“検査で異常がない”というのではなく、“どのように心配ないか、どう対応すべきか”を説明するように心がけており、概ね満足を得ていただいています。

また、術後経過観察中の悩み・トラブルや診断・治療についてのセカンドオピニオン、先天性疾患の成人移行期医療にも対応しています。

入院診療：当科では二分脊椎症、頭蓋骨縫合早期癒合症、キアリ奇形、水頭症、くも膜嚢胞、もやもや病、頭蓋咽頭腫などの手術経験が豊富であり、治療困難症例に対する治療のため遠方より来院される患者さんに対しても積極的に紹介を受け入れています。遠方からの入院の際にはマクドナルドハウスのご協力をいただき、家族が病院のすぐ近くに宿泊しながら患者さんを見守ることができるようになっております。



脳神経外科手術数の変遷

疾患名	手術数
水頭症手術	35
二分脊椎手術	34
頭蓋縫合早期癒合症手術	12
頭蓋内腫瘍/腫瘍手術	3
もやもや病手術	7
キアリ奇形手術	5
脊椎脊髄腫瘍手術	1
頭部外傷手術	1
血管奇形手術	2
脳脱手術	1
脳性麻痺手術	4
その他	3
計	108

近年高度な医療技術を必要とする様々な治療法が行われるようになっていますが、当科のみで治療が完遂しない疾患は、院外の専門医と密に連絡をとり患者本位の治療を行うように心がけています。現在当院では固形腫瘍の放射線／化学療法に対応できないため腫瘍性疾患の治療は東北大学病院および関連施設と連携して対応しています。また、血管内カテーテル治療は東北大学脳神経外科／仙台医療センター脳神経外科／広南病院の脳神経血管内治療学会専門医と、成人移行期以後の手術治療に対しては東北医科薬科大学脳外科と連携するなどして、手術の際には執刀医が相互に行き来しながら対応しています。（別表）に本年度の手術一覧を示します。

## 研 究

モヤモヤ病、二分脊椎症、頭蓋骨縫合早期癒合症などの小児疾患の治療転帰改善のための臨床研究、東北大学脳神経外科と連携して手術手技や手術機器の開発を積極的に行っています。また、本年より東北大学小児科と共同で小児先天疾患発症に関する遺伝子の研究を開始しました。これらの成果の成果は“Childs Nerv

Syst”、“Neurol Med Chir Tokyo”、“小児の脳神経”、などの学術雑誌に発表するとともに、国内／海外での学術集会で積極的に発表しています。

## 教 育

当科医師は東北大学脳神経外科、東北医科薬科大学脳神経外科の臨床教授を併任しており、医学部学生の臨床実習及び講義を行っています。長期の休みに見学にくる熱心な学生もおり、とても良い刺激を受けています。

また、若手脳神経外科医の小児脳神経外科研修や手術見学などにも対応し、講義、講演活動を介して小児脳神経外科診療の教育にも尽力しています。当院では大学院生の募集も行っており、働きながら学位取得をめざす医師の応募をお待ちしています。

学会活動では、当科医師は脳神経外科関連学会、小児神経外科／小児神経関連学会などにおいて各種委員に任命され学会を介した教育活動にも注力しています。

（林 俊哲）

## 整形外科

### 1. 当院整形外科の特殊性

整形外科は2016年3月1日より常勤の診療科として勤務を開始した。それ以前は60周年の歴史で幕を閉じた（旧）肢体不自由児施設の宮城県拓桃医療療育センターにおいて診療を行っていたが、急性期病院である宮城県立こども病院へ統合されることになった。わかりにくいことであるが、医療機関である宮城県立こども病院の一部（拓桃館病床や手術室、薬剤部、検査室など）を福祉施設として二重登録することで、福祉機関である医療型障害児入所施設宮城県立拓桃園を新たに設立し、運営を宮城県立こども病院が行うことで事業を継承している。そのことから肢体不自由をもつ患者さんであれば、当院への医療的な入院に際して、同時に福祉契約を結ぶことで福祉入所サービス（入院中の医療費補助だけでなく、生活に関わる食費や学費の補助）が受けられる。

整形外科はこども病院の一診療科として業務を行っているが、通常の医療業務に加えて福祉業務である18歳未満の障害児への補装具作成など宮城県の福祉政策医療の業務の一翼を担っている。このような特殊

性から、小児の運動器科としての幅広い診療範囲に加えて、福祉書類の作成も多数となり業務が煩雑となっている。

### 2. 医師の構成

整形外科とリハビリテーション科を併せた医師4名全員が日本整形外科学会専門医で、うち3名が日本整形外科学会指導医である。また、4名が日本リハビリテーション医学会専門医で、うち3名が日本リハビリテーション医学会指導医の資格をもつ。近年は常勤医に加えて東北大学整形外科と東北医科薬科大学整形外科から若手医師の派遣を受けて、当科に活気を与えてもらっている。

歴史的に肢体不自由児施設から始まった日本の運動機能障害児の療育においては小児整形外科と小児リハビリテーション科は決して異なったものではなく、両者の視点と医療技術が肢体不自由児療育を支えるために重要とされてきた。当院の整形外科・リハビリテーション科においても、そのような古くからの肢体不自由児療育の歴史を継承してきた。一方、宮城県立こども病院としての新しい診療のなかで、いわゆる小児整

形外科疾患や四肢変形疾患の診療割合が増加したため、外科的な治療選択を以前より積極的に用いるようになった。

### 3. 整形外科の業務

#### a. 小児整形外科疾患への治療

小児整形外科としての本来業務ではあるが、宮城県だけでなく東北地方唯一の小児病院として各地の医院・病院からの紹介である診療要請に答えてきた。とくに先天性股関節脱臼、筋性斜頸、先天性内反足の紹介が増加している。また、軟骨無形成症や骨形成不全症など希少疾患である骨系統疾患の治療機関として全国的にも稀有な診療を行っている。2018年度から運動器分野で初となる小児運動器疾患指導管理料が認められた。当科では講習受講などの要件をいち早く整えて算定を開始することができた。われわれの従来からの診療の考え方や制度の主旨が合致していることから毎年算定数が増加している。

#### b. 整形外科手術治療

当科では先天的・後天的な変形や脱臼の治療を求められることが多く、治療技術の向上を常に課題としてきた。さらに小児に対して創外固定器を用いた骨延長術ならびにその応用としての四肢変形矯正手術は高度な医療技術が必要となるが、積極的に診療に用いてお

表 1. 2023 年度の小児運動器疾患指導管理料算定数

指導管理料算定数	1,799 件
算定点数	449,750 点

表 2. 2023 年度の手術件数（延べ人数）

創外固定手術	16
創外固定以外の骨手術	16
選択的筋腱延長術	14
足部手術	37
股関節骨盤手術	8
上肢手術	1
頸部手術	1
その他の骨手術	30
合計	123
総手術件数	123

表 3. 2023 年度の補装具作成件数

補装具意見書	853 件
治療用装具診断書	417 件
合計	1,270 件

表 4. 2023 年度のボトックス治療実績

治療件数	延べ 102 人
ボトックス投与量（50 単位バイアル）	49 バイアル（2,450 単位）
ボトックス投与量（100 単位バイアル）	85 バイアル（8,500 単位）
合計	134 バイアル（10,950 単位）

り、当診療科を象徴する技術であると自負している。

#### c. (旧) 肢体不自由児施設としての補装具外来

脳性麻痺や二分脊椎といった麻痺をもつ障害児に対し、乳児期から成長完了期までの一貫した治療対応を担ってきた。小児整形外科だけでなく小児リハビリテーション科としての視点をもち、装具、車いすなどの移動補助具作成など、さまざまなテクニックを用意して成長完了までの発達に対応して診療を行っている。

18 歳未満の障害児に対する補装具作成は（旧）肢体不自由児施設の業務である。宮城県に限らず、岩手県、山形県、福島県、秋田県、青森県、北海道、北関東からも患児・障害児を受け入れており、東日本を代表する障害児福祉施設としての役割を果たしてきた。

#### d. 痙縮に対するボツリヌス治療

脳性麻痺などによる痙縮に対してのボツリヌス治療は保存療法と手術療法の中間的な位置付けとなる比較的新しい治療法である。東日本で有数の治療件数を持ち毎週多数の患児を受け入れている。

### 4. 学術活動への取り組み

小児整形外科および小児リハビリテーション科を専門に診療し、各地の医師から信頼され多くの紹介を受け入れている。そのような期待への回答のひとつとして学術活動を通じたわれわれの経験のフィードバックを積極的に行ってきた。日本整形外科学会、日本リハビリテーション学会、日本小児整形外科学会、日本足の外科学会、日本ボツリヌス治療学会、日本創外固定学会、日本脳性麻痺の外科研究会など日本を代表する学会への報告・講演・座長・執筆・役員など行った。

表 5. 2023 年度の学術活動

論文・執筆	3 件
学会報告	18 件
講演	8 件
座長	8 件
学会主催	1 件（第 37 回日本靴医学会）
合計	38 件

表 6. 2023 年度の医学部学生の臨床実習指導

東北大学	22 名
東北医科薬科大学	44 名

## 5. 地域の医学への貢献

医学教育に関連した小児整形外科領域の活動として  
 1) 東北大学医学部 4 年時の整形外科学講義（小児整形外科）を担当している。2) 東北大学医学部の臨床実習（4 日間）、3) 東北医科薬科大学医学部の臨床実習（1 日間）を受け入れ、指導している。また、宮城小児整形外科学研究会を主催するほか宮城県更生育成医療整形外科指定医協議会、宮城足部疾患研究会、宮城股関節研究会、東北小児整形外科学研究会の役員として地域活動を支えている。

（落合 達宏）



図 1 整形外科スタッフ

左から小松繁允、高橋祐子（リハビリテーション科科長）、落合達宏（整形外科科長）、水野稚香、松田倫明

## 形成外科

2023 年度は真田武彦、浅野裕香、南 大輝の 3 人で診療を行った。

外来診療は週 3 回（月曜日、水曜日、金曜日）の外来診察を行った。期間中に形成外科を初診した患者は 401 人であった。その疾患別の内訳を表 1 に示す。

初診患者のうち 25% は院内からの紹介であった。紹介状を持たずに受診した患者は 1 人だけであった。残りの患者は他院からの紹介を受けて受診していた。科別にみると小児科からの紹介患者が最も多く、全体の 30% であった。次いで皮膚科からが 21%、形成外科からが 12%、産科からが 7% であった。

入院診療はすべて 4 階病棟への入院で行った。期間中に入院した患者はのべ 297 人であった。予定の手術やレーザー治療を目的とした入院は 259 例であった。このうち 6 例は発熱などの理由で手術が中止されている。これ以外の入院としては、口蓋裂を有する新生児で哺乳指導を行ったものが 2 例、創傷や感染症の治療を目的としたものが 5 例、検査を目的としたものが 5 例であった。術後に ICU に入室した患者はいなかった。

全身麻酔下の手術はこれまでと同様に火曜日と木曜

表 1 初診患者の疾患別内訳

	患者数
新鮮熱傷	1
顎顔面外傷	7
口唇・口蓋裂	14
手の先天異常	22
手の外傷	1
足の先天異常	9
耳介の先天異常	39
その他の先天異常	16
母斑	70
腫瘍	59
血管腫・血管奇形	120
瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	6
褥瘡、難治性潰瘍	6
その他	31
計	401

日に行った。局所麻酔下のレーザー照射はこれ以外の曜日にも行った。レーザー照射も含めた手術数は、全身麻酔下が 288 件、局所麻酔下の手術が 92 件、合計 380 件であった。表 2 にその内訳を示す。

（真田 武彦）

表2 手術内訳

	全麻	局麻	計
顎顔面外傷			
軟部組織損傷	1	0	1
顔面骨折	2	0	2
口唇裂口蓋裂			
口唇形成術	6	0	6
口蓋形成術	1	0	1
顎裂部骨移植術	2	0	2
鼻形成術	2	0	2
その他	3	0	3
手の先天異常			
母指多指症	11	0	11
母指形成不全	2	0	2
その他	12	0	12
手の外傷	0	0	0
足の先天異常			
外側列多合趾症に対する手術	7	0	7
その他	5	0	5
耳介の先天異常			
副耳切除術	14	1	15
先天性耳瘻孔摘出術	3	0	3
小耳症に対する耳介形成術	3	0	3
その他	6	2	8
その他の先天異常			
頭蓋縫合早期癒合症に対する頭蓋形成術	6	0	6
臍ヘルニアに対する手術	2	0	2
その他	11	0	11
母斑、血管腫、良性腫瘍			
母斑切除術	33	1	34
血管腫、リンパ管種摘出術	2	0	2
骨腫瘍・軟部組織腫瘍摘出術	3	0	3
皮膚・皮下腫瘍切除術	27	1	28
その他	8		8
色素レーザー照射	58	82	140
Qスイッチレーザー照射	34	2	36
色素、Qスイッチ付きレーザー併用	1	0	1
瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	5	0	5
難治性潰瘍	1	0	1
その他			
腱鞘切開術	7	0	7
その他	10	3	13
計	288	92	380

## 泌尿器科

### 1. 泌尿器科スタッフ、後期研修医の派遣

2023年度の常勤スタッフは、坂井清英、相野谷慶子、城之前翼、久保田優花、武田詩奈子の5名で診療を担当した(図1)。城之前および武田は東北大学大学院生として研究も並行して行ってきたが、城之前は胎児・小児副腎発生病理の研究が完結し、2023年度末に無

事卒業した。研究に際しては当院病理部の武山淳二先生より多大な協力を得ることが出来た。二分脊椎、排泄障害の専門医は国内においても不足しているため、拓桃館外来枠を確保して診療支援を受けている。毎週水曜日は江里口智大(大船中央病院)、木曜日午後(第1、3週)は東北大学泌尿器科所属の佐竹洋平、木村信吾、石塚雄一、村川裕希に外来診療を担当して頂い

た。また、泌尿器科専門医養成の教育目的で東北大学泌尿器科医局から後期研修医3名が派遣された。2023年10-11月は渡辺真秀、12月-2024年1月は白岩徹郎、2023年2-3月は三浦竜也が勤務した(図2)。

## 2. 外来業務

外来診療は水曜日から金曜日の週3日間、終日で本館と拓桃館の外来診察室に分かれて並列3診で対応している。年間の外来延べ患者数は4,478人であった。東北地方には小児泌尿器科専門医が不在の地域が多く、当院の開設以来、県外から多数の紹介患児が受診してくる状況が続いている。疾患の内容としては、膀胱尿管逆流、先天性水腎症などの先天性腎尿路異常(CAKUT)、停留精巣、精巣/精索水腫、尿道下裂、精索静脈瘤などの生殖器・外陰部疾患、性分化疾患、脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫などの二分脊椎、神経因性膀胱、尿路結石と多岐にわたっている。CAKUT診療に関しては腎臓科との連携が重要であり、当院および関連病院の小児腎臓病医と密接な関係を構築している。尿排出障害のため間欠導尿(CIC)が必要とされる患児は年々増加しているが、武田が中心となり在宅医療担当看護師とともに、個々の病態や環境に応じた個別の尿路管理・指導を実践している。また、非常に繊細な診療対応が必要とされる性分化疾患に対しては、相野谷が中心となって多職種のチーム(内分泌科、泌尿器科、遺伝科、遺伝カウンセラー、看護部、臨床心理士、等)を編成しており、2016年11月以降、日本小児内分泌学会から「性分化疾患診療中核施設」として認定も受けている。

## 3. 病棟業務

入院管理が必要な患児は手術目的が主であるが、複雑な腎尿路・生殖器異常に対する画像・内視鏡検査目的の入院や、尿路感染、尿路ドレナージ等の治療目的の入院も受け入れている。今年度の入院患者数は263人であった。神経因性膀胱の患児に対しては保護者のCIC習得のための教育入院も行っており、さらに就学を控える患児では、間欠自己導尿(CISC)を目指してセルフケアの指導を実践している。指導方法に関しては、病棟スタッフが習熟してきており、指導のための資料も利用して短期間での到達目標達成が可能となってきた。

## 4. 手術

手術日は月曜日、火曜日の2日間で、2018年度以降、

火曜日の手術枠は2列に増やして対応可能となった。さらに2020年度より月曜日の手術枠も午後の1列を増やせる体制になった。泌尿器科スタッフ数が確保できるようになっただけではなく、麻酔科/手術室スタッフの協力によって実現した。その結果、それまでは、2-3ヵ月以上待機期間を要した患児の手術施行までの期間が大巾に短縮された。膀胱尿管逆流、先天性水腎症、尿道下裂、停留精巣の開放手術が大多数を占めているが、内視鏡を用いた検査や手術も施行しており、膀胱尿管逆流に対しては、低侵襲の内視鏡的注入治療も継続して行っている。2019年度は過去最多の284件に達したが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で手術件数は減少し、217件にとどまった。2022年度は267件、今年度は249件まで増加し、開院以来の手術症例総数は4,330件となった。主要な手術のほか、国内の他の小児病院ではほとんど行われていない(1)(2)の手術にも対応できる体制を整えている。(1)小児尿路結石に対する、細径内視鏡、Ho:YAGレーザー、超音波碎石装置を用いた内視鏡治療(2)顕微鏡下の

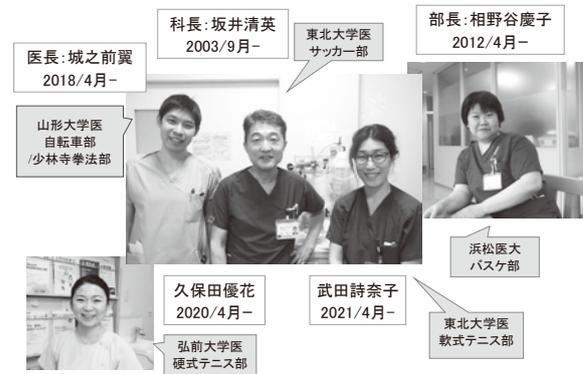


図1. 2023年度 泌尿器科スタッフ



図2. 2023年度 泌尿器科 後期研修医

小児精索静脈瘤手術である。腹腔鏡下手術も施行しており、非触知精巣に対する腹腔内検索、腹腔内停留精巣に対する固定術、無機能の巨大水腎尿管や低異形成腎の摘除、性分化疾患の性腺摘除などに応用している。また関連科（小児外科、整形外科）と協力して総排泄腔外反や総排泄腔遺残など難易度の高い稀少疾患にも対応できる体制が整えられている。

## 5. 学生教育

東北大学医学部医学科5、6年生および東北医科薬科大学医学部医学科5年生の臨床実習を受け入れている。また東北大学医学部および弘前大学医学部（いずれも4年生）、東北医科薬科大学医学部（2年生）の小児泌尿器科学臨床講義は坂井が担当した。

## 6. 研究活動

日本泌尿器科学会、小児泌尿器科学会、小児腎臓病

学会、小児外科学会、夜尿症学会、逆流性腎症フォーラムに参加・発表をおこなった。研究面では、「膀胱尿管逆流患児の全国実態調査（日本逆流性腎症フォーラム）」等を継続中である。また2023年12月以降、小児泌尿器科学会主導で「ゲノムワイド関連解析による膀胱尿管逆流発症関連遺伝子の探索」という全国規模の研究が開始され、当科も参加することになった。

近年では本邦においても小児泌尿器科学会、小児腎臓病学会から各種診療手引き・ガイドライン（膀胱尿管逆流、先天性水腎症、CAKUT、停留精巣、小児慢性腎臓病、先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群）が刊行されている。海外から発表されているガイドラインも参考に、標準的治療に限定せず患児毎のオーダーメイド治療を実践出来るよう心がけている。なお、本邦のガイドライン作成作業、査読においては、当科スタッフが参画した。

（坂井 清英）

# 産 科

## 1. 診療科の概要

2024年4月より森亘平、5月より齋藤裕也がそれぞれ東北大学より着任しました。現在のメンバーは、医師5名（室月淳、宮下進、石川源、今井紀昭、田上和磨）、認定遺伝カウンセラー1名（小川真紀）です。

## 2. 産科診療について

当院は宮城県内の3つの周産期母子医療センターのひとつであり、とくに小児病院のなかに設置されている産科として、母体と胎児の診療をメインとしています。2023年の分娩数は245件、そのうち帝王切開分娩が89件（36%）、母体搬送受入数が88件、早産が58例、2,500g以下の低出生体重児は75人でした。正常自然分娩も一部とりあつかっていますが、原則的に前児がなんらかの疾患があった妊産婦、および落合愛子といった近隣地区の妊産婦のみに限定しています。

われわれの診療の柱は、①胎児疾患の出生前診断と周産期管理、②胎児治療、③遺伝医療と遺伝カウンセリングの3つです。当科の方針として胎児期に積極的に治療していくことを目標としており、出生前に治療が可能である疾患では適切な胎児治療（胎児手術）をおこなっています。遺伝医療と遺伝カウンセリングの分野では、毎週火曜日と水曜日に遺伝カウンセリング外来をおき、遺伝や出生前診断に関する相談に十分に

時間をかけたカウンセリングをおこなっています。新型出生前診断（NIPT）の実施にあたっては特に遺伝カウンセリングを重視しています。

## 3. 診療上の問題点

近年とくに注目されている臨床概念に「過剰診断」というものがあります。過剰診断は、生涯にわたり何の害も及ぼさない、治療の必要のなかった病変を見つ



写真左より

小川 真紀（認定遺伝カウンセラー）  
齋藤 祐也（平成26年卒）  
今井 紀昭（平成11年卒）  
室月 淳（昭和61年卒）  
宮下 進（平成3年卒）  
森 亘平（平成31年）

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送受入数	62	100	84	96	96	97	111	124	80	102	78	97	79	88
胎児異常紹介数	178	120	158	152	150	166	176	180	165	155	130	160	175	170
分娩総数														
分娩数	356	386	388	399	352	333	391	370	375	271	233	233	240	245
生産	367	389	369	406	364	336	387	379	363	267	219	216	231	229
死産	12	22	40	24	18	24	25	23	31	20	29	32	25	33
分娩様式														
経膈分娩	247	272	269	265	220	215	250	232	249	181	153	152	144	155
自然	236	256	252	244	192	194	229	215	216	167	128	128	131	134
吸引・鉗子	10	16	14	20	28	21	21	17	20	14	25	24	13	21
帝王切開	111	114	120	135	132	118	141	138	126	90	80	81	96	89
予定	50	37	45	58	54	61	70	59	64	58	32	34	57	50
緊急	61	77	75	77	78	57	71	79	62	32	48	47	39	39
初産・経産別														
初産	169	175	151	154	162	150	147	150	158	114	87	88	124	95
経産	189	214	237	245	190	183	244	220	214	154	146	145	116	150
男	191	225	199	207	203	190	194	180	215	145	126	118	143	108
女	187	185	206	245	179	146	193	195	177	136	116	96	107	120
性別不明	0	1	6	3	0	0	0	2	5	2	5	2	6	1
単胎	337	361	366	368	322	306	370	337	353	255	218	219	224	228
双胎（組）	21	25	22	31	30	27	21	33	22	16	15	14	16	17
												(品胎1)		
分娩週数別														
42週以上	1	2	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
37-41週	273	289	289	311	254	239	307	255	276	178	156	165	162	160
32-36週	49	55	41	36	50	44	57	51	34	43	30	25	30	36
28-31週	22	15	13	11	21	22	21	30	14	18	11	12	14	11
23-27週	6	6	9	10	15	11	6	16	14	15	15	6	12	10
22週	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	1	2	1	1
22週未満	8	17	2	18	12	17	19	16	29	12	20	22	21	27
出生体重別														
3,000g以上	137	138	136	164	136	130	154	113	131	95	71	75	70	74
2,500-3,000g	124	136	126	123	108	87	119	127	111	73	63	66	69	63
2,000-2,500g	51	64	60	70	54	57	49	58	55	43	35	36	42	46
1,500-2,000g	22	27	26	23	27	26	37	30	34	21	25	22	19	24
1,000-1,500g	22	18	11	14	28	26	26	33	14	18	14	10	16	13
1,000g未満	21	28	49	37	29	34	27	42	48	32	40	39	40	42

けて、治療を要するものと診断してしまうことです。その結果、不必要な精密検査や治療（過剰治療）が行われ、受診者への身体的・精神的な負担などの不利益をもたらす可能性があります。過剰診断はすべての医療にかかわる課題ですが、症状のない健常者を対象とする健診や検診などにおいてはもっとも深刻な不利益をもたらします。

過剰診断 overdiagnosis は医学上の概念であり、Index Medicus の MeSH にも採用されている正式用語です。よく過剰診断を「病理学的な誤診」、すなわち手術によって治る良性の腫瘍や患者に害を及ぼす可能性の低い腫瘍を、再発や死につながりかねない悪性度の高い癌と間違えて診断すること、の意味で使うひとがいますが、これは誤りです。

「過剰診断」は誤診とは異なります。またいわゆる過剰医療ともちがっていて、意図的に過剰診断をすることもできません。たとえば福島甲状腺調査では、超音波で5ミリ以上の結節に針生検し、悪性ならば甲状腺がんとなりますが、これはまさに正しい診断です。それにもかかわらずこれらは見つける必要ない、見つけていけないがんなのです。

小児期に無症状でみつかる甲状腺がんは、ほとんどが一生そのままにとどまるとされています。しかし検診で見つかってしまうと、8割以上のひとが手術を受けるのはやはり人情というものでしょう。体と心に傷が残り、甲状腺ホルモンを一生飲まなければならないひとも多い。だから甲状腺検診はしてはいけないのです。

過剰診断にはたくさんの実例があります。米国の前立腺がんスクリーニング（血中 PSA）や韓国の甲状腺がん検診（超音波）、日本の神経芽腫マスキング（尿中 VMA）では、それ以前にくらべて数十倍もの多数のがんが発見されました。それらの患者は手術治療されたのですが、しかし全体の死亡率はまったく変わりませんでした。

これらが「過剰診断」の例です。前立腺がんも甲状腺がんも神経芽腫も、スクリーニングや検診によってむしろ重大な害が発生したため、後にすべて中止に追い込まれました。よくいわれてきた「早期発見、早期治療」というスローガンは、こういったがんにはまったく当てはまらなかったのです。

一度「過剰診断」という視点を獲得すると、わたしたちの身の回りでおこなわれている一般の医療にも、無駄なもの、むしろ行うべきでないものがたくさんあることに気づかされます。たとえばわたしたちの妊婦健診のなかにもそれは多く存在するように思われます。たとえば超音波検査をあれだけの回数をする必要はあるのかなど。

「過剰診断」は 21 世紀の医療を考えたときのキーワードになると考えられます。欧米ではすでにそういった見直しがはじまっていて、北米での“Choosing Wisely”とか、欧州での“Preventing Overdiagnosis Conference”といった取り組みがそうです。産科領域での診療においてもこれからは意識して取り組んでいきたいと思っています。

（室月 淳）

## 歯科口腔外科・矯正歯科

### 診療内容および診療体制

当科は地域医療支援病院として県内外の一般歯科医院や病院歯科および東北大学病院と連携しながら表 1 のような診療を担ってきた。

常勤歯科医師は矯正歯科認定医・御代田浩伸科長および小児歯科専門医・障害者歯科指導医・後藤申江部長の 2 名であった。常勤衛生士は障害者歯科指導衛生士・谷地美貴、障害者歯科衛生士・田代早織、歯科衛生士・森歩美、柴田堯子の 4 名であった。非常勤スタッフは歯科衛生士・永井敦子であった。また外来看護師には必要に応じて採血などの診療介助を依頼した。

週間診療スケジュールは全身麻酔下の小児口腔外科手術や外来治療困難児の一括歯科治療を水曜日全日お

表 1. 歯科口腔外科・矯正歯科の診療内容

(1)	全身疾患を有するこどもの定期的口腔ケアおよび必要な歯科治療
(2)	他科入院中のこどもの定期的口腔ケアおよび周術期口腔衛生管理
(3)	外来で治療困難な精神発達遅滞や自閉症等を有するこどもの全身麻酔下での一括歯科治療
(4)	摂食障害を有するこどもの摂食・嚥下指導
(5)	顎変形症ならびに顎顔面先天異常に対する包括的矯正歯科治療
(6)	不正咬合に対する一般矯正歯科治療
(7)	歯の先天性欠如や萌出困難歯に対する包括的歯科治療
(8)	小帯異常、過剰歯、埋伏歯、親知らずへの口腔外科的対応
(9)	歯・口・顎のケガに対する口腔外科的対応
(10)	口腔内の炎症、感染、嚢胞、腫瘍に対する口腔外科的対応
(11)	成長期の顎関節機能障害に対する診断と対応

表 2. 患者数の推移（過去 5 年間）

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
初診患者数	457	384	391	373	359
紹介状持参患者数	245	168	190	189	159
紹介率	53.6%	44.8%	48.6%	50.7%	44.3%
延べ外来患者数	8859	7945	8959	8854	8422
一日平均外来患者数	37.5	32.6	37.0	36.6	34.5
入院患者数	100	104	109	98	97
延べ入院患者数	294	308	323	292	290
一日平均入院患者数	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8

表 3. 初診患者の疾患別内訳推移（過去 5 年間）

疾患分類		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
顎顔面・咬合異常関連	不正咬合	66	41	60	30	46
	顎変形症	8	3	9	3	9
	口唇口蓋裂・顎顔面先天異常	21	17	18	15	14
	先天性多数歯欠如	1	6	2	1	6
口腔外科疾患関連	嚢胞・腫瘍性疾患	9	11	4	5	7
	外傷	7	7	4	4	3
	粘膜疾患	7	2	7	4	6
	顎関節機能障害	3	1	1	4	1
	小帯異常	22	12	22	24	18
	菌性感染	1	3	1	1	2
	埋伏歯	13	17	9	11	9
	正中過剰埋伏歯	38	30	28	33	24
	その他	1	4	1	1	3
虫歯・歯周炎・口腔ケア関連	自閉症・精神発達障害・脳性麻痺など	160	133	135	129	113
	循環器疾患	25	31	27	39	26
	血液疾患	20	18	16	17	13
	その他全身疾患	45	31	28	29	37
	全身疾患なし	10	17	19	23	22
合計	457	384	391	373	359	

表 4. 全身麻酔手術の内訳推移（過去 5 年間）

手術分類	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
一括歯科治療	53	42	43	39	36
埋伏歯抜歯術	33	49	28	17	20
			25	28	24
小帯形成術	11	12	11	12	13
嚢胞・腫瘍摘出術	1	2	2	1	2
その他手術	1	1	0	1	1
合計	99	106	109	98	96

よび金曜日午後に行い、それ以外の時間帯を外来診療とした。水曜日は全身麻酔手術のために東北大学病院より歯科麻酔専門医・水田健太郎先生および歯科麻酔認定医・佐々木晴香先生に診療応援を依頼した。また木曜日午後は他科入院中の子ども達の口腔ケアのために病棟往診をおこなった。

## 診療実績

### 1. 外来患者数

2023年度までの過去5年間の患者数の推移を表2に示した。本年度の初診患者総数は359人（院外紹介患者数159人、他は院内紹介）、延べ外来患者総数8,422人、一日平均外来患者数は34.5人であった。初診患者数は前年度より微減、延べ外来患者数も微減となった。2020年初頭から顕著になったコロナウイルスによる外来診療への影響は5月からは5類感染症の扱いになったことで現在は全くない。

宮城県立子ども病院は開院して20年になろうとしており、病院全体として成人移行を進めている。当科でも成人した患者さんの疾患や居住地などの状態に応じて移行可能な通院先を探し、本年度も約100名の患者さんを成人移行した。大きなバギーに乗るような重症心身障害者や自閉症や発達障害の成人患者の受け入れ可能な医療機関は少なく、多くは東北大学の障がい者歯科診療部に移行した。

### 2. 初診外来患者の疾患別内訳

2023年度まで過去5年間の初診患者の疾患別内訳を表3に示した。こどもの不正咬合や顎変形症に対する相談件数は増加、唇顎口蓋裂をはじめとする先天性顎顔面奇形の患者数は変化なしであった。こどもの埋

伏はや正中過剰埋伏歯は前年度より減少した。口腔内の炎症・嚢胞・腫瘍など、こどもの口腔外科疾患は前年度とはほぼ同じ傾向をみせた。虫歯・歯周炎・口腔ケアなどの初診患者数は変化なし、例年と同じく自閉症や発達遅滞、脳性麻痺は圧倒的に多く、初診患者の1/3を占めている。循環器疾患は増加し血液疾患は例年と同じ傾向であった。

### 3. 入院患者数および手術別内訳

2023年度までの過去5年間の入院患者の手術別内訳の推移を表4に示した。自閉症や精神発達遅滞、脳性麻痺を有するこどもや外来での治療が困難な歯科治療恐怖症や多発性カリエスを有するこどもの全身麻酔下での一括歯科治療は前年度より微減、その他小児口腔外科手術数は前年度とほぼ同じであった。

現在手術待機期間は5～6か月になっており年々長くなってきている。手術待機期間を少しでも減少させるためには早急に小児口腔外科手術や一括歯科治療ができる人材の確保および手術枠の増加が必要である。

## 教育・研究実績

教育面では萌芽の森クリニック歯科の協力型研修施設として研修医1名の臨床実習の指導をおこなった。宮城高等衛生士学院ならびに仙台青葉学院短期大学・歯科衛生士学科からの受託実習生の受け入れは、コロナ禍のため2年前から中止としていたが、コロナ禍が落ち着いたため本年度より再開し臨床指導実習をおこなった。研究面では後藤歯科医師は日本障害者歯科学会での研究発表をおこなった。

(御代田浩伸)

## リハビリテーション科

当院のリハビリテーションは、神経科・整形外科・形成外科・集中治療科・新生児科・リハビリテーション科などの診療科がリハビリテーション処方を行うことにより、様々な疾患に対応した小児リハビリテーションを行っている。リハビリテーションカンファレンス開催等により医療情報の伝達・共有を行い、リスク回避などを行ってきており、リハビリテーションにおける総合的な役割としてリハビリテーション科は機能している。

リハビリテーションは、脳性麻痺や二分脊椎など麻痺性疾患に対する訓練や、整形外科・形成外科・心臓血管外科・外科・脳神経外科などの手術後の訓練や、

血液腫瘍疾患・消化器科疾患などの訓練をそれぞれの専門分野医師と連携しながら行ってきた。リハビリテーション処方内容は、可動域改善・筋力訓練・移動機能の向上・呼吸リハなどの理学療法、上肢機能や日常生活動作向上などの作業療法、言語・コミュニケーション、摂食・嚥下などに対する言語療法などである。リハビリテーション延べ実施者数は理学療法が入院8,997人、外来4,346人、作業療法が入院3,325人、外来2,252人、言語療法が入院1,709人、外来1,537人であった。

装具作製は、障害児に対する日常生活向上のための補装具作成と、治療を目的とした治療用装具作成を

行っている。令和5年度の装具作製総数は1,270件、うち補装具意見書853件、および治療用装具診断書417件であった。整形外科と共同で施行している。補装具は脳性麻痺や二分脊椎などに対する上下肢変形や体幹支持性不良などに対して、体幹装具・上下肢装具・義肢・座位保持装置・車いす・座位保持いす・立位保持装具・歩行器などを作製しており、様々な変形に対応しており、随時修理等を行っている。治療用装具は

外反扁平足に対する足底装具、股関節脱臼に対するRB装具、ペルテス病に対する股関節外転装具、下腿わん曲に対する矯正を目的とした短下肢装具、などを作製しており、治療効果がみられている。その他、心臓脱や臓器再建術後などの臓器保護のための体幹装具などの作製等早期より介入している。

(高橋 祐子)

## 発達診療科

### 【神経発達症フォロー体制に関する取り組み】

2022年度より、限られた人員の中でもエビデンスに基づいた(或いは、極力それに近い)神経発達症フォロー体制の構築を進めていくに当り、当科診療の役割の明確化、外部施設連携及びアウトリーチがキーワードと考えられた。それは限られた人員の中であっても最大限に力を発揮すべき当科が担う役割の探求及び、そもそも健全な状態にある自閉症児療育は“生活に根差した、発達段階に則した、コミュニケーション構造が意識された介入”=病院よりは養育現場や家庭に於ける介入、がエビデンス的に推奨されているという事実を以てのことである。アウトリーチ連携の構築に当たっては、必然的に“当院スタッフ自身が遂行する訳ではないかもしれない(=それが当院の役割とは言いきれない、或いは人的・時間的に当院での遂行が難しい)が、現場の方々に伝える為を知っておかないといけないスキル・知識”があり、昨年度からは当院作業療法スタッフとの“療育現場に於けるエビデンスに基づいた介入手法”についての学習会を定期的に行っていた。具体的にはEarly Start Denver Model(ESDM)、JASPERを扱っているところである。残念ながら公式セラピストやトレーナーのライセンス取得にまでは力を入れられていない。院外へのアウトリーチ戦略ももう一つとしてはCARE(Child-Adult Relationship Enhancement)のファシリテート体制の導入である。CAREは俗に言うペアレントトレーニングの簡略版的な“親子のポジティブなコミュニケーションを促進する”プログラムであり、セラピーまでの物ではない。こちらについては対外的にトレーニングを開催することが出来る体制にあるので、つまりは現場養育に於ける導入的・基本的なところをCAREでカバーし、現場の更に踏み込んだところをESDMやJASPER知識でフォローするようなイメージである。無論その3つ

で全発達・世代療育を網羅することは全然出来ないもので、まだまだ発展途上な状況である。

もう一つの当科の課題、というよりは本業界全般的且つ永遠の課題が、人材育成である。児童精神科医をして絶滅危惧種と御自身を揶揄される児童精神科の先生もしばしばいらっしゃるが、小児科ベースで神経発達症診療或いは心の問題に関わる専門性を志向する医師の方が、もっと厳しい状況にあるのでは?というのが私見である。諸学会のこどもの心の診療に関わる専門制度がある中でも、こどものこころ専門医機構が精神科、小児科両者に対してその専門性を確立する意図で“こどもの心専門医”資格及びその為のトレーニング制度を整備しているところであるが、2025年度から始まるその研修制度の宮城県研修施設群の統括を当科が担うこととなった(というか、正確には、本来東北大精神科統括であったものを、諸事情で引き継ぐこととなった)。宮城県での研修施設群は東北医科薬科大精神科を中心とするそれと当院のその2列であり、先方との連携相談を進めている状況である。この制度を通して医師人材を養成できる可能性がある、かもしれない。一方で、連合小児発達学研究所大学院が意図する人材育成戦略の例にみるように、医師以外の人材育成にも視野を広げるということも非常に妥当且つ賢明なことと言える。医師人材資源が少ないという以前に、そもそも神経発達症療育や人生フォローには教育、養育、行政や司法、保健や相談事業等様々な職種が関わり、医療はあくまでその一つに過ぎないからである(逆にそのperipheralな立ち位置感が医師にとって本業界の人気を削ぐ一因なのかもしれない)。当科としては幸い2024年度より東北大学教育学部教育心理学講座の実習プログラムに関わらせて頂く機会を得た。このこともまた、神経発達症に関わる人材育成・連携の輪を広げるきっかけとなって欲しいところである。

## 【実診療に於ける取り組み】

新患紹介数は昨年度よりも減少傾向にある中で(134/年で昨年比15人減)、故に1新患に1時間を当てていたその診療時間を、込み入った状況にある症例(新患及び、既に通院しているケース)に活用できる機会を得られることとなり、診療の質を上げるという点に於いては非常に恵まれた状況を頂けている。それに連動して一日の中の診療時間自体も2022年以前より前後の伸びている傾向にある。診療的にはうれしい悲鳴である反面、経営や運営上は改善すべき状況であるというジレンマ状態にあり、策を講じていかなくてはならない現状である。そんな診療状況として具体的には、

- 1) 従来多かった「発達障害なようなので紹介します。」的な、病院にかかる必要性が低いケースの紹介の減少(それらは健全に正当に、まず最初に地域保健・療育に繋がっている)と、トラウマ関連、養育環境関連といった、当科の専門性が生かし得るケース(結果として、それらはそもそも神経発達症なのか微妙なケースも含まれる)紹介の増加;これは(各科の先生方に直接御声がけ頂くお手間を取らせてしまい誠に恐縮で申し訳ないスタイルになっている)院内紹介ケースや仙台市発達相談支援センターアールからの紹介も然りの傾向である。被虐待例、性被害例、性加害例、親の育成歴のトラウマ関連の問題、或いはそれらが複合し生活適応や親子関係・地域関係に大きな支障を生じているケース等に対し、心理療法及び幾ばくかの薬物治療を施行しつつ、児童相談所やアール、地域保健機関、学校等と連携しながら介入を進めている。
- 2) 既に通院している患者の再評価;その不調の背景を丁寧に再評価・介入する時間を得られたことによって、従来見落としていた発達の背景や心理背景、家庭や養育者の背景等を再発見し取り扱うケースが増加した。母親の怒りと焦りの裏に実は小児期の性被害のトラウマが影響していることが判明し治療を開始したり、患児の暴力で兄弟不和となり母も精神的に参っている

状況でその兄弟を含めた対話形式の診療に移行したり、児が親のトラウマメモリアル的な年齢に入ったことで親の状態が悪化し親の治療を強化することになったり、実は子の情動不穩の背景に夫婦不和があることが分かり父母への介入を始めたり等である。

- 3) 家族・本人参加の対話形式の診療の試み;先に述べたように、神経発達症や心の問題のフォローには“様々な職種の専門家が関わる”訳であるが、患者・家族の人生の一番の専門家は患者・家族自身であり、その専門性と主体性を尊重し対話の中で自主的な解決の力を導き出すことの有用性が、ナラティブセラピー、オープンダイアログ、リフレクティング等、諸処のカウンセリング技法で示されている。ある意味治療者一人による介入では無く、本人や家族との“連携”を取りながらの介入、いわばミニマルな連携体制と言えるかもしれない。母子、父母子、父子、兄弟姉妹含めて家族全員、親戚や祖父母含める場合等、それぞれの視点からの意見を述べたり傾聴したりしながら、児の問題、兄弟姉妹の問題、親子間の問題、親(同席本人あるいは同席しない連れ合い)の問題、夫婦間の問題等を扱った。寧ろ治療者の言ったことよりも、子の話で夫婦間に変化を生じたり、伯母の話で母の言動が変わったり、やり取りの中でそれぞれに役割意識を見つけたり、この場でしか出来ない話が言えたり聴けたり、治療者にとっても生の家庭のコミュニケーションに近いものを体験し理解が進んだりということもあり、従来型の治療者一人からの介入では進めることが出来なかった段階へ状況を進めることが出来たことも多かった。

## 【終わりに】

管理上層部の先生方、看護部や薬剤部やリハ部の方々、医師事務や地域連携の方々等、皆様に暖かく御支援頂いて成り立っている現状です。いつも本当にありがとうございます。

(涌澤 圭介)

## 放射線科

放射線科の業務は、画像診断読影報告書の作成、CT撮影計画の立案と指示、MRI撮影計画の立案と指示、核医学検査計画の立案と指示、放射線部での超音波検査、病棟・PICU・NICUなどへの出張超音波検査、造影・透視検査、臨床各科との画像カンファレンス、臨床各科からの画像診断に関するコンサルテーションへの対応などである。

各モダリティで発生した画像データは画像サーバに蓄積され、読影室内の画像診断端末、放射線部門内のRIS端末、病院内の電子カルテ端末から参照可能であり、放射線科ではフィルムレスの環境で読影およびカ

ンファレンスを行っている。

2023年度の読影報告書の作成件数は、単純X線写真1,460件、CT933件、MRI1,283件、核医学検査289件、超音波検査535件であった。

定期的な画像カンファレンスは主に新生児科および神経科を行った。

放射線治療は、非常勤の放射線治療専門医（東北大学医学部 神宮啓一教授）に支援していただいた。2023年度の照射件数は24件であった。

(鳥貫 義久)

## 麻 酔 科

### 2023年度の麻酔科管理件数および緊急手術件数

2022年度の手術件数は1,755件であり、うち麻酔科関与件数は1,744件であった。前年度をわずかに下回ったが、手術件数・麻酔管理件数ともにコロナ感染流行以前並みとなった。

診療科別の手術件数を表1に示す。小児専門病院であるため、産科をのぞく大多数の手術には麻酔科医が関与する全身麻酔症例である。緊急手術は全体の13.5%であり、前年なみであった。特に総合診療科(36%)、外科(24%)、脳外科(24%)、産科(52%)において緊急手術の割合が高かった。また図2に手術

件数の月別の変動を示す。8月および12月と3月に予定手術の件数が増加しており、学校の長期休暇に予定手術が集中する傾向は変わらない。

### 患者の年齢分布 (図1)

手術患者の年齢分布別の手術数では概ね前年度と同

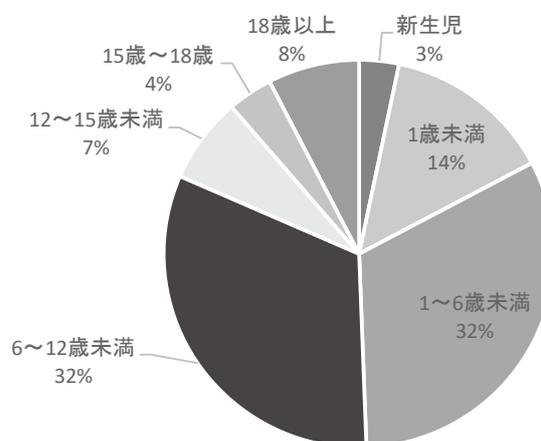


図1 患者の年齢別分布

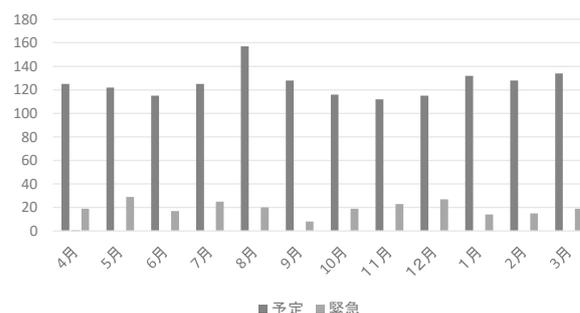


図2 月別手術件数の変動

表1. 診療科別手術件数

	総数	予定	臨時	緊急
外科	332	252		80
泌尿器科	248	238		10
形成外科	264	256		8
脳神経外科	100	76		24
心臓血管外科	151	126		25
産科	105	50		55
歯科口腔外科	96	96		0
循環器科	283	270		13
総合診療科	50	32		18
麻酔科	0	0		0
血液腫瘍科	1	1		0
整形外科	125	121		4
その他	0	0		0
合計	1,755			

じであった。新生児と乳児の手術は17%、1歳から6歳未満の未就学児が32%、15歳までの学童は39%であった。18歳以上の成人の症例は8%と昨年より微増している。

## 麻酔法（表2）

近年では全身麻酔薬として吸入麻酔薬よりも静脈麻酔薬を使用することが麻酔領域では多く行われるようになってきている。しかし当施設では小児患者が大多数で吸入麻酔薬の麻酔導入が大多数を占めている現状は以前から変わらない。しかし統計上は吸入麻酔薬での麻酔導入としていても、静脈麻酔薬の使用症例あるいは併用症例は増加している。2023年度は1,348件の症例で静脈麻酔薬が併用されさせていた。使用された静脈麻酔薬の内訳はプロポフォールが93%で最も多かった。このように多くの症例で静脈麻酔薬が使用されている理由の一つは麻酔科医が吸入麻酔薬に惹起される術後の覚醒時興奮や悪心嘔吐を予防するために使用していると考えられる。また術後の鎮痛方法としては神経ブロックや硬膜外カテーテルからの鎮痛が27.1%の症例で行われ、適応のある症例では積極的に区域麻酔による鎮痛をおこなっていることがうかがわれる。

## その他

2023年3月より当科は常勤医スタッフ5名となった。うち一名は現在週3日勤務を選択している。少子高齢化時代に多様な働き方が可能であることは今後の

表2. 麻酔方法別症例数

麻酔法	症例数	%
全身麻酔（吸入）	1,134	65.1
全身麻酔（TIVA）	43	2.4
全身麻酔（吸入）+ 硬・脊、伝麻	465	26.7
TIVA+ 硬・脊、伝麻	8	0.4
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	1	0.05
脊髄くも膜下麻酔	87	4.9
硬膜外麻酔	3	0.1
その他	0	0.0
合計	1,741	99.65

麻酔科医の拡充に重要であると考えている。また以前から協働体制にある東北大学麻酔科より派遣された麻酔科専攻医の半年間の小児麻酔研修を行っているが、来年度より山形県立中央病院、日本海病院とも麻酔科専攻プログラムの提携を開始する。東北唯一の小児専門施設として東北地方全体の小児麻酔研修が提供できる施設となる可能性がある。手術室内業務以外にも麻酔科のスタッフは院内の医療安全、緩和ケアチームなど様々な分野で活動をしている。東北大学とは医師の派遣以外にも東北小児麻酔・集中治療懇話会を合同で開催するなど活発な交流を行っている。また小児麻酔学会主催の教育セミナーに講師派遣をおこなうなど学術活動や国内の他の小児施設との連携活動を継続中である。

(五十嵐あゆ子)

## 集中治療科

集中治療科は、当院小児集中治療室（Pediatric Intensive Care Unit ; PICU）の専従医として2014年に設立され、2023年度は専従医4名（小泉 沢、小野 頼母、其田健司、田邊雄大）で診療にあたった。集中治療科は、生命維持に関わる全身管理と臓器補助管理を専門としてPICUにおける診療全般に関わり、各専門診療科と1日2回のカンファレンスによって連携を図っている。看護師、臨床工学技士との連携に加えて、薬剤師も含めた回診、リハビリテーションカンファレンスを毎日行い集学的なチーム医療を実践している。具体的には新生児から学童までの人工呼吸管理、急性血液浄化療法、体外式呼吸循環補助など高度な小児救命集中治療を提供した。また、Child life specialist、保育士の介入を積極的に依頼し、患児に安楽な環境の提供やPICU内での緩和医療の充実に取り組んでいる。

2022年からPICU早期リハビリテーションプロトコルを作成し、早期リハビリテーションのシステムを構築した。また、院外に対しては、小児重症患者の集約化のため、当院ドクターカーを活用した迎え搬送システムを整備し運用している。2023年度は緊急入室症例の増加、特に転院搬送症例と救急外来からの入室症例が増加した結果、入室症例数の増加につながった。

臨床工学技士、看護師、理学療法士などと連携し、呼吸療法全般に関する安全管理と呼吸療法の質の改善を目的とした多職種チーム「呼吸サポートチーム（RST ; Respiratory Support Team）」による病棟ラウンドを実施している。呼吸療法に関する勉強会、安全に関する院内取決めの周知を行った。

表 1. 2023 年度診療実績

入室症例総数	347 例
予定入室	193 例
緊急入室	154 例
入室経路	
院内	259 例
手術室	169 例
カテ室	16 例
病棟	67 例
院内出生	7 例
院外	86 例
救急外来／一般外来	41 例
転院搬送	47 例
入室契機	
術後管理	176 例
呼吸不全	65 例
循環不全	21 例
中枢神経障害	31 例
腎不全	5 例
肝不全	2 例
心停止蘇生後	7 例
モニタリング・評価目的	32 例
その他	8 例
治療介入	
人工呼吸管理（人工気道下）	217 例
非侵襲的陽圧換気療法	7 例
高流量鼻カスラ療法	102 例
一酸化窒素吸入療法	61 例
低酸素療法	16 例
体外式膜型人工肺（ECMO）を用いた呼吸循環補助	3 例
急性血液浄化（持続血液ろ過透析、血漿交換など）	16 例
体温管理療法（低体温療法・平温療法）	3 例
予後	
ICU 滞在日数 中央値	3 日
ICU 滞在日数 平均値	7.1 日
ICU 死亡	6 (1.7%)
Pediatric Index of Mortality 3 予測死亡率（平均）	3.3%

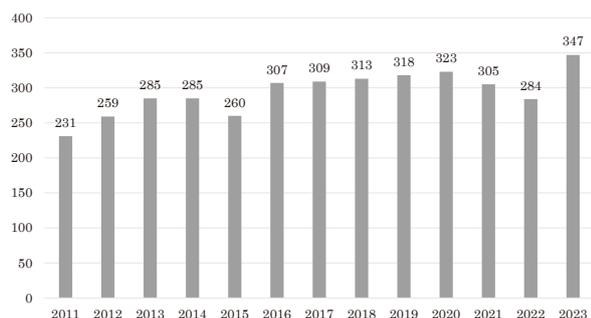


図 1. 総入室症例数

## 学術活動

邦文 4 件、欧文 2 件。口演・講演は、全国学会 11 回、セミナー講演 5 回、地方会 3 回、研究会 4 回、学会・研究会ハンズオン講師 3 回。東北大学医学部 4 年次小児科学講義講師（小児集中治療医学）。

（小泉 沢）

## 臨床病理科

臨床病理科では1) 病理組織診断、2) 細胞診、3) 術中迅速診断、4) 病理解剖の4つの業務を行い、3)、4) に関しては可能な限り時間外も対応してきた。2023年度に行った病理検査の内訳は表にまとめたとおりである。病理解剖は3例で、内訳は産科1例、新生児科1例、集中治療科1例であった。

なお、昨年度より病理検査システムの導入に向け準備を進めてきていたが、2023年6月から無事運用を開始することができ、これまでのところ順調に稼働している。

(武山 淳二)

表. 2023年度の病理検査数

病理組織検査		細胞診検査	
産科（主に胎盤）	88	産科	55
消化管粘膜生検	212	好酸球検査	24
腎生検	12	髄液	26
血液腫瘍科	91	胸水・腹水	7
外科	80	喀痰	2
脳神経外科	37	尿	4
形成外科	91	その他	13
泌尿器科	37	計	131
整形外科	7	術中迅速診断	4
歯科口腔外科	4	病理解剖	3
心臓血管外科	2		
その他	6		
計	667		

## 第2章 看護部

### I. 看護部基本方針

1. 専門職業人として高度な知識、技術を習得し、エビデンスに基づく安全で安心な看護を提供します。
2. 患者家族の人権を尊重し、チーム医療の充実を図り、個別性のある患者中心の看護を提供します。
3. 在宅支援の充実を図り、地域医療に貢献します。
4. やりがいのある、活気ある職場環境づくりに努めます。

### II. 看護部目標と取り組み・成果

看護部では2021年度に、現状から優先課題とすべき患者像を重症心身障害児（者）とし重点目標を掲げた。3年目の今年度は、成人医療機関でも継続した受診や支援ができるよう院外を含めた組織強化を目指す取り組みを行った。

あるべき姿

『重症心身障害児（者）と家族が主体的に身近な地域と交流を持ち、将来を見据えた自分たちの望む生活ができるよう支援する』

重点目標（看護管理室）

1) 医療的ケア児と家族が適切な医療を地域でタイムリーに受けられる体制を構築する。

- ① まず、成人移行期支援委員会の活動を通して、患者、家族、地域の支援者に対して現状と成人移行の必要性の理解を高めるための研修会を行った。個別に医療機関の訪問も行い、その結果、地域のクリニックの13か所が連携施設として窓口を開いた。事例に関するカンファレンスは、保健師や訪問看護師、往診医師等参加者が増え、回数も増加している。また、患者と家族が、疾患が分かった時から疾患と子どもの成長を意識して主体的に行動を考えることを助ける、ヘルスリテラシー獲得を促進する自己管理用ノート『みやちるノート 成人移行』を作成した。
- ② 関係者の人材育成では、家族、学校教員、福祉施設職員を対象とした研修は以前から行ってきた。今年度は、宮城県看護協会主催の潜在看護師の掘り起し事業として、医療的ケア児に興味があ

る看護師を対象とした復職研修を請け負った。講義と実地研修の構成で、当院は研修について担当し、拓桃館2階病棟を中心として2日間の研修を行った。参加者は2名だった。地域で医療的ケア児に関わる看護師は圧倒的に不足している。実地研修は就業への有効な研修であるため、未就業の方々にとって負担となる抗体価検査やワクチン接種の費用を主催者側で支援する必要がある。

- ③ 看護部においては看護基準に成人移行期支援の項目を追加した。成人医療機関に看護師を派遣した際、成人期移行の現状を伝達し、医療的ケア児のケア方法を共有して、今後、地域にいる医療的ケア児のレスパイトの受け入れを検討して頂く準備を後押しした。
- ④ 宮城県は、成人移行期支援についての体制整備について協議を重ねており、センター機能を当院に設置する意向も出てきている。今後ますます成人移行期支援の体制整備が活発化すると予測される。

重点目標以外の主な取り組み

#### 1) 病院機能評価受審について

日本医療機能評価機構が行う病院機能評価を受審することが決まり、前年10月にキックオフミーティングが開催された後、受審準備コアチームが手順と日程を確認し、5月以降は受審対策会議にて全体周知を図り、準備が進められた。

看護部では、病院機能評価関連のセミナーに参加して、新バージョンについての情報収集、特にカルテレビューに関することと現状の課題整理を行った。自己評価調査票は、前回との違いやアピールポイントを簡潔に表現しなければならず、苦勞した。ケアプロセスの症例選択では、当院の特徴を伝えることができる事例の選択が望ましく、各病棟で強調するポイントを決めて、効果的なプレゼンテーションができるように配慮した。受審当日は、ラウンドのシミュレーションを行ったことでどの部署もスムーズな対応ができ、さらに機構側との意見交換も活発になされた。身体抑制の指示のあり方や倫理的課題の把握等が課題との指摘があり、今後、改善に向けて検討していくこととなった。

#### 2) こども病院20周年に関する活動

こども病院が開院から20周年を迎え、11月に記念

式典と交流会が行われた。来賓の講演や初代院長大井龍司氏をはじめとする元職員の方々から、開院当時の苦労話やこども病院が発展していくために必要なこと、期待などの講話を拝聴した。

時期を合わせた芸術祭では入院中の子ども達の作品や、各職員が個人や部署で力を合わせて製作した20周年に思いを寄せた作品も出展され、訪れる人々を楽しませていた。(写真1) また、芸術祭の来場者を期待して、看護部では在宅支援検討委員会により「災害の備え」をテーマに昨年取り組んだ医療的ケア児の災害対策に関する展示を行った。(写真2)

記念誌の発行準備もあり、看護部は開院当時を知る32名の職員にご協力いただき、当時を振り返り、今につなげたい大切な思いを綴った。

3月には、20周年にふさわしい地域医療連携講座とするため、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督須江航氏による講演会を開催して、若い人々に「伝わる言葉」、人材育成において大切なことを教えていただいた。地域連携登録病院の他、看護学校や特別支援学校からもご参加頂き、院外受講者が100名を超えた。20年間の恩返しとなるような、皆様に望まれた有意義な講演会となった。(写真3)

クリスマス会のプロジェクトマップや介助犬の訪問、キッチンカーなど20周年をきっかけとして新しい試みが複数あり、こども達はもちろん職員に

とっても元気が出るファミリーホスピタルのコンセプトを具現化した年となった。

### 3) 地域支援としての応援派遣 (基本方針-3)

① 5月の全国看護週間における宮城県看護協会主催の看護の仕事を紹介する企画に参加要請があった。仙台青葉学院短期大学を会場に、手術室所属の須藤瑠奈看護師がこども病院の概要と手術室看護の実務とやりがいについて一般の方々を対象に講演した。

② 前年度の沖縄県那覇市立病院への派遣に続き、今年度はみやぎ県南中核病院へ6月～翌3月までの長期間、本館2階病棟所属の菅原淳志看護師を派遣した。業務応援が主目的ではあるが、小児と成人の混合病棟に配置され、小児の整形外科術後管理や高齢者の内科患者のケア、また訪問看護など未経験の看護に挑戦することが出来、大きなキャリアアップの機会となった。

③ 2024年1月に発生した能登半島地震では高齢者が多く、半島という地理的な特徴から孤立した地域が多く発生したために支援を多く必要としていた。看護部は2月19日月曜日に宮城県医師会から応援要請を受け、翌日には津田礼子主任の派遣調整を行い、同じ週の24日土曜日には能登へ出発するというスピード感で対応した。津田主任はJMAT 宮城第9隊として七尾市の能登中部調整

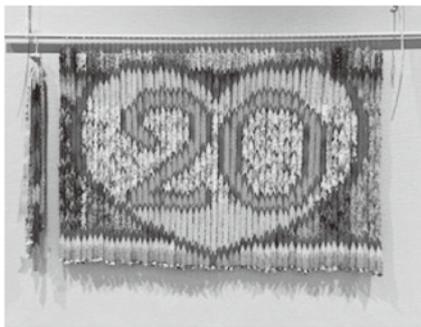


写真1



写真2



写真3

支部に配置され、各避難所の状況整理や物資の管理などの管理業務を行った。

能登半島地震では、実家が被災した看護職員がおり、院内で義援金を募ったところ、看護部の他に診療部、臨床検査部、事務部からのご協力頂いた。この場を借りて感謝申し上げます。

#### 4) 看護部の働き方改革の取り組み（基本方針-4)

- ① 看護部の大きな課題は、夜勤従事者の不足である。子育て世代が増加したことに伴い、夜勤従事者が減少し、夜勤をできる職員が平均夜勤回数を超えて勤務をしている現状がある。そのため、前年度は夜勤が多い職員の健康管理をシステム化し、それに基づき今年度始めには健康相談を行った。月平均夜勤回数が11回（2交代制で5.5回）以上夜勤をしている職員は、前年度よりもさらに16人増加して、年間で延べ604人（毎月50人が11回以上の夜勤を行った）となった。その中には主任看護師も含まれ、主任は36人中30人が夜勤をしており、月11回以上の夜勤は9人が行っていた。看護部の組織を強固にするために主任の増員を図ってきたが、部署の人材育成や業務改善に力を発揮するためには夜勤勤務の軽減が必要である。主任がおおむね平均夜勤回数の半分を担うだけで、部署の夜勤要員が確保できるよう、病院に対して看護人員の増員を要望していく。
- ② 新人看護師の夜勤導入が遅延傾向にあることを把握した。11月以降が増えているため、新人が採用された1年は夜勤要員としてカウントできない部署もあった。患者の重症化は夜勤を遅くする

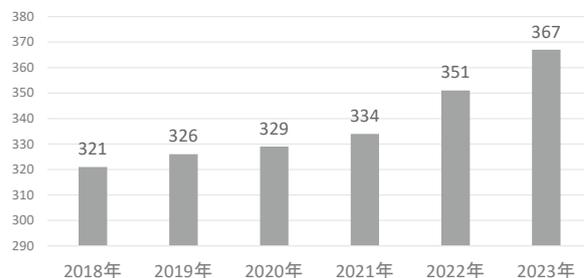
要因ではあるが、PNSの看護方式はそれをカバーするものである。夜勤を開始する際の看護師の技量の評価が部署で差があるため、看護部の方針を『PNS ステップアップ研修実施要綱』として提示した。

- ③ 部署の日勤および夜勤の業務を見直し、人手が厚い時間帯に何をするのか、もしくは業務量・看護量が多い時間帯に何人の看護師が必要なのか、現状では日勤帯の従事者は多くなっているため、部署の特徴に合わせた業務の再構築を行うことが課題である。
- ④ その他の業務改善として、夜勤看護師専用ユニフォームを導入した。医師をはじめとする共働する職員、あるいは患者にもその意味を理解していただき、勤務時間外の業務依頼がなくなった。ボックスシートは6月から使用開始し、シート交換時間の短縮が認められた。

### III. 組織・要員

2023年4月1日の看護職員数は367名で、前年度より16名の増員となった。新採用看護職員は31名で、

看護職員数の年次推移



2023年度看護部職員詳細

役職	看護部職員総計 387人	内 訳		
		女性看護師	男性看護師	助産師
看護部長	1人			1人
副看護部長	3人	3人		
看護師長	14人	10人	1人	3人
主任	37人	29人	4人	4人
看護師・助産師	312人	261人	16人	35人
小計	367人	303人	21人	43人
看護助手	19人			
事務員	1人			
4月採用看護職員	31人	25人	0人	6人
(内経験者)	(9人)	(8人)	(0人)	(1人)

新卒者 22 名、既卒者 9 名だった。看護職員の平均年齢は 35.4 歳、当院の在職年数の平均は 11.8 年となった。産前産後休暇 18 名、育児休業を利用した職員は 41 名で、過去最高値となった。

退職者は 14 名あり、途中退職者 7 名、年度末退職者 7 名だった。離職率は 3.8% で、前年度より 0.2 ポイント減少し、最小値を更新した。新卒看護師の退職はなかった。退職理由は結婚に伴う転居 5 名、転職 5 名、進学 1 名などであった。

看護部の昇任は、4 名が主任看護師に昇任された。

看護助手は、4 月は 20 名を配置し、年間で 6 名採用、4 名退職があり、年度末では 22 名となった。2 部署を担当するものや土日祝日に勤務するものなど働き方がさらに多様化し、看護師の負担軽減に貢献している。看護助手の雇用は診療報酬へも関与しているため多くの施設が確保に乗り出しており、賃金を含めた労務環境を向上させて人材確保をしていくことが今後の課題である。

(本地真美子)

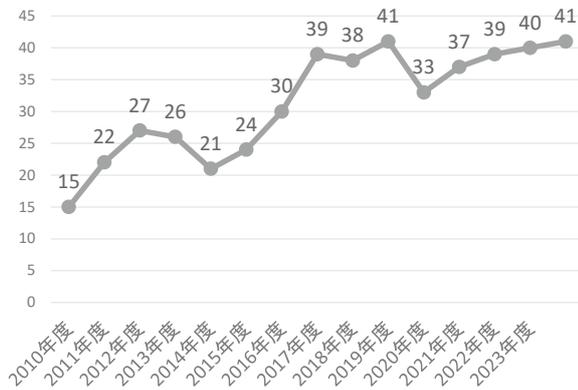
看護職員配置状況 2023 年 4 月 1 日

部署	看護師・助産師数		職種別			看護助手
			女性看護師	男性看護師	助産師	
本館 2 階病棟	総数	32	29	2	1	2
	内新採用	2				
	内短時間勤務	4				
本館 3 階病棟	総数	34	33	1		2
	内新採用	3				
	内短時間勤務	5				
本館 4 階病棟	総数	33	30	3		2
	内新採用	3				
	内短時間勤務	5				
拓桃館 2 階病棟	総数	30	27	3		1
	内新採用	2				
	内短時間勤務	4				
拓桃館 3 階病棟	総数	28	26	2		4
	内新採用	2				
	内短時間勤務	1				
PICU	総数	30	26	4		1
	内新採用	3				
	内短時間勤務	3				
産科病棟	総数	29	3		26	1
	内新採用	4				
	内短時間勤務	5				
新生児病棟	総数	55	47	2	6	2
	内新採用	7				
	内短時間勤務	4				
手術室	総数	23	18	3	2	1
	内新採用	2				
	内短時間勤務	2				
外来	総数	28	28			3
	内新採用	3				
	内短時間勤務	9				
入退院センター	総数	6	5		1	0
	内短時間勤務	1				
看護部長	総数	1			1	0
看護管理室	総数	10	8	0	2	0
産休育休者	総数	28	25	0	3	0

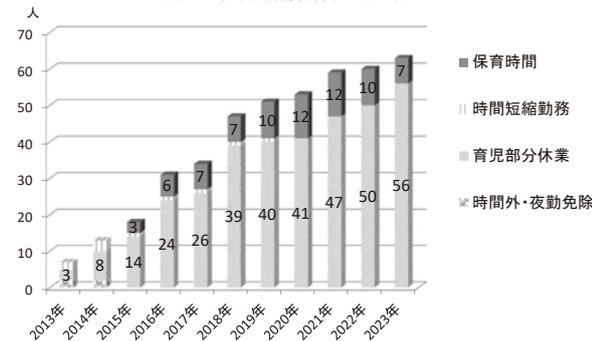
看護職員平均年齢  
(2022年4月1日)

所属	2022年4月	2021年4月	2022年4月
本館2階病棟	29.3	31.4	32.1
本館3階病棟	30.8	32.2	33.1
本館4階病棟	32.2	33.6	33.9
拓桃館2階病棟	37.0	38.0	37.5
拓桃館3階病棟	35.6	38.3	36.5
産科病棟	30.3	34.9	33.4
MFICU	27.9	35.1	33.3
NICU	34.4	31.2	31.0
GCU	32.4	32.6	32.3
PICU	31.9	32.7	32.6
外来	39.6	41.4	39.9
手術室	33.9	31.1	31.3
入退院センター	46.4	45.4	49.3
看護部	41.8	37.7	38.7
全体	35.2歳	34.8歳	35.4歳

年度内に育休を取得した看護職員



出産育児等母性保護制度の利用者



#### IV. 教育活動

##### 1. 教育目的・目標

###### 【教育目的】

宮城県立こども病院・看護部の理念に基づき、安全で質の高いあたたかな看護を自ら積極的に学び、考え、行動できる自律した看護職員を育成する。

###### 【教育目標】

1. 小児看護、母性看護の専門知識と技術を深め、キャリア開発システムを基盤としてキャリアアップができる。
2. 小児専門病院の看護職員として、役割と責任を自覚して行動できる。
3. 社会・組織・個人の多様化に応じたチーム医療の中で、主体的に思考・判断し、行動できる。
4. 組織の目標に沿って自己実現を果たし、看護専門職としてキャリアの発展を図る。

###### 【令和5年度教育目標】

1. 地域社会に期待されるこども病院のブランドに相応しい看護職員の育成を目的とした多様な研修を企画・運営する。
2. 自己の将来のビジョンをもち、それに向かって自己研鑽するスタッフを育成する。
3. キャリア開発システム専門ステップコースを構築する。

###### 【総括】

1. 地域社会に期待されるこども病院のブランドに相応しい看護職員の育成を目的とした多様な研修を企画・運営する。

今年度もキャリア開発システムに沿って教育計画を予定通り進めることができた。

入職時研修を39項目実施し、状況設定シミュレーション、3日間のシャドウイング研修等を企画し、臨地実習の経験が少ない新人看護師の臨床判断能力の向上につなげ、「医療接遇」と「社会人基礎力」についても強化し、コミュニケーション能力向上を図ることができた。また入職後1ヶ月フォローアップ研修まで、入職後2週目と3週目に半日フォローアップ研修を追加し、徐々に職場適応できるプログラムとなった。

レベル別・役割別の研修は59項目、全体研修5項目を実施することができた。とくにリーダーシップに関する研修では、他部門からの参加者を受け入れ、リーダーシップと業務改善に向けた組織分析について学習することができた。今年度から新型コロナウイルス感染症対策の一部緩和に伴い、研修を対面形式へ戻しつつ実施することができた。全体研修は看護職員全体への周知を図るため、研修後のオンデマンド配信を継続させ、受講できるよう働きかけた。

その結果、2023年度の看護部全体研修平均参加人数は101.2人となり、前年度との比較では7.0人増加、目標値58.0人を大幅に上回ることができた。

研修をより集中して受講できるように、昨年と同様にレベルIII研修を1日に集中させ2日間の研修を企

2023 年度 看護師長会議協議事項等

	主な協議事項	決定事項・対応
4 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院機能評価について</li> <li>2. 2023 年度看護部事業計画について</li> <li>3. 看護管理実践計画発表会について</li> <li>4. 2022 年度勤務状況について</li> <li>5. 看護部補完体制について</li> <li>6. 看護部内における働く環境調査</li> <li>7. リフレッシュ休暇の取得について</li> <li>8. 看護研究審査委員会開催スケジュールについて</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日程、内容、提出資料の確認</li> <li>2. 2022 年度実績を踏まえて今年度の重点事業は医療的ケア児の在宅・成人移行支援強化とする</li> <li>3. 看護管理実践計画発表会概要周知</li> <li>4. COVID 関連特休がなくなるので、スタッフの急な欠員が続くことはなくなる計画的な年休取得推進 時間外理由の 1 位は看護記録理由の選択肢追加希望するときは遠藤までメールにて連絡を</li> <li>5. 看護補助者間の補完体制の検討 入退院センタースタッフ現在不足継続的リリーフで対応リリーフ体制の検討</li> <li>6. グーグルアンケートを看護助手も対象に行う</li> <li>7. 3 日以上継続した休暇をとれるよう各部署で業務調整する勤務希望は CWS に入力する方法に統一する</li> <li>8. 看護研究審査委員会は隔月開催とし、委員会前に研究計画などの不備がないかを確認する以前より開催頻度が減少するので、計画的な提出をしてほしい</li> </ol>
5 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主任会の活動について</li> <li>2. こども病院資金用途について</li> <li>3. 部署の教育体制について</li> <li>4. 緊急災害連絡網について</li> <li>5. 師長・主任面談について</li> <li>6. 倫理的課題への取り組み</li> <li>7. 本館 3 階病棟の工事に伴うベッドコントロール協力</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会議を行わない月であっても、主任の活動時間として時間を作れるように業務調整する</li> <li>2. 寄付金の用途について、患者・家族へ還元できるものについて、経営企画課へ提案する（高校生の学習支援者雇用、病棟・外来掲示板の修繕など）</li> <li>3. 部署の教育担当主任を中心に部署の教育体制の整備・共有をしていく</li> <li>4. 内容確認 緊急連絡シミュレーションについて説明</li> <li>5. 期間の確認 希望確認後調整して一覧とする</li> <li>6. 部署内で 2022 年度からこれまでに間で検討したものを簡潔にまとめて、看護部へ提出し、共有材料とする</li> <li>7. リカバリ室工事期間、ヘルニアの手術などは 2 階・4 階でも受け入れていくこと確認</li> </ol>
6 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連絡網シミュレーション振り返り</li> <li>2. 病院機能評価受審準備について</li> <li>3. 6 月勤勉手当評価</li> <li>4. 女性共用ユニフォームの数について</li> <li>5. 病院機能評価について</li> <li>6. 看護管理マニュアル改訂について</li> <li>7. 看護助手リリーフ体制について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部署の連絡状況の確認 取り決め事項の確認</li> <li>2. 受審日決定自己評価表に追加されたコメントを関連部署で確認する環境準備としては感染対策相互ラウンドの指摘事項の改善に取り組む</li> <li>3. 看護部の評価基準を運用したことで部署間の差が縮小されたこと確認</li> <li>4. 数が不足しているとのスタッフからの声が多い 産休・育休者の分もあり、計算上は不足はない ストックしないよう周知するとともに追加できないか経営企画課とも調整する</li> <li>5. 病院選択のケアプロセス調査は 4 階病棟に決定 後の 3 部署は機構側が決める 指定されたときのために各部署準備すること確認</li> <li>6. マニュアル改訂作業について周知</li> <li>7. リリーフ業務内容について確認手順書の必要性確認フォーマットについて意見交換</li> </ol>
7 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院機能評価について</li> <li>2. 新規採用者夜勤導入について</li> <li>3. PNS 師長グループ活動について</li> <li>4. 夜勤回数が多いスタッフへのアンケート実施について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアプロセス症例決定について確認各種同意書の記載不備など確認必要 IC 時の記録の確認必要ケアプロセスシミュレーションについても今後予定する 解説集、自己評価表の内容確認</li> <li>2. 夜勤導入基準作成の必要性について確認 WG 立ち上げ、検討することとなる</li> <li>3. 7 月より PNS 師長グループ活動を開始すること確認</li> <li>4. 1 クール 6 回以上の夜勤をしているスタッフ 5 名に対して行うこと確認</li> </ol>
8 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院機能評価について</li> <li>2. 新規採用者夜勤導入基準について</li> <li>3. 認定看護師養成校受験者選考について</li> <li>4. 病院の経営状況について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4 階のケアプロセス症例リハーサルを振り返り、他部署で準備するべきことの確認</li> <li>2. 作成した基準の承認</li> <li>3. 日程・要領の確認</li> <li>4. 経営改善が必要である状況の共有予定外の支出はより難しくなること共有</li> </ol>
9 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院機能評価受審について</li> <li>2. 親近採用者の夜勤導入について</li> <li>3. 女性共用ユニフォームについて</li> <li>4. スタッフのメンタルヘルスケアについて</li> <li>5. 働く環境調査結果について</li> <li>6. 夜間・休日管理勤務内容について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当日の流れの確認受審後の振り返り会議で共有</li> <li>2. 新人の夜勤導入に向けて、夜トレ 1、2 の勤務形態承認</li> <li>3. 来年度の採用職員分より、80 枚スポンを追加すること確認ロッカー内ストックは、1 組以上はしない ランドリーバッグへの入れ方も留意する</li> <li>4. 早期発見・対応の必要性確認看護管理者として必要な知識の共有</li> <li>5. ハラスメントを受けたとする職員が比較的多くいた今後改善策を検討すること確認</li> <li>6. 救急外来患者数増加傾向外来看護師だけでは対応難しいので、管理勤務者は救急外来患者の対応支援に入ること確認救急外来業務の流れを師長・主任間で共有すること確認</li> </ol>

10月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性ユニフォーム運用について</li> <li>2. 身体拘束・保護抑制同意書について</li> <li>3. 師長・主任選考について</li> <li>4. 開院20周年式典について</li> <li>5. 年休の計画的取得について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人でズボン複数枚ストックしている情報があると、枚数増やす交渉もできない。脱衣ランドリーバックに入れる時次の人のことを考えて入れるように</li> <li>2. 口頭指摘のあった内容について、早期に対応を始めるマニュアルおよび同意書について、修正を検討中現場では実施条件の有無を確認してから実施する</li> <li>3. 日程の確認 勤務調整依頼</li> <li>4. スライド上映する写真を現在集約中 協力依頼</li> <li>5. 年未年始に向けて、年休5日取得に至っていないスタッフには計画的に付与する</li> </ol>
11月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院機能評価結果</li> <li>2. 入院患者の栄養に関すること</li> <li>3. カーテンの定期的クリーニングについて</li> <li>4. 医療的ケア児の退院時情報共有</li> <li>5. コミュニケーションカードの活用</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. S: 3、A: 81、B: 4、C: なし B評価は身体拘束、倫理的課題、事務経理関連 倫理的課題について検討する場を設ける 身体拘束はマニュアル等の整備を進める</li> <li>2. 各部署における入院患者の食事提供に関する困りごとの現状を共有 栄養課と話し合いの機械を設ける</li> <li>3. 病室等のカーテンクリーニングを業者との契約で定期的実施できないか経営企画課へ交渉する→次年度予算にて実施となる</li> <li>4. 退院時の情報の保管場所を明確にして、誰でもすぐ共有できるように記録システム・在宅支援検討委員会で検討する</li> <li>5. 部署内研修、面接時などに活用する</li> </ol>
12月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健所立ち入り検査</li> <li>2. 年未年始体制</li> <li>3. 特別昇給について</li> <li>4. 看護助手の副部長面談</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日程および概要の確認</li> <li>2. リーフおよびスタッフ人数を減らすときは管理勤務者と調整の上行う 救急外来等の情報については共有フォルダのエクセルファイルに記入</li> <li>3. 看護部独自の基準を作成し、昇給対象者を選定することを周知</li> <li>4. 1月以降、計画的に面談を実施する</li> </ol>
1月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 師長選考委員の選出について</li> <li>2. 年未年始の受診・入院状況</li> <li>3. 胃ろう固定水の確認と交換の目安</li> <li>4. 緊急連絡網の発動基準</li> <li>5. 看護管理者研修予算</li> <li>6. 次年度黒川支部教育委員</li> <li>7. 産休・育休者への緊急連絡網</li> <li>8. 患者家族への研修医、実習生に関する周知</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日程および選考委員の周知</li> <li>2. 救急外来受診者数減少傾向だが、PICU、新生児、拓桃2階は患者数多かった 対応困難事例の共有</li> <li>3. 外科より方針提示 各マニュアルに追記する</li> <li>4. 国内で震度6以上を基準に追加する 災害支援ナース派遣もありうる（現在未定）</li> <li>5. 次年度からファースト3名、セカンド2名の予算を獲得した</li> <li>6. 手術室阿部主任承認</li> <li>7. 看護管理室にて行うこと確認</li> <li>8. 周知文書提示 意見および必要枚数をOAにて集約して総務へ提出する</li> </ol>
2月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昇任および勤務異動について</li> <li>2. 能登半島地震関連募金について</li> <li>3. 実習生の電子カルテ閲覧について</li> <li>4. 接遇チェック結果について</li> <li>5. 2024年新規採用者入職時研修</li> <li>6. 看護手順：PICC挿入介助修正</li> <li>7. 次年度看護部委員会構成</li> <li>8. リラックスルームの運用について</li> <li>9. 看護部標準文書類の管理</li> <li>10. 新人看護師PNSステップ研修</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 師長・主任選考結果および3月～4月の異動者確認</li> <li>2. スタッフ1名の実家が被災しているの看護部有志の支援を募りたい 看護協会からも募金の依頼あり</li> <li>3. 実習生が受け持ち患者以外のカルテに興味で開いたケースあり 学生への説明の強化を学校とも確認</li> <li>4. 接遇チェック結果を部署内でも共有し、接遇の向上を目指してほしい</li> <li>5. 研修日程・担当者の確認</li> <li>6. 修正案の提示 意見を業務検討委員会委員長まで</li> <li>7. 看護部委員会編成の変更について確認 メンバー選出依頼</li> <li>8. 入室基準案確認 希望病棟は4階病棟師長へ連絡</li> <li>9. マニュアル類の担当委員会・会議の確認 5年経過しているマニュアルは改訂をする</li> <li>10. 夜勤導入までのステップも考慮したプログラムの説明 意見集約して修正していく</li> </ol>
3月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護手順の改訂</li> <li>2. 在宅移行支援の手引き、退院カンファレンス資料ひな形の修正</li> <li>3. 病院委員会メンバー</li> <li>4. 大規模災害訓練振り返り</li> <li>5. 看護記録監査結果</li> <li>6. PNSステップアップ研修</li> <li>7. 委員会の会議時間について</li> <li>8. タクシー券の利用</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. OAにて提示された7つの手順について改訂承認</li> <li>2. OAにて提示された修正案の内容一部修正して承認</li> <li>3. 提示案に意見あり修正 決定内容はCWSに入力して、一覧を提示する</li> <li>4. 各部署における意見を集約 災害対策WGへ提出する 各部署のマニュアルの保管場所確認 今回の訓練状況からマニュアルの見直しをする</li> <li>5. 全体的に昨年度より記録がされているようになった 保護抑制解除時のコメント記録については昨年度より低下していた</li> <li>6. 内容の最終確認 周知方法確認</li> <li>7. 原則会議は30分以内で行う 報告事項については事前にOAで共有して会議に臨むなど工夫をする 改訂などの作業がある場合はこの限りではない</li> <li>8. 対象は一般交通機関・徒歩通勤しているケースが原則であること確認 準夜以外にも超過勤務で遅くなった時（最終に間に合わないなど）も利用可能</li> </ol>

(遠藤由紀子)

画した。学習内容は「キャリアデザイン～これまでのキャリアの振り返りと今後の展望～」、「こどもの権利を尊重した医療」「感染管理におけるリーダーシップ」、

「医療安全対策マネジメント～RCA分析の基礎～」、「医療接遇」、「先輩看護師の役割～経験からの学習。プロフェッショナルを目指して～」、「救急蘇生におけ

るリーダーシップ」とし、現場から離れ、研修に集中でき、次世代リーダーとしての意識を高め、リーダーシップを深める研修となった。

さらに今年度はレベルⅡ研修にも1日研修を取り入れ、看護を深く考える研修として2日間企画した。学習内容は「リーダーシップ研修Ⅰ」、「先輩看護師の役割Ⅰ～指導を通して看護を伝えよう」、「先輩看護師の役割Ⅱ～自分の看護をリフレクションしよう」、「看護師に求められる倫理」、「キャリアデザインⅡ～ナラティブから看護をみつめよう」、「成人移行期支援」、「重症心身障害児の看護」、「病院の災害対策対応の基本」、「こどもを亡くした家族への支援Ⅱ～大切なお別れにするために」とした。先輩看護師としての成長を支援する内容と看護師としてのキャリアを振り返る企画とした。

管理者研修では、「アンガーマネジメント・コミュニケーションアップ研修」を企画し、一日をかけてグループワークを行った。実際に怒り診断を行うことで自己の特徴に合わせた適切な怒りのコントロールを理解でき、円滑なコミュニケーションスキルを学ぶことができた。

看護管理実践計画については、「あるべき姿を実現する看護管理実践計画」を発表し、成果目標に関して継続的な取り組みを行った。また年度末に実践計画発表会を開催し、他部署の取り組みおよび成果について情報を共有することができた。実践内容を成果指標や目標値を数値化することで、管理者としてのリーダーシップが発揮されている。看護管理実践計画の一連の取り組みがほぼ定着したため、今後は成果目標の「構造」「過程」「結果」をしっかりと意識して計画できるよう強化していき、看護部の強化および病院組織の発展につなげたい。

看護部主催の地域医療連携講座は、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督 須江 航先生に講師としてお迎えし、「伝わる言葉」の講演会を開催した。現代の若者の傾向を知るとともに上手な接し方や育成の仕方、声のかけ方など、指導する側として改めて勉強になる内容であった。「価値観の違いを面白いと思える感性」「失敗から何をどう学ぶか」「人生を1度だけ変えていく」など、須江先生の名言はどれも頷けることばかりで、有意義な時間であった。

2. 自己の将来のビジョンをもち、それに向かって自己研鑽するスタッフを育成する。

今年度のキャリア開発システムレベル認定は、レベルⅠ(23名)、レベルⅡ(11名)、レベルⅢ(6名)、

レベルⅢ更新(7名)、レベルⅣ(1名)、計48名であった。2024年3月時点におけるレベルⅢ以上取得者は、看護師・助産師数361人中114人となり、看護部全体の40.7%となり、目標値37%を上回ることができた。このことから、入職してから着実にステップアップし、ジェネラリストの育成につながっていることがわかる。キャリア開発システムに沿った教育活動の成果が見られている。

レベルⅢ更新の評価会では、これまでの自己の看護職キャリアについて振り返り、看護実践の中で大切にしてきたこと、またレベル取得後の自己研鑽や施設への貢献について、これから目指すキャリアへの思い、その姿に近づくための計画について、10分程度にまとめプレゼンテーションをするものである。レベル更新の認定においては、「取得レベル相当の質のよい看護が実践されているか」、「自分に求められる役割を理解し、遂行しているか」、「自己責任においてキャリアアップに取り組み、レベル維持に相応しい課題を選択し、取り組んでいるか」について確認を行った。発表者と審査委員がキャリアについて語り合う時間も得られ有意義なものとなった。スタッフからは「自分の看護職としてのキャリアを振り返ることができる」とともに、これから自分が何に向かっていくのか具体的に考えることができた、「はじめて自分を認めることができ、頑張ってきたことを誇りに思う」などの良い反応を得ることができた。

院内認定制度では、安全看護技術認定、感染管理認定、皮膚排泄ケア認定の3つの専門領域の育成プログラムが整備され運用を開始した。今年度は、安全看護技術認定のインストラクター認定が行われ、採血と検体の取り扱いインストラクター12名、膀胱留置カテーテル挿入と管理インストラクター12名、胃チューブの挿入と管理インストラクター9名となっている。インストラクターを3つ取得にて、安全看護の院内認定看護師となる。今年度は2名誕生した。

感染管理分野の院内認定看護師は2名が新たに認定され10名となっている。皮膚排泄ケア認定看護師認定課程の研修が始まっているため、来年度は院内認定に関する整備を行う予定である。

3. キャリア開発システム専門ステップコースを構築する。

現在のキャリア開発システムは2016年に改訂し運営してきた。システムレベルⅢ取得後スタッフの希望する専門ステップに自己の能力開発を進めることができるようになってきている。

このステップでは、「卓越した看護実践を行い組織横断的な活動」を実践し、その後「地域への貢献、組織的アプローチ」ができるような人材育成を目指している。また、より専門性を発揮できるよう「ジェネラリスト」「現任教育」「高度看護実践」「管理」の4つの領域から目指すキャリアを選択できるような構築した。キャリア開発システムの専門ステップ4領域について、各階層の整合性を確認し、認定課題について決定した。来年度から4領域のレベル認定ができるように整備することができた。特徴として基礎ステップより質の高い看護実践能力を展開に必要な問題指向型コミュニケーションを強化する目的で、「社会人基礎力」

「医療接遇」を表記した概念図とし、教育計画にも反映している。専門ステップ4領域に求められるコア・コンピテンシーについても検討し、内容を明確化することができた。来年度から運用開始できるまで整えることができた。

今年度も他施設にて経験を積んできた職員のキャリアを尊重できるように在籍ラダーをエントリーする仕組みを活用し、個々の看護実践能力に応じた現任教育が受けられるよう務めることができ、経験者の採用後のモチベーションにつながっている。

(横内 由樹)

## 2. 看護部内教育研修

### 1) 看護部教育計画実施報告

対象	研修会名	目的（ねらい、強化したい部分）	研修時期	参加人数	講師・支援者
新採用職員	新採用オリエンテーション	病院の理念・概要を理解して組織人としての心構えを養う	4月1日～4日	32名	呉院長、各部署担当者
看護部 入職時研修	看護部理念・目標・組織について	組織における看護部の果たすべき役割と、看護部の育成したい看護師像を知る。	4月5日	30名	本地真美子看護部長
	先輩の体験談	先輩の体験談を聞くことで、職場の雰囲気を知り環境適応への一助とする。	4月5日	30名	先輩看護師10名
	小児看護総論	入院していることもと家族の特徴と、実践されている看護・看護の役割について理解する。	4月6日	31名	小児看護専門看護師 橋 ゆり主任
	母性看護総論	当院の周産期医療および実践されている看護について理解する。	4月6日	31名	日戸 千恵師長
	NICUのこどもと家族の看護	小さく産まれてきたこどものケア、家族の思いに寄り添う看護を学ぶ。	4月6日	31名	支倉 幸恵師長
	ME 機器の取り扱いと看護（演習）	当院で使用している医療機器の安全な使用方法と留意点について学ぶ。	4月6日	31名	佐藤 知子師長 臨床工学部 布施 雅彦 業務検討委員
	こどもの事故と安全対策（演習）	こどもに多い事故とその防止について理解する。	4月6日	31名	佐藤 知子師長 安全対策検討委員
	療育を受けるこどもの看護	家族と離れ入院生活を送るこどもたちを理解し、看護の役割について学ぶ。	4月7日	31名	堀川 美恵師長
	医療接遇	医療現場における接遇を考える。	4月7日	31名	佐藤 知子師長 高橋久美子師長
	看護専門職としての職業倫理	職業人・組織人としての自覚を持ち、倫理に基づいた行動について学ぶ。	4月7日	31名	遠藤由紀子副看護部長
	医療ガス設備と酸素ボンベの取り扱い	医療ガスの種類・特徴、取り扱い時の留意点と起こりうるリスクについて学ぶ。	4月7日	31名	エア・ウォーター職員 秋山氏 エア・ウォーター職員 木村氏
	PNSについて	当院で導入されている PNS の概要や体制、新人としての役割について学ぶ。	4月7日	31名	小川 久枝主任
	こどものバイタルサイン測定・体温管理・計測	こどものバイタルサインの特徴と観察方法、体温管理の仕方、身体計測について学ぶ。	4月7日	22名	津田 礼子主任
	新人看護師として求められる社会人基礎力 I	当院が求める社会人基礎力について学ぶ。	4月7日	22名	高橋久美子師長
	点滴刺入部の固定、シーネ固定・交換（演習）	こどもの安全安楽に配慮した点滴刺入部の管理と、シーネを使った固定方法を学ぶ。	4月10日	31名	皮膚排泄ケア認定看護師 齋藤 弘美 皮膚排泄ケア認定看護師 村山 佳奈 褥瘡対策委員会リンク ナース
	輸液ライン・輸液ポンプの取り扱い（演習）	輸液ライン・ポンプの取り扱いおよび点滴管理に必要な知識と技術を理解する。	4月10日	31名	千葉 弥生主任 テルモ職員 山田氏 安全対策検討委員
	注射の技術①（演習）	注射器の取り扱いおよび注射薬作成方法・側管からの静脈内注射について学ぶ。	4月10日	23名	高橋 和美主任 教育小委員
	注射の技術②（演習）	点滴をしている患者の観察や安全対策、輸液管理などの一連の看護を学ぶ。	4月10日	23名	菅原 淳志 教育小委員
	酸素吸入（演習）	患者の特徴に合わせた酸素吸入方法を学ぶ。	4月11日	23名	橋浦佐智子主任
	吸引（演習）	患者の特徴に合わせた吸引方法を学ぶ。	4月11日	23名	村山 万実 クリニカルコーチ
	経管栄養（演習）	患者の特徴に合わせた経管栄養技術を学ぶ。	4月11日	23名	木山 尚子 クリニカルコーチ
	統合演習（演習）	経管栄養を受ける患者の準備や投与、観察などについて学ぶ。	4月11日	23名	木山 尚子 高橋百合香 クリニカルコーチ
	シャドウイング研修（演習）	先輩看護師の動きや患者への対応など、臨床推論を学び、看護ケアについて考えることができる。	4月12日～14日	23名	各部署教育小委員
	電子カルテ等操作研修（演習）	電子カルテシステムや院内 OA・看護勤務システムの操作方法を学ぶ。	①②③4月12日 ④⑤4月13日	①6名 ②6名 ③6名 ④7名 ⑤7名	吉本師長 看護記録システム委員
	シャドウイング研修のまとめと、これからの学習について	シャドウイング研修での学びを共有する。	4月17日	23名	津田 礼子主任
	メンタルヘルス	リアリティーショックなど新人のメンタルヘルスについて知る。	4月17日	23名	高橋久美子師長

看護部 入職時研修	キャリア開発システムについて	キャリアデザインやキャリアファイルの使い方を理解する。	4月17日	23名	高橋久美子師長	
	新人集合研修のまとめ/これからの1年について	新人教育体制・目標管理などを理解して自分の1年をイメージできる。	4月17日	23名	津田 礼子主任	
看護部入職時 研修 (既卒者フォー アップ研 修)	これまでのキャリアを振り返ろう	当院のキャリア開発システムや目標管理について理解するとともに、自分のこれからのキャリアについて考える。	4月17日	8名	高橋久美子師長	
	自己紹介/部署の先輩との情報交換	部署の風土・文化などの情報、これからの見通しなどについての情報を得る。	4月17日	8名	津田 礼子主任 先輩看護師7名	
看護部 新規採用職員 (新卒)	これから部署で働いていくために	既卒者の職場適応の特徴やメンタルヘルスについて知る。	4月17日	8名	高橋久美子師長	
	3週間の振り返り(演習)	部署での経験で印象に残った経験を共有することで、充足感や精神的なリフレッシュにつなげる。	4月28日	23名	津田 礼子主任	
看護部 新規採用職員 (新卒)	予祝～一年後のありたい自分を想像しよう～(演習)	1年後の目標を実現した自分をイメージして、1年後の自分に手紙を書くことで、そこに至るプロセスを活性化する。	4月28日	23名	津田 礼子主任	
	1ヶ月の振り返り	新人看護職員同士で、現場での悩みや課題を共有し、情報交換を通してリフレッシュする。	5月18日	23名	津田 礼子主任	
	新人看護師として求められる社会人基礎力Ⅱ(演習)	1ヶ月の実践経験から臨床現場で求められる社会人基礎力について考える。	5月18日	23名	高橋久美子師長	
	看護支援システム・看護記録・個人情報の取り扱いについて	看護記録の種類と書き方および留意点について理解する。	5月18日	23名	野田 愛理師長 吉本 裕子師長	
看護部 新規採用職員 (既卒者のみ)	状況設定シミュレーション(演習)	複数患者に対するケア計画の立案を通して、優先順位の付け方やケア実施に際しての注意事項・ペアでの連携について学ぶ。	5月18日	23名	津田 礼子主任	
	病院クイズ(演習)	与えられた問題をクリアしていくことで、チームワークやコミュニケーションを発揮する。	5月18日	23名	津田 礼子主任 沼倉智行主任	
看護部 新規採用職員 (既卒者のみ)	入職2ヶ月の振り返り	入職3ヶ月目の自分の状況を認識する。	6月5日	8名	高橋久美子師長	
	経験から学び、上手にアンラーニングしよう	3ヶ月間の経験とそこから得た新たな価値観や考え方を振り返る。	6月5日	8名	高橋久美子師長	
レベル0 (新人)	病院クイズ(演習)	与えられた問題をクリアしていくことで、院内のことを知る。	6月5日	8名	津田 礼子主任	
	感染対策	感染対策に必要な基礎知識を学び、適切な予防策を実践できる。	6月15日	24名	佐藤 弘子主任 感染対策検討委員	
	救急蘇生(基礎編)	一次救命処置の基本知識を学ぶ。	7月3日	24名	大村 佳祐主任 クリニカルコーチ	
	救急蘇生(実技編)	胸骨圧迫と補助換気の手技を経験し、急変時に必要な技術を習得する。	①②7月5日	①12名 ②13名	大村 佳祐主任 クリニカルコーチ	
	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント能力向上を目指し、視聴覚教材やシミュレーターを活用しより臨場感ある設定の中で「患者に何が起きているのか」を深く考える。	①8月17日 ②8月23日	①12名 ②12名	阿部 慶佑主任 皮膚排泄ケア認定看護師 齋藤 弘美	
	急変への対応と挿管の準備と介助	急変時の対応と気管内挿管についての基礎知識・介助方法を学ぶ。	9月12日	23名	佐藤絵里沙主任	
	6ヶ月振り返り	入職して半年の振り返り 成長したことや悩んでいることを共有する。	10月19日	23名	教育小委員	
	看護師として求められる社会人基礎力Ⅲ	1年目の看護師として求められる社会人基礎力について学ぶ。	11月16日	23名	高橋久美子師長	
	輸血の取り扱いと看護	輸血用血液製剤の特徴・取り扱い方法、輸血投与中の看護について学ぶ。	12月21日	22名	高橋みちる	
	安全対策(KYT)	KYTについて学び、医療安全の意識を高める。	1月18日	31名	佐藤 知子師長 日戸 千恵師長	
	メンバーシップ	チームにおけるメンバーの役割を理解し、組織の一員として責任ある職務を果たす力を養う。	2月15日	22名	教育小委員	
	看護技術集中研修	採血・挿管・輸血・膀胱留置カテーテル挿入の看護技術を理論から学び、経験する。	①1月30日 ②2月16日	①11名 ②12名	キャリア支援室	
	1年のまとめ	1年を振り返り、自分の看護体験を語り合うことによって、自分の成長および次年度への課題を見つける。	3月21日	21名	キャリア支援室	
	レベル0 (2年目)	キャリアデザインⅠ～どんな先輩を目指しますか①～	2年目看護師として求められる役割や、自分の目指す看護師像について考える。	5月22日	24名	教育小委員
		家族看護	病気を持つ子どもの家族について考える。	8月29日	24名	小児看護専門看護師 橘 ゆり主任
薬剤・放射線について		小児における薬剤管理・放射線対応の特徴と安全対策を学ぶ。	9月4日	24名	薬剤部 中井 啓部長 放射線部 佐々木正臣主任	
地域連携と社会資源		医療機関と地域の連携を理解し、社会資源を活用した看護のあり方を学ぶ。	11月17日	24名	鈴木ひろ子師長	
キャリアデザインⅠ～どんな先輩を目指しますか②～		目指す看護師像に向けての自分の取り組みや成果を共有する。	12月19日	24名	教育小委員	
褥瘡予防ケア		褥瘡の予防・対処方法についての最新知識を学ぶ。	1月12日	25名	皮膚排泄ケア認定看護師 齋藤 弘美 皮膚排泄ケア認定看護師 村山 佳奈	
レベルⅠ 以上	子どもを亡くした家族への支援～エンゼルケア～	緩和ケアの観点から、子どもを亡くした家族への看護を考える。	2月9日	25名	齋藤 綾佳主任	
	先輩看護師の役割Ⅰ～指導を通して看護を伝えよう～	指導を通して看護を伝える、後輩の成長につながるアドバイスとは何かを学ぶ。	7月14日	17名	横内 由樹副看護部長	
	先輩看護師の役割Ⅱ～自分の看護をリフレクションしよう～	自己の看護をリフレクションし、自分の看護を言語化・意味づけする機会とする。	7月14日	18名	高橋久美子師長	
	リーダーシップ研修Ⅰ	リーダーシップに必要な能力とリーダーに求められる役割について学ぶ。	7月14日	14名	教育小委員会	
	看護師に求められる倫理	看護職の倫理綱領について学び、求められる姿勢や対応について考える。	7月14日	14名	新生児集中ケア認定看護師 星 恵美子主任	
	キャリアデザインⅡ～ナラティブから看護を見つめよう～	患者・家族・医療者のナラティブについて考える。	10月17日	13名	高橋久美子師長	
	成人移行期支援Ⅰ～成人移行期支援の理解と当院における支援活動について～	成人移行期支援の基礎的知識と、当院での支援の動きについて学ぶ。	10月17日	18名	横内 由樹副看護部長 鈴木由美子主任	
	重症心身障害児(者)の看護	重症心身障害児(者)についての基礎的知識と看護について学ぶ。	10月17日	18名	松永 美咲	
	宮城県立子ども病院災害対応の基本	当院の災害対応の基本について学ぶ。	10月17日	18名	遠藤由紀子副看護部長	
	子どもを亡くした家族への支援Ⅱ～大切なお別れにするために～	子どもを亡くしたご家族への支援方法、グリーフケアを学ぶ。	10月17日	18名	大村 佳祐主任	
レベルⅡ 以上	PDCAを活用した業務改善	PDCAの基礎知識、意義、サイクルの回し方について学ぶ。	5月19日	12名	日戸 千恵師長	
	キャリアデザインⅢ～これからのキャリア展望～	これまでのキャリアとそこで培われた看護観について考えることができる。	5月30日	14名	高橋久美子師長	
	感染対策におけるリーダーシップ	感染対策におけるリーダーシップについて、自分の立場に応じた役割を理解することができる。	5月30日	14名	森谷恵子副看護部長	
	医療安全対策マネジメント～RCA分析の基礎～	RCA分析の目的と考え方、具体的な方法について理解し、演習を通してRCA分析のための思考過程を体感する。	5月30日	15名	佐藤知子師長 日戸千恵師長	
	子どもの権利を尊重した医療Ⅱ	子どもの権利を尊重した看護実践の現状と課題について振り返る。	6月29日	16名	チャイルドドライフスペシャリスト 大塚希有	

レベルⅡ 以上	医療接遇Ⅱ	医療接遇の基本的な考えを学ぶとともに、事例を元に医療接遇について考える。	6月29日	16名	佐藤 知子師長 高橋久美子師長
	先輩看護師の役割Ⅲ～後輩のリフレクションを支援しよう～	経験学習について学び、経験から学ぶために必要な力を知る。	6月29日	16名	高橋久美子師長
	救急蘇生におけるリーダーシップ	救急蘇生時に必要なリーダーシップと実際の動きについて学ぶ。	6月29日	16名	大村 佳祐主任
	日々の看護から研究テーマを探そう	日々の看護の疑問から研究疑問を考えるヒントや、テーマを絞り込んでいく方法を学ぶ。	①9月15日 ②9月27日	①8名 ②9名	小児看護専門看護師 入江 千恵主任
	質的研究の基礎	質的研究の調査実施過程と分析についての理解を深める。	①9月15日 ②9月27日	①7名 ②8名	小児看護専門看護師 鈴木 千鶴 小児看護専門看護師 橋 ゆり主任 小児看護専門看護師 入江 千恵主任
業務改善実践報告会	PDCAを活用した業務改善の、1年のまとめと成果の報告。	2月27日	15名	日戸 千恵師長 教育委員	
キャリア支援・役割研修	フレッシュパートナー研修Ⅰ	現代の新人看護師の特徴を理解し、フレッシュパートナーの役割について学ぶ。	①4月20日 ②4月24日	①8名 ②12名	高橋久美子師長 キャリア支援室
	院内・院外異動者パートナー研修	新人看護師の職場適応とは異なる中途採用者（異動者）の適応課題や職場適応の特徴を踏まえた支援を考える。	5月15日	10名	キャリア支援室
	経験者のつとⅠ（院内異動者）	思いを共有することで不安を軽減し、職場適応と自己実現に向けた支援を行う。	5月29日	4名	キャリア支援室
	フレッシュパートナー研修Ⅱ	経験学習について理解し、リフレクションの具体的方法を体験し、新人看護師支援につなげる。	①6月9日 ②6月20日	①8名 ②9名	キャリア支援室
	復職者のつとⅠ	復職後の不安や戸惑いを軽減し、同じ立場の職員との仲間作りやピアサポートを通して、職場適応を支援する。	①7月11日 ②7月18日 ③7月24日	①4名 ②5名 ③3名	キャリア支援室
	経験者のつとⅡ（院内異動者）	思いを共有することで不安を軽減し、職場適応と自己実現に向けた支援を行う。	9月19日	6名	キャリア支援室
	フレッシュパートナー研修Ⅲ	フレッシュパートナー支援の取り組みについての情報を共有する。	①10月5日 ②11月6日	①12名 ②7名	キャリア支援室
	経験者のつとⅡ（既卒採用者）	思いを共有することで不安を軽減し、職場適応と自己実現に向けた支援を行う。	10月30日	7名	キャリア支援室
	復職者のつとⅡ	復職後の不安や戸惑いを軽減し、同じ立場の職員との仲間作りやピアサポートを通して、職場適応を支援する。	①11月14日 ②12月7日	①6名 ②7名	キャリア支援室
看護職員 全体研修	看護研究の基礎②～分析・発表～	看護研究の分析・発表についての基礎的知識を学ぶ	5月24日	26名	東北福祉大学 富澤 弥生教授
	看護部長方針	2023年度の看護部の方針を発表。	6月2日	86名	本地真美子看護部長
	看護研究の基礎①～看護研究計画書～	看護研究についての基礎的知識をはじめ、研究計画書の作成方法などを学ぶ。	①ZOOMウェビナー ②オンデマンド	①28名 ②3名	東北福祉大学 富澤 弥生教授
	PNSマインド研修	PNSを導入することで得られる質の高い看護の共有と、それを伝承していくことを再確認する。	12月18日～ 学研eラーニングと みやちるオンデマンド	315名	PNS推進委員会
	看護管理実践報告会	2023年度の、各部署の目標への取り組み・評価を発表する。	①3月15日 ②みやちるオンデマンド	①41名 ②7名	看護管理室
安全看護技術 研修	膀胱留置カテーテルの挿入と管理	膀胱留置カテーテルの挿入と管理の基本的知識とポイントを学ぶ		16名	泌尿器科 相野谷医師 学研eラーニング
	胃チューブの挿入と管理	胃チューブの挿入と管理方法の基本的知識と安全に行うためのポイントを学ぶ		4名	木山 高子 学研eラーニング
	採血の方法と試験管の種類と取り扱い	採血の基本的知識と安全に実施するためのポイント、検体の種類と取り扱い方法について学ぶ		2名	学研eラーニング 検査部 小原技師長
管理者研修	看護管理実践計画発表	2023年度の部署目標と実践計画を発表する。	5月25日	18名	看護管理室
	看護管理基礎Ⅱ（師長承認者・師長候補者）	部署の看護管理を実践するために必要な知識を得る。	6月12日	7名	横内 由樹副看護部長
	新師長・新主任のつとⅠ	いきいきとすなやかに働く師長・主任として成長するために必要な能力を理解する	10月10日	3名	横内 由樹副看護部長
	アンガーマネジメント・コミュニケーションアップ	自己の怒りやコミュニケーションの特徴を理解し、看護管理者として自分の負の感情とよりよく付き合う方法を理解する。	①10月14日 ②10月28日 ③12月5日	①19名 ②33名 ③3名	Hearty りい～す仙台代表 若山 博美先生
	看護管理基礎Ⅰ（主任承認者・主任候補者）	看護管理者の基礎的な役割を理解する。	1月15日	9名	横内 由樹副看護部長
助手研修	病院の機能・組織の理解とチームの一人としての助手の役割	チームの一人としての看護助手の役割、守秘義務、個人情報保護についてを知る。	6月13日	17名 (2名補講実施)	本地真美子看護部長
	感染・安全対策	看護助手として必要な感染対策・安全対策について学ぶ。	10月23日	19名	森谷 恵子副看護部長 佐藤 知子師長
	看護助手のキャリアおよび働き方改革	看護助手としてキャリア開発につながる働き方を考える	2月	19名	横内 由樹副看護部長

### 3. 看護研究発表一覧

#### 1) 院内看護研究発表

日時：令和6年2月13日（火） 17:15～18:30

場所：宮城県立こども病院 ZOOMによるオンデマンド開催

指導：東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授 富澤弥生

	部署	タイトル	研究者（○印発表者）
1	PICU	PICUでの保育介入における保育士の思い	柏崎 心、大内 未来、 鎌田英里奈、加藤 優子
2	本館2階	コロナ禍における血液疾患で長期入院を経験した思春期患者の思い	田桑 礼子、鈴木 睦子、 吉本 裕子、高橋久美子、 橋 ゆり

3	拓桃館 3 階	医療型障害児入所施設における思春期の患者を支援する看護師の思い	木村 愛美、長岡 幸恵、 樋口 貴史、堀川 美恵
4	産科病棟	胎児疾患を理由に中期中絶を選択した患者に関わる看護職員の思いとケア	門間 悠里、河村 蓉子、 齋藤 領子、日戸 千恵
5	手術室	動画を用いた術前オリエンテーションを受けた親子の反応	久水 まき、庄子 和恵、 野田 愛理

## 2) 院外研究発表

	学会・研修会名称	タイトル	発表者
1	第 25 回日本母性看護学会学術集会	飛び込み分娩した母親の入院中の支援を経験した助産師の看護ケア	石森 洋美
2	第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会	小児集中治療室における医療関連機器圧迫創傷の発生状況	齋藤 弘美
3	第 57 回東北・北海道肢体不自由児施設療育担当職員研修会	親子入所の子の睡眠状況に対する親の思い	吉田 梢
4	第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会	小児炎症性腸疾患患者の成人移行期支援内容の評価と課題	山田麻衣子

## 4. 院外研修・学会参加状況

学会・研修会・セミナー名	人数
AOBA ナース上級 1	1
AOBA ナース上級 2	1
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	2
重症度、医療・看護必要度評価者及び院内指導者研修	2
医療安全管理者養成研修	1
看護診断セミナー初級	10
看護診断セミナー中級	7
第 56 回東北北海道肢体不自由児施設研修会	7
児童発達支援管理責任者更新研修	1
児童発達支援管理責任者実践研修	1
2023 年度小児在宅移行支援者育成研修	2
看護補助体制指導者養成研修	2
実習指導者講習会	2
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	1
令和 5 年度 宮城県災害医療従事者研修	7
公務研修主査級研修	5
第 38 回日本環境感染学会	3
メディカルピアサポーター養成研修会	1
第 45 回日本呼吸療法医学会学術集会	2
第 34 回日本重症心身障害療育学会	3
第 25 回日本褥瘡学会学術集会	7
宮城大学主催看護研究指導者研修	2
第 25 回医療マネジメント学会	1
医療メディエーター養成講座	3
医療メディエーター研修基礎編	1
発達障害が疑われるスタッフ・学生への支援	3
第 27 回日本看護管理学会	2
第 22 回日本母子看護学会学術集会	1
発達障害かもしれない人への具体的対応	1
第 79 回日本助産師学会	1
第 71 回日本輸血・細胞治療学会学術集会	1
第 59 回日本小児循環器学会学術集会	5
第 33 回日本小児看護学会学術集会	2
mhank 研修こうすればうまくいく交渉術の極意	1
認定看護師を対象としたキャリアアップ研修	1
小児救急看護認定看護師フォローアップ研修	1
第 30 回小児集中治療ワークショップ	2
第 13 回日本在宅看護学会学術集会	1
新人のためのフィジカルアセスメント	3
第 32 回 日本小児リウマチ学会学術集会	1

学会・研修会・セミナー名	人数
第 25 回日本母性看護学会	1
MC 看護管理 マネジメントコンパスとは	1
管理業務や人材育成に役立つ動画	1
乳腺炎重症化予防ケア研修	1
臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント	1
第 10 回日本 CNS 看護学会	1
第 37 回日本小児ストーマ・排泄。創傷管理研究会	2
第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会	2
第 64 回日本母性衛生学会	3
医療対話推進者フォローアップ研修	2
摂食嚥下指導（基礎・実習）講習会	2
ペアレントトレーニング養成講習会	1
医療機関に終え Kr 宇在宅への移行を支援する退院支援	1
第 39 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会	3
第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会	2
宮城テレナース育成プログラム	1
第 21 回日本小児がん看護学会学術集会	1
看護診断セミナー上級	3
第 68 回全国肢体不自由児療育研究大会	2
児童発達支援管理責任者基礎研修	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	1
宮城大学 新人看護職員研修新任教育担当者研修	3
第 11 回 PNS 研究会	7
第 32 回日本新生児看護学会学術集会	6
日本病院機能評価機構 医療対話推進者養成セミナー	1
令和 6 年度診療報酬改訂解説と対策	3
第 37 回日本助産学会学術集会	1
第 37 回日本手術看護学会年次大会	3
SSK セミナー 修羅場のコミュニケーションスキル	1
第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会	6
第 60 回日本小児アレルギー学会学術集会	2
日本自閉症スペクトラム学会資格認定講座	1
第 4 回 TTT 手衛衛生におけるトレーナーの育成	1
第 46 回 免疫細胞療法学会学術集会	1
第 51 回日本集中治療医学会学術集会	3
第 9 回日本 NP 学会学術集会	1
第 30 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム	2
第 13 回日本医療コンフリクト・マネジメント学術集会	2
第 65 回重症障害児医療 看護師講習会	1
第 83 回重度・重症児医療・療育（基礎）講習会	1

180

【宮城県看護協会主催研修参加一覧】

No.	日程	研修内容	受講人数
1	4月13日	コロナ5類に移行後の各施設の対応について	1
2	5月26日	2023（令和5）年度 認定看護管理者教育課程ファーストレベルファシリテーター養成研修	1
3	5月19日～5月20日	新人看護職員教育担当者研修（2日間）	1
4	5月29日・5月30日	【新人看護職対象】メンタルヘルスマネジメント（1日研修）	2
5	6月1日・6月2日	新人看護職員実地指導者研修（1日研修）	3
6	6月5日	新人看護職対象】メンタルヘルスマネジメント	1
7	6月6日～6月7日	臨地実習指導に必要な基礎的知識（2日間）	2
8	6月10日	定看護師及び看護職を対象とした研修会 特定行為研修を修了した認定看護師の活動紹介	1
9	6月20日	平時から考える災害看護	1
10	6月27日・6月28日・7月10日	新人として現場で実践できるためのコミュニケーションの基本（1日研修）	9
11	6月30日	医療安全管理者研修と交流会	1
12	7月4日	助産実践の基本 Part1 新人助産師のための助産倫理と妊娠各期管理	5
13	7月12日～10月6日	医療機関における在宅への移行を支援する退院支援看護職育成研修（実質7日間）	2
14	8月3日	助産実践の基本 Part2 新人助産師のための新生児看護・授乳支援	5
	8月30日	医療的ケア児とその家族を支える	4
	8月24日～25日	医療メデイエーション基礎編2日間	2
	9月4日	助産実践の基本 Part3 新人助産師のための産科救急と安全管理	3
	10月3日	助産実践の基本 Part4 新人助産師のための分娩管理及び産褥管理	3
	9月2日	看護研究パート3 ―質的研究の進め方―	1
	11月1日	生き生きと働き続けるために1	3
	11月27日	卒後2年目看護職員研修（フォローアップ研修）1	2
	11月27日	卒後2年目看護職員研修（フォローアップ研修）1	5
	12月9日・1月20日	災害支援ナース養成研修② 実質2日	2
	12月16日	医療機関等の看護管理機能向上支援研修2「看護管理者と看護系教育機関関係者との意見交換会」	3
	1月27日	大人の発達障害かもしれない人への理解とかかわり方	2
	1月17日～2月19日	【録画配信】新人のためのフィジカルアセスメント（呼吸・循環）および臨床推論	6
	1月13日	助産実践能力強化支援研修 I「周産期における災害時の対応」	1
	1月27日	認定看護管理者教育課程サードレベルフォローアップ研修	2
	2月3日	助産実践能力強化支援研修 II「宮城県における未受診妊産婦の現状と制度の理解」	1
	2月6日	医療機関等の看護管理機能向上支援研修1 看護管理者のための災害看護マネジメント	1
	2月17日	令和5年度産科看護管理者交流会「アドバンス助産師に求められる役割」	1
	2月10日	令和5年度宮城県助産師出向事業研修及び報告会	2
	2月17日	2024年宮城県CNA総会・2023年度CNA実践報告会	2
	2月17日	令和5年度産科看護管理者交流会「アドバンス助産師に求められる役割」	1
	2月17日	能登半島地震災害支援ナース報告会（集合・Zoom併用）	3
	3月5日	地域連携におけるACP[sanitize]ACPに基づく意思決定支援の理解と実践[sanitize]	1
	3月9日	令和5年度宮城県看護協会合同職能集会	1
	3月9日	これからの倫理と看護	1
		受講者数合計	88

## 5. 看護部関連実習受け入れ状況

分野	名 称	グループ数	1グループ学生数	学生総数	実習日数 (1グループ)	担当部署
総合実習	宮城大学看護学部 (小児看護)	4	2~3人	10人	9日	本館2階・3階・4階 拓桃館3階
	宮城大学看護学部 (母性看護)	2	5人	10人	2日	産科・新生児病棟
小児看護学実習	宮城大学看護学部	21	2~3人	62人	5日	本館2階・3階・4階 拓桃館2階・3階
	東北福祉大学	21	2人	63人	3.5日	本館2階・3階・4階 拓桃館2階・3階
	東北文化学園大学	18	2~3人	52人	5日	本館2階・4階 拓桃館2階・3階
	仙台青葉学院短期大学	6	2~3人	15人	3.5日	本館2階・3階
	宮城県高等看護学校	4	2人	8人	4日	拓桃館2階・3階
	癸会仙台看護専門学校	12	3人	36人	3日	本館3階・4階 拓桃館2階・3階
	仙台赤門短期大学	12	2~3人	35人	4日	本館3階・4階 拓桃館2階・3階
母性看護学実習	仙台赤門短期大学	2	4~5人	9人	4日	産科
助産学実習	東北福祉大学 (新生児看護)	1	3人	3人	3日	新生児
	東北福祉大学 (周産期)	1	3人	3人	4日	産科
養護教諭 臨床看護実習	東北福祉大学 (養護教諭)	2	4人	8人	半日	外来
	宮城学院女子大学食品栄養学科(養護教諭)	8	4人	32人	半日	外来
合計				326人		

## 6. 看護部関連研修受け入れ状況

名 称	人数	日数
医療的ケア児看護師養成研修 (宮城県看護協会主催)	2	2

## 7. 協力事業

### 1) 見学会など

名 称	人数	日数
JICA2023 年度青年研修 母子保健実施管理コース 視察	8	1

### 2) 会議・研修会等派遣関連

日程	会議名	人数	地域
4月1日~3月31日	宮城県看護協会 教育委員会	1	仙台
5月25日	宮城 ICN ネットワーク世話人会	1	WEB
6月3日	JACHRI 協議会 感染管理ネットワーク会議	1	WEB
6月19日~6月30日	宮城県看護協会 理事役員	1	仙台
7月8日・7月9日	第32回日本創傷オストミー・失禁管理学会学術集会	1	仙台
7月21日	医療型短期入所事業所担当者会議	2	WEB
6月29日・7月28日	ファーストレベル統合演習支援者	1	仙台
7月28日	医療的ケア推進事業実践者研修演習支援	3	拓桃支援学校
8月19日	あすなろ会サマーキャンプ	2	こども病院
9月3日	第2種ME 技術実力検定試験監督補助	1	仙台
9月23日	日本小児循環器集中治療研究会	5	仙台
9月30日	JACHRI 協議会 皮膚排泄ケアネットワーク会議	1	大阪
9月13日・11月7日	セカンドレベル演習支援者	1	仙台
9月2日・11月11日	訪問看護ステーション・医療機関看護師の相互研修支援者	1	仙台

日程	会議名	人数	地域
11月18日	日本感染管理ネットワーク東北支部研修会	1	岩手
12月1日	JACHRI 協議会 入退院調整。地域連携ネットワーク会議	1	WEB
12月2日	東北 NP（診療看護師）研究会運営会議	1	仙台
9月7日・1月18日	JACHRI 協議会 NICU・GCU ネットワーク会議	1	WEB
10月30日	JACHRI 協議会 感染管理ネットワーク会議	1	WEB
1月12日・1月26日	医療型短期入所事業所担当者会議	2	WEB
1月26日	宮城県高等看護学校指導者会議	2	名取
11月2日・2月16日	宮城 ICN ネットワーク会議	2	仙台
2月24日～2月27日	能登半島地震に伴う JMAT 派遣協力	1	能登
2月29日	難病連携窓口担当者連絡会	1	WEB
3月9日	血友病シンポジウム情報交換会	1	仙台
4月1日～3月31日	宮城県看護協会黒川支部役員会	1	WEB
4月1日・3月31日	宮城県こども夜間安心コール（一人月1～2回程度）	4	仙台
6月1日～3月31日	宮城県看護協会黒川支部役員（会計）	1	仙台
4月1日～3月31日	宮城県看護協会 医療・看護安全委員会	1	仙台
合計		43	

### 3) 講師等

日程	講義・研修名	人数	地域
6月18日	小児アレルギーエデュケーター受験講習会	1	日本小児臨床アレルギー学会
5月17日	仙南保育所連合会保育士部会研修会	1	仙南保育所連合会
5月18日	感染対策研修会	1	拓桃支援学校
6月3日	東北 JIA 講演会	1	アッツィ合同会社
6月15日	第25回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー	1	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会
7月1日	J-CIMELS 公認講習会	1	東北大学
6月28日～1月19日	食物アレルギーへの緊急対応体験型セミナー	3	東北大学クリニカルスキルスラボ
8月30日	医療的ケア児とその家族を支える	1	宮城県看護協会
9月9日	ストーマサイトマーキング演習	1	東北ストーマリハビリテーション講習会（東北大学）
9月23日	みやぎテレナース育成プログラム 医療的ケア児	1	宮城大学
9月26日～11月6日	小児看護学 入院している子どもと家族への支援	1	東北福祉看護学校
4月1日・12月31日	乳幼児期におけるこどもの病気や怪我への初期対応子供の安全	1	宮城県私立幼稚園連合会
4月1日・3月31日	専門看護師研修講師「フィジカルアセスメント」	1	東北大学医学系研究科保健学専攻
4月1日・9月30日	小児看護方法論	1	東北文化学園大学
10月1日・3月31日	小児看護方法論Ⅱ	5	仙台徳洲会看護専門学校
10月17日	入院している高校生の学習支援に関するセミナー	1	宮城県教育長高等教育課
11月7日	保健衛生研修会	1	拓桃支援学校
11月23日・1月7日	宮城 J-CIMELS 公認講習会	1	東北大学スキルスラボ
12月22日	救命救急士再教育講習会	2	宮城県消防学校
1月15日	宮城こども看護 NET「小児看護の学び方・教え方交流会」	1	東北大学保健学科
2月17日	小児緩和ケアカリキュラム看護師教育プログラム	1	WEB
合計		28	

#### 4) 座長等運営担当

日程	研修・学会・会議名	人数	地域・団体
6月24日	環境ワンヘルス研究会 in 東北	1	環境ワンヘルス研究会
5月27日	J-Heart in 宮城	1	中外製薬
7月8日～7月9日	第32回日本創傷・雄トミー・失禁管理学会学術集会	1	学会運営事務局
9月12日	第3回小児IBD移行期支援講習会	1	アツヴィ合同会社
9月23日	第8回日本小児循環器集中治療研究会学術集会	5	学会運営事務局
11月18日	第12回日本感染管理ネットワーク東北支部研修会	1	日本感染管理ネットワーク
合計		10	

## V. 委員会活動

キャリア開発システム委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎横内 由樹 ○高橋久美子 本地眞美子 森谷 恵子 遠藤由紀子 井上 達嘉 原山千穂子 野田 愛理 鈴木ひろ子 支倉 幸恵 津田 礼子</p> <p>&lt;役割&gt; 1. 看護職員キャリア開発システムの開発・運営・評価 2. 各職員のレベル申請に対する審査 3. 認定証の発行 4. 目標管理支援 5. ポートフォリオの運用・改訂</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. キャリア開発システム専門ステップを構築する。 2. 自己の将来のビジョンをもち、それに向かって自己研鑽するスタッフを育成する。</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 2024年度改訂に向けてキャリア開発システムの構築に取り組んだ。「現任教育」「高度看護実践」「管理」の3つの専門コースのラダーを完成させ、認定要項および認定に関する運用プロセスも構築することができた。また新システムへの理解を促すために師長会議にて説明を行うことができた。今後スタッフ全体への周知に向けての音声入りパワーポイント資料を作成していく。 2. アクティブラーニングを取り入れたジェネラリスト留学の実施に向け、具体的な企画・記録様式・評価表などを検討し、整備することができた。来年度の本格的な実施に向けて周知活動をしていく。院内認定看護師合格者の活躍の場の整備の取り組みは、ストラップとチャームを作成し、対象者に渡すことができた。新しいコースの設置はできなかったため、今後進めていきたい。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; 1. 臨床における院内認定看護師の活躍できる環境整備 2. 看護助手のキャリア支援のためのラダーの構築 3. 定年を迎える看護職員のセカンドキャリアの支援</p> <p style="text-align: right;">(横内 由樹)</p>
教育委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎高橋久美子 ○小島マユミ 横内 由樹 (アドバイザー) 吉本 裕子 加藤 優子 日戸 千恵 野田 愛理 熊谷ゆかり 津田 礼子</p> <p>&lt;役割&gt; 1. 看護部のレベル毎の継続教育及び管理者研修、全体研修、助手研修の企画・運営・評価 2. 看護技術チェックリストの評価・検討 3. 認定・専門看護師会主催の勉強会支援 4. 実習指導者の支援 5. 研修講師等の支援 6. e-ラーニングに関する支援</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. キャリア開発システムとリンクしたジェネラリスト育成のための教育計画に基づき研修転移を目指した研修を強化する。 2. 役割研修(院内・院外異動者/フレッシュパートナー/異動者パートナー/新任管理(候補)者)に対する役割研修を強化する。</p> <p>&lt;活動内容と評価&gt; 1. 研修効果の向上を目指し、アクティブラーニング(参加型研修)の導入を進めた。対象となる50研修中47研修(86%)でアクティブラーニングが実施され、研修参加者の主体的な学びを促すことができた。 2. Off-JTからOJTへ継続して取り組む形式の研修を企画・運営した。実施した5研修での研修参加者の満足度は高く、研修内容を実践で展開することで、看護技術や知識の定着につながった。 3. 「新人看護師の職場適応支援」「異動者の職場適応支援」(レベルⅡ以上のスタッフ対象)動画視聴や「異動者パートナー研修」(異動者の年間パートナー対象)、さらには、「看護管理基礎Ⅰ・Ⅱ」(新任師長・主任/師長・主任候補者対象)を企画し、キャリア移行期にあるスタッフ支援につながる研修を実施することができた。</p> <p style="text-align: right;">(高橋久美子)</p>

教育 小 委 員 会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長・○副委員長) ◎高橋久美子 ○津田 礼子 高橋みちる 村岡 万実 國井 翔太 油井 優希 駒澤 香織 渡邊 瑞希 二階堂 恵 佐藤亜沙美 山田麻衣子 庄子 和恵 横内 由樹 (アドバイザー)</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. 看護部教育計画にしたがい、参加者のニーズに沿った研修の企画・運営を行う。 2. 研修で学んだことを臨床現場で実践(研修転移)できるように支援する。</p> <p>&lt;活動と評価&gt; 1. 研修評価シート(企画者/参加者)を活用し、研修評価の客観性・妥当性が高まった。 2. 研修企画者の平均自己評価は、全体平均:4.76であった。 研修参加者の平均目標達成度は、全体平均:4.78であった。企画者評価と研修参加者評価に解離はなく、各研修目標を達成できた。 3. 研修転移と研修効果の高まりを目指し、担当する全研修でアクティブラーニングを実施した。参加者の満足度平均は4.5であり、参加者のニーズの充足と学びの深まりにつながったと考える。 4. 広報誌を1回発行したが、目標(3回/年)には届かなかった。定期的な刊行による研修内容や教育活動の周知・啓蒙を来年度への課題とする。</p> <p style="text-align: right;">(高橋久美子)</p>
	<p>&lt;役割&gt; 1. 看護職員の院内における継続教育を看護管理室・師長会と分担して、計画し実施する。 2. 看護研究に取り組みやすい環境を支援し、発表会を企画運営する。</p>	
安 全 対 策 検 討 委 員 会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎日戸 千恵 ○菊地 純子 三浦 優花 大淵 綾子 岩田 理恵 大友 雅恵 石川 貴文 友坂 美志 三浦恵衣子 村上 香織 黒木 芽衣 原 典子 佐藤 知子 (アドバイザー)</p>	<p>&lt;目標&gt; 安全対策検討委員会のあるべき姿として、「リスクマネジメント手法を実践し、安全なケアができる療養環境を整備する。」とし、下記の目標をあげた。 1. マニュアル改訂と部署内教育・周知を図る。 2. リスクマネジメント手法について学び実践できる。</p> <p>&lt;活動内容と評価&gt; 1. 2023年は病院機能評価受審の年であった。現行のマニュアルのうち、①転倒転落防止対策②保護抑制③ライン・チューブ管理について改訂と周知を行った。①については、「転倒・転落危険度チェックシート」を用いて家族と一緒にリスク評価を行う取り組みを追加し、アセスメントシートでは評価しやすい表現や現状に合ったスコアの見直し等を行った。また、②については、本館と拓桃館における記録方法の統一や、代替性や継続の有無について検討し記録する仕組みを追加・周知した。③については、リスクマネージャー会議で検討された院内統一の「ライン別識別表示」を追加・周知した。周知期間が短くなったが委員の活動により部署周知し、受審することができた。委員とスタッフの皆様へ感謝したい。 2. 5S活動とRCA分析に関する勉強会を実施した。5S活動は昨年度の評価と新たな5Sの実践に取り組んだ。10部署のうち8部署で昨年度の5Sが維持され、また新たな5S活動により、安全な療養環境を整えることができた。RCA分析もインシデント再発防止対策を立案する上で必要な分析手法であり、部署で実践することで安全活動に寄与していくことを期待したい。</p> <p style="text-align: right;">(日戸 千恵)</p>
	<p>&lt;役割&gt; 1. 院内の安全対策委員会の方針を受けて、看護職員に対して、看護部内のインシデント検討・分析する。 2. 看護部職員に対して、事故防止等の教育と啓発をする。</p>	

感染対策検討委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎井上 達嘉 ○佐藤 弘子 佐々木晴奈 入江 千恵 中森 沙紀 増 典子 石崎 小雪 川上 藍 吉田 梢 斎藤 頌子 佐藤 友紀 浦波 友紀 森谷 恵子 (アドバイザー)</p> <p>&lt;役割&gt; 1. 感染対策委員会の方針を受けて、看護部内の各部署で感染対策を推進する。 2. 感染管理室及びICT活動と連動し、現場での感染対策に関する教育・啓発活動・対策の検討と分析を展開する。</p>	<p>&lt;目標&gt; (年度目標がある場合は記載) 1. 感染管理室、感染対策委員会及びICTが連携し、院内の感染防止策の充実を図る。 2. 標準予防策の遵守率が向上する。 3. 病原体に応じた感染経路別の予防策をマニュアル通りに実践できる。 4. 部署内における感染対策の課題を明確化し、改善できる。</p> <p>&lt;活動内容と評価&gt; 1. 新規採用者研修(標準予防策・針刺し・切創研修) 2. 手指衛生・個人防護具(PPE)感染啓発の3チームに分かれて活動を実施。手指衛生テストの実施、感染流行ポスターの配布、直接観察法の調査方法を学び各部署での直接観察調査に参加した。また年1回以を目標に毎週実施しているICTラウンドにも参加した。 3. 成果発表会: 部署の現状を分析、問題の抽出と改善策を具体的な課題として捉え、評価は取り組んだ内容を数値化で表現され素晴らしい内容となっていた。成果発表会も4年目を迎え、各部署のリンクナースが継続的に活動した内容が改善に反映されている。</p> <p>&lt;次年度の課題&gt; 1. 年2回を目標にICTラウンドへ参加する。 他部門の取り組みを共有し部署の改善活動に応用する。 2. ICTミーティング内で実施している勉強会に積極的に参加する。 3. リンクナース会が病院全体で活躍出来るよう、積極的な活動を推奨する。 4. 他部署で行う直接観察調査に年1回は参加する。</p> <p style="text-align: right;">(文責: 井上 達嘉)</p>
業務検討委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎小島マユミ ○吉本 裕子 新野 彩香 鈴木 優佳 柏崎 心 小川あやめ 長門真理子 遠藤 涼子 木山 尚子 須藤 瑠奈 追木 恵実 中川かな恵 森谷 恵子 (アドバイザー)</p> <p>&lt;役割&gt; 1) 看護手順の追加・修正・更新を行う。 2) ケアマニュアルの追加・修正・更新を行う。 3) 看護や処置に必要な物品などを検討する。</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. 看護手順を見直し、改訂・追加・更新を行う。 2. ケアマニュアルを見直し、改訂・追加・更新を行う。 3. ナーシングメソッドの必要なテーマをスタッフが閲覧できるように支援する。 4. 必要な看護手順について、動画に作成する。</p> <p>&lt;活動内容と評価&gt; 機能評価受審まで、以下の手順を作成・更新を行った。委員会は30分以内で開催し、OAを活用して委員会活動を実践した。 1. 看護手順の改訂・更新・追加 ・新規作成: CT、MRI、PICC挿入介助、NO吸入、術後ベッドの作成、オンマヤ穿刺介助、光線療法、首ひも交換、ネーザルハイフロー、カフアシスト。 ・更新: 2021年以前に作成した全ての看護手順、産科の全ての看護手順。 ・改訂: 人工呼吸に気管切開のアンビューバッグ使用方法を追加、胃瘻バルーンの固定水確認・固定水の交換介助、エンゼルケア、スキンケア。 2. ケアマニュアルの改訂・更新・追加 ・2021年以前に作成した全てのケアマニュアルを更新した。 3. ナーシングメソッドの閲覧 ・各部署で必要な看護手順を抽出し、委員が周知を行った。 4. 看護手順の動画作成 ・腹膜透析(CAPD)、気管切開カニューレの首ひも交換。 5. その他 ・抑制帯(シンプルリムホルダー)の正しい使用方法の周知を行った。</p> <p style="text-align: right;">(吉本 裕子)</p>

看護記録システム検討委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎野田 愛理 ○吉本 裕子 萱場 萌恵 谷口 仁美 石戸谷真琴 高松 謙尚 門間 悠里 郷家 匠 石垣 文香 樋渡さやか 道端むつ子 樋口 貴士 遠藤由紀子 (アドバイザー)</p>	<p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護記録の模範と課題を部署間で共有し、適正な看護記録ができる体制を定着させる。</li> <li>2. 病院機能評価に向けた記録の課題を検討し、記録の改善を図る。</li> <li>3. 看護記録の監査を実施し看護記録の傾向を分析評価する。</li> <li>4. 医療情報システムの運用について情報や改善を共有し、業務改善につなげる。</li> <li>5. クリニカルパスの新規追加の作成や修正などを適宜実施し管理する。</li> </ol> <p>&lt;活動内容と評価&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日頃の看護記録から「気になる」記録を例題とし、委員会内で共有、模範となる記録や改善点を話し合い、各部署で記録の啓蒙活動を実施した。</li> <li>2. 機能評価の視点で検討した記録もあり、準備を行うことができた。</li> <li>3. 形式監査を全部署で合計 44 件実施した。昨年度、記載率が低かったリストバンドの装着記録や保護抑制の使用物品、看護プロフィールの必須項目は上昇していた。委員の部署への啓蒙活動が結果として現れた。課題となった項目は「保護抑制」の解除記録と「説明と同意」の同席でできなかった場合の記録であった。忘れずに記載する工夫が必要である。</li> <li>4. 各部署からの医療情報システムに関する要望を適宜検討し、改善につなげることができた。</li> </ol> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>課題となるのは、昨年度に引き続き、保護抑制に関する記録、説明と同意に関する同席記録である。部署への周知を始めているが、次年度も看護記録が適正に記載されるよう取り組んでいく必要がある。医療情報システムを上手に活用しながら、抜けのない看護がわかる記録を目指していきたい。</p> <p style="text-align: right;">(野田 愛理)</p>
在宅支援検討委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎鈴木ひろ子 ○岡田 敬子 田桑 礼子 芳賀 美涼 大山えりこ 渡邊 亜美 石賀 郁見 阿部 真紀 長谷部奈加子</p> <p>&lt;役割&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護部内の在宅支援に関する事項を検討・実施する。</li> <li>2. 退院支援に関する知識を看護職員に周知し、教育・啓発する。</li> </ol>	<p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内の在宅支援に関する現状を知り、理解を深める。</li> <li>2. 在宅支援に関する知識・情報を看護職員に周知し、教育・啓発をする。</li> <li>3. 災害時対応に関する知識・情報を患者家族へ啓発する。</li> </ol> <p>&lt;活動内容と評価&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各部署での在宅支援に関する課題を抽出し、業務改善に取り組んだ。全部署にその取り組みを報告し、院内の在宅支援の現状理解に努めた。</li> <li>2. 「在宅移行支援の手引き」の見直しを行い、一部改定し周知した。「在宅支援フローチャート」「手技チェックリスト」の見直しを行い、次年度改定予定とした。</li> <li>3. 開院 20 周年記念芸術祭の日程にあわせて、「災害時への備え」の展示ブースを開設し、患者家族への情報提供を行った。展示ブース終了後も問い合わせがあり好評であったため、次年度も展示を行う予定とした。</li> </ol> <p style="text-align: right;">(鈴木ひろ子)</p>

看護研究審査委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長・○副委員長) ◎本地眞美子(看護部) ○高橋久美子(看護部) 虻川 大樹(診療部) 二木 彰(臨床研究推進室) 遠藤由紀子 横内 由樹 森谷 恵子 岡田 敬子 堀川 美恵 津田 礼子 (看護部)</p>	<p>&lt;活動内容&gt; 今年度から、看護研究審査委員会が隔月開催となり、倫理委員2名の出席を要件に倫理委員会略式審査の役割を兼ねることが了承された。 審査会議は、毎月第1金曜日を定例とし2回開催した。今年度、新規の審査申請は3題であり、『承認』が2件、『条件付き承認』が1件であった。『条件付き承認』の理由としては、研究目的と研究範囲についての確認やインタビューガイド内容の修正など、よりよい研究を実施するための指摘事項が主な内容であった。 令和5年度は、5グループが外部講師(東北福祉大学富澤弥生先生)の指導と院内研究支援チームの支援を受けながら研究に取り組み、発表を行った。院外発表を視野に入れた演題が多く、支援体制の充実が、看護研究の質向上につながっている。  (高橋久美子)</p>
看護診断委員会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長・○副委員長) ◎堀川 美恵 ○支倉 幸恵 遠藤由紀子 後藤 麻美 富田 奈央 橋本 恵 菅原 れな 中川 愛美 伊藤 恵美 鈴木 千鶴 石垣 文香 三輪 愛 大久保利奈</p> <p>&lt;役割&gt; 1. 看護診断に基づく計画および標準看護計画の検討・見直し 2. 看護診断・計画及び標準看護計画のマスタ管理 3. 電子カルテにおける看護診断および標準看護計画・運用 4. 対象にした看護診断・計画立案への支援 5. 看護診断ガイドの管理 6. 看護記録の質的監査の実施・集計・評価</p>	<p>&lt;2023年度 委員会目標&gt; 1. 個性のある看護過程を展開できるよう、システムやガイドを活用し環境を整える 2. 看護実践が見える・看護が継続する看護診断や記録ができるよう、部署への支援を行う 3. 看護診断に関わる人材の育成を行う</p> <p>&lt;活動内容と評価&gt; 1. 看護診断過程の共有(事例検討) 「看護診断過程で気になる事例」を各部署から提示し、看護診断の立案過程やその課題事項について共有した。 2. 看護診断ガイド第一版の改訂 看護診断ガイド第一版の内容を再検討。看護診断の理解に加え、事例をあげ、実際に看護診断に至るまでを話し合い形式で記載し、第二版として改訂した。 3. 看護記録質的(プロセス)監査の実施(カルテ10冊) 1) 前年度監査において、最も記載率が低く不明瞭であった「入院や治療に関する説明への理解度把握」と「在宅医療のデバイス入力・更新漏れ」に改善が見られた。 4. 看護診断に関する人材育成 1) 看護診断 看護ラボラトリーのWeb研修 初級コース11名、中級コース5名、上級コース1名受講した。 2) 各部署の新採用看護師に対し、委員が看護診断について講義を施行。改めて学びを深めることが出来た。  今年度をもって看護診断委員会は閉会となり、次年度からは看護記録システム検討委員会にて同様の役割を担っていくこととなる。  (堀川 美恵)</p>

P N S 推 進 委 員 会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長○副委員長) ◎熊谷ゆかり ○加藤 優子 高橋久美子 津田 礼子 菊地 純子 柴崎麻衣子 小川 久枝 鈴嶋由美子 伊東 真理 星 恵美子 阿部 慶佑 土田布美子 櫻井 明美 長岡 幸恵 横内 由樹 (アドバイザー)</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. 各部署のラウンド監査体制を整える。 2. 個人監査の結果を元に全体評価の低い項目に対して改善するよう取り組む。 3. アサーティブコミュニケーションを活かしたマインドを発揮するための研修を企画する。</p> <p>&lt;活動内容と評価&gt; 1. ラウンド監査の実施 1) 監査表を作成し、本館2階病棟のラウンド監査を行った。その結果、モデル部署に委員会として認定した。 2. 個人監査の全体評価から評価の低い3項目 1) グループの委員会・係活動などの業務の補完体制を整える。 2) 看護記録のオンタイム入力の仕事みを構築する。 3) 看護記録はグループまたは日々のペアと共有・相談し、看護計画の修正・追加立案をすることができる。 ※ 3項目を各部署の委員が現状把握シートを作成し、各部署現状や今年度の取り組みなど情報を共有し、必要時委員会で検討した。 3. PNS マインド研修を視聴し、そのなかで出された課題を各部署カンファレンスを行い、マインドについて考える機会とした。</p> <p style="text-align: right;">(熊谷ゆかり)</p>
	<p>&lt;役割&gt; 1. 看護職員がPNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) に沿って、よりよいパートナーシップを発揮し、安全で質の高い看護を提供するための運営に関する全般について検討・実施すること</p>	
ク リ ニ カ ル コ ー チ 会 議	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長・○副委員長) ◎高橋久美子 ○津田 礼子 上西 莉沙 澤本 香織 鈴木 萌水 大村 佳佑 中村明日香 高橋百合香 早坂 広恵 大村 祐太 三戸部美歩 原 典子</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. 看護技術系研修において、新人看護師が根拠に基づいた安全な看護技術を習得できるように支援する。 2. 安全看護技術認定制度の拡大・周知を行う。</p> <p>&lt;活動と評価&gt; 1. クリニカルコーチが主体となり、新人看護師の看護技術習得支援を行った。新人看護師が習得を目指す看護実践能力のうち到達率80%に達しなかった項目は、「看護職員として必要な基本姿勢と態度」では16項目中2項目、「看護技術」では69項目中5項目、「管理的側面」では18項目中1項目であり、新規企画した「看護技術習得集中研修」等の活用により、習得率上昇を図ることができた。 2. 安全看護技術認定制度の運用マニュアル改訂を行った。改訂の過程で、制度の分かりにくさや周知不足などが問題点として挙げられた。2024年度も継続して安全看護技術認定制度のマニュアル改訂を進め、制度の周知を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">(高橋久美子)</p>
	<p>&lt;役割&gt; 厚生労働省「新人看護職員研修ガイドライン」に沿った新人看護技術習得率を向上させる。 院内の人材・場・教材を効果的に活用し、正確で安全な看護技術習得の支援を行う。 看護技術チェックリストによる技術到達度の評価・技術研修企画・研修や部署での実地指導などの役割を担う。</p>	

認 定 ・ 専 門 看 護 師 会	<p>&lt;委員&gt; (◎委員長 ○副委員長) ◎佐藤 弘子 横内 由樹 森谷 恵子 齋藤 弘美 村山 佳菜 星 恵美子 長澤 朋子 鈴木 千鶴 橋 ゆり 入江 千恵 安部 緑梨</p>	<p><b>【認定看護師 4分野 7名】</b> ・感染管理：森谷 恵子 佐藤 弘子 ・皮膚・排泄ケア：齋藤 弘美 村山 佳菜 ・新生児集中ケア：星 恵美子 長澤 朋子 ・小児救急看護：安部 緑梨</p> <p><b>【専門看護師 2分野 3名】</b> ・小児看護：鈴木 千鶴 橋 ゆり 入江 千恵</p> <p><b>【認定看護管理者 1名】</b> ・横内 由樹</p>
	<p>&lt;役割&gt; 1. 活動を通し、認定専門看護師の活動を支援し、看護の質の向上を図る。 2. 活動を通して病院の評価を高め、病院経営に貢献する。</p> <p>&lt;各委員の役割&gt; <b>【認定看護師】</b> 各分野において実践・指導・相談を行う。 <b>【専門看護師】</b> 各専門分野において実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究を行う。 <b>【認定専門管理者】</b> 多様なヘルスニーズを持つ個人、家族および地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスの提供を目指し、看護管理者の資質と水準の維持および向上に寄与し、保健医療福祉に貢献する。</p>	<p>&lt;目標&gt; 1. 各分野の専門性や役割を発揮するための働き方改革の強化を継続する。 2. 認定・専門看護師の活動を広報し、周知につなげる。 3. 地域から求められている知識と技術を指導・支援する。</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 委員会の運営は、各分野の取り組みについての共有と情報交換、グループ活動、各分野の活動時間とした。 2. 広報活動 職員へ認定・専門看護師の活動内容をアピールするテーマで通信を作成し、発行できた。今後は、院外にも向けた内容で作成し、発信していく。 認定・専門看護師通信の発行（計4回） 31号：小児看護「相談窓口の案内について」 32号：特定分野「特定行為について」 33号：感染管理「感染管理室メンバーの活動と役割紹介」 34号：皮膚・排泄ケア「手荒れ対策について」 3. 看護協会や看護学生への講義、連携施設への訪問指導、コンサルテーション対応など実施できた。今後も活動の場を拡大し、地域へ貢献できるように広報活動を展開していく。</p> <p style="text-align: right;">(佐藤 弘子)</p>

主任 看護 師会 議	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>高橋久美子 齋藤 綾佳 木村 愛子 柴崎麻衣子 長澤 朋子 入江 千恵 小川 久枝 高橋 和美 櫻井 明美 早坂 澄恵 安達 恭子 佐藤由美子 長岡 幸恵 佐藤真知子 横江 紀子 土田布美子 一柳 智恵 星 恵美子 橋浦佐智子 遠藤 博美 古川 裕祐 沼倉 智行 佐々木エミ 大村 佳祐 千葉 弥生 阿部 由香 鈴鴨由美子 佐々木綾香 島 美奈子 阿部 慶佑 佐藤絵里沙 伊東 真理 橋 ゆり 平井 裕子 菊地 純子 佐藤 弘子 津田 礼子</p>	<p>&lt;活動内容と評価&gt;</p> <p>1. 看護基準の評価・修正 アンケートを行い意見集約した。また、「成人移行期支援」を追加した。「終末期の看護」については、確認後追加する予定である。</p> <p>2. 災害対策 各部署のマニュアルはほぼ完成している。今後、院内での記載方法に合わせて修正する予定</p> <p>3. 臨床倫理 各部署の課題や対策、倫理的課題の抽出方法等について話し合いを行った。現場の課題抽出と院内共有のため来年度より臨床倫理リンクナース会が発足されることとなった。</p> <p>4. 新人看護師年間教育計画 今年度初めて活用したため、その感想や意見を出し合った。今年度より「夜勤トレーニング」も導入されたことにより、内容の見直しを行った。</p> <p>5. その他</p> <p>1) 研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月 「看護組織のマネジメント PDP 問題解決法」 講師 拓桃館3階病棟 堀川美恵師長</li> <li>・3月 「コンピテンシーを活用した管理者研修」 講師 横内副看護部長</li> </ul> <p>6. 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理：7月～8月頃に勉強の予定</li> <li>・看護基準：2年に1回の内容の見直し予定</li> <li>・新人看護師年間計画：活用状況把握とステップアップ研修・夜勤トレーニングの導入に伴う修正</li> </ul> <p style="text-align: right;">(菊地 純子、佐藤 弘子、津田 礼子)</p>
	<p>&lt;役割&gt;</p> <p>1. 宮城県立こども病院看護部の方針に基づき、看護実践上の諸問題や課題を検討し、業務の効率化や看護サービスの向上を図る。</p>	

## VI. 各部署紹介

### 外来

#### ① 部署概要

2023年度の外来患者総数（土日休日を除く）は、83,924名、1日平均外来患者総数345名（前年度比7名減少）、救急外来受診者総数は2,045名（前年度比123名増加）、電話相談件数は8,259件、1日平均18.8件であった。

#### ② スタッフ構成

師長1名、主任3名を含めた看護師25名、看護助手3名。うち、小児専門看護師1名、アレルギーエデュケーター2名、小児造血細胞移植コーディネーター看護師2名。出産育児等母性保護に関する制度活用および短時間勤務者は9名で割合は36.0%である。診療支援職種（医師事務作業補助者、歯科衛生士、視能訓練士）や外来クラークなど多職種協働にて27診療科の外来運営を行っている。

#### ③ 看護の取り組み

2020年度より、外来のあるべき姿を「小児慢性疾患を持ち大人になっていく子どもが、ヘルスリテラシーを獲得できるよう関わり成人医療機関への移行を支援する」とし、2023年度目標を「成人移行期支援の現状を把握し、移行困難事例に対する支援方法を整備する」と設定した。看護サービスの提供として、成果目標にコーディネーターとしての役割を理解する、成人移行期支援の強化を図る、と挙げ取り組んだ。困難事例分類リストの作成は、患者の個別性が高く類似性に基づくリスト化ができなかったが、医療機関情報リストを9領域（腎臓内科、泌尿器科、外科、血液腫

瘍科、クローン病、潰瘍性大腸炎、気管支ファイバー、リウマチ科、神経科）で作成し、移行先を検討する参考資料となった。診療科別成人移行期支援プログラムは、腎臓内科、外科、血液腫瘍科（血友病）で作成することができた。困難事例のコーディネートを実践しカンファレンスの開催ができたのは8事例、神経科医師・外科医師・消化器科医師・外来看護師・SWなど関係者とカンファレンスを開催し支援の方向性をまとめることができた。提供する看護に必要な学習として、講演会で2題、仙台で開催された第50回日本小児栄養消化器肝臓学会において「小児炎症性腸疾患患者の成人移行期支援内容の評価と課題」を発表し、日本で初の内容であったと若手優秀演題賞を受賞した。全国の施設に当院における成人移行期支援の取り組みを紹介し、連携できる成人医療機関の増加が見込まれる良い機会となった。そして、成人移行期支援のこれまでの成果に加え、入院が必要な小児患者が病床不足により入院ができない事象がないよう、看護部や病棟と連携したベッドコントロールを実施し、患者家族の都合・医師の都合が理由で入院ができなかった2名を除外すると100%の入院が可能となった。さらに救急車搬送・急患数が昨年度より123名増加し小児救急医療拠点病院の役割を果たすことができた。

3年間の取り組みとして、1年目は成人移行期支援の体制整備、2年目は体制強化、3年目の今年は支援内容の質向上ができたと評価する。次年度は、当院へ設置が決定した「成人移行期支援センター」との役割の明確化と連携について検討し、質の高い支援を継続していきたい。

（岡田 敬子）

### 本館2階病棟

#### ① 部署概要

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	781	761	773	791	829	693	737	655	639	504	537	684	8,384
延入院数	108	99	98	116	120	101	102	99	98	106	98	110	1,255
延退院数	108	99	102	112	130	107	95	106	106	105	90	115	1,275
稼働率(%)	72.2	68	71.3	70.8	74.1	64.1	65.8	60.5	57.2	45	51.3	61.3	63.46667

2023年度は、入院患者総数は1,255名（うち緊急入院：368名）で前年度より+19名と大きな変化は無かった。本館4階病棟のCOVID-19受け入れ病棟が05/08から解除され、予定・緊急入院が4階病棟でも受け入れ可能となり、入院患者数が減少する予測があった。しかし緊急入院が+93名と増加し、COVID-19だけではなく感染症罹患の緊急入院の増加が理由のひとつであった。

## ② スタッフ構成と勤務体制

師長1名・主任2名を含む看護師30名と看護助手2名、病棟クラーク1名、子ども療養支援士1名、保育士1名で構成されている。

## ③ 看護の取り組み

本館2階病棟のあるべき姿は「患者と家族が主体的に地域と交流を持ち、将来を見据えた自分が望む生活ができるよう支援する」から、今年度の目標を「多職種と協働し、入院患者の生活・自立支援を構築する」として看護を実践した。

感染対策の緩和により、部署内の行事を再開しビンゴ大会やカラオケ大会を開催した。選択食やセレクトおやつ提供回数を増やし、長期入院患者の食事支援

を行った。また小児がんの支援としたゴールドリボンコンサートを患者家族が観覧できるよう整備した。2月15日の国際小児がんデーに合わせ、藤崎前でのイベントにスタッフが参加し啓発活動に協力した。

クリーンルーム2床が改築され、病室内の環境に合わせた7名の骨髄移植看護を再構築し看護実践を展開した。食物負荷試験の1泊以上入院を06/05から導入し、稼働率の向上が図れた。今後、入院患者のWi-Fi環境が整備され原籍校や社会とのつながりが継続できることを期待し、患者とその家族らしい生活へ柔軟に対応できるように、多職種と連携を強化して質の高い看護を展開していきたい。

(吉本 裕子)

## 本館3階病棟

### ① 部署概要

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	679	760	606	697	645	630	599	597	600	633	608	685	7,739
入院数	80	64	59	62	75	61	63	73	66	69	59	61	792
退院数	84	78	62	66	78	72	64	76	76	62	56	75	849
病床稼働率	64.50%	70.00%	57.70%	64.20%	59.40%	60.00%	55.10%	56.80%	55.40%	58.20%	60.00%	63.10%	63.10%

2023年度の入院患者数は792名（前年比-66名）、退院849名（-64名）、延べ患者数は7,739名（前年度比-941名）、年間の平均病床稼働率は63.1%（前年度比-2.1%）で前年度より減少した。今年度はリカバリー室設置のための工事が6月～11月末に行われ、最大8床を減床して稼働した影響と考えられる。人工呼吸器使用患者171名/月（前年度比+9.2名）、1歳未満の患者300名/月（全体の40%を占める）、常時観察を要すA-1の患者が243名/月、病棟病室の手術件数482件/年（循環器科260件、外科216件、心臓血管外科4件、消化器科2件）及びPICU、NICUからの急性期患者を多く受け入れるため重症度及び看護度は高い病棟といえる。病床制限でベッドコントロールが厳しい中、病床運用を共に検討して頂いた循環器センタースタッフ、拓桃を含む他病棟に循環器科や外科患者を受け入れて頂き、感謝している。

## ② スタッフ構成

師長1名、主任4名を含む看護師34名、看護助手2名、クラーク1名、保育士1名、こども療養支援士1名で構成されている。育児部分休業利用者は6名であった。（2024年3月末時点）

## ③ 看護の取り組み

当院は東北医療圏における小児専門治療の拠点病院として県内外を問わず患者を受け入れる役割があり、2022年4月に循環器センターが設立された。当病棟は重度の先天性心疾患や外科疾患患者など、医療の進歩で助かる命が増加する一方、状態が不安定かつ長期入院を余儀なくされたハイリスク患者を受け入れている。患者の重症度は年々上がり、看護度も高く、付き添い家族の協力が必要不可欠な状況にある。私たちに

は患者に安全・安心な看護を提供する責務がある。と同時に出生後すぐに児の疾患と向き合う家族の精神的・身体的負担、残されたきょうだいの心配など、気がかりを多く抱えているご家族へのケアを他職種とともに進めていく必要がある。当病棟のあるべき姿を「状態が不安定なこどもの入院環境を整え、家族・他職種とともに児の成長発達を支援する」とし、今年度の病棟目標を「重症度・看護度が高い患者の療養環境を整備する。（リカバリー室運用の検討）」とした。リカバリー室設置工事は順調に進み、定床3床のうち2床を最大として12月1日より患者の受け入れを開始した。入室基準や運用については他職種を含め、定期的にミーティングを開催し、2024年3月末の時点で26名の患者を受け入れた。

チーム医療においては、外科・循環器科医師と看護師、保育士やCLS、薬剤師などの他職種も加わったカンファレンスを週1回、継続的に実施できた。また、退院支援においては、退院支援看護師やMSW、言語聴覚士や理学療法士、臨床心理士なども加わり、患者支援に繋げた。難しさを感じつつも、他職種との連携

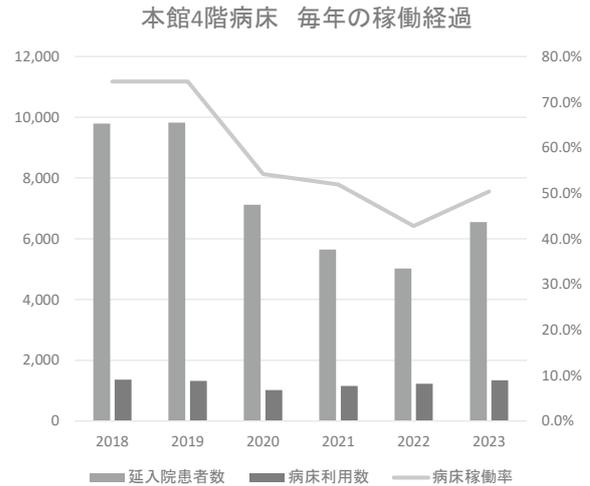
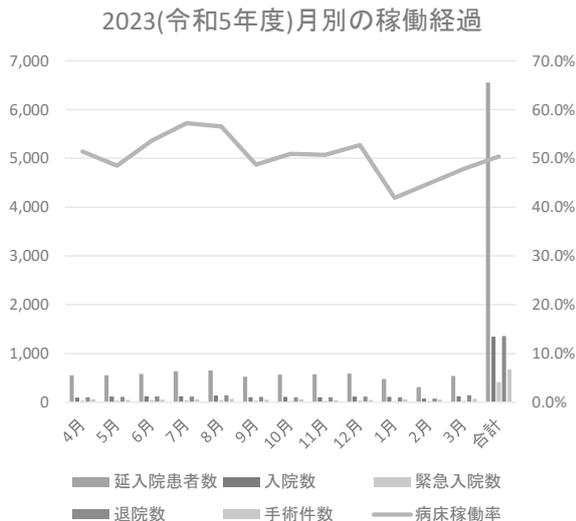
で乗り越えたことが多々あり、感謝したい。

次年度は循環器センターにおけるリカバリー室の役割遂行と本格稼働を目指す。看護師の夜勤5人体制が組めることが本格稼働の条件となり、看護師の教育にもより一層力を入れていきたい。

(原山千穂子)

## 本館 4 階病棟

### ① 部署概要



2023 年度の入院数は 1,347 名で昨年度より 105 名の増加、緊急入院は 415 名で 27 名の増加がみられた。入院後に行った手術件数は 670 件で昨年度より 35 件少なかった。これまで本館 4 階病棟は、軽症を中心に COVID-19 陽性患者を受け入れてきたが、令和 5 年 5 月に入り感染症分類が 5 類に引き下げられた事により、各病棟でも COVID-19 陽性患者を受け入れることになった。内科側の病床は昨年度から継続した多目的病床として継続し、本館 2 階病棟・本館 3 階病棟に割り振っていた消化器入院を本館 4 階病棟に戻す形となった。

令和 5 年度の病床稼働率は平均 50.4% で昨年度の 48.7% から 1.7% の上昇が見られた。病床稼働率に大きな変化はなかったが、本館 3 階病棟の循環器センター設立工事に向けて病床制限が行われたため、循環器患者や外科患者の受け入れも行った。

### ② スタッフ構成

師長 1 名・主任 2 名を含む看護師計 30 名で看護体制を展開した。看護師以外では保育士 1 名・病棟クラーク 1 名・CLS (チャイルド・ライフ・スペシャリスト) 1 名・看護助手 2 名で構成された。看護師の部分育児休業取得者は 7 名であった。

### ③ 看護の取り組み

今年度の病棟目標である「あるべき姿」を「在宅医療を必要とするこどもと家族が自宅で行うケアを確立し退院できるよう支援する」とした。活動として、パス運用率の向上や患者・家族用の指導マニュアル・指導カレンダー・各種リーフレットを改訂した。

次年度は、指導を重ねることで作成したマニュアル

やリーフレットの質を向上させたい。また、計画的にケア介入を行うことでスタッフが多くの実践の場を経験できるよう整えたい。

本館 4 階病棟は内科 5 科・外科 4 科の混合病棟である。取り扱う診療科が多い中、本館 3 階病棟の循環器センター設立工事に向けて病床制限が行われた為、循環器患者や外科患者の受け入れを行うことになった。

通常の病床を運用しながら、感染病床も管理し、内科外科の混合病棟として周手術期、急性期、慢性期、在宅移行期と幅広い看護実践を実施することは、従事するスタッフに大きな負荷が掛かったが、多職種・他部門と連携を取ったこと、PNS を活用した看護体制でカバーできたと考える。

ベッドコントロール調整の中、日々の緊急入院・転棟に柔軟に対応したスタッフに感謝したい。

(井上 達嘉)

### 拓桃館 3 階病棟

#### ① 部署概要

2023 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
延患者数	794	808	924	971	1,100	888	1,076	976	1,100	1,204	1,052	970	11,863
延入院数	15	15	17	21	27	20	22	13	28	28	15	26	247
契約入所数	5	4	6	9	5	9	5	5	4	13	2	5	72
ショートステイ数	4	7	6	6	11	8	8	5	10	9	5	11	90
延退院数	15	13	15	14	34	15	25	12	27	22	22	32	246
病床稼働率	49.0%	48.3%	57.0%	58.0%	65.7%	54.8%	64.3%	60.2%	65.7%	71.9%	67.2%	57.9%	60.20%
手術件数	10	5	7	10	10	11	8	8	13	14	13	13	122

2023 年度の入院患者数は 247 名。年間平均病床稼働率は 60.2% と例年に比べ約 5% 低迷したが、空床利用のショートステイの受け入れに対し、広報活動を行ったことで年間 90 名（例年の 1.5 倍）の入所となった。小児整形外科手術件数は 122 件と例年通りの実績であった。

#### ② スタッフ構成

師長 1 名・主任 4 名を含む看護師 28 名と看護助手 3 名、病棟クラーク 1 名、事務補助 1 名（療育支援室）で構成されている。

#### ③ 看護の取り組み

障害を持つ子ども達が、今よりもより良く生きる事を目標に単身入所している。手術・リハビリに加え、障害を持つ子ども達の持ちうる力・潜在している力を活かして、多職種の専門的な療育支援を行うことで、日常生活動作や社会的スキルの獲得を目指している。

今年度「院内外における療育支援の理解を深め、共通理解のもと、患者・家族のニーズに寄り添った療育の提供が出来る」と病棟の 3 カ年目標を掲げ、初年度は「多職種連携により療育について学びを深めながら、COPM と FIM 評価を活用して患者・家族と共に目標・成果を実感できる」と目標を定めた。

COPM とは、患者・家族の捉え方の変化を測定するため、作業療法士が活用している評価尺度である。患者・家族の入所目標とその重要度・遂行度・満足度を、10 点満点で患者・家族が評価し、支援前後で比較するために、近年作業療法士と一緒に使い始めてい

た。今年度からは看護師も COPM を実施できるよう、児童発達支援管理責任者 3 人で実践ガイドを作成し、看護師間で学習を重ね、契約入所する患者・家族への実施を試みた。結果、家族 36 名・患者 6 名に実施することができ、遂行度（家族+3.4）（患者+4.3）、満足度（家族+4.1）（患者+4.3）と平均 2 点以上の上昇がみられ、療育支援の有効性が示唆された。

また、入院時に家族から児の ADL を聞き取りする際、家族と同じ尺度で児の状況を共通理解できるよう、FIM 評価（機能的自立度評価表）を用いて「入院時聞き取り表」を作成した。実施はまだ 10 名程であるがこの後継続して実施していきたい。

必要な学習として、事例患者をもとに訓練士からの研修を 2 回実施し、専門的な療育支援について基礎から確認した。また、ペアレントトレーニングの伝達講習会を実施し学びを深めた。

次年度は、今までの経験と今年度の学びをもとに、病棟で行っている療育支援の手引きを作成し、院内での理解を求め伝達していきたいと考える。

(堀川 美恵)

## 拓桃館 2 階病棟

### ① 部署概要

2023 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延患者数	333	398	482	533	658	562	480	589	621	577	477	482	6,192
延入院数	32	46	35	40	38	39	35	36	25	31	23	40	420
契約入所数	86	173	275	214	395	364	304	325	380	348	280	251	3,395
ショートステイ数	3	4	0	1	7	7	3	6	0	2	0	0	33
延退院数	42	49	36	41	38	47	41	36	25	36	28	45	464
病床稼働率	46.0%	54.0%	64.0%	68.0%	83.0%	75.0%	63.0%	77.0%	77.0%	75.0%	65.0%	63.0%	平均 67.5%

2023 年度、契約入所 43 名うち親子入所 15 組、在宅移行・調整目的とした入所は 28 名  
短期入所（福祉型短期入所と体調管理目的入院）・体調管理入院・ショートステイ 99 名  
整形外科疾患の手術後のリハビリテーションなどの目的であった。

スタッフ構成は師長 1 名・主任 2 名を含む看護師 28 名・看護助手 2 名のスタッフで構成されている。また、保育士 3 名とクラーク 1 名も配置されている。

### ② 看護の取り組み

親子入所に対する目標（あるべき姿：3 カ年計画）を「育児に関する困難感を抱える家族に対して、その子の特徴を前向きに捉えられ、育児能力向上につながる支援をする」と掲げていた。親子入所をしてご家族は障がいのある子どもとどのように関わって良いかわからないと不安を抱え、その一方で親子入所に必要なスキルが不足していると不安に感じている看護スタッフの存在もあった。そのことから、目標 1「療育支援のスキルを活かし、多職種と連携しながらその子どもの特徴を捉え必要な看護を提供する」・目標 2「入所中に学んだ訓練内容を日常生活に取り入れられるように支援する」取り組み、2023 年度はあるべき姿 3 カ年計画の最終年度の目標 3 は親子入所のプログラムで患者家族が学んだ知識を家庭地域での生活のなかに取り入れて過ごせるように「家庭生活のタイムスケジュールに合わせることができる」として取り組んだ。乳幼児期の生活習慣について勉強会を実施できるス

タッフを育成し、14 組の家族に勉強会を実施した。その結果、家族は入所時に立てた目標を達成し、PSI（育児ストレスインデックス）を入所時と退所時と比較して評価した結果ストレス度の平均点数の減少からも親子入所プログラム内容はこどもとその家族に効果があると結果を得ることができた。3 年間の取り組みで親子入所に必要な看護実践力の基礎作りを行ってきた。

その看護実践力を患者・家族に活かせるように努力をしていこうと考えている。

今後もこどもと家族に寄り添い、安心して家庭・地域で生活できる様に支援をしていこうと思う。また、療育に必要な知識技術を得られる研修を受講するだけでなく、地域の放課後デイサービスや相談事業所などを見学して、在宅移行に必要な知識をスタッフが得られるような環境を整えたい。

（熊谷ゆかり）

## PICU

### ① 部署概要

2023 年度の入室患者数は延べ 347 名でこれまでで一番多かった。予定入室数が 193 名（55.6%）、緊急入室数は 154 名（44.4%）となっていた。緊急入室患者の 68 名（44.2%）が院内から、86 名（55.8%）は救急外来含む院外からの緊急入室であり、そのうち 5 名は他院へ当院から迎え搬送にて対応した症例だった。病床稼働率は 77.3% とこれまでと比較して最も高いものとなった。診療科別入室割合は、心臓血管外科の

手術後の入室が最も多くなっており、昨年度までと変わらなかったが、呼吸不全での緊急入室件数が昨年と比べ大きく増加していた。

### ② スタッフ構成

師長 1 名、主任 4 名を含む看護師 31 名、看護助手 1 名、病棟クラーク 1 名（4 時間勤務）体制。集中治療科医師体制は 4 名であるが 2024 年度からは 6 名へと増員される予定である。

### ③ 看護の取り組み

PICU では循環器センターの役割も担い、年々病床

稼働率も上昇し続けている状況の中で、「危機的状態にある児とそのご家族が早期リハビリの介入や家族支援が強化された看護の提供を受け、その子らしい成長ができる」を看護目標として取り組んでいる。早期リハビリ介入の開始、保育士・CLS等と協働し、PICUであってもこどもらしい時間や家族との時間を持って、リハビリや発達の支援が受けられるように看護師が中心となって日々コーディネートしている。

2023年度はPICUから出ることが難しい状態となり長期管理が必要となった患児とその家族に寄り添い、こどもらしい生活、家族との時間を大切にしたケアについて深く考え関わらせていただくことの多い1年でもあった。悩みながらもできる限りのケアを医師と看護師をはじめ多職種で協働して実施できたことは、PICUのケアの質を上げ、PICUでのケアの幅を大きく広げることとなったと考えている。そして、児と家族へ精一杯の心を込めて寄り添い、関わってくれたスタッフには、本当に感謝している。

2024年度には、院内急変への早期介入により予期せぬ院内心停止・院内死亡を減らし、コードブルーを予防することを目的としたシステムであるRRS(Rapid Response System：院内迅速対応システム)が運用開始予定である。RRSではPICUスタッフはチームの一員として稼働することとなるため、準備を開始した。導入に向けて部署間でのコミュニケーションをより活発化させ、日々よりよいケアを提供できるよう多職種での検討、状態悪化の予防、悪化時の早期介入をスムーズに行えるよう、協力して研鑽を続けていきたい。

(加藤 優子)

## 新生児病棟

### ① 部署概要

2023年度の入院患者総数は235名(前年比-23名)院内出生入院数138名(58.7%)、新生児搬送入院数97名(41.3%)、死亡退院患者数6名であった。低出生体重児96名のうち超低出生体重児15名、極低出生体重児16名。双胎9組を受け入れた。手術件数は延べ52件だった。外科疾患33件、脳外科疾患9件、循環器系疾患10件であった。集中治療は人工換気療法、経鼻持続陽圧/高流量鼻カヌラ療法、一酸化窒素吸入

療法、低酸素療法、低体温療法、血液浄化療法、腹膜透析、レーザー光凝固術、ルセンチス硝子体内注射など多岐にわたっての治療と看護を展開した。病床稼働率はNICU：95%、GCU：61%であった。

### ② スタッフ構成

2023年度は師長1名、主任5名を含めた看護師・助産師56名(新採用者7名)、看護助手2名、病棟クラーク1名でスタートした。途中、看護助手1名が新たに配属となり3名となった。看護体制はパートナーシップ・ナーシング・システム(以下PNS)。看護師の勤務体制は夜勤勤務時間13時間以内の2交替制である。

### ③ 看護の取り組み

PNS体制のもと、主任をコアとした5つのグループが機能し、患者情報の共有やグループ役割活動(教育・安全・感染・業務・記録システム)を行った。また、4つのワーキンググループ(在宅支援・発達支援・褥瘡・産科連携)を組織化した。

当病棟は、地域周産期医療センターとしての役割を担い、県内外からのハイリスク新生児を常に受け入れている。新生児医療の発展に伴い、医療的ケアを必要とするこどもが年々増加。この現状より、医療的ケア児が退院患者の約13%(前年度比+3%)を占めた。

在宅療養を継続できるよう退院支援を多職種との協働、わかりやすい看護サマリーの作成に取り組み、こどもと家族が地域で孤立しない支援を心がけた。小児在宅移行支援指導者と在宅支援WGが中心となりスタッフへの教育も行い、スタッフひとりひとりの在宅移行支援への意識が一層高まった。また、継続看護と私たちも患者家族が退院後どのような生活をしているのかを学ぶ目的で、初回外来同席や電話訪問事業を始めた。入院中には知り得なかったご家庭の状況や支援不足などを感じ、大きな成果を得られた。一方で新型コロナウイルス5類に移行し、家族面会も順次拡大、きょうだい面会やカンガルーケア、祖父母を含めた家族支援を実施できた。私たちが大切にしているファミリーセンタードケアが再開してきていると実感できた1年だった。

(支倉 幸恵)

## MFICU・産科病棟

### ① 部署概要

病床稼働率 (2023年度)	延入院患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
M-FICU	延入院患者数	115	93	97	131	83	119	151	116	85	104	76	136	1,306
産科病棟	延入院患者数	246	134	113	220	172	135	163	226	161	116	109	178	1,973
新生児室 A (自)	延入院患者数	21	26	30	35	16	20	34	18	33	32	22	13	300
新生児室 B (保)	延入院患者数	48	20	28	58	32	40	18	54	15	59	17	38	427
M-FICU	病床稼働率	63.9%	50.0%	53.9%	70.4%	44.6%	66.1%	81.2%	64.4%	45.7%	55.9%	43.7%	73.1%	59.5%
産科病棟 (3Bを含む)	病床稼働率	81.7%	41.4%	39.2%	74.7%	54.8%	48.6%	48.7%	77.8%	47.3%	47.0%	36.2%	58.1%	54.6%

平均病床稼働率は MFICU59.5% (昨年度比 -4.2%)、産科病棟 (新生児 B 含む) 54.6% (昨年度比 +8.7%) であった。分娩件数は 254 件 (前年比 +32 件) であった。うち帝王切開は 93 件 (前年比 +12 件)、出生児は 237 名 (前年比 +23 名) であった。母体搬送は 80 件、産科外来延べ患者数は 2,904 名、母乳育児相談外来は 75 件、産後 2 週間健診 208 件であった。

### ② スタッフ構成

助産師 26 名 (師長 1 名、主任 3 名含む)、看護師 3 名、看護助手 1 名、病棟クラーク 1 名、産科外来クラーク 1 名体制。PNS 看護方式。看護単位は MFICU と産科病棟の 2 部署で構成し、同フロアの産科外来を産科病棟が支援している。

### ③ 看護の取り組み

部署のあるべき姿 (3 カ年計画) に、「児の疾患を指摘された母親の産後うつを予防し、地域でサポートを受けながら育児ができるよう支援する」をあげ、3 カ年目となる 2023 年度の重点課題「児の状況に合わせて妊娠中から卒乳まで対応できる母乳育児支援能力を強化する」に取り組んだ。昨年度までの取り組みにより、児の付き添い中の母親を対象とした産後訪問や、EPDS (エジンバラ産後うつ病自己評価票指標) 高値産婦の地域連携とフィードバックが定着した。また、小児病棟や新生児病棟から退院する児の退院カンファレンスの参加により、退院後を見据えた妊娠期からの関わりを意識できるようになってきた。そして、産後訪問を実践する中で母乳育児に関する相談割合も多

く、母親が産科をフォロー終了となる 1 ヶ月健診以降も児の長期入院により乳腺炎や卒乳などの相談も増えてきた。そこで、正常新生児から重篤な疾患をもつ児まで、児の状況や治療方針に合わせたケアができるように母乳育児支援のスキルアップが必要であると考え、2023 年度は「母乳育児支援」を切り口として分析と目標設定をおこなった。主任をコアとした 3 チームでグループ活動を展開し、助産院助産師による勉強会の実施や母乳育児支援マニュアル作成など取り組んだ。これまで病棟で蓄積してきた経験や考え方をまとめ、児の状況により長期的に当院に関わる母親への介入もできるよう 1 ヶ月健診以降の支援についても明文化した。

設備工事や医師数の関連からローリスク分娩制限の時期があったが、小児・周産期施設においてハイリスク妊産婦を対象とした産科の役割を担いつつ、妊産婦にアクセスしやすく、安心・安全な分娩を提供する施設として今後も研鑽を重ねていきたい。

(日戸 千恵)

## 手術室

### ① 部署概要

2023 年度手術件数

2023 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
手術件数総数	144	151	132	151	179	136	135	135	145	146	145	156	1,755
緊急件数	19	29	17	25	20	8	19	23	27	14	16	20	237
緊急割合 (%)	13.1	19.2	12.8	16.5	11.1	5.8	14	17	18.6	9.5	11	12.8	13.5
麻酔科件数	144	151	132	150	177	136	135	135	142	146	143	153	1,744
1 日平均手術件数 (平日)	7.2	7.5	6	7.5	8.1	6.8	6.4	6.7	6.9	7.6	7.6	7.8	7.1
休日件数	4	8	5	5	0	1	3	5	7	7	4	3	52

手術件数は 1,755 件であり、前年度より 58 件減少した（心臓カテーテル検査・治療含む）。そのうち緊急手術は、237 件（16%）で前年度より 20 件減少した。平日平均手術件数は 7.1 件であった。

### ② スタッフ構成と勤務体制

師長 1 名・主任 4 名を含むスタッフ 23 名と看護助手 1 名での体制であった。週三回の夜勤体制は継続し、長時間の手術対応、器材類の後片付け、他部署へのリリーフ対応を行った。夜間・休日は 2 名のオンコール体制とした。また、日勤帯では手術症例によって、フレキシブル出勤や 2 部体制の勤務を実施した。勤務間インターバルを申請し、年休調整を行った。

### ③ 看護の取り組み

手術室のあるべき姿「繰り返し手術を受ける患者に対して、その子に合った周術期看護を展開し、次に活かせる継続した支援を実践する。」とし、部署目標 1「繰り返し手術を受ける患者の継続した支援プログラムを作成する」を挙げた。今年度は、複数回手術が必要となる患者に対して、受け持ち看護師が術前から術後までを支援する仕組みをグループで作成した。結果、前年度より 4 症例多く受け持ち制を導入することができ

た。受け持ち患者のケーススタディを 3 年目が実施した。また、手術時の患者情報を共有する「帰りの会」を行い、看護ケアを振り返ることができた。

医療情報システム内の手術連携マスタで、心臓血管外科の手術セットを新規作成した。その結果、SPD に術前の器材材料の準備を協力していただき、看護師の術前準備数が昨年度に比べて、さらに 15 件減となった。術前準備を委託できた時間を、患者の術後訪問等に活かすことができている。

今年度は、受け持ち制をさらに拡大し、症例数を増やすことで、継続した看護の関わりが可能となってきた。まだ、定着するには課題が残るため、次年度の目標として取り組んでいきたい。繰り返し手術を受ける患者家族が、わかってもらえているという安心感をもって、手術に臨むことができるように支援していきたいと考えている。

(野田 愛理)

## 中央材料滅菌室・ベッドセンター

### ① 部署概要

滅菌業務・ベッドセンター業務は外部委託であり、今年度も鴻池メディカル（株）が継続して行っている。

### ② スタッフの構成及び勤務体制

師長 1 名（看護管理室兼中央材料滅菌室）、委託責任者 1 名、スタッフ 17 名で業務を行っている。委託職員は早番（8:30～17:00）、遅番（11:00～19:30）の勤務体制で対応している。

### ③ 看護の取り組み

中央材料滅菌室は、一次洗浄から滅菌までの業務を行っている。今年度は病院機能評価受審もあることから、医療機器の洗浄・滅菌が適切に実施されていることをより明確化すべく、滅菌の質保証による新たな取り組み、作業環境整備の強化を実施した。

洗浄では滅菌沸騰洗浄機のチューブなど内腔器材の洗浄工程を確認する洗浄インジケーターを導入し、毎週定期的にモニタリングを実施し品質向上に取り組んだ。

また、既存職員のスキルアップとして毎月 1 回滅菌・洗浄に関する研修を実施し、個々の業務の幅が広がり生産



性の向上となった。

中央材料室の清潔区域、不潔区域をより明確化するための掲示や感染性物質を扱う上で洗浄用具などを使用期限を設けて定期的に新しいものに変える等、ルールを徹底して環境整備を行った。病院機能評価を受審した際は、針刺・切創事故0の継続記録日数と器材破損事故0の日数を掲示している取り組みに対して評価をいただいた。

今年度の滅菌・消毒処理依頼点数は、164,066点で前年比8%増であった。年間機器稼働数は、ウォッシュャー・ディスインフェクター(2台)3,313回、減圧沸騰式洗浄機は842回の稼働であった。エチレンオキシドガス滅菌機は247回、プラズマ滅菌機223回の稼働であった。ベッドセンター業務では、保育器とコットも含む清拭は1,249台となった。そして、内視鏡の洗浄を行った本数は875本で前年比18%増であった。次年度も安心安全な器材の提供と品質向上を目指す業務改善に取り組んでいきたい。

(井上 達嘉)

## 入退院センター

### ① 部署概要

第2期工事が終了し、5月からフルオープンした。多職種で構成される入退院センタースタッフと協働

し、業務拡大・患者サービスの質の向上に取り組んだ。2022年度の実績は、退院支援加算2カンファレンス153回、退院支援加算3カンファレンス24回、退院調整対応1,390件、外来患者対応4,744件、患者相談窓口698件、入院当日対応2,868件、入院前説明2,193件、入院前支援588件、短期入所相談745件であった。

### ② スタッフ構成

師長1名・主任2名(小児看護専門看護師・助産師)・看護師4名の合計7名でスタートし、年度途中は1名産休で人員減少し6名で終了した。今年度からPNS看護方式を取り入れた。今年度は医療対話推進者資格を1名取得、1名更新、医療的ケア児コーディネーター資格を1名取得した。

### ③ 看護の取り組み

部署のあるべき姿は「大人になりゆく医療的ケア児が社会生活を拡大できるようになるための自立支援を行う」である。目標を「自己導尿を必要とする児への社会生活拡大に向けた学童期からの自立支援プログラムを作成する」と定め取り組んだ。成人移行期支援・自己導尿支援等に関する学習を行い、自立支援プログラムと教材の作成を行った。泌尿器科の医師や関係部署と連携しながら修正を重ねた。そして、プログラムに沿った自立支援を行い、学童期の児との面談を開始する事ができた。加えて、成人移行した患者からの体験談を集め閲覧する事もできた。「導尿している他の人の話しが聞けて参考になる」等の反応があった。今後も学童期からの自立支援を継続していく予定である。

入退院センター業務の拡大により、受診前・受診後・入院前・入院後・退院後と長期間に渡り患者家族へ看護が提供できる環境が整った。病気や障害のある子どもと保護者が入退院への不安が軽減し、地域生活の中で成長発達できるよう院内外が多職種と協働しながら取りくんでいる。

(鈴木ひろ子)

# 第3章 薬 剤 部

## 1. 薬剤部の基本方針

- ① 患者が満足できる医療サービスの提供
- ② 健全経営への貢献
- ③ 薬剤師個々の質向上及び専門性の発揮
- ④ チーム医療への積極的な参画
- ⑤ 地域医療への取り組み

## 2. 2023 年度薬剤部の業務目標

薬剤部の基本方針をもとに、今年度の業務目標を以下の通り策定した。

- ① 薬剤管理指導業務件数を増加させる(目標 2,000 件/年)
- ② 退院患者への薬学的管理を推進する(退院時指導、薬剤サマリー発行件数の増加)
- ③ 病棟配置薬を適正に管理する(薬剤師による確認記録、定数変更の記録)
- ④ 外来患者に対する薬剤師の関与を推進する(薬剤師外来、外来化学療法の実用整理)
- ⑤ 周術期の薬剤管理業務に積極的に関与する(術前休薬の確認体制整備)
- ⑥ 薬剤師の質向上に向けた教育体制を充実させる(計画的な薬剤師教育、部内カンファレンスの開催)
- ⑦ 薬剤師以外の者に対する教育を充実させる(看護師等に対する研修、薬剤業務補助者に対する研修)
- ⑧ 地域医療連携を推進する(退院時カンファレンスへの薬局薬剤師の参加、地域医療研修会の開催)
- ⑨ 薬剤部内各所の整理整頓

## 3. 2023 年度の概要

2023 年度は「入院前から退院後まで切れ目のない薬学管理」を主眼におき業務目標を策定した。これらの業務目標を達成するためには、薬剤師が対人業務にあたる時間を確保する必要がある。そこで今年度は薬剤業務補助者の人数を増やし、対物業務のタスクシフトを推進した。また全病棟に薬剤師を配置しながらも調剤等の中央業務にあたる薬剤師を確保するために、今年度から中央業務リーダーを置き、業務の進捗状況や人員の把握を担ってもらうことにした。他業務との兼ね合いで中央業務に従事する薬剤師は日替わりとなるため、これまでは業務の進行が曖昧になることがあったが、新たにリーダーを置いたことで当日行うべ

き業務の周知が図られ、効率よく中央業務を進めることが出来ている。その結果、若干ではあるが病棟業務時間の増加に繋がったと考えている。

また外来患者に対する薬剤師の関与を推進するため、自己注射指導に関する運用体制や、術前休薬が必要な患者に対する入院前からの確認体制を整備した。特に術前休薬に関する多職種の関わりは当院としては初めての取り組みであったが、対象となる患者を絞り込むことで、薬剤師が休薬開始日に患者宅に電話連絡するといった直接的な介入が可能になったことは大きな成果と考えている。

人事に関しては、今年度は薬剤師 1 名、薬剤業務補助者 2 名の新採用による増員でスタートしたが、1 月に薬剤師の退職と産休取得により 2 名減少し薬剤師 15 名、薬剤業務補助者 6 名の体制となった。薬剤師の人材確保については、当院への応募者が減少しており厳しい状況が続いているが、大学側への働きかけや、実務実習や病院見学を通じて当院の薬剤師業務の魅力を伝えるなど、就職希望者の確保に努めた。

## 4. 主な業務実績 (表 1)

### 1. 調剤業務

今年度の外来処方箋枚数は、院内処方が 2,217 枚(前年度 2,268 枚)、院外処方が 30,838 枚(前年度 31,615 枚)、院外処方箋発行率は 93.3%(前年度 93.3%)であった。また薬剤師は医師業務支援として保険薬局からの疑義照会の窓口を担っており、1,928 件(前年度 1,786 件)に対応した。疑義照会への対応を簡素化するため、過去の疑義照会の内容を分析し、保険薬局への回答や処方の変更入力を薬剤師が代行するためのプロトコルを作成し、診療部の合意のもと運用を開始した。

入院処方箋枚数は、23,162 枚(前年度 22,993 枚)であった。小児患者の処方、成長・発達に応じた用量の確認、錠剤の粉砕や脱カプセルといった剤形変更、保険適応外使用など、薬学的評価や特殊調剤技術が求められる。当院薬剤部では調剤内規というルールのもと安全かつ適切な調剤を心がけているが、現在は更なる安全性や精度の向上に向けて、より細かな注意点を反映した細則の作成に取り組んでいる。

### 2. 注射薬調剤業務

今年度の注射処方箋枚数は 145,385 枚(前年度 147,357 枚)であった。薬剤部で実施した注射薬無菌

表 1. 2023 年度 薬剤部業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
外来処方箋枚数（院内）	150	179	243	241	199	187	176	180	174	167	174	147	2,217	184.8
外来処方箋枚数（院外）	2,586	2,427	2,636	2,548	2,684	2,488	2,527	2,546	2,732	2,522	2,437	2,705	30,838	2,569.8
入院処方箋枚数	1,917	1,997	2,034	1,979	2,082	1,748	1,866	1,975	1,969	1,881	1,771	1,943	23,162	1,930.2
注射処方箋枚数	11,310	13,471	11,528	11,440	13,426	11,700	12,096	13,915	14,406	10,613	10,331	11,149	145,385	12,115.4
注射処方件数	20,767	23,121	20,309	21,538	24,655	21,323	21,771	23,691	24,015	17,530	18,204	18,949	255,873	21,322.8
注射薬無菌調製件数 <sup>*1</sup>	589	601	665	377	499	537	482	658	740	476	597	672	6,893	574.4
抗がん剤調製件数（入院） <sup>*1</sup>	124	60	69	52	63	67	55	41	11	22	31	62	657	54.8
抗がん剤調製件数（外来） <sup>*1</sup>	3	1	3	1	2	1	3	2	4	3	3	3	29	2.4
薬剤管理指導件数 <sup>*1</sup>	158	154	169	150	179	152	129	155	143	114	144	158	1,805	150.4
疑義照会件数（院内）	207	214	227	210	231	269	264	278	325	332	331	334	3,222	268.5
疑義照会件数（院外） <sup>*2</sup>	154	125	150	155	139	152	189	186	198	151	151	178	1,928	160.7
持参薬報告件数	165	152	146	159	152	143	156	142	147	148	122	158	1,790	149.2

\*1 数値は全て実数で、医事算定件数とは必ずしも一致しない

\*2 院外処方箋について調剤薬局からの疑義照会を薬剤部で受けて対応した件数

追記

院外処方箋発行率【院内処方箋/(院内処方箋+院外処方箋)×100】 93.29 %

調製の件数は、高カロリー輸液や生物学的製剤などの調製が 6,893 件（前年度が 8,827 件）、抗がん剤の調製が 686 件（前年度 1,010 件）であった。新生児病棟の維持輸液では微量な混合操作となるため、薬剤師が調製を担当することで安全性の向上に加え看護業務の負担軽減にも繋がっている。またがん化学療法では、化学療法プロトコル審査委員会を新たに設置し、全てのプロトコルを院内登録する仕組みを構築した。薬剤師は、医師が作成する患者ごとのレジメンを確認したり、全ての抗がん剤の混合調製を担当することで化学療法の安全な実施に貢献した。

### 3. 病棟薬剤業務

当院では集中治療室を含めた全ての病棟に担当薬剤師を配置しているが、前年度まではいくつかの病棟が薬剤師一人体制であったため、休暇取得時のフォローアップなどが課題となっていた。今年度は病棟業務担当薬剤師 12 名を 4 つのグループ（人員の関係で途中からは 3 グループ）に分けて、それぞれのグループが複数の病棟を担当する体制に変更した。各グループには 10 年目以上の経験者を配置し、若手薬剤師を支援できる体制にした。これにより、平日はすべての病棟において薬剤師が毎日業務することが可能となった。また一人の薬剤師が複数の病棟を担当出来るようになったため、休暇に対するフォローアップ体制が充実した。一方で経験値の高い薬剤師を固定で配置することが出来ないため、日によって担当する薬剤師の専門的知識のレベル差が生じてしまうことは新たな課題である。今後はグループ内でのカンファレンスを励行し、

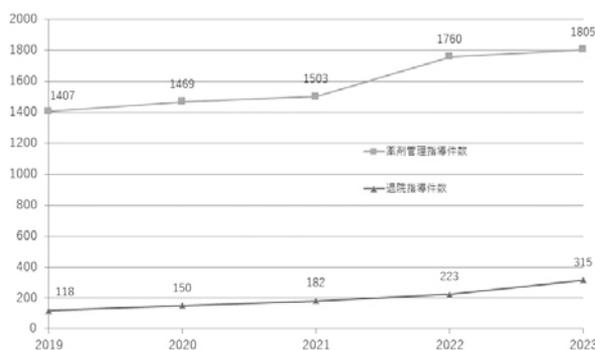


図 1. 薬剤管理指導件数の年度別推移

担当薬剤師間での知識共有をはかり、個々のレベルアップに繋がりたい。

病棟担当薬剤師の業務内容としては、入院時の持参薬確認は必ず薬剤師が実施しており、今年度は 1,790 件（前年度 1,697 件）の鑑別を行った。持参薬を継続使用する場合に限らず、院内処方に切り替える場合であっても、薬剤師による確認作業は不可欠なものになっている。また内服薬の配薬管理は、昨年度作成したマニュアルに沿って看護師と共同で行った。

薬剤管理指導の実施件数は 1,805 件（前年度 1,760 件）で、目標の 2,000 件には届かなかったが、病棟担当者の努力により増加させることが出来た。特に今年度の重点目標でもあった退院指導件数は、315 件（前年度 223 件）と大幅に増加させることが出来た（図 1）。また退院時に薬剤管理サマリーを発行するなど、保険薬局との連携に努めた。

PICU や NICU では限られた投与ルートから多種類の注射薬を投与することが多く、担当薬剤師は投与量、

投与速度に加えて配合変化やインラインフィルターの通過可否などの薬学的な評価を行った。また手術室については血管作動薬の調製や麻薬の管理などを行った。その他、医師からの依頼に応じてバンコマイシンのTDMを58件（前年度37件）実施した。

#### 4. 医薬品情報（DI）管理業務

DI業務は、薬剤師2名が兼務で担当した。主な業務は、薬事委員会事務局として委員会開催の準備や結果の周知、新規採用医薬品の情報収集、その他医薬品に関する問い合わせへの対応や情報の管理、DIニュースの発行などである。

今年度は薬事委員会を6回開催し、38品目を新規採用した。一方で近年の使用実績をもとに40品目の採用削除を決定した。当院では積極的に後発医薬品への切り替えを進めているが、昨今の医薬品出荷制限の影響により先発医薬品や他剤に変更せざるを得ないケースも見られた。またDIニュースを毎月発行し、今年度の発行回数は12回であった。内容は、薬事委員会の審査結果や添付文書改訂情報の他、薬剤部からの情報提供として医薬品の安全管理に関するテーマを中心に取り上げて、院内スタッフにわかりやすく提供することを心がけた。

#### 5. 薬品管理業務

今年度末時点で院内採用医薬品数は1,483品目（前年1,484品目）、そのうち後発医薬品は196品目であった。当院で診療する患者は、新生児から成人まで幅が広く、複数規格、複数剤形の採用が必要なため採用医薬品数が多い傾向にある。当院では在庫管理の一部をSPDに業務委託しているが、余剰在庫をつくらないためには、処方状況を把握した薬剤師による購入管理が不可欠である。特に近年は高額薬剤の取り扱いが増えており、発注担当薬剤師は患者の診療予定を把握し、常にきめ細かな対応を心がけた。加えて、大規模災害を想定し、非常時においても病院機能を維持できるように約1週間分の医薬品を備蓄した。

#### 6. 製剤業務

今年度は新規の院内製剤申請はなかったが、20品目（内用3品目、外用17品目）の調製を行った。近年、院内製剤に関する重大な医療事故が報告されていることから、製剤チームを中心に調製手順を見直し、鑑査の徹底を図るなど、事故防止に努めた。

#### 7. チーム医療への参画

薬剤部では、感染対策チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、医療安全推進室、

入退院センター、成人移行期支援チーム、DPCマネジメントチームに薬剤師が参加し、職能を活かして医薬品の適正使用、薬物療法の支援、患者サポート、安全管理などに対して積極的に関与した。

#### 8. 薬学実務実習

当院は薬剤師養成のための病院実務実習受け入れ施設となっており、今年度は3名の学生を指導した。学生には、病棟担当薬剤師の協力のもと患者への服薬指導をより多く経験させて、臨床能力を高めるよう心がけた。

#### 9. その他

7月に地域医療研修会として小児薬物療法研修会をオンラインで開催した。

テーマ；小児神経疾患の薬物療法と薬薬連携

講師；大瀧 透先生（錦ヶ丘オレンジ薬局）、富樫紀子先生（当院神経科）

参加者；384名

10月に医療安全研修会として、医薬品の安全使用に関する研修会を開催した。

テーマ；過去のインシデント事例とその対策

くすりの副作用と副作用発生後の対応

講師；戸羽香織（薬剤部RM）、中井啓（薬剤部長）

参加者；当日127名、e-Learning136名

#### 5. 次年度に向けて

2024年度に予定されている医師の働き方改革では、薬剤師をはじめコメディカルへのタスクシフティングが推進される。そのため次年度は新たな薬剤師業務の展開を模索していく時期と考えている。医師の業務負担軽減が目的とはいえ、その中心にあるのは患者であることに変わりはない。これからの医療において薬剤師に求められることを敏感に察知し、患者に寄り添った薬剤師業務の展開に力を注いでいきたい。そのためには薬剤部の人員体制が喫緊の課題である。将来を見据えた人材確保計画とともに、業務の効率化、非薬剤師の活用なども検討していきたい。

#### 6. 人員体制

2023年4月；薬剤師16名、薬剤業務補助者6名

2023年5月；薬剤師1名採用

薬剤師17名、薬剤業務補助者6名

2024年1月；薬剤師1名休業（産前産後・育児）、

薬剤師1名退職

薬剤師15名、薬剤業務補助者6名

（中井 啓）

## 第4章 医療技術部門

### 放射線部

#### はじめに

2023年度は、放射線科医師2名、放射線技師11名、放射線担当外来看護師1名、受付クラーク1名の体制でスタートした。新採用者1名を迎え1年を通して育成に注力した。5月上旬から新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことで院内の感染対策が緩和された。N95マスクの着用回数は減ったが、基本的なPPE対応は継続して行われた。

#### 今年度の主な取り組み

##### 1. 医療機器整備

第五期中期計画の医療機器整備計画では、放射線部エリア空調設備更新、照明設備更新並びに核医学放射線モニタリングシステム更新が行われた。開院して20年を迎え照明設備並びに空調設備の老朽化や修理対応が困難になってきていることから更新が必要だった。照明設備は蛍光灯からLEDへ切替られたが、読影室とMR室内については、LED照明に切替ることによって診療業務に支障が出ることから今回の更新は見送られた。空調設備も診療業務を停止せずに金土日を中心に順次更新作業を行った。空調設備の周囲の天井も一部剥がして作業する必要があるため、周辺機器にビニールシートをかけた後、粉塵対策をして工事が行われた。核医学検査室の中央監視システムは数年前に先行して行われていたが、その他の放射線モニタリング設備について年度末に更新が行われた。薬剤調剤キャビネットは、フード内での調剤が出来るタイプのものに更新を行った。

##### 2. 人材育成及び技術レベルの向上

学会発表・研修会・研究会等の参加により、最新の検査技術の情報収集並びに技術の習得に努めた。診療放射線技師法の改正に伴う告示研修については、今年度は6名が修了した。新採用者1名について、当直対応が可能になるよう業務訓練を順次行っていった。

##### 3. 臨床研究・治験

若年性突発性関節炎の患者を対象にした治験に対して手及び膝の単純X線撮影、血友病患者を対象にした治験に対して両足関節、両膝関節のMRI検査、デュシヌム型筋ジストロフィー患者を対象にした治験に

対して骨格筋CT撮影、脊髄性筋萎縮症の患者を対象にした治験に対して全脊椎撮影の協力を行った。高安病を対象にした治験に対するCT検査については、1回目の造影剤の副作用がひどかったため、MRI検査で行うこととなった。

##### 4. 臨地実習について

東北大学医学部保健学科放射線技術科学専攻学生の臨地実習を行った。10月下旬から1月下旬までの3か月間で35名の学生が実習を行った。

##### 5. 報告書管理について

画像診断および病理診断の報告書（読影レポート）の未読問題の対応策として、報告書確認対策チームが院長直属の組織として設置され、画像診断および病理診断の報告書管理に関する業務手順書に則り、5月から活動が開始された。

##### 6. その他

- ・造影CT検査後患者容態急変時のシミュレーションの実施
- ・病院機能評価受審の対応
- ・5年毎の法定（RI等規制法）の定期確認・定期検査の受審

#### 業務実績

検査件数内訳と検査種毎の月別推移および検査件数の年度推移を表-1およびFig-1~3に示す。ポータブル撮影は前年対比で約17%増加した。ポータブル撮影の時間内と時間外の件数はほぼ半々で前年と同様の傾向だったが、入院と外来を比較すると、入院が1.14倍の増加に対して外来が1.47倍となっていた。血管撮影・心カテ、CT検査は若干減少した。他の検査はほぼ横ばいであった。デジタル件数、画像提供件数は増加傾向ではあるが、伸び率は低下している。全件数の入院と外来の割合は前年とほぼ変わらず、時間内と時間外の割合についてもほぼ変わらなかった。全件数の約20%が時間外での検査であった。検査月毎の検査数としては例年通り7月、8月、3月が多く、年度通して例年よりも件数は多かったが、3月だけは減少していた。

表-1. 放射線部の業務件数

検査種別	検査数					前年比 (%)
	入院	外来	時間内	時間外	計	
一般撮影	1,417	8,158	9,343	232	9,575	99.9%
歯科撮影	14	664	677	1	678	109.0%
ポータブル	8,322	811	4,750	4,383	9,133	116.9%
透視検査	563	444	921	86	1,007	103.1%
血管・心カテ	285	0	283	2	285	95.3%
CT検査	551	389	732	208	940	98.3%
MR検査	473	810	1,267	16	1,283	99.1%
核医学検査	59	230	288	1	289	101.0%
放射線治療	24	0	24	0	24	218.2%
骨密度検査	19	75	94	0	94	111.9%
移動型透視	169	0	159	10	169	100.6%
超音波検査	111	424	531	4	535	99.4%
AI検査	6	2	7	1	8	100.0%
デジタイズ	0	2,409	2,383	26	2,409	102.2%
合計	12,013	12,007	19,076	4,944	24,020	97.8%

※画像提供件数：784件  
(合計数にデジタイズの件数は含まない)

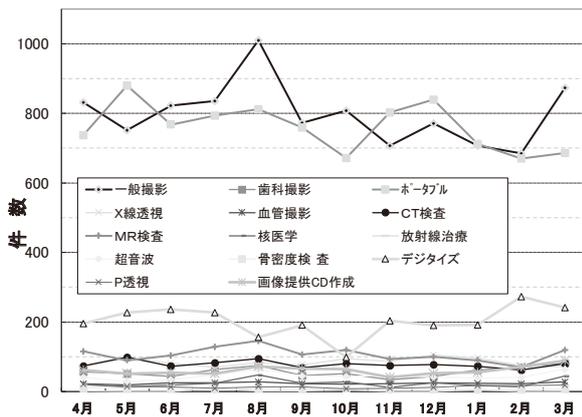


Fig.1. 検査種毎の月別検査件数の推移

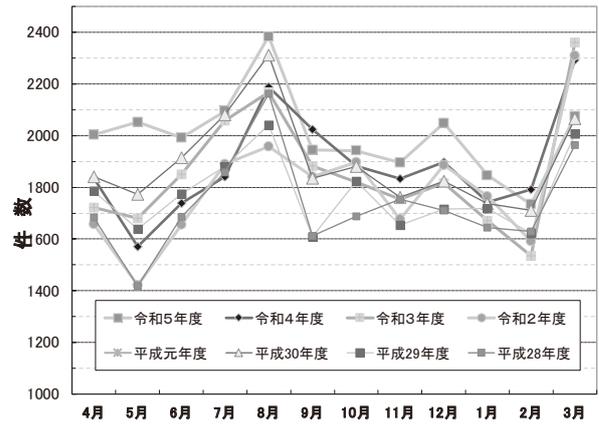


Fig.2. 年度毎の月別全検査件数の推移

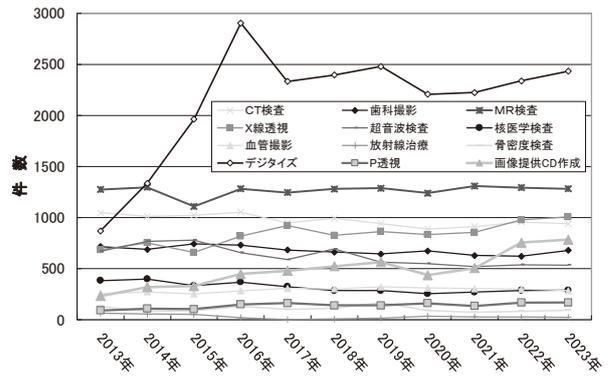
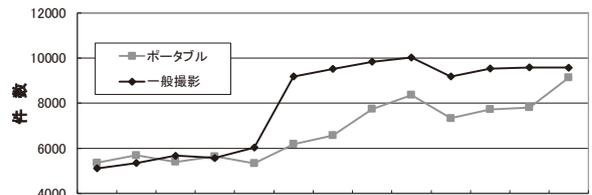


Fig.3. 各検査件数の年度推移

## 終わりに

次年度の第5期中期計画における医療機器整備計画では、移動型透視装置の更新が予定されている。対象

の移動型透視装置は、買い取り業者への売却を視野に入れつつ対応していきたい。2年後には設置後10年を越える機器が次々と出てくることから、次期中期計画の医療機器整備計画に向け準備をしていきたい。

(板垣 良二)

## 検査部

### はじめに

2023年度も検査部は医療技術部門長検査部門担当の佐藤篤医師と病理部門担当の武山 淳二医師のもと、正職員13名、委託職員6名の臨床検査技師、計21名体制で業務を遂行した。5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行したが、流行が収束したわけではなくインフルエンザの流行も重なり、スタッフと

その家族の感染による業務への影響が危惧されたが、幸い大きな影響はなかった。

### 取り組み

- ・6月 病理部門システムの稼働により画像や試薬類の管理も含め作業効率の向上を図った。
- ・8月 病院機能評価の受審では、患者確認、感染制御、安全な輸血、パニック値の扱い、病

理診断機能の確保などに一定の評価を得、所定の基準に達していると認められた。

- ・11月 当院として初めて小児臨床検査研究会（JACHRIの下部組織：国内17の小児医療施設の検査部門で構成）の世話人を仰せつかり企画を担当した。共同世話人の埼玉県立小児医療センターと連携し同センターにおいてハイブリッド形式で開催した。内容は施設代表者会議、講演、特別講演、アンケート調査の結果報告と現地の施設見学で、第40回の節目の会を滞りなく進行することができた。
- ・1月 日本臨床検査技師会の品質保証施設認証制度の審査を受け承認された。これは医療法一部改正（平成29年法律第57号）の趣旨に基づいた制度で、当院が「標準化され、かつ臨床検査の精度が十分保証されていると評価できる施設」と認められた証である。認証期間は2024年6月から2026年5月末の2年間でその後は更新が必要である。
- ・心エコー 2024年4月より新規の検査として開始するスクリーニングを中心とした心臓超音波検査のため、2名の検査技師が循環器科の指導のもと鋭意研修を重ねた。
- ・新規採用 年度末の定年退職者を予定していたた

め募集を行ったが、採用試験の合格者が内定辞退し不採用となった。これにより2024年度は欠員1名の状態から始まることになった。

### 部内勉強会

- ・4月 検査に関わる感染対策（佐藤）
- ・6月 2022年度の検査部実績（小澤）
- ・7月 光学顕微鏡と電子顕微鏡の違い（BML山崎）
- ・9月 術中脳脊髄モニタリング（河治）
- ・11月 KAIZEN2023（犬飼）
- ・12月 不規則抗体同定（斎藤）
- ・2月 開院20周年を迎えて（小原）
- ・3月 新たな化学物質（池田）

### 業務実績（表）

2023年度の業務実績を示す。総合すると検査数は前年度からやや増加した。

### おわりに

2023年度の検査部の取り組みとして小児臨床検査研究会の世話人を担えたことが印象に残っている。北海道から沖縄まで使命感を同じにした臨床検査技師が今日も真剣にこどもたちの検査に勤しんでいると実感ができ勇気が湧いてきたからである。

（小澤 真）

検査部 業務実績

項目	2022年度			2023年度			前年比（%）
	外来	入院	計	外来	入院	計	
生化学／免疫	252,790	199,844	452,634	268,109	206,081	474,190	104.8
血液	38,013	41,161	79,174	41,996	42,735	84,731	107.0
一般	14,579	4,459	19,038	14,625	4,539	19,164	100.7
検体検査 合計	305,382	245,464	550,846	324,730	253,355	578,085	104.9
生理	3,733	1,076	4,809	3,305	1,212	4,517	93.9
細菌	1,786	3,657	5,443	1,965	3,169	5,134	94.3
病理	88	684	772	88	713	801	103.8
輸血	2,246	772	3,018	2,062	1,082	3,144	104.2
製剤供給（バック数）			(2,559)			(2,687)	
合計	313,235	251,653	564,888	332,150	259,531	591,681	104.7
外注	25,342	3,541	28,883	24,179	3,660	27,839	96.4

\* 検体検査・外注検査は項目数

## 栄養管理部

### はじめに

当部は、フードサービスおよびクリニカルサービスの業務を遂行しており、フードサービスにおいては、開院当初より業務委託契約を施行している。クリニカルサービスについては、栄養相談をはじめ全科型の栄養サポートチーム：Nutrition Support Team (NST) による関与を施行している。

### 今年度の主な取り組み

#### フードサービス

#### 1. 入院患者食業務

##### (1) 入院患者食

当院は、小児・周産期の急性期から慢性期、リハビリテーション、在宅医療までを一貫してにう医療・

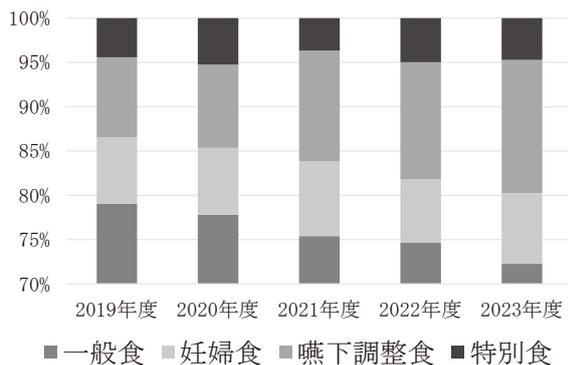


図1. 提供食種の年次推移

福祉施設である。そのため提供している食事の種類は、幼児食から青年食、妊産婦食などのライフステージの食事、特別食、咀嚼嚥下に配慮した嚥下調整食を提供している（図1）。

入院患者食は、通常の季節を取り入れた行事食（表1、図2）はもとより、入院中の低年齢の児童により収穫された野菜を食育の一環として提供している（図3）。

他には、主に平均在院日数より長期入院となる患者さんを対象にセレクトおやつおよび選択食（表2）を提供している。これらは、受動的な事が多い入院生活の中で能動的な行為であり患者さんからはもちろんのこと病棟スタッフからも「申込み用紙を持って行くと、



図2. 行事食

表1. 行事食の提供内容

実施日	行事	メニュー
5月5日	端午の節句	こいのぼりオムライス、柏餅（15時補食）
7月7日	七夕	七夕そうめん
7月28日	土用丑の日	鰻ちらし
8月4日	こども病院夏祭り	夏祭り駄菓子（15時補食）
9月29日	十五夜	栗ご飯、月見うさぎの豆腐ハンバーグ、大学芋（15時補食）
10月31日	ハロウィン	スパイシーピラフ、パンプキンハンバーグ、おばけサラダ、スイートポテト蒸しパン（15時補食）
12月22日	冬至	冬至かぼちゃ
12月25日	クリスマス	チキンライス、シーフードシチュー、ミートローフ、チョコクリスマスケーキ（15時補食）
12月31日	年越し	年越しそば
1月1日	正月	おせち料理、雑煮汁、人形焼き（15時補食）
1月7日	春の七草	春の七草入りみそ汁
2月2日	節分	あんぱんまん恵方巻き（成人食以上は恵方巻き提供）
2月14日	バレンタイン	ガトーショコラ（15時補食）
3月1日	ひな祭り	ばらちらし寿司、菜の花とえびのサラダ、雛あられ、ひなまつりケーキ（15時補食）

表 2. 選択食の提供内容（月 1 回程度、不定期平日昼食）

実施日	標準献立	選択献立
4月13日	鰯の竜田揚げ	鶏の唐揚げ
5月16日	チキン南蛮	チキンカレーライス
6月7日	親子丼（幼児）、カツ丼（学童以上）	きのこのソースハンバーグ
7月18日	のり塩唐揚げ	甘酢だれのからあげ
8月23日	冷やしぶっかけうどん	冷やしぶっかけ肉うどん
9月13日	ボンゴレピアンコ	ジャージャー麺
10月13日	豚肉のりんごソース焼き	豚キムチ
11月11日	ビーフカレーライス	中辛ビーフカレーライス
11月28日	ハヤシライス	ビーフシチュー
12月14日	鱈のムニエル	タンドリーチキン
1月16日	親子丼	とんかつ
2月14日	鰯の竜田揚げ	エビのケチャップ炒め（幼児）、エビチリ（学童以上）
3月11日	ドライカレー	ポークカレー（幼児）、中辛ポークカレー（学童以上）



図 3.

こども達の笑顔が見られる。」との声も聞かれ、好評である。

(2) 特別の料金の支払いを受ける特別メニューの食事（以下特別メニューの食事）の提供  
一昨年度から、特別メニューの食事の提供を開始した（図 4）。

多様なニーズに対応することで、長期入院となる患者さんへ潤いの一つとなることを目的に提供してい

る。

### (3) 病棟訪問（ミールラウンド）

提供している食事について、喫食状況を確認することを目的に病棟へ訪問している。特に平均在院日数より長期入院となる患者さんについては、可能な限り患者食へ反映できること、治療等により食欲が低下した場合の食事の提案等を目的に訪問している（図 5）。

### クリニカルサービス

#### 1. 栄養相談業務

栄養相談業務については、個別に行う個人栄養食事指導と集団で行う集団栄養食事指導があり、何れも栄養療法の理解を深め、家庭での実践をサポートする事を目的に医師の処方により実施している（図 5、図 6）。

#### (1) 個人栄養食事指導

個人栄養食事指導の内容としては、肥満食、低残渣

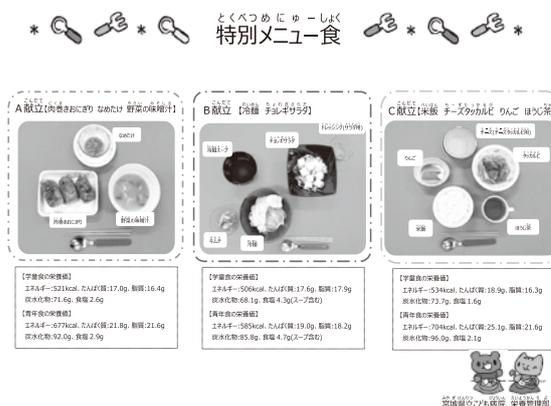


図 4.

件数(件)

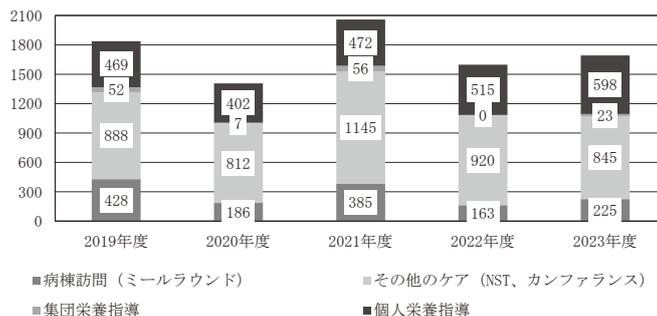


図 5. 病棟訪問（ミールラウンド）・栄養食事指導の年次推移

件数(件)

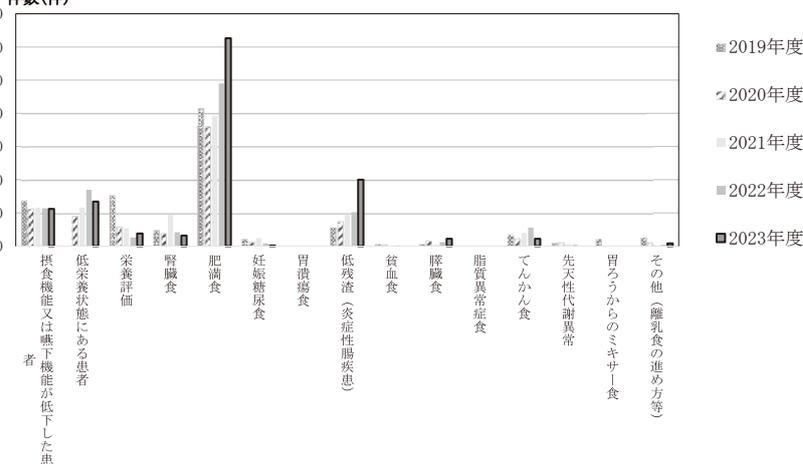


図 6. 個人栄養食事指導内容の推移

食、嚥下調整食等のもとより低栄養状態にある患者、栄養評価依頼まで様々である。

(2) 集団栄養食事指導

当院で実施している集団栄養食事指導は、主に平均在院日数より長期入院となる患者さんを対象に実施している。

コロナ以前は、一つは厨房見学や午後のおやつ作りを体験するイベント給食、他には昼食時を利用したバイキング形式の食事および栄養ミニレクチャーを行い適正な食事のあり方や患者さんの QOL 向上を目的にしたイベント給食など実施していた。今年度は、整形外科治療で長期入院となる患者さんを対象に年齢別（幼児、学童、中学生以上）に分けて栄養バランスのよい食事についての集団栄養指導を実施した。

2. 栄養サポートチーム（NST: Nutrition Support Team）

当院の NST は、2014 年度に立ち上げた。2017 年度より日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST 実施施設」

に認定されている。

その他

1. 教育に関すること

2016 年度より、管理栄養士養成施設の実習生を受け入れている。管理栄養士として必要な知識および技術が系統的に習得出来るカリキュラムであることはもちろんであるが、東北で唯一のこども病院であるため、その特色を活かした内容としている。

おわりに

今年度は、コロナウイルス以前のような状況に戻りつつあるものの再開に至っていない業務も少なくない一年であった。

今後も業務の効率化や体制の見直し等を図り、患者さんにより良い医療の提供を推進していきたいと考える。

（日野美代子）

## 臨床工学部

2023年度は臨床工学技士4名体制でスタートしたが、下半期に1名増員となり5名で業務を行った。本館3階病棟リカバリー室工事に伴う対応準備なども含め、医療機器の保守・管理を行った。

### 〈ME 機器保守管理業務〉

特定保守管理医療機器（人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、除細動器など）の分解点検を継続実施し、各種ポンプは専用チェッカーを用いて詳細な点検を実施した。

3階病棟リカバリー室において窒素ガス壁配管の増設工事があった。低酸素療法実施時に壁配管から安全に窒素ガスを取り出す必要があり、準備をモニタリング装置も含め臨床工学部主体で取り組んだ。

PICUの部門システムであるACSYSが更新となり、各種生命維持管理装置（人工呼吸器・血液浄化装置・補助循環装置）のデータを自動記録するための支援を行い、運用を開始することができた。

昨年度に引き続き院内各部署で使用している体外式陰圧人工呼吸器（RTX）・血液浄化装置を使用状況に応じてレンタル管理とすることにより運用コストを抑えることができた。

医療機器に関する説明会を現場からの要望時に実施した。

### 〈人工心肺業務〉

2023年度は心臓血管外科手術における人工心肺を用いた症例は111件で、体外循環技術認定士の3名を含め4名体制で実施した。体外循環回路の低侵襲化実現のため、新たな人工肺・リザーバを運用し良好な結果が得られた。

2023年度業務件数

業務区分	業務内容	件数
ME 機器 管理業務	輸液ポンプ（点検）	2,557
	シリンジポンプ（点検）	2,120
	人工呼吸器（使用前点検）	358
	人工呼吸器（使用中点検）	2,160
	輸液ポンプ（修理）	2
	シリンジポンプ（修理）	2
	人工呼吸器（修理）	2
血液浄化療法	持続的血液濾過透析療法（CHDF）	93
	血液透析（HD）	0
	血漿交換（PE）	12
	直接血液吸着（DHP）	0
体外循環業務	開心術人工心肺	111
	体外式心肺補助療法（V-A ECMO）	4
	体外式肺補助療法（V-V ECMO）	1

### 〈補助循環業務〉

体外式心肺補助療法施行症例（V-A ECMO）は、心臓血管外科の術後LOS3症例・集中治療科の心筋炎1症例であった。術後LOSの1症例はV-AからV-V ECMOに変更となりその後ECMOを離脱した。全症例血液浄化療法を併用し、治療中は回路充填や開始・終了時の介助・アラーム対応と記録を行った。

### 〈血液浄化業務〉

持続的血液濾過透析療法は術後急性腎不全が3症例、V-A ECMOに付随で4症例、その他5症例だった。血漿交換はウイルス感染後急性脳症の2症例・肝不全1症例・ヘモクロマトーシス1症例だった。

治療中はプライミング、開始・終了時の介助、アラーム対応と記録を行った。

（布施 雅彦）

## リハビリテーション・発達支援部

### 理学療法部門

2023年度は、PT常勤12名、有期雇用職員2名の体制で業務を実施した。

#### 1 入院

##### ① 本館

2023年度から早産低出生体重児の発達評価・支援、先天性心疾患やダウン症の乳児期からの発達支援を、

新生児科と直接連携するようになった。PICUでは早期離床・リハビリテーションのプロトコールを使用した日々の情報共有が定着し、より一層早期から離床プログラムに取り組むようになっている。消化器疾患による痛みや食事制限の中で生じた廃用症候群への対応も増えている。体力面への対応のみならず、精神面への配慮も苦慮しながら対応した。

## ② 拓桃館

拓桃館2階では、本館や他院で急性期を経過した後の機能回復および在宅移行支援に多く対応した。また、親子入院では他職種と共にこどもの発達支援やと家族支援を実施した。

拓桃館3階では、整形外科術後患者の理学療法やリハビリ目的入院患者への理学療法を実施、また患者会や病棟勉強会に参加した。SDRの術中評価から術後機能訓練を担当した。

## 2 外来

部内勉強会で主に外来対応の指針となる疾患別理学療法ガイドラインをまとめた。

訪問リハビリテーションとの連携や成人移行についても継続課題である。

## 3 治験等

Duchenne型筋ジストロフィー症の運動評価治験を実施している。

## 4 最後に

当院におけるリハ対象疾患やリハニーズの変化、地域資源の変化、小児理学療法の評価方法やアプローチの変化、さらにスタッフの働き方の変化等めまぐるしい状況である。理学療法をとりまく様々な変化に適応していくことの難しさや必要性を感じた1年であった。

(松田由紀子)

## 作業療法部門

2023年度の作業療法部門は8名の職員が在籍しているが、長期不在者が2名おり、年度途中で1年間の任期で1名が採用され、7名で療法を実施していた。2023年度は2022年度に比較し、外来実施件数は横ばいであったが、入院実施件数は3割程度の増加となった。入院件数が増加した要因として本館と拓桃館で分けると、次のことが考えられる。

本館では「急性期の対応件数の増加」「NICU/GCU対応職員の増員」「NICU/GCUの赤ちゃんへの介入方法の拡充」がみられた。本館入院患者を主に対応する作業療法士を1名増員し2名体制にした。また作業療法の専門性を活かすため、介入方法の拡充も行った。特に新生児が入院しているNICU/GCUでは、赤ちゃんへ対して発達と育児支援へ力を入れるようになった。このフォローアップ体制は退院し外来へ移行された後も継続的に行われ、発達の偏りや傾向へ対し早期に介入することが可能となっている。発達の状態によっては、個別療法へ切り替えての対応も行われている。

NICU/GCUへの職員配置について、2024年度以降は更に1名追加し3名体制での対応も検討している。

拓桃館では「本館からの脳症関連の回復期対応件数の増加」がみられている。本館から拓桃館への移動以外にも他院からの転院患者が増え、回復期の機能向上から在宅移行へ対応している。高次脳機能障害へ対する作業療法部門の評価項目や検査機器について、十分とはいえない状況であることが今後の検討課題となっている。小児向けに改良されたCI療法やHABITを目的にした2週間のプログラムについても昨年度同様に継続して実施された。小児片麻痺患者への取り組みとして行っている小児向けCI療法、HABITについて、AHAの評価と治療プログラムの導入も2024年度以降に予定している。

外来処方数に関しては、2022年度に発達診療科の診療体制が変更されたことで減少していたが、神経科、新生児科からの処方件数が増えたことで増加傾向にある。発達障害関連の処方数は減少しているが、NICUからのフォローアップ体制拡充、急性期～回復期での入院対応が終了した患者が外来へ移行したことも関係している。

作業療法についての情報発信として院内設置、ホームページ添付を行っている分野別のリーフレットについては、県内外からの問い合わせが引き続きみられている。家庭内で親子が行える感覚統合理論に基づく遊びの紹介として作成した「おうちでできるリハビリあそび」、手の使い方や道具の使い方に対する生活内で利用できる遊びや道具の工夫について紹介した「そだちをうながすせいかつと遊び」「できるをたすけるやさしい自助具+生活編」「できるをたすける自助具+学習編」が現在紹介されているものであるが、新たに片麻痺のお子さんを想定した「おうちでできるりょうてあそび」の4種を準備している。この新たなシリーズは、麻痺手へ対するネガティブなイメージを持たずに楽しく生活内で両手遊びを促していくことを目指としている。2023年度の公開には間に合わなかったが、2024年度の公開を目指し準備を進めている。

(篠澤 俊)

## 言語聴覚療法部門

2023年度の言語聴覚療法部門の体制は、計6名(内、耳鼻科対応非常勤1名)で療法に対応し、2022年度と同様に感染予防策を十分に行った中で療法を実施した。院内の感染対策上マスク下ではあったが、楽しい

コミュニケーションや安全な食事に繋がるための工夫を模索しながら療法を行った。

2023年度の処方数は、外来115件、入院105件計220件であった。処方の主訴には、食べること（摂食嚥下機能）に関する相談が多く聞かれたが、2022年度に比べコミュニケーションの相談も増加してきている。「食べること」に関しては、「偏食」や「離乳食が進まない」といった相談が多く、他には成長に伴う摂食嚥下機能に対する評価の依頼もあった。

養育者にとってこどもが「食べない」ことは焦りや不安につながり、また「食べる」行為は、準備～食べる時間～片付けなど生活全般の多くを占めることから、問題を少しでも早く解決することが望ましい。しかし、医療ケアや治療によって思うように進まないことも多く養育者の悩みは計り知れない。我々は時に療法以外の時間を使って、養育者からの電話相談に応じたり、入院中の食事や関わりの相談に応じたりもしている。

「食べる」ことの支援には様々な視点が必要であり、我々は食べることと同時に、コミュニケーションにもアプローチをしながら療法を行っている。こどもの食べる力を育むことは、認知・コミュニケーションの発達を促進することにもつながり、養育者の想いなども受け取りながら我々は介入している。個々のライフステージ、疾患、生活環境によっても対応が異なってくることから我々のアプローチには今後も様々な視点や対応が望まれている。

偏食に関しては、当院では行動療法を取り入れて対

応している。外来・入院ともに他職種アプローチを行っている。食べられなかったこどもが食べられるものが増え、養育者とともに笑顔で退院された時は感慨深いものがある。

言語聴覚士の仕事は食べること、話すこと、聞くことにまつわることが中心ではあるが、小児領域においてはこどもだけでなく、養育者の考えや環境などが大きく影響することがある。そういったこどもと養育者との関係性も考慮しながら、当院の言語聴覚士は、療法という限られた時間だけでなく、療法に至るまでの準備や関係各所への調整などに時間を費やすことも少なくない。この過程も大事にしており、当院にこられたこどもと養育者にとって安心し、こどもの発達につながる療育となるよう我々は日々心がけている。

言語聴覚療法他に耳鼻咽喉科外来にて聴力検査などの業務も行っている。（週2日午後）

2023年度の聴力検査実数は273件であった。個々の発達に合わせた聴力検査を実施するだけでなく、前回の検査からの言語面での変化や聞こえの様子、お家での遊びの様子などもうかがい、検査場面ではみえないところも確認している。また、耳鼻科医の処置がスムーズに行われるように、おこさんに合わせて絵カードを提示するといった次の行程をお伝えする工夫をしている。

例年、外部専門家として支援学校に行っていたが、2023年度は1校のみの対応であった。

（阿部 由香）

## 診療支援部

### 歯科衛生士

はじめに

2023年度は、常勤歯科衛生士4名、非常勤歯科衛生士1名、合わせて5名で業務にあたった。

業務内容

主な業務内容は通年同様、歯科外来診療における診療補助、フッ化物塗布や機械的歯面清掃などの予防処置や保健指導、全身麻酔下での歯科診療に際しての手術室での診療介助や器材準備・後片付けなどである。また、以前より取り組んでいる①長期的かつ定期的な口腔内所見や写真などのデータ収集、②化学療法や造血幹細胞移植における粘膜炎予防対策のための血液腫瘍科入院患者の病棟往診、③長期入院患者や

在宅療養に向けての口腔ケア指導、④唇顎口蓋裂患児を中心とした周術期口腔管理、④NSTメンバーの一員としての口腔衛生管理などを継続して行った。

業務実績

業務実績は別表の通りである。昨年度と比較すると、口腔衛生指導：973件減、診療補助：523件増、手術室での診療補助：2件減、延べ患者数は452件減となった。

今年度も、成人移行に伴い歯科受診患者にもご協力いただき、東北大学病院や福祉プラザに併設される在宅訪問・障害者・休日夜間歯科診療所および地域歯科医院などへ移行した。口腔衛生指導の大幅な減少は、これらの定期メンテナンス患者が移行したことに伴う減少と考えられる。また、診療補助の増加は新型コ

表

月	指導	介補	全麻	合計
4	529	183	8	720
5	455	157	5	617
6	547	145	8	700
7	390	168	9	567
8	171	684	12	867
9	579	162	10	751
10	500	174	7	681
11	443	163	3	609
12	623	156	7	786
1	500	157	10	667
2	470	175	7	652
3	676	186	10	872
合計	5,883	2,510	96	8,489

コロナウイルス感染拡大により受診が滞っていた患者のう蝕治療の増加も影響していると考えられた。

#### 教育・研究実績

学生教育としては、新型コロナウイルス感染拡大後初めて仙台青葉学院短期大学の実習を受け入れた。

研究活動としては、日本障害者歯科学会や日本摂食嚥下リハビリテーション学会および東北障害者歯科臨床研修会などに参加した。また、宮城県歯科医師会主催にて行われた要介護者及び障害児・者の口腔ケア支援者研修会や保育心理士養成講座において講演・講義をおこなった。

#### おわりに

今年度は、産休育休を取得していたスタッフが復帰したことで、人員不足が解消し他スタッフの負担も緩和されゆとりを持って業務にあたることが可能となった。院内の成人移行の取り組みに伴い、コロナ禍での診療制限を行った年度を除いて初めて延べ患者数が減少した。しかし、口腔衛生指導は大幅な増加をしており、患者家族の関心の高さと家庭で十分なケアを行うことが難しい患児に対しての支援の重要性を痛感する一年となった。様々な元疾患から多様な背景を有する患児らの口腔内の状況や変かに対応できるよう、多職種間の連携とコミュニケーションを図り、各々のスキルの向上に務めていきたい。また、慣れ親しんだ当院歯科から成人移行に伴い新しい移行先へ通院を行う患者や家族のみならず、移行先スタッフも安全に安心して受入れが行えるよう環境を整えていきたいと考えている。

(谷地 美貴)

#### 視能訓練士

2023年度は週4回の外来診療、週1回の新生児病棟往診、診察日に合わせて非常勤眼科医師が各1名ずつ5名、常勤視能訓練士1名で外来業務にあたった。

視能訓練士の業務内容は、①外来業務に関する眼科検査・検査介助・準備、②病棟往診に関する検査介助・準備、③眼科診療、予約に関しての電話対応・相談、④弱視訓練に関しての情報提供、⑤ロービジョンケア情報提供、⑥教育および研究等である。

2023年度の視能訓練士が行った主な検査件数を表1に示す。

のべ検査総数5,607件のうち2,484件が視力検査であった。自覚的検査である視力検査は、患児の体調や気分によって結果が変わることがある。特に小児の場合は検査に対する集中力が短く、検査への協力が得られないこともある。そのため当院では患児に合わせて何種類かの視力検査を組み合わせ、見る力がどのくらいあるのかを総合的に評価した。また落ち着いて検査できるような環境を整えた。

2023年度の検査以外の患者対応件数を表2に示す。

のべ1,216件の対応のうち769件が予約に関する事であった。2021年度より週4日の外来日に戻り、予約が取りにくい状態が解消したかに思われたが時間の経過とともにまた予約が取りにくい状態が続いている。表1からもわかるように眼科は自科検査が多く、診察までにいくつかの過程があり、一度に予約できる人数に限界がある。また、眼科医が非常勤であるため診療時間が限られる。予約が本来の人数を超過している日が続くうえに、検査が多いことで患者待ち時間が発生しやすく、今後の課題となるであろう。

教育及び研究としては、東北文化学園専門学校視能訓練士科より見学実習3名の学生を受け入れた。また、宮城県立視覚支援学校へ外部専門家として赴き、教員や児童生徒に対し眼疾患、視機能についての説明や助言を行った。宮城教育大学では「視覚障害へ教育支援B」の招へい講師として授業を行った。

眼科医が非常勤であるため、視能訓練士ができる活動も制限があるが、当院他部署や他施設と連携をとりながら円滑な外来診療を行い、視能訓練士の業務を遂行したい。

(太田 五月)

表1 2023年度検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
屈折検査（調節麻痺剤なし）	137	133	138	144	154	137	144	133	141	129	131	169	1,690
屈折検査（調節麻痺剤あり）	22	17	25	19	21	21	28	21	17	25	18	24	258
角膜曲率半径計測	4	1	1	1	4	3	2	4	3	2	3	4	32
視力検査（遠見：ランドルト環）	84	81	90	102	117	89	97	76	93	85	85	111	1,110
視力検査（遠見：絵視標）	20	9	20	13	13	10	13	25	16	13	18	13	183
視力検査（近見：dot card）	15	7	14	14	12	11	11	17	20	20	16	19	176
視力検査（近見：ランドルト環）	42	31	36	40	56	26	36	32	43	32	43	45	462
視力検査（テラーアキュイティーカード）	45	56	38	53	34	51	43	47	49	43	40	54	553
行動観察	2	3	3	1	3	1	3	1	1	3	3		24
眼鏡練習	3	1	1	3	1	1	1	2	2	3	2	3	23
眼圧測定	54	67	69	60	57	71	81	62	67	53	51	81	773
ゴールドマン視野検査	1	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	6
ハンフリー視野検査	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	2	2	9
眼位検査	9	3	5	10	18	6	1	8	13	6	8	12	99
立体視検査	11	2	5	3	9	4	5	8	1	2	9	3	62
色覚検査	2	1	0	2	3	1	2	0	3	1	1	0	16
顔写真	10	10	5	10	12	12	18	12	14	12	8	8	131
合計	461	422	451	475	516	446	486	449	485	430	438	548	5,607

表2 2023年度患者対応件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
再来予約登録	27	35	50	35	18	18	28	27	26	23	25	13	325
再来予約変更	25	24	33	23	19	27	36	33	2	37	26	33	318
再来予約取消	7	9	9	12	7	9	17	8	13	9	10	16	126
当日受診	5	8	4	6	0	3	6	1	1	1	3	0	38
新患問い合わせ	15	15	17	12	9	11	12	9	9	6	17	5	137
その他	27	19	32	23	21	9	15	22	24	19	26	35	272
合計	106	110	145	111	74	77	114	100	75	95	107	102	1,216

## 第5章 医療情報部

### 診療情報室

#### 1. はじめに

診療情報室は、診療録管理、カルテ監査、カルテ開示、統計業務、DPC 調査データの作成などの業務を担っている。また、データウェアハウス（DWH）を活用したツールの作成などを通じた業務マネジメントにも積極的に取り組んでいる。

#### 2. 2023 年度対応実績

9月に新バージョンの病院機能評価を受審し、特に新設されたカルテレビューに対して、診療情報室が受審準備から対応までを効果的にサポートした。

審査前の準備では、DWH を活用し、審査対象となる患者リストを効率的に抽出した。審査時には病院機能評価資料集に記載された確認ポイントの記録を提示する必要があり、DWH を活用することでその要素を多く含むカルテを選定することができた。

また、診療部、看護部、および他の関連部署と連携し事前のシミュレーションを行い、当日に備えた。

審査当日は記録の迅速な提示が求められ、DWH の活用が非常に役立った。DWH を活用したツールを作成し、電子カルテ内の同意書などの記録の場所と日付情報をリスト印刷し、効率的に把握できるようにした。また、医師記録、看護記録、インフォームド・コンセント記録、多職種によるカンファレンス記録などの記事タイトルが付いている記録については、リスト化ではなく電子カルテ上で検索条件を設定し、ボタン一つで時系列に参照可能にした。この工夫により、時間内に要求されたすべての記録を迅速かつ正確に提示し、審査にスムーズに対応することができた。

#### 3. 次年度に向けて

今回のカルテレビューへの対応を振り返り、いくつかの記録に課題点があることがわかった。その原因の一つとして、紙カルテ時代から変化していない既存の量的監査項目と評価方法が、電子カルテに適用していないことが挙げられる。次年度は、DWH の活用実績を活かしつつ、より適切で効果的な監査手法を検討・確立させ、カルテの質を向上させる取り組みを進めていきたい。

(高橋 礼奈)

### 情報システム管理室

#### 1. はじめに

電子カルテシステムをはじめとする第三次医療情報システムも稼働開始から4年が経過し、各種システムの安定した稼働の確保が重要となっている。昨今、医療機関におけるランサムウェアによるサイバー攻撃被害が報告されていることから、保有する医療情報の安全を確保するため「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」等に基づき、必要な対策を講じることが強く求められている。

#### 2. 2023 年度対応実績

サイバー攻撃を踏まえた情報セキュリティ対策として、院内パソコン等のウイルス対策ソフトの最新バージョンへの更新を行った。また、電子カルテのパスワードを13桁以上にするなど、更なるセキュリティ対策の強化を図った。

サーバ室においては、今なお電源逼迫の状況にあることから、可能な範囲で仮想サーバを導入した。今後とも、導入予定のシステムについては、仮想サーバも含めた効果的かつ計画的な導入を検討していく。

昨年度に引き続き、電子カルテバージョンアップ（R7.0 → R7.2.3）に向けて、機能選択等に係る院内調整を行い、大過なく切り換えを行った。

情報システム管理委員会では、アクセス制限状況等を説明し、必要のないサイト閲覧等を行わないなど情報セキュリティへの意識醸成や、ベンダーと連携し、電子カルテの効率的な運用に向けた協議等を適時・適切に行った。

#### 3. 次年度に向けて

今後、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」改訂があった場合は、ガイドラインに準拠した職員の情報リテラシー向上も含めセキュリティ対策強化に努める。

また、情報系非常用電源の更新を予定していることから、電子カルテ等の停止を必要最小限にしながら、的確に対応していく。

(伊澤 英徳)

## 第6章 地域医療連携室

2023年度は地域医療連携室の業務を地域医療連携室長ほか、職員2名、有期雇用職員2名（2023年12月まで1名・2024年1月から2名）、委託職員2名の体制で行った。

### 1 診療等受付業務

新患・再診の予約受付に予約変更、受診報告書・診療情報提供書等の発送、他医療機関への診療申込、その他の電話やEメールの対応業務の総計は49,009件（前年度53,371件）であった。

外来の新患受付対応件数は3,611件（前年度3,773人）で前年度に引き続き減少傾向にあった。再診の予約や変更対応件数も減少したが、要因としてはコロナ禍の特例措置であった電話診療の対応が7月31日をもって終了したことにより、通常診療からの変更の問い合わせが減少したことが考えられる。

セカンドオピニオンの申込については、県外からの問い合わせが大半を占めており、実施に至ったのは8

件（前年度4件）で、保険診療による対応は5件（前年度0件）であった。他医療機関へのセカンドオピニオン申込については3件であった。

また予てより毎月、紹介元医療機関への受診報告書については診療科毎の未作成リストを各診療科に届けていたが、今年度から、それに加えて各診療科毎の進捗状況をグラフにより可視化して報告する取り組みを行い、患者の治療等について、より速やかな報告ができるよう努めた。

その他、当院への電話取り次ぎ混雑緩和のため、7月1日よりナビダイヤルが導入されたが、地域医療連携室としては、関係医療機関には従来の直通電話番号を、患者・ご家族にはナビダイヤルをお使いいただくよう周知し、大きなトラブルなく運用された。

### 2 紹介患者数と紹介率

令和5年度の紹介患者総数は前年度と大差なく4,404人（前年度4,409人）であった。紹介患者総数

表1. 2023年度 地域医療連携室内業務年報

（単位：件数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
新患受付	電話	医師	10	20	14	11	10	6	16	10	2	7	8	14	128
		患者	77	60	64	50	54	53	56	65	56	65	64	64	728
	FAX	医療機関	226	236	271	226	188	223	228	190	226	234	233	274	2,755
	計		313	316	349	287	252	282	300	265	284	306	305	352	3,611
	補足・変更・取消		42	43	56	47	33	32	44	40	43	52	41	37	510
計		355	359	405	334	285	314	344	305	327	358	346	389	4,121	
再診	予約	228	315	259	263	248	256	264	236	238	317	290	255	3,169	
	変更・取消	948	972	1,048	1,113	1,085	1,162	1,141	1,028	1,031	1,151	1,047	1,240	12,966	
計		1,176	1,287	1,307	1,376	1,333	1,418	1,405	1,264	1,269	1,468	1,337	1,495	16,135	
診療情報提供・受診報告書等出力・発送		407	446	445	403	451	388	392	412	376	431	367	429	4,947	
その他の発送		35	21	39	33	36	35	49	32	29	34	36	26	405	
計		442	467	484	436	487	423	441	444	405	465	403	455	5,352	
他院への紹介・予約		75	44	49	51	55	61	43	44	40	43	63	110	678	
電話対応件数		1,406	1,327	1,518	1,437	1,414	1,375	1,461	1,336	1,307	1,392	1,313	1,543	16,829	
メール対応件数		60	43	44	66	13	40	86	61	40	91	80	42	666	
セカンドオピニオン対応件数		2	0	0	2	1	0	4	2	0	4	1	2	18	
計		1,543	1,414	1,611	1,556	1,483	1,476	1,594	1,443	1,387	1,530	1,457	1,697	18,191	
ショートステイ事務対応		42	25	43	46	48	40	47	31	38	29	51	44	484	
訪問看護報告書整理		385	363	406	388	374	410	405	416	429	356	375	419	4,726	
計		427	388	449	434	422	450	452	447	467	385	426	463	5,210	
合計		3,943	3,915	4,256	4,136	4,010	4,081	4,236	3,903	3,855	4,206	3,969	4,499	49,009	

を医療機関地域別に分類したところ、宮城県の紹介患者数は3,686人で、宮城県以外は718人であった。宮城県を除く紹介率の比較的多い東北の5県では、紹介者件数は山形県が最も多く、続いて福島県、青森県、岩手県、秋田県の順となった。東北以外からの紹介患者数は北海道から沖縄までの広い範囲で182人であった。

紹介率（地域医療支援病院紹介率）は前年度同期と比べ、3.5ポイント高い95.3%（前年度91.8%）、逆紹介率は7.2ポイント低い49.0%（前年度56.2%）となった。

### 3 地域医療支援病院関連業務

未登録の医療機関からの患者紹介実績を基に、近隣や紹介数が多い医療機関に登録勧奨を行い紹介患者の増加に努めた。新規で13医療機関、20人の医師の登録、閉院や退職等による辞退の申し出が17医療機関、36人の医師よりあり、登録医療機関670機関、登録医師894人となった。

登録医や関係医療機関への診療体制や研修会開催のご案内についてはEメールでの連絡を主とし、タイムリーな情報を発信するよう努めた。

また、医療連携の質向上に向け、地域医療連携業務の見直しと効率化を図ることを目的としたアンケート調査（3年に1回実施）を従来のアンケート調査用紙送付に加え、WEBフォームを活用して実施した。また、あわせてアンケート調査用紙送付対象者にはメールアドレスの登録を依頼し、Eメールを活用した連絡の浸透に努めた。

診療案内は2023年度版を作成、当院の診療機能や患者紹介方法について登録医療機関や小児・周産期医療を担う関係医療機関の医師に発信した。登録医療機関への発送は、より多くの先生方の手元に届けたい意向もあり従来の登録医療機関宛から登録医宛に変更した。

なお、10月末には病院長と実務担当者で青森県内の5医療機関を訪問した。医療連携の強化を目的としたプレゼンテーションと意見交換を行った。

東北唯一の小児・周産期専門医療機関として、地方等の医療機関の医師からの診断・治療などの相談について、当院の専門診療科医師と検討や意見交換を行う「オンライン症例カンファレンス」においては、青森・秋田・山形県の医療機関より申し込みがあり5症例について対応した。

地域医療支援病院としての認定要件である年12回

令和5年度 地域別紹介患者数

医療圏	県内		県外	
	地域	患者数（人）	地域	患者数（人）
仙台	青葉区	1,161	山形県	183
	太白区	521	福島県	124
	泉区	363	青森県	99
	宮城野区	282	岩手県	90
	富谷市	141	東京都	53
	岩沼市	178	秋田県	40
	若林区	144	埼玉県	22
	名取市	105	神奈川県	12
	塩竈市	62	千葉県	11
	多賀城市	60	北海道	11
	黒川郡	20	兵庫県	7
	宮城郡	32	栃木県	7
亘理郡	18	静岡県	7	
仙南	柴田郡	113	新潟県	6
	白石市	27	京都府	6
	伊具郡	1	愛知県	5
	刈田郡	0	茨城県	5
	角田市	5	岡山県	5
大崎・栗原	大崎市	189	福岡県	4
	栗原市	7	沖縄県	4
	加美郡	6	岐阜県	3
	遠田郡	3	熊本県	3
石巻・登米・気仙沼	石巻市	149	群馬県	2
	登米市	49	長野県	2
	気仙沼市	36	富山県	1
	東松島市	13	大阪府	1
	本吉郡	1	広島県	1
	牡鹿郡	0	徳島県	1
			山口県	1
			香川県	1
			高知県	1
計		3,686	計	718
総計				4,404

県内・県外紹介比率	
宮城県内	83.7%
県外（東北5県）	12.2%
県外（東北以外）	4.1%

以上の研修会開催については、すべてZoomウェビナーを活用したオンライン形式（ハイブリッド開催含む）により、計18回（前年度19回）開催した。そのうち地域医療連携室独自の研修会として開催しているオンライン「月イチセミナー」は9回開催し、各診療科の診療内容の紹介や患者紹介の目安に加え、診療の

ポイント、専門領域のトピックス、診療ガイドライン等を発信した。県外からの参加者やリピーターも増えつつあり、予てより要望のあったオンデマンド配信についても、講師の承諾が得られた場合に限り実施した。

研修会の一環として交流会を兼ねて開催している「七夕の集い」は、15回目となる今年度も7月12日

にオンライン形式により講演会のみ行った。

令和5年度の研修会の参加者総数は2,845人（前年度2,830人）、院外からの参加者は1,140人（前年度1,205人）、そのうち医師・歯科医師501人、その他医療従事者639人であった。

（江川 真理）

## 第7章 事務部

宮城県立こども病院（以下「当院」という。）は、2003年11月に開院し、2006年4月には、地方独立行政法人宮城県立こども病院に移行。第1期及び第2期中期計画期間を通し、小児専門医をはじめ看護師等関係職員の確保に努め、診療事業の充実を図ってきた。

第3期中期計画（2014～2017年度）期間内には、2016年3月に、宮城県内における小児リハビリテーションの中核であった宮城県拓桃医療療育センター（以下「センター」という。）の移転により当院との完全統合がなされた。当院が開院当初から担ってきた小児周産期・高度専門医療にセンターが統合されたことにより、小児・周産期の急性期から慢性期、リハビリテーション、在宅医療までを一貫して担う医療・福祉施設としての新たなスタートを切り、今日まで患者・家族の皆様の視点に立った安全で質の高い医療及び療育サービスの提供を行っている。

第4期中期計画（2018～2021年度）期間内には、2018年度に院内保育所が開所し、職員の就労環境の向上につなげた。2019年度後半以降は新型コロナウイルス感染症の入院医療機関、診療・検査機関として役割を果たしつつ、従来の医療・療育の維持に努めた。

2023年5月、新型コロナウイルス感染症の5類移行による転換期を迎えたことにより、当院本来の役割である地域の小児医療・療育を守り継続することへ重点をシフトした。小児の疾病構造の変化に伴い必要度が高まっている医療的ケア、在宅医療、成人移行支援等に取り組んでいる。

### 1. 宮城県による業務実績評価

第5期中期計画（2022～2025年度）の2023年度業務実績に対し、宮城県から別表のとおり評価を受けた。業務実績全般の評価は次のとおり。

「新型コロナウイルス感染症の5類移行後、感染リスク管理に配慮しながら徐々に平時の活動を再開し、小児高度専門病院として高度で専門的な医療に取り組むとともに、総合的な療育サービスの提供などに取り組んだことは評価できる。

少子化の進展など、こども病院を取り巻く環境が変化し、難しい病院経営が求められる中、業務運営の見直しなどによる収支改善に更に取り組むとともに、第5期中期計画に基づき、継続的に安定して良質な医療が今後も提供されることを期待する。」

### 2. 経営収支

《2023年度の収支－予算対比》

医業収益は、67.64億円で予算を2.24億円下回り、医業費用は101.36億円で予算を0.14億円上回った。この結果、医業収支は▲33.7億円となり、予算に対し2.38億円の減となった。医業収支比率は予算に対し2.3ポイント下回り、66.7%だった。

営業外収益は2.60億円で、予算を990万円下回り、営業外費用は3.79億円で、予算を340万円上回った。この結果、営業外収支は▲1.19億円となり、予算に対し1,330万円の減となった。経常収支は▲7.41億円で、予算に対し1.25億円の減となった。経常収支比率は予算に対し1.1ポイント下回り、93.4%だった。

《前年度対比》

入院収益については、延入院患者数が前年度より増加したが、前年度実施された高額医薬品を用いた治療の影響や、手術件数の減少等により、前年度と比べ0.82億円減となった。病床利用率は前年度より1.2ポイント上回る66.8%で、コロナ禍前の令和元年度に比べ7.5ポイント減となった。外来収益については、延外来患者数が減少し、さらに高額医薬品を使用した治療件数の減少により、注射料は前年度と比べ0.3億円減少した。

また、補助金収益については、新型コロナウイルス感染症に関連した補助金の交付額が大幅に減少し、前年度よりも4.55億円減少し、1.49億円となった。

一方、医業費用については、職員数の増加や勤務管理システム導入に伴う時間外手当の増加などにより給与費が増加、高額医薬品使用本数の減少による薬品費の減少などにより、前年度よりも1.49億円増となった。この結果、医業収支は前年度対比で2.31億円の減となり、医業収支比率は前年度を1.7ポイント下回った。

営業外収支については、医事紛争に伴う示談金及びこれに対応する受取保険金を計上しており、前年度より1.34億円減となった。この結果、経常収支は前年度対比7.53億円の減となり、経常収支比率は前年度を6.6ポイント下回った。

### 3. 主な業務の取組状況

(1) 収益の確保について

DPCマネジメントチーム及び院内委員会において、診療部、看護部を始め、組織横断的に各部署の職員が

連携して、新規及び既存の診療報酬、障害福祉サービス等の報酬算定の可能性を検討し、その導入と維持に取り組んだ。

(2) 業務運営コストの節減等について

① 医薬品費については、不用品目の院内採用見直し、見積合わせによる競争性の強化、ベンチマーク等を活用した全品目の値引き交渉、在庫の圧縮、院外処方の推進等を実施するとともに、信頼性の確保や供給の問題が少ない後発医薬品を積極的に採用するなど、経費の節減に努めた。

② 診療材料費については、一括調達方式によりスケールメリットを生かした価格交渉を実施した。また、取扱い品目の同種同効品の整理、取扱い品目の見直し、在庫圧縮等を実施し、経費の節減に努めた。

③ 業務委託については、物価高騰や賃上げによる影響から委託費が増加の傾向にあり、仕様内容の適正化や、一般競争入札による競争性の確保で委託費の低減を図った。また、施設・設備については、安全の確保及び良好な環境の維持のために適切に管理するとともに、予防保全の観点から中期修繕計画等に基づき計

画的に修繕を行い、ライフサイクルコストの低減を図った。

(3) 医師の働き方改革について

2024年4月、医師の働き方改革の新制度（医師に対する時間外・休日労働の上限規制、連続勤務時間の制限など）が施行される。

その円滑な移行に向けて、2023年2月、「働き方改革推進委員会」を設置し、医師の勤務状況の把握、負担軽減の検討などを進めた。

8月には「医師労働時間短縮計画」を作成し、医療機関勤務環境評価センターの審査を受け、一部診療科において特定地域医療提供機関（B水準）の指定を受けた。

また、一般当直と産科当直の宿日直許可を取得したほか、一部診療科においてフレックスタイム制の導入を進めるため、試行を行った。

医師の働き方改革を通じた健康確保や能力発揮、ひいてはよりよい医療の提供に向けて、引き続き取り組む必要がある。

(佐藤 達哉)

(別表) 宮城県による業務実績評価

項目	2023年度 (令和5年度)
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 診療事業及び福祉事業 (1) 質の高い医療・療育の提供 (2) 地域への貢献 (3) 患者・家族の視点に立った医療・療育の提供 (4) 患者が安心できる医療・療育の提供 2 療育支援事業 3 成育支援事業 4 臨床研究事業 5 教育研修事業 6 災害時等における活動	A B B B B A A A
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 効率的な業務運営体制の確立 2 業務運営の見直し及び効率化による収支改善	B B
第3 予算、収支計画及び資金計画 第4 短期借入金の限度額 第5 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画 第6 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 第7 剰余金の使途 第8 積立金の処分に関する計画	C
第9 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 人事に関する計画 2 職員の就労環境の整備 3 情報セキュリティ対策に関する計画 4 医療機器・施設整備に関する計画	B A B B

<宮城県の判定基準>

<p><b>[S]</b>：当該法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が110%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合、又は量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が100%以上で、かつ困難度が「高」とされており、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合</li> <li>・ 量的指標で評価できない項目についてはS評価なし</li> </ul>
<p><b>[A]</b>：当該法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が110%以上、又は量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が100%以上で、かつ困難度が「高」とされている場合</li> <li>・ 量的指標がない項目においては目標の水準を上回る場合</li> </ul>
<p><b>[B]</b>：中期計画における所期の目標を達成していると認められる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の100%以上</li> <li>・ 量的指標がない項目においては目標の水準を満たしている場合（「A」に該当する事項を除く）</li> </ul>
<p><b>[C]</b>：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%以上100%未満</li> <li>・ 量的指標がない項目においては目標の水準を満たしていない場合（「D」に該当する事項を除く）</li> </ul>
<p><b>[D]</b>：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%未満、又は業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認められる場合</li> <li>・ 量的指標がない項目においては目標の水準を満たしておらず、業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認められる場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要な場合</li> </ul>

## 第8章 成育支援部門

### 成育支援局

成育支援部門に様々な専門職を配置し、隣接する宮城県立拓桃支援学校及びドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいと協力して、以下4つの項目について活動した。

#### (1) 成育支援体制の充実

成育支援に係る日ごろの実践内容を評価するとともに、各々が専門職として必要な研修や学会・研究会にオンライン等も活用して積極的に参加しながら経験を蓄積し技量の向上に努めた。また、実習生の依頼を受け入れ、認定遺伝カウンセラー、子ども療養支援士、医療ソーシャルワーカー、心理士らが対応した。今年度は上席主任4名、主任8名を含む32名の職員で体制で活動した。

#### (2) こどもの成長・発達への支援

こどもが自分らしい生活を送り、望ましい成長・発達を促せるように支援を行った。病院行事については、病棟ごとの特色に合わせた内容を企画・運営し、四季を感じ病棟生活に彩りを与えられるよう環境づくりを行った。余暇時間の充実、こどもの要望を聞きながら生活ルールの見直しやイベント等を行った。病院訪問は10件実施した。

今年度はこども病院芸術祭を4年ぶりに開催して、患者・家族や職員、ボランティア、拓桃支援学校生徒の作品を愛子ホールに展示した。どれも素晴らしい作品でアンケートでも好評であった。さらに多彩な行事としては、こども病院開院20周年記念として介助犬2頭の慰問、クリスマス行事では、本館の「まほうの広場」で「クリスマスプロジェクションマッピング in こども病院」を開催した。様々な企業や個人の方にご支援・ご寄付をいただきイベント時にはプレゼントを渡し、こどもたちの笑顔をみることができた。イベント運営には多くのご支援をいただいていることを病院のホームページに掲載した。

また本館3階の循環器センター開設に伴い4床室を改築し、プレイルームの改装工事があった。工事に伴い使用できない日を最小限にしながら、レイアウトの考案や備品の準備など混乱時期を経て8月10日に新プレイルームをオープンした。

新生児病棟やPICUの集中治療系の保育には主に介入する保育士を配置し、定期的に訪問して病棟の要望にタイムリーに対応できる体制を整えた。集中治療系の保育人数は前年度と比較し増加した。また、こどもの発達や理解度に合わせ、遊びの提供や処置検査に関する支援を継続して行った。状況に合わせてきょうだいを含めた家族の支援も行った。

学習支援については、拓桃支援学校と定期的に会議を開催して情報交換を行った。病棟と学校との連絡体制等について随時見直し連携した。5月には病棟内のWi-Fi環境を整備し、GIGAスクールワーキングを適宜開催してベッドサイド授業などICT学習の支援を拡大した。また防災訓練では病院と学校が双方協力して実施した。

#### (3) 患者と家族の心理的援助及び社会的問題等への支援

心理士、MSWらは、患者及びその家族の心理的・経済的・社会的問題に対して関係する専門職が連携してその解決・軽減に向けて早期から積極的に支援した。

児童虐待が疑われる場合には迅速に対応し、家族関係支援委員会等において対応策を協議した。

認定遺伝カウンセラーは新たな検査・診断について、自由意思を尊重しながら患者及びその家族へ検査の意義や結果の説明、血縁者のリスクの有無等について丁寧に情報提供を行った。前年度より対応件数が増加しており大事な役割を担っている。

#### (4) 病院ボランティア活動の充実と支援

ボランティア活動は段階的に再開した。新規ボランティア募集を4年ぶりに再開した。新規30名を含め令和6年3月31日現在178名の登録者の活動に支えられている。今年度はボランティア20周年祭を開催し、バサーやお茶会、芸術祭への作品提供を行った。ボランティアの方の多彩な才能が披露され、病院職員も力をいただいたイベントであった。

成育支援局の活動には多くの皆様にご支援をいただいている。皆様に感謝の気持ちを伝えながら職員が一人丸となって子ども達の健やかな成長と発達を支えていく部署でありたい。

(木村 慶)

## チャイルド・ライフ・スペシャリスト／子ども療養支援士の業務

2023年度は、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（以下CLS）常勤1名、子ども療養支援士（以下CCS）常勤2名の計3名で、活動目標を共有し協力しながら業務を行った。活動の中心は本館小児病棟であるが継続した関わりの一環として、外来やPICUでも子どもや家族への介入を行った。また医療スタッフからの依頼に応じて入退院センター、新生児科、拓桃館においてもきょうだいを含む家族の支援を行った。CLS/CCSは、日常業務として遊びやコミュニケーションを通じた発達や感情表出を促す関わり、検査前の支援(心の準備への支援)、処置や検査中の支援等により、子どもとその家族の医療環境におけるストレスの軽減を図りながら、安心して治療や医療行為に臨めるよう多職種と連携して支援を行っている。

子どもや家族に対する主な支援は以下の通りである。

発達や感情表出を促す遊びの関わり：子どもの体調や行動範囲の制限を考慮した上で、発達に適した遊びの機会を病棟内や個々のベッドサイドで提供した。特に今年度は面会・外泊制限の期間もあり長期入院児にはストレスフルな状況が続く中で、行事や遊びの内容を工夫し、安全な方法で感情の表出ができるよう努

めた。

処置や検査前の支援：こどもの年齢や過去の医療体験、処置に対する理解度を把握し、写真や人形、医療資材や模型などを使って処置や検査の説明を行った。これから体験する出来事に関して少しでも見通しを持つことで、初めての処置や馴染みのない検査を受けることへの不安や緊張感を軽減できるように介入をした。

処置や検査中の支援：処置や検査に付き添い、玩具や音楽の使用、声掛けやタッチングを実践することで、こどもの不安や緊張が緩和するよう支援した。

病気や治療の理解に関する支援：医師からの病名告知・病状説明時に可能な限り同席し、こどもの様子や理解を確認したり、年齢や理解に応じたツールを用いて補足説明を行ったりした。不安や疑問の表出を促し、正しく理解して治療に臨めるように支援した。

終末期の子どもと家族への支援：終末期であってもそのこどもらしくいられるよう他職種と情報共有しながら環境を整えたり、きょうだいの面会時に事前に今の状況をわかりやすく伝えたりして、心の準備ができるよう働きかけた。また面会時も側に付き添いフォローを行った。

令和5年度 チャイルドライフスペシャリスト／子ども療養支援士 業務活動報告

CLS/CCS 令和5年度業務実績	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計
	本館	外来 PICU 拓桃 他																							
a. 医療処置に関する支援（事前）	42	0	28	1	43	2	46	2	46	1	26	4	53	1	43	0	43	0	37	2	42	2	61	0	525
b. 医療処置に関する支援（最中～事後）	115	1	113	0	91	1	107	2	108	1	114	3	136	2	120	5	94	3	92	7	104	7	135	3	1,364
c. 病気や治療に関する支援	6	1	4	0	2	0	2	0	2	0	2	1	4	0	1	0	3	0	2	0	4	0	6	1	41
d. 療養生活に関する支援	266	0	217	1	236	0	193	0	235	0	174	0	247	0	238	0	281	0	185	0	201	2	177	2	2,655
e. 保護者・きょうだいへの支援	24	2	18	3	14	0	17	0	18	0	20	0	19	2	16	0	13	2	28	2	27	4	24	2	255
合計	457		385		389		369		411		344		464		423		439		355		393		411		4,840

a. 医療処置に関する支援（事前）	予定されている処置や検査、手術のプレパレーション、外来移行時に必要となる処置のプレパレーション等を含む
b. 医療処置に関する支援（最中～事後）	検査や処置中、鎮静時の精神的サポート、非薬学的な痛みの緩和、検査や処置後のフォロー
c. 病気や治療に関する支援	理解の確認、個々に合わせた説明。ICの同席、告知に伴う精神的なサポート、メディカルプレイを含む
d. 療養生活に関する支援	関係構築、あそび、会話、発達支援、学習支援、復学支援等を含む
e. 保護者・きょうだいへの支援	保護者への支援、きょうだいに関する相談、きょうだい面会時の支援、終末期の支援等を含む

昨年度、処置や検査前の支援の一環として外来看護師と連携し作成した、外来で行われる採血に関するパンフレットの運用が始まり、外来や麻酔科受診時な

どの場面で活用してもらっている。

(才木みどり)

## 本館保育士の業務

保育士の業務は常勤4名で、一般病棟に各1名、フリー1名の体制で療養環境プログラムに基づいた活動を行ってきた。2023年度に直接的保育活動に関わりを持った子ども・家族は延べ10,458人であった。環境整備に関わる業務は、安全にそして安心して玩具や書籍を利用して貰うための業務だけでなく、プレイルームを利用することもとその家族への感染対策へのインフォメーション及び協力、人数制限にも他職種と協働し引き続き行ってきた。併せて、3階病棟ではリカバリールーム新設工事に伴いプレイルーム移転工事も行われた。その際には、工事期間におけるあそび空間の維持や移転に伴う会議への参加を通してレイアウト作業やスムーズな引っ越し作業などに注力した。

○個別活動中心の活動：こどもの情緒の安定を第一義に考え、一人ひとりの特性や治療状況に応じた活動を時間調整や付きそい家族ともコミュニケーションをとりながら進めてきた。その中では、各病棟の特徴や年齢層に応じて工夫した、小規模なイベント(スヌー

ズレン、卒業式、作品展など)を開催したり、付き添い者のストレス軽減目的での介入をしたりして直接的保育活動はもとより家族単位での支援を心掛けた。その際には、心情面での配慮は特に必要である。効果的なカンファレンスでの発信を行うと共に、カルテ記載を通して保育士ならではの役割を模索しており、ターミナルケアの場面でも他職種と協働し、家族の意向に沿った支援が出来るように他職種と連携している。

○一般病棟以外での活動：フリー保育士が新生児病棟及びPICUを担当している。フリー保育士が不在の場合には、一般病棟担当保育士が代わりに保育活動を行うなどの体制を整えた。2023年度に関わりを持った子どもとその家族(兄弟姉妹を含む)は1,144名であった。一般病棟同様、季節感が味わえるイベントや装飾も行っている。活動が定着してきて、保育士の意見を求められることも増加しているため、個別のカンファレンスへ参加している。

(土屋 昭子)

## 拓桃館保育士の業務

リーダー1名(2階病棟兼務)・2階病棟3名・3階病棟9名の計12名の保育士が配置。拓桃館保育士の年間児童支援数は16,343名で、3階集団保育は1,351名、2階集団保育は202名、学卒活動は277名、親子入所保育は331名、個別保育は1,191名であった。(全て延べ人数)季節感を味わいながらこどもらしい経験ができ、集団で過ごすことで様々な刺激を感じ、楽しみながら潤いのある生活となるよう、保護者も前向きに療育に携われるよう支援を行った。5月からコロナが5類になり、数年ぶりにこどもたちが一堂に会して様々な行事を行うことができた。行事は、年間287回実施し、参加延べ人数は2,362名、慰問イベントは7団体(9回)であった。感染対策は継続しつつ、こどもたちにとって何が大切かを常に意識しながら対応している。本館からの転棟ケースも増えており、継続した支援ができるよう、本館担当保育士やCLS・CCS

との情報交換を密にとり、こどもや家族の支援を切れ目なく行えることを強みに、丁寧な支援をしていきたい。

親子入所では合同保育やペアレント・トレーニング(PT)を継続させ、PSI(育児ストレスインデックス)を用いて母親のストレス度をチェックし保護者支援に活用している。PTは、必要と思われる2・3階病棟の契約入所児の保護者にも行っている。3階病棟のこども達に対しては、相手の気持ちを考えたり、達成感を感じ自己肯定感が高まるような経験を大切にしたりしながら、社会性が高められるようソーシャルスキル・トレーニングも取り入れた。今後も、臨機応変に対応しながらこどもや保護者に寄り添い、こどもが望ましい姿に成長していけるよう支援していきたい。

(工藤 益子)

## 臨床心理士の業務

本年度は常勤3名の体制で業務を行っている。様々な業務の総件数は3,966件であり、おおよそ7割は外来での対応に関するものとなっている。その内検査業務は発達検査、知能検査が主体で、知的発達の遅れや偏りの程度の把握、低出生体重児の発達フォローアップ等を目的としたものである。検査実施後には必要に応じて家族に向けた結果報告書を作成し、家庭でのかわりや集団生活での対応に役立てていただいている。相談業務の中では、患者への支援としてはこどもの年齢や発達状況に応じて、遊びを中心としたかわりや言語を介した面接を行っている。また、家族との面接を通してこどもの理解や家族全体の支援につなが

るよう努めており、患者本人の相談件数と同数程度対応している。

全診療科を対象としており、診療科別に見ると神経科、消化器科、発達診療科にかかわる件数が全体の半数を占め、例年の傾向と同様である。他にも産科、循環器科、血液腫瘍科等、周産期からの支援や長期の入院治療を要する患者と家族への支援を行っている。

引き続き、多職種による心理的な支援の1つとして安心して活用していただけるよう、患者と家族の思いやニーズに沿った丁寧な対応を心がけたい。

(佐藤 あや)

## 本館ソーシャルワーカーの業務

2023年度相談件数は、延件数で3,651件（内入院1,906件・外来1,745件）。相談内容としては、医療費・福祉制度に関する相談が全体の53%、入退院や在宅に関する調整が16%、養育に配慮が必要な相談（child-abuse、domestic-violence）6%、教育に関する相談3%であった。胎児診断から妊娠中の段階で制度に対する保護者の関心は高く、行政窓口への問い合わせも多いため、まず医療機関へと案内していることから、公的な制度の説明を求める家庭が多かった。また、外来と連携し成人移行の準備段階として進路の状況に応じ本人や家族と医療費助成・制度について理解を促した。

退院前支援としてオンラインと対面の両方で家族と地域支援者と情報共有を行い、行政・地域医療機関・障害児相談支援事業所と連携した。医療的ケアのある子どもを抱える母の就労や母ときょうだいとの時間をど

う考えていくか地域の相談事業所や医ケア児等相談支援センターと協議を重ねた。

例年通り2023年度も養育に配慮が必要な家庭実人数29人（述べ122件）対応した。発達の特性によって育ての困難、経済的な不安定や困窮、家庭内におけるサポート不足等子育て環境に心配がある場合、地域支援機関や児童相談所と密に情報共有した。コロナ禍ピーク時の支援機関の連携割合は4%と減少したが、収束に向かう状況下では13%と戻り、家庭訪問や相談窓口へすみやかに繋がるよう調整を行った。

個別の相談業務以外では、医療機関と児童相談所における児童虐待防止・対応ネットワーク会議、宮城県移行期医療支援体制検討委員会、慢性疾病児童等地域支援協議会に参加した。

(山口和歌子)

## 拓桃館ソーシャルワーカーの業務

### 1. 相談件数と相談内容

拓桃館担当ソーシャルワーカーは2名体制で外来相談、および医療型障害児入所施設拓桃園の入退所支援業務を行っている。2023年度は相談延べ件数2,988件であった。そのうち相談内容の内訳は契約入所・退所支援関係が1,149件、医療公費制度・手当関係の相談136件、福祉制度関係314件、家族関係104件、受診に関する相談270件、教育に関する相談125件、障害年金・成人後の受診先関係215件、各調整・その他

675件であった。

### 2. 療育における相談支援

宮城県拓桃園への契約入所について、入所前の外来場面から介入し入所手続きや入所生活の説明を行っている。患者家族と信頼関係を築き相談支援に取り組めるよう連続した関わりを意識している。個々のニーズに応じて必要な医療費助成や福祉制度の情報提供が出来るよう各自治体へ都度確認を取りながら進めている。また、地域に戻ったときの通い先はあるか、元の

学校に戻ることが出来るか、退所後であっても支援が途切れることがないように地域へ働きかけ、必要なケースにおいては、地域支援者とのケース会議を行っている。2023年度は49件のケース会議開催し、オンラインと集合形式どちらにも対応できるよう調整した。

措置入所児童の受入も積極的に行い、家庭での療育困難な児童の支援に繋げている。

### 3. 地域活動

地域家族支援部会に所属し、地域支援の一環として

お話シリーズを4回開催。内3回はオンライン開催だったが、コミュニケーション機器に関する講話の際は、デモンストレーション会場も用意し、オンラインと直接来場の2パターンで開催できるよう他職種と連携を取りながら運営サポートの業務を担った。第21回療育支援研修会はオンラインを使用し開催。オンラインの強みとして、全国の医療型障害児入所施設や相談支援事業所、放課後等デイサービスなど県外からも多く参加があった。

(佐藤 守、伊藤 春菜)

## 看護師の業務

成育支援局看護師2名は、入退院センター看護師6名と協働し、在宅移行支援・在宅療養支援・地域連携・看護相談・入退院支援などの業務を行っている。

### 1. 在宅移行支援

医療的ケアが必要な子どもと家族が安心して退院が迎えられるよう早期から関わっている。院内の多職種と連携し、退院後の生活を見据えた支援を看護の視点から行っている。また、地域の保健師・訪問看護師・相談支援事業所・訪問介護・医療的ケア児等相談支援センターなどと連携し自宅環境の整備や社会資源の活用について家族と一緒に考え調整を行っている。今年度は、在宅酸素60名、在宅小児経管栄養42名、在宅自己注射42名、在宅人工呼吸器24名、在宅ねたきり管理17名、在宅気管切開14名、在宅自己導尿12名、洗腸3名、在宅中心静脈栄養3名、小児低血糖2名、腹膜透析1名(延べ人数)の在宅医療の導入が行われた。

今年度はCOVID-19の5類感染症への移行に伴い、来院制限の緩和が行われた。そのため、地域の支援者との連携方法をオンライン中心から対面を含めたハイブリッド形式へと変更した。その結果、患者家族が地域の支援者と入院中に直接会って、早期から信頼関係を築き退院を迎える機会を得られるようになった。また、できるだけ退院カンファレンスを開催し、院内・外の多職種の連携を可視化し、退院後の生活への不安が少しでも軽減できるよう努めた。

### 2. 在宅療養支援

退院後の外来通院の場合では、生活や医療的ケアの状況、社会資源の活用など、入院中に調整した内容の確

認及び修正を行っている。新たに発生した問題の解決に向けて支援している。また、医療的ケアを必要としながら通所・就園・就学・進学・就職などを迎える患者に対しても長期的に支援を行っている。在宅療養患者の急性増悪時の入院の際にも、こどもと家族と面談し、在宅療養上の課題解決にあたっている。

### 3. 地域連携

訪問看護師・往診医・保健師・教育機関・相談支援事業所・福祉サービスなどとの連携を主に行った。昨年度開設した医療的ケア児等相談支援センターとは個別事例や地域の課題などを共有しながら協力体制を構築した。市区町村の新生児訪問担当保健師に看護サマリーを送付し看護の継続を依頼している。また、さまざまな訪問看護ステーションに医療依存度が高く重篤な疾患をもつ子どもたちの暮らしを支える看護を提供していただいている。在宅移行時及び入退院や外来受診時においても、情報提供や連絡相談、主治医との橋渡しなどの役割を担い訪問看護ステーションとの連携を強化した。さらに、往診医・訪問看護師などとの連携を行うことにより在宅での看取りができる体制が構築された。終末期における家族の意思決定支援やグリーフケアも多職種と協力しながら行っている。

### 4. 看護相談

看護相談は、育児に関すること、発達に関すること、その他様々な不安などに、関係各部署と連携しながら対応している。

### 5. その他

入退院支援加算2と入退院支援加算3を算定する運

用のなかで、定期的に各病棟とカンファレンスを行う体制が定着した。関係多職種と連携しながら在宅支援体制のさらなる充実と支援の質の向上をはかることができるように取り組んでいきたい。

業務にあたっては診療部、看護部、院内の多職種との連携が必須であり、多大な協力をいただき感謝している。

(鈴木ひろ子・橘 ゆり)

## ボランティアコーディネーターの業務

### 1) 登録ボランティアの状況とボランティア活動

2023年5月に新型コロナウイルス感染症5類移行となり、3年ぶりに新規ボランティアの募集を行った。7月の説明会には54名の参加があり、31名の方がボランティア登録し年度末には登録数181名となった。

2023年5月、病棟活動以外のほとんどのボランティアが活動を再開した。当初は体温測定・アイガードと不織布マスク装着しての活動だった。3年ぶりの再開を喜び、ボランティアハウスにも活気と笑顔が戻ってきた。コロナ以前と大きく変化したことは、総合案内の面会証の確認ときょうだい児預かりがなくなったことである。患者さんやご家族と接する機会が減り残念ではあったが、病院スタッフからは、ボランティアさんのエプロン姿が戻ってきたことへの喜びと“ほっとする”という声がかかれた。ボランティア活動も大幅に増加した。(表1参照)

7月には本館と拓桃館玄関に、イベントアートのボランティアが中心となって作成した七夕飾りを飾った。保育士から、入院中の子ども達に「仙台七夕」の雰囲気を感じてもらいたいとくす玉作りの依頼があり協力した。病棟の廊下が一番町のようにたくさんのくす玉と吹き流しで装飾された。8月の夏祭りでは法被を着て、たくとう広場の出し物のボーリングの手伝いをした。11月8日～10日のこども病院芸術祭2023ではボランティア13名が作品を出展した。また3日間、愛子ホールに展示された作品の見守りや説明を担当した。その他、3年ぶりに『広報誌ゆりかご』の発行とおもちゃドクターの活動も再開した。

### 2) ボランティア20周年祭

こども病院開院とボランティア活動20周年を記念して、“優しい気持ちで広がる『支え愛のバトン』20年のおもいをここに…”のスローガンのもと、ボランティア祭を開催した。11月8日には宮城出身の絵本作家とよたかずひこ先生をお呼びして絵本読み聞かせと講演会を開催し、50余名の参加があった。11月9日はボランティアハウスにて、お茶会とバザーを開催した。お茶会では季節の花をあしらった会場で着物姿のボランティアがお点前をして、かぼちゃ饅頭とお抹茶がふるまわれ、97名が参加した。また、バザーはボランティア祭実行委員が中心となり、ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいと協働で789作品が出展され、売り上げは113,200円となった。売り上げの一部はドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいとこども病院へ寄付し、20周年記念のボランティアオリジナルTシャツ作成に助成した。Tシャツは胸に森ゆみこ先生のこども病院のフロアーキャラクターと、袖にはこども病院のロゴをプリントしたもので、職員も含め200枚以上の注文があった。

### 3) ボランティアコーディネーターの活動

2024年1月29日、新規登録ボランティアを対象とした研修会を開催し20名の参加があった。内容は理学療法士、猪谷俊樹先生の「車椅子の使い方」、感染認定看護師、佐藤弘子先生の「感染対策」であった。

### 4) ボランティア活動の足跡

2024年1月29日、3年ぶりにボランティア活動感謝状贈呈式を開催した。今回は活動時間500時間以上8名、1,000時間以上3名、1,500時間以上5名、2,000

表1. 登録ボランティアと活動状況

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
登録平均人数	263人	257人	221人	206人	174人	171人
活動日数	244日	222日	47日	106日	185日	247日
活動延人数	6,011人	5,474人	276人	382人	1,106人	3,975人

時間以上4名への表彰と、こども病院開院からこれまで20年間ボランティア活動を継続してくださった14名のボランティアへ、それぞれ感謝状と記念品を病院長より贈呈した。また、式典の中で呉院長より「宮城県立こども病院とボランティア」の講演をしていただ

いた。

来年度は、今年開催できなかった「病院職員との意見交換会」や他施設見学などを再開し、活動の幅を広げていきたい。

(大町 千鶴)

## 認定遺伝カウンセラーの業務

### 1. 相談件数と相談内容

当院では認定遺伝カウンセラーが一名常勤で遺伝カウンセリング業務を行っている。業務活動の実績として令和5年度のべ件数を次にあげる。出生前検査前後の遺伝カウンセリング749件、遺伝性疾患・先天異常の遺伝カウンセリング567件、外部医療機関との遺伝学的検査の情報交換174件、電話対応260件、院内スタッフへの情報提供1,910件など、合計3,794件であった。

### 2. 出生前検査前後の遺伝カウンセリング

当院では出生前検査希望の場合、検査実施前にカップルそろって遺伝カウンセリングを受けていただくことを原則としている。

遺伝カウンセリングでは、出生前検査の方法や種類、遺伝子や染色体など遺伝に関する情報、検査についてのリスクとベネフィットなどを伝え、カップルからの質問や相談などに応えている。同時に、不安や疑問、お気持ち等を伺い、出生前検査に伴う精神的負担を軽減し、自律的な意思決定ができるよう支援している。

### 3. 遺伝性疾患・先天異常の遺伝カウンセリング

遺伝性疾患と診断をうけたこどもや保護者、あるいは血縁者に遺伝性疾患を持つ方がいる場合、本人、家族には様々な悩みが生じる。その方々に、専門的な知識に基づいて適切な情報を提供し、遺伝カウンセリングを通じて、相談者自身が問題解決の方向を見出し、現在の治療、将来に向けて最善の選択ができるように援助している。

### 4. スタッフ、外部医療機関との遺伝学的検査の情報交換

ある遺伝性疾患が特定の遺伝子の変化（あるいは染色体の変化）で起こることが既にわかっている場合は、その遺伝子（染色体）を調べることによりその疾患で

あるかどうかをはっきりさせることができる。このような遺伝学的検査による診断の目的の多くは、患者さん本人の臨床診断を確定することにあると言える。診断が確定することにより、病気に対しての適切な治療や対応も可能となり得る。

一方で、遺伝子（あるいは染色体）は親から子へ伝わるため、ご家族のうちのどなたかの遺伝子（染色体）の変化が明らかになった場合は、家族の他の方も同じ変化を持っている可能性がある。患者さんの血縁の方の遺伝学的検査は、発症前診断や保因者診断（保因者とは遺伝子の変化を有しているけれど将来にわたって発症しない人。子どもに変化を伝える可能性はある）、出生前診断などの目的で行われる。

このような高度に倫理的な課題が含み、最先端の技術が使われる検査に関して、患者、家族への遺伝カウンセリングのみではなく、主治医を中心とした他職種や、外部医療機関とも情報提供やカンファレンスが必要である。これらの情報交換、情報の共有を行うよう活動している。

### 5. 教育・研究

学生実習中に、赤門看護学校、宮城大学看護学科の学生に、出生前検査などについて講義を行った。

また、院内カンファランス、東北大学医学部保健学科、仙台助産学校、スズキ記念病院附属助産学校において遺伝医療、遺伝カウンセリングについての講義を行った。

研究活動として、日本遺伝カウンセリング学会、日本人類遺伝学会、日本遺伝性腫瘍学会などに参加し、日本遺伝カウンセリング学会、日本遺伝性腫瘍学会においては研究発表を行った。

私たちの誰でもが持つ健康に関するテーマ、「遺伝」を理解していただける様に、また倫理的問題に十分配慮した上で個人の遺伝情報を健康・生活に結びつけるための取り組みをしてゆきたいと考えている。

(小川 真紀)

# 第9章 各種委員会等

## 感染管理室

### 1. 院内活動

- 1) 目標評価 (表1)
- 2) 感染管理教育 (表2)
- 3) **2023年度のトピックス：新型コロナウイルス感染症対策**

新型コロナウイルス感染症は、2023年5月8日から感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更され、2023年10月1日からは、2024年3月末までを移行期間として2024年4月から通常の医療提供体制へ段階的に移行する方針が国から発出された。そして、全数把握から全国約5,000の定点医療機関による定点把握に変更された。

院内では、これまで新型コロナウイルス感染症対策本部会議として定期開催した計66回に加え、緊急会議を随時開催してきたが、5類移行に伴い感染対策委員会に統合した。そして、COVID-19入院患者を各病棟で受け入れることや、面会制限を2親等以内に拡大すること、濃厚接触者対応の廃止など、対策指針の大幅な見直しを行い、他病院に先駆けて段階的に緩和した。

流行状況は、5類移行後も定点把握の感染者数は増

え続け、2023年8月末から9月上旬に第9波のピークに達し、さらにインフルエンザとの同時流行があった。市中での流行拡大に伴い、外来・入院患者数や職員の発症者数も増加したが、院内対応緩和後においても院内での感染拡大はなかった。

コロナワクチンは、外来にて小児への接種を継続し、職員および病院関係者を対象とした集団接種を春と秋に実施した。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから3年が経過し、現在は、ウィズコロナ、アフターコロナ時代として、感染対策は個人や事業者の判断が基本となった。今後は、これまでの経験から、感染リスクに応じて自ら考えて主体的な感染対策を実践することを基盤とし、新たな新興感染症等に対応できる体制整備に努めていきたい。

### 2. 院外活動

感染対策向上加算1算定病院である東北大学病院と地域連携相互チェックラウンドを実施した。さらに、日本小児総合医療協議会(JACHRI)小児感染管理ネットワーク関東圏グループで行っている相互チェックラウンドにも参加し、2023年度は東京都立小児総合医

表1. 2023年度 目標評価

目標		評価
ICT	1 手指衛生の有効遵守率が向上する	手指衛生直接観察調査による手指消毒有効(15秒以上)遵守率は34%に上昇したが、目標値の80%以上には至らなかった。質的向上を目指し、手指衛生実施率の上昇とともに、有効遵守率を上げるための方策を検討し、教育体制を強化していきたい。
	2 感染経路・病原体に応じた多職種にわかりやすい个人防护具表示の運用が定着し、適正使用遵守率が上昇する	直接観察による防護具表示とPPE設置、着脱手順の調査を実施した。その結果、適正実施率は、防護具表示88%、PPE配置97%、患者対応時のPPE着脱手順遵守率82%であった。適正使用遵守率100%を目指し、現場指導やリンクスタッフとの協働について検討していく。
	3 院内発症感染症および耐性菌水平感染疑い例が減少する	新生児病棟におけるMRSA検出状況は、当院アウトブレイク介入レベルIIIに該当2回、レベルIIに該当1回であった。部署のICTメンバー、感染チームを中心に対策について情報交換を行い、改善が必要な項目について共に検討し、早期終息に向けて活動できた。異動者、新規採用者対象のMRSA対策と手指衛生演習も定着した。その成果がみられるよう評価していきたい。
AST	1 抗菌薬適正使用を推進する	抗菌薬適正使用に関する指針の整備を行った。
	2 抗菌薬適正使用推進のためのAST活動を継続する	感染対策連携共通プラットフォーム(J-SIPHE)参加への体制を整備し、データ登録およびJACHRI連携施設とのグループ化を開始した。また、微生物検査教育として、研修医に対する講義と実習を2023年度も継続し、ICTミーティングで微生物検査に関するレクチャーを行った。
	3 抗菌薬適正使用研修会を開催する	法定研修となる感染対策研修会と兼ねて、2回開催できた。研修内容は、2022年度と同様にCOVID-19の流行拡大によりAMRの推移と概論のみに限定されたため、次年度は抗菌薬適正使用に関する内容の拡充に努めていきたい。

表 2. 2023 年度 感染対策研修会実施状況

区分		テーマ	講師
全体研修	5 月	第 1 回感染対策研修会兼抗菌薬適正使用研修会 「コロナ 5 類時代の宮城こどもの感染対策」	桜井 博毅 谷河 翠
	11 月	第 2 回感染対策研修会兼抗菌薬適正使用研修会 「COVID-19 の流行後の小児病院で行う感染対策」	あいち小児保健医療総合センター 総合感染症科 医長 伊藤 健太先生
オリエンテーション	新規採用者	新規採用者研修 (1) 感染対策について (2) 標準予防策 (3) 針刺し切創粘膜曝露対策	森谷 恵子 佐藤 弘子 井上 達嘉
		中途採用者研修 (計 3 回)	佐藤 弘子 桜井 博毅 谷河 翠
部門別研修	診療部	新生児科新入職医師対象 「NICU における耐性菌対策」	桜井 博毅 谷河 翠
	検査部	感染症科研修医対象 「微生物検査実習」	須田那津美 佐藤 愛理
	看護部	レベル I 研修「感染経路別予防策～個人防護具適正使用～」	佐藤 弘子 井上 達嘉
		レベル III 研修 「感染対策におけるリーダーシップ」	森谷 恵子
		認定課程 全 6 回	森谷 恵子
		COVID-19 選抜チーム研修会 「新興感染症シミュレーション」	森谷 恵子 井上 達嘉 佐藤 弘子 桜井 博毅
看護助手研修会 「感染対策に必要な手荒れ予防と対策」	森谷 恵子		
職員以外	清掃・廃棄物回収 委託業者対象	「手指衛生と個人防護具着脱方法、清掃手順について」	佐藤 弘子 須田那津美 佐藤 愛理
	ボランティア対象	「手指衛生とマスクの正しい着け方、環境清拭について」	佐藤 弘子
	拓桃支援学校 教員対象	「こども病院の感染対策について」	森谷 恵子
	拓桃支援学校 教員対象	「冬期感染症流行期における感染対策」	森谷 恵子

療センターのラウンドを実施し、国立成育医療研究センターから評価を受けた。

また、感染対策向上加算 3 算定病院である泉病院および内科佐藤病院、仙台市保健所青葉支所、宮城県医師会との合同カンファレンスを 4 回、加算 3 施設への訪問指導各 2 回、新興感染症訓練を各 1 回開催した。

### 3. 2023 年度 感染管理室員

桜井博毅、谷河翠、小沼正栄（以上診療部）、佐藤弘子、森谷恵子、井上達嘉、高橋美幸（8 月まで）、佐藤幸枝（8 月以降）（以上看護部）、石賀圭、清野泰史（以上薬剤部）、須田那津美、佐藤愛理（以上検査部）、板橋孝（事務部）

（桜井 博毅・森谷 恵子）

## 医療安全推進室

### 1. 活動内容

#### 1) インシデント集計

2023 年度のインシデント報告数は 1,151 件、事象件数は 1,064 件であった。前年度と比較して報告件数、

事象件数ともに 14 件減少した。事象レベル 0～1 の事象が全体の約 76.0%（昨年度 75.1%）で割合の大きな変化はなかった。

報告部署別では看護部 830 件（約 72.1%）、薬剤部 69 件（約 5.9%）検査部 32 件（約 2.7%）放射線部 21

件（約 1.8%）、栄養管理部 64 件（約 5.5%）、発達支援部 24 件（約 2.0%）、成育支援局 28 件（約 2.4%）であった。

インシデントレポート数に対する診療部の全報告数に対する報告割合は 10% までは行かないが 5.9%（昨年度 4.0%）と微増している。

インシデント内容別割合は薬剤に関する事象が最も多く、全体の 27.3%（昨年度 31.1%）を占めた。発生場面は、「内服薬の与薬時間・日付間違い」「無投薬」「注射薬の投与速度間違い」の順に多く、昨年度と同様の傾向であった。

次いで、療養上の世話に関する報告が 22.8%、ドレーン・チューブ関連 18.5% であった。療養上の世話は、「指示内容の間違い」や「給食内容の間違い」に関する報告が多く、ドレーン・チューブ関連では計画外抜去事例が多かった。

## 2) 医療安全推進室活動

### ・定期院内ラウンド

年間計画にそって、昨年度から引き続き「医薬品投与の安全確認ラウンド」「医療機器関連ラウンド」「生体情報モニター適正使用確認ラウンド」「5S 環境安全ラウンド」「マニュアル遵守カルテ確認ラウンド」を実施した。また、2023 年度は新たに輸血療法委員会と合同で「輸血ラウンド」を開始し、血液製剤の取り違い防止のための確認手順について聞き取りを行った。ラウンド結果は評価と改善点を明確にして、各部署にフィードバックを行い、リスクマネージャー会議および安全対策委員会で報告した。

### ・医療安全推進室からの情報発信

インシデント報告書集計結果から導かれる注意喚起事項等については、医療安全情報の提供や安全優先の職場風土醸成のための啓蒙活動の一環として、医療安

表 1. 2023 年度 インシデント集計（内容分類）

内容分類	件数	割合 (%)
薬剤	292	27.3
輸血	8	0.75
治療・処置	64	5.99
医療機器等	84	7.86
ドレーン・チューブ	198	18.52
検査	129	12.07
療養上の世話	244	22.83
その他	50	4.68
総数	1,069	

全推進室広報「医療安全推進室からのお話」を月 1 回発行した。また、電子カルテログイン画面に医療安全推進室部門専用スペースを設け、医療安全に関するメッセージを月ごとに更新し発信した。

リスクマネージャー会議や安全対策委員会、医療安全推進室会議等で決定された事項は「宮城県立こども病院医療安全情報」「安全ニュース速報」として発行した。

また、院内で取り決められたマニュアル類をデータですぐに確認できるように院内 OA のファイル管理の整備と更新ルールを作成した。医療機能評価の受審の際もスムーズに確認・提示できる環境を整えた。

### ・医療安全奨励賞

インシデント報告者への感謝を込めて「レベル 0」のインシデント報告が多かった上位 3 部署に対して記念品を贈呈した。

### ・リスクマネージャー活動

各部署のリスクマネージャーが中心となり毎年「KAIZEN」に取り組んでいるが、2023 年度は、今年度共通テーマとして発生割合の高い「薬剤関連」とし、それぞれの部署での課題に取り組んだ。部署投票により得点が多い上記 3 部署に対して奨励賞、記念品を贈呈し、安全対策研修会で発表してもらい病院全体で共有した。また、委員会では、毎回インシデント報告によって明確になった課題とその対策、改善策など医療安全推進室が介入した事例を報告しているが、2023 年度は各部署・部門における共有事例提供の時間を設け、部門・部署の状況を共有した。インシデント報告

表 2. 2023 年度 インシデント集計（レベル分類）

事象レベル	件数	割合 (%)
レベル 0.01	149	13.9%
レベル 0.02	53	5.0%
レベル 0.03	5	0.5%
レベル 1	603	56.4%
レベル 2	195	18.2%
レベル 3a	52	4.9%
レベル 3b	6	0.6%
レベル 4a	1	0.1%
レベル 4b	0	0.0%
レベル 5	0	0.0%
評価保留	0	0.0%
合併症	5	0.5%
総数	1,069	

表 3

区分	開催月	テーマ	講師
全体研修	4月	入職時研修 ① 当院の医療安全対策について ② 医療安全の基礎知識・インシデント報告制度について	① 副病院長兼医療安全推進室 室長 萩野谷和裕 ② 医療安全管理者 佐藤 知子
	6月	第1回安全対策研修会（全体研修1回目/3） 日時：6月26日（水）17:30～18:30 場所：オンライン形式 ① KAIZEN2022 薬剤部 「与薬カート運用の院内標準化に向けた配薬・与薬マニュアルの作成」 ② 「画像・病理診断報告書の確認漏れ防止に向けた報告書管理体制の整備について」 ③ 当院のインフォームド・コンセントの現状報告 ※上記内容：e-ラーニング視聴100%	① 副薬部長 薬剤部リスクマネージャー 戸羽 香織 ② 放射線部 放射線部 放射線技師 佐々木正臣 ③ 検査部 検査部 検査技師 高崎 健司 ④ 医療安全管理者 佐藤 知子
	10月	第2回安全対策研修会（全体研修2回目/3） 日時：10月30日（月）17:30～18:30 場所：オンライン形式（ZOOMウェビナー使用） 「医薬品安全管理研修会」 ① 過去のインシデント事例とその対策 ② 医薬品を安全に使用するため知っておきたいこと ～くすりの副作用と発生後対応～	① 副薬部長 薬剤部リスクマネージャー 戸羽 香織 ② 薬剤部長 医薬品安全管理責任者 中井 啓
	2024年1月	第3回安全対策研修会（法定研修3回目/3） 日時：2024年1月16日（火）18:00～19:00 場所：愛子ホール+Zoom オンライン形式 テーマ「職種のサイロを超えた医療安全へー心理的に安全なコミュニケーションを考えるー」 上記内容：e-ラーニング視聴100%	近畿大学病院 安全管理部・医療安全対策室 室長 近畿大学医学部 血液膠原病内科 教授 辰巳 陽一先生
	看護部研修	4月	入職時研修 4月6～8日 ・転倒・転落・ダブルチェック ・ベッドの取り扱い講義・演習 ・輸液管理と輸液ポンプ取り扱い講義・演習 ・輸液管理 講義 ・シリンジ、輸液ポンプ操作研修 ・ME機器の取り扱いと看護 講義 ・SpO2モニター操作研修
5月		レベルIII研修（リーダーシップ強化）Aコース 5月30日（木）13:00～16:00 「医療安全対策マネジメント～RCA分析の基礎」	医療安全管理者 佐藤 知子 安全対策検討委員会委員 日戸 千恵
6月		レベルIII研修（リーダーシップ強化）Bコース 6月29日（木）10:50～12:00 「医療接遇II」	医療安全管理者 佐藤 知子
10月		看護助手研修 10月23日（月）12:30～13:30 「医療接遇」	医療安全管理者 佐藤 知子
2024年1月		レベルI研修 1月18日（木）14:00～15:15 「安全対策 KYT」講義・演習	医療安全管理者 佐藤 知子 安全対策検討委員会委員長 日戸 千恵

事例に限らず部署の状況などの理解につながった。

・RRS（院内迅速対応システム）の設置

集中治療科の提案により、院内急変の早期認識と早期介入を行い、予期せぬ院内心停止、予期せぬ院内死亡を予防することを目的とした医療安全システムが1月に設置された。事務局は医療安全推進室においた。

佐藤 篤（血液腫瘍科科長）専任

室員 中井 啓（薬剤部長）専任

室員 戸羽 香織（副薬剤部長）専任

室員 佐藤 知子（医療安全管理者）専任

室員 日戸 千恵（産科看護師長）専任

室員 布施 雅彦（首席主任臨床工学士部主任）専任

室員 岩崎 清（総務課）専任

## 2. 2023年度 医療安全推進室

（萩野谷和裕）

室長：萩野谷和裕（副病院長）専任、

副室長（ゼネラルリスクマネージャー）

## 褥瘡対策委員会

褥瘡とは、狭義に臥床時に自分の体重による圧迫に伴って生じる皮膚損傷と定義される。小児診療においては点滴シーネや各種カテーテルなどの治療器材による圧力損傷、すなわち医療関連機器圧迫創傷（MDRPU：Medical Device Related Pressure Ulcer）も多いことから、これらを加えたものを広義の褥瘡ととらえている。さらに、いわゆる点滴漏れや生体監視装置による熱損傷、粘着剤による損傷、などを加えたものを広く診療関連の皮膚障害と定義している。

褥瘡対策委員会は、院内で発生する診療関連の皮膚障害の発生状況を把握し、予防策を講じることを業務としている。また、保険診療における入院基本料の前提としての褥瘡対策、および褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定、のための体制を整備することも業務としている。

毎月1回の会合を行い、褥瘡および関連する皮膚障

害の発生状況について報告し、管理上の問題点について審議している。月間の発生数に加え、注意が必要と思われた事例について詳しい報告を行っている。また、これに併せて看護師の委員による褥瘡対策リンクナース会を行っている。

褥瘡ハイリスク患者については、毎週水曜日に医師、褥瘡専従看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士による回診を行なっている。

また、職員向けの褥瘡対策の講習会を行っており、本年度は2023年11月6日に行なった。

2023年度の褥瘡発生状況を表に示す。

### 2023年度委員

野田愛理、熊谷ゆかり、齋藤蓮奈、齋藤麻鈴、亀ヶ澤英明、大内未来、関口あかり、古川裕祐、小室みゆき、松倉妙磨、曳地博美、泉陽香（以上看護部）、

2023年度褥瘡発生状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
前月からの繰り越し患者数 (うち持ち込み)	a	0	0	0	0	0	0	4	3 (1)	3	1 (1)	2 (1)	0	7
新規褥瘡患者数 (うち持ち込み)	b	3	6 (2)	2	2	5 (1)	5 (1)	2	3 (1)	1	1 (1)	2	3 (1)	12
月間褥瘡患者数 (うち持ち込み)	c=a+b	3	6 (2)	2	2	5 (1)	5 (1)	3	3 (1)	1	1 (1)	4 (1)	3 (1)	11
褥瘡発生件数 (持ち込み)	d=e+f+g	3	6 (2)	2	2	9 (1)	8 (1)	4	4 (1)	1	1 (1)	4 (1)	4 (1)	12
深さ d1	e	2	3	2	1	7	6	4	2	1	0	1	3	32
d2	f	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	2	0	6
D3以上	g	1	2	0	0	0	DTI2	0	0 (1)	0	0	1	1	5
MDRPU 医療関連機器圧迫創傷 (持ち込み)	d1	8	12	1	9	7	8	7	5	6	6	4	3	76
	d2	1	2	0	5	2	7	1	3	4	4	3	5	37
	D3以上	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4
皮膚障害 (持ち込み)	反応性充血	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	発赤	11	6	1	3	6	2	2	2 (1)	1	4	1	2	39
	水疱	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
	表皮剥離	0	2	3	1	0	5	2	2	4	2	5	2	28
	その他	0	2	1	2	2	4	7	0	1	1	0	2	22
スキン-ケア (持ち込み)		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
血管外漏出 (持ち込み)		5	1	3	3	10	1	3	8	8	15	2	6	65
調査日入院患者数		155	122	152	155	156	160	151	166	172	146	144	151	152.50
調査日褥瘡保有患者数		1	0	1	0	1	1	4	3	3	0	2	0	1.33
褥瘡有病率%		0.64	0	0.65	0	0.64	0.63	2.65	1.8	1.74	0	1.38	0	0.84
褥瘡推定発生率%		0.64	0	0.65	0	0.64	0.63	2.65	1.2	1.74	0	0.69	0	0.74
MDRPU 推定発生率%		1.93	3.27	0.65	3.87	1.28	1.25	0	1.2	2.32	0.68	1.38	2.65	1.71
持ち込み褥瘡患者		0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0.50
※調査日：第2水曜日 23:59		12日	10日	14日	12日	16日	13日	11日	8日	13日	10日	14日	13日	

横山隼人（薬剤部）、武藤結衣（検査部）、菅野香純（発達支援部）、小野日香里（栄養管理部）、佐々木康（医

事課）  
（真田 武彦）

## 栄養サポートチーム（Nutrition Support Team）

### NST メンバー

医師、歯科医師 10 名、管理栄養士 5 名、看護師 15 名、薬剤師 2 名、臨床検査技師 1 名、言語聴覚士・歯科衛生士 3 名、褥瘡対策委員会代表者 1 名、感染制御チーム（ICT）代表者 1 名、事務職員 1 名

NST 活動：NST 運営委員会は年 3 回開催した。事前会議と症例検討会議は隔週で火曜の 16 時から開催している。それぞれの会議への参加状況、症例検討数については下記のとおりである。

教育活動：年に 2 回 NST 勉強会を開催した。また、院内の栄養管理レベルを向上させるべく NST 専門療法士の取得を目指している。今年度は NST 認定医 2 名、NST 認定看護師 1 名達成している。

広報活動：2017 年度に、当院が日本病態栄養学会

の認定施設となった。また、2023 年度は 2 回「MCH NST NEWS」を発行した。その他院内掲示板やメーリングリストで啓蒙活動している。

学術活動：日本静脈経腸栄養学会、日本小児栄養消化器肝臓学会、東北静脈経腸栄養研究会などをはじめとする栄養関連の学会・研究会への参加・発表を行うことを目標とする。また、医師、管理栄養士、看護師によって栄養関連の雑誌・学会誌への投稿を行っている。

臨床研究：臨床研究としてワーキンググループを立ち上げ、良好な成績を残している。今後は現在問題となっている各テーマ（重症心身障害児、腸管不全、炎症性腸疾患、アレルギーなど）で臨床研究を進めていければと考える。

（角田 文彦）

### NST 稼働状況

内容	開催回数	出席人数					検討症例数		
		医師	看護師	メディカルスタッフ	その他	合計	新規	継続	合計
運営会議	3 回	12	7	13	3	35			
事前会議	18 回	15	6	91	5	117			
症例検討会議	17 回	44	37	106	10	197	27	6	33
勉強会	2 回	14	17	24	6	61			
合計		85	67	234	24	410	27	6	33

### NST 勉強会開催状況

日時	内容	講師等
12 月 12 日 18:00~19:00	情報提供：経腸栄養剤について 報告：NST 専門療法士認定教育施設における臨床実地修練について	大塚製薬工場 仙台営業所一課 赤堀 裕康 看護部 高橋 美鈴 栄養管理部 秋山 佳子
2 月 9 日 18:00~18:45	「食」から考える重症心身障害児（者）	神経科 川嶋 有朋

## 療育支援室

宮城県立こども病院は医療施設であるが、その中には福祉施設である宮城県立拓桃園が存在する。拓桃園の病床だけでなく本館も含めた集中治療室、手術部、

放射線部、薬剤部、検査部、栄養管理部、リハビリテーション発達支援部、成育支援部、看護部などの一部を福祉施設として二重指定し、医療型障害児入所施設宮

城県立拓桃園が並立している。入所には入院手続きに加えて拓桃園との入所契約手続きが二重に必要となる。療育支援室はそのような医療型障害児入所施設に福祉入所した肢体不自由児に必要な福祉要件の管理と患者家族との契約関係の維持を目的に設置された。

また関連施設として宮城県立拓桃支援学校があり、入所児の生活において病院と学校との調整が必須であることから療育支援室が実質的な調整を行っている。

## 療育支援室の組織

医療型障害児入所施設宮城県立拓桃園園長は院長が兼任しているが、副院長（療育担当）を実動のトップとして直下に療育支援室を置く。実質的な活動は療育支援室が行っているが、療育支援委員会の下部にあり、療育支援室の意見や活動を療育支援委員会へ報告し承認を得る形で院内組織のひとつとして維持されている。

## 療育支援室の構成

療育支援室は療育支援室長、副室長と療育支援室員で構成され、医師、リハビリテーション発達支援部療法士、成育地域家族支援グループ保育士、成育こども育成支援グループMSW、児童発達支援管理責任者、医事課、宮城県立拓桃支援学校により構成している。療育支援室の所在は拓桃館3階病棟カンファレンス室にあり、常駐して活動を行っている。

## 療育支援室の活動

2016年3月に拓桃館3階病棟、2月に拓桃館2階病棟のオープンに併せて療育支援室も活動を開始した。

### 1. 療育支援会議

療育支援室員が定例会議として開催するもので、療育支援の方針等の整理に関する事、生活指導の企画運営に関する事、療育支援の調査・研究に関する事の事務を所掌している。

表 1. 2023 年度の療育支援会議件数

療育支援会議	8 回
--------	-----

### 2. 療育支援委員会

療育支援室は拓桃園の運営方針の検討、情報の共有などについて療育支援室からの報告を受け、承認する委員会である。委員会の庶務は療育支援室が担当・処理している。

表 2. 2023 年度の療育支援委員会件数

療育支援委員会	4 回
---------	-----

### 3. 入所支援会議

個別支援会議は医療型入所施設入所に伴う福祉費算定要件に含まれるのもで、契約を結んだ患者に対して入所後1カ月以内またはその後6カ月以内毎に行われる多職種カンファランスである。要件には児童発達支援管理責任者が必要で、記録の管理を所掌している。

表 3. 2023 年度の入所支援会議実施件数

整形外科	65 件
神経科	4 件
入所支援会議合計	69 件

### 4. 生活指導会議

生活指導委員会は小児の単独入所において生活環境の評価ならびに改善を目的に行われる。病棟や学校や保育の状況、校外や院内の行事などを幅広く報告し、議論する会議である。

表 4. 2023 年度の生活指導会議件数

生活指導会議	10 回
--------	------

(落合 達宏)

## 臨床研究推進室

### 1. はじめに

当院は院内のみならず県及び東北地方全体の周産期・小児医療・療育水準の向上のため、臨床研究を積極的に遂行している。

臨床研究推進室は、例年同様、院内の研究実施体制等の充実に努め、医薬品・医療機器に関する治験（企

業主導型、医師主導型）を含めた臨床研究全般について、学術的・事務的サポートを行った。

### 2. 活動内容

#### (1) 治験、製造販売後調査等

##### ① 治験事務局

・新規治験・製造販売後調査等の受託並びに契約

- に係る手続き
- ・必須文書の保管管理
- ・治験ネットワークとの連絡窓口
- ・被験者負担軽減費・保険外併用療養費の管理
- ・治験・製造販売後調査経費の請求管理
- ・モニタリング・監査の対応
- ・規程・手順書の整備 など
- ② 治験審査委員会事務局
  - ・治験審査委員会開催準備
  - ・審査結果通知、議事録の作成 など
- ③ 治験薬管理
  - ・治験薬の受領・回収の対応
  - ・治験薬の保管管理（温度管理）
  - ・治験薬の払出管理（管理表記入） など
- ④ その他
  - ・研究担当医師の支援（治験コーディネーター、調査票作成支援）
  - ・治験に関わる院内スタッフや治験依頼者との連携調整 など
- (2) 人を対象とする医学系研究（治験以外）
  - ① 臨床研究事務局
    - ・臨床研究の院内許可手続き
    - ・外部倫理委員会一括承認後の院内許可手続き
    - ・臨床研究に係る契約手続き
    - ・AMED等受託研究の契約に係る手続きや研究費の予算書・決算書の作成と提出
    - ・研究支援費の管理 など
  - ② 倫理委員会事務局
    - ・倫理審査申請書類の受付・管理
    - ・倫理委員会開催準備
    - ・審査結果通知、議事録の作成 など
  - ③ 研究補助
    - ・臨床研究に関するデータ管理
    - ・研究報告書作成補助 など
  - ④ その他
    - ・臨床研究に関する手順書等の整備
    - ・eラーニングの受講管理 など
- (3) 医療現場で起こる倫理的問題への対応
  - ① 臨床倫理委員会事務局
    - ・臨床倫理審議申請書類の受付・管理
    - ・臨床倫理委員会開催準備

- ・審議結果通知、議事録の作成
- ・臨床倫理に関する研修会の開催など

### 3. 2023 年度実績

倫理委員会において、新たに36件（当院で審査：17件、一括審査：19件）の臨床研究が承認され、前年度からの継続を含め184件の臨床研究を実施した。倫理指針の改定により、「試料・情報の提供のみを行う機関」は研究機関と明確に区別し研究協力機関と定義されたため倫理審査は不要となった。今年度はこれに該当するものが10件あり、そのために新しい研究としての件数は減少した。また臨床研究法（平成29年法律第16号）において規定される特定臨床研究を新たに1件（消化器科）実施した。

治験については、新たに6件受託し、前年度からの継続を含めた治験件数は27件となった。このうち、今年度で終了した治験は5件であった。新規受託件数が前年度より減少したものの、実施件数は2件増え、実施症例数は前年度の28例から42例へ大幅に増加した。なお、小児治験ネットワークを介して受託した治験は新規1件を含む10件であった。

製造販売後調査は、新たに3件受託し、前年度からの継続を含めた調査件数は23件となった。このうち、今年度で終了した件数は7件であった。

研究に携わる職員に対して、以前よりeラーニングを用いた研究倫理に関する研修を必須としているが、受講歴を管理し未受講者には臨床研究を申請する際に受講を促すようにしたところ、受講者数が前年度の37名から45名と増加した。

臨床倫理に関しては神経科、循環器科、心臓血管外科より審議申請があった。そのうち、神経科については外部委員を含めた臨床倫理委員会を開催（令和5年11月13日）し、循環器科と心臓血管外科については委員長が緊急性を要すると判断したため院内委員のみで開催した。医療への患者・家族の意思・意向の反映、情報開示、その他倫理的検討が必要なテーマについて検討し、委員会としての提言を行い、適切に対応した。

2023年度における、当院の受託研究・臨床研究の実績については、第3部 資料編に記載する。

（虻川 大樹、中井 啓、戸羽 香織）

## 入退院センター

入退院センターは、患者視点に立ち入院前から退院後まで切れ目のない支援を行い、一元的な患者サポートを行う目的として2020年3月に開設された。2022年5月に改修工事が終了しフルオープンすることができた。医師・看護師・MSW・臨床心理士・薬剤師・事務職・地域連携室等が良好なチームワークを形成できる環境になっている。また、フリーデスクを配置し医師事務補助者が利用するなど開かれたスペースにしている。

入退院センターでは、入院前支援として入院予定が決まった患者向けに入院生活の概要に関する説明、入院に際して必要な書類の説明、患者・家族の不安を軽減するための支援を行っている。入院前説明を行う対象を2022年10月から全予定入院患者へ拡大した結果、今年度は2,713件へと増加した。

2023年度の具体的取組として、以下のようなものを行った。

- ・遠方に住んでいる患者等が未来院で入院が決まった場合の入院前説明方法を一元化
- ・薬剤部との連携により、手術前の休薬に関するスクリーニングシステムを導入
- ・医療費後払いサービスのアプリ導入等による、患者家族の利便性向上

そして、入院当日においては、感染チェック、書類受付、入院当日各科受診の誘導などを行い、スムーズに病棟に入院できるようマネジメントしている。入院当日対応件数は2,984件であった。

来室者の増加に伴いカウンターを造設し、4席で対応にあたり、待ち時間の軽減に努めた。

入院後の様々な相談については、患者相談窓口で院内外の多職種と協働しながら問題解決にあたっている。

相談件数は577件であり、医療福祉に関する相談が最も多く、その他受診相談・グリーンケアなど様々なニーズに丁寧な支援を行っている。また、医療安全に関する相談は医療安全推進室と協働し対応した。

退院支援を必要とする患者・家族へは、急性期から療育までの様々な入院患者を対象としてスクリーニングを行い、介入が必要な場合は多職種カンファレンスで支援方法を検討し、地域の保健・医療・福祉・教育機関等と連携し退院後の生活へスムーズに移行できるよう調整している。さらに、退院後も在宅療養生活が安定するように、途切れることなく支援を継続している。また、在宅療養患者へ提供する医療材料の発注から提供までのシステムおよび提供内容の可視化にRFID (Radio Frequency Identification) システムを取り入れ、現在業務改善に取り組んでいる。

病院に求められる患者サービスの社会的な変化に合わせてながら、さらに患者サービスが向上していけるよう複数のワーキンググループを立ち上げて検討を続けている。

(梅林 宏明、鈴木ひろ子)



## 緩和ケアチーム

### 1. はじめに

緩和ケアチーム (Palliative Care Team ; PCT) は、当院の外来・病棟にて医療を受けている子どもたちとご家族に対して、疾患を問わず体やこころの痛みを和らげるお手伝いをしている。私たちは2013年度から活動を開始し、2015年度からは全職員向けに活動を広げ、2019年度からは各部署のリンクナースを

チームに迎え、現在まで多くの診療科、部署からコンサルテーション依頼を受け多職種チームで活動中である。また院内或いは外部講師招聘による緩和ケアに関する勉強会も開催している。外部講師招聘による講演会は2023年度までに12回を数え、2023年度で活動開始から11年目を迎えた。

## 2. 活動内容

### 1) 患者さんのコンサルテーション

相談依頼のあった患者さんについて、部署の多職種でミーティングを実施し、ケアの方針の立案、情報の共有を行い、定期的なラウンドを行っている。

### 2) PCT ミーティング

2か月に1回開催。

### 3) 小児緩和ケアネットワークカンファレンス

東北大学病院緩和ケアチーム、同小児科、成育医療研究センター等宮城県内外の小児緩和ケアに携わる専門家を結んで2か月に1回のWebカンファレンスを2020年12月から開始、主催している。

### 4) 日本緩和医療学会への参加

毎年複数名が参加費、旅費のサポートを受けて参加している。

### 5) 小児緩和ケアチーム研修会への参加

毎年参加し、スキルアップに取り組んでいる。

### 6) 小児緩和ケアに携わる看護師のためのエンド・オブライフケア研修(ELNEC-JPPC)への参加

2023年度より定期参加可能となるよう環境を整えました。

## 3. 2021年度活動実績

2023年度は以下の活動を行った。

### 1) PCT ミーティング 6回開催

2023年：5月12日、7月14日、9月8日、11月10日

2024年：1月12日、3月8日

2023年度は産科病棟、入退院センターからあらたにリンクナースをお迎えした。

### 2) コンサルテーション実績

入院 初回入院のクローン病症例、2番、8番  
染色体異常、精神運動発達遅滞症例

外来 炎症性腸疾患症例、骨髄異形成症候群移植後症例

2023年度は、PCTメンバーによるピアサポートが行われた。

### 3) 緩和ケア勉強会

・2023年11月28日 院内勉強会(現地とオンラインの併用開催)

・緩和ケアチーム活動報告 佐藤 篤

・ELNEC研修報告 石塚 春香

・オンラインを活用した多地点連携小児緩和ケ

アネットワークの構築

(学会報告) 相馬 伸樹

・グリーンケアパンフレット配布件数報告

齋藤 綾佳

・入退院センターにおけるグリーンケアパンフレットの配布状況

金子沙由里

参加者：会場20名 WEB18名 計38名

・2023年2月28日 緩和ケア研修(オンライン研修)

講師：名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター

新生児部門 上田 一仁 先生

「ちいさな命の希望を紡ぐ～周産期医療と緩和ケア～」

参加者：会場45名

オンライン 193名

(Webアンケート回答者124名中、院内職員41名、院外83名)

4) 日本緩和医療学会 6名参加(現地参加5名：オンライン参加1名)

発表：オンラインを活用した多地点連携小児緩和ケアネットワークの構築

相馬 伸樹 優秀演題賞受賞

5) 小児緩和ケアチーム研修(オンライン研修)

2023年1月13日開催 参加者 薬剤師1名、医師1名

6) 小児緩和ケアネットワークカンファレンス 6回開催

第1回 5月23日、第2回 7月4日、第3回 9月5日、第4回 11月7日、第5回 1月9日、第6回 3月5日

参加施設：東北大学病院、成育医療研究センター、北海道大学病院、神奈川県立小児医療センター、広島大学病院、宮城大学、やまと在宅診療所 登米、宮城県立こども病院 PCT。

小児緩和ケアと在宅医療のかかわり、腎不全を伴う染色体異常、精神発達遅滞児への緩和ケア、MDS移植後長期経過時の慢性疼痛への対応についての議論が年間を通しての主な情報交換であった。2023年度も当院からばかりでなく、参加施設からの症例相談があり、活発な症例検討が行われた。

### 7) 論文作成

「緩和ケアチーム活動における医療スタッフにおけ

る緩和ケア困難感の変化に関する検討」について、  
Palliative care research 誌に掲載された。

(名古屋祐子ら. Palliative Care Research 18 : 235-240,  
2023)

#### 4. メンバー 23名

医師3名、看護師13名、薬剤師2名、管理栄養士、  
ソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリス  
ト、保育士、臨床心理士、各1名

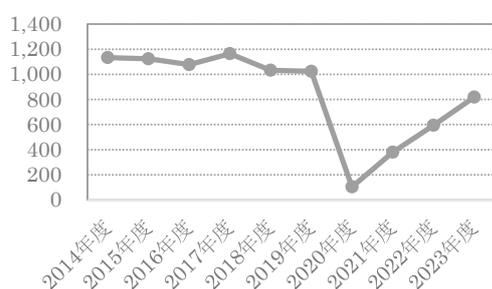
(佐藤 篤)

## 第10章 ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい

せんだいハウス（以下、ハウス）は、こども病院の開院と共にオープンし、2023年11月に20周年を迎えた。これまで、主に東北6県から述べ16,740家族がハウスを利用され、病気と向き合うこどもたちとご家族をサポートすることができた。連携する医療機関、地域のボランティアの皆様、ご寄付・募金などで支援して下さる皆様に心から感謝申し上げたい。

ハウスは、2020年度からの新型コロナウイルス感染症の影響で、ご家族の受け入れ制限を行った時期もあったが、2023年5月に同感染症が5類に移行したこともあり、ほぼ従来通りの運営となった。施設管理面では、オープンから20年が経過し経年劣化が進んでいたため大規模な改修工事を行った。（期間2023年9月11日～11月20日）改修時には2部屋の浴室をバリアフリー化し、利用されるご家族がより快適に安心して過ごしていただける環境となった。

表1. 年間利用家族数推移（過去10年）



### 1. ハウス運営

2023年度の利用延べ家族数は818家族（前年度比138%）、利用人数1,747人、総宿泊数2,402泊、平均滞在日数3日となった。（入院利用：644家族、外来利用：174家族）利用状況は徐々にコロナ禍前に戻りつつあるが、ハウス改修工事で部屋の稼働数を制限した期間もあり、年間稼働率は41.5%にとどまった。

### 2. 利用家族の地域分布と主な診療科

東北6県からの利用が97%を占め、主な診療科は、循環器科、新生児科、ついで整形外科となった。

### 3. Share Heart for sick kids 事業

入院中のこどもたちに笑顔を届けることを目的とした事業を実施。プログラムの一つである「ハートフル

表2. 稼働率推移

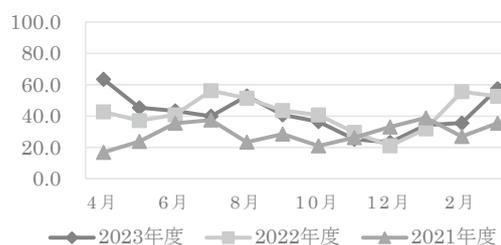
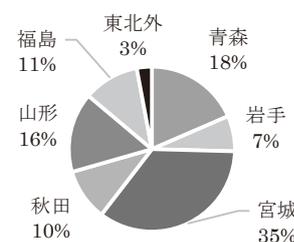


表3. 住居地分布率



主な診療科

新生児科	142	整形外科	91
循環器科	165	泌尿器科	85
心臓血管外科	44	産科	18
総合診療科	68	東北大学病院	37
脳神経外科	68		

カート」では、こども病院の各病棟を訪問し、こどもたちにおもちゃや文房具、付き添いのご家族には日用品などをプレゼントした。

ハートフルカート実施：6回 サポート患児：123人

### 4. ボランティア活動状況

2023年度末のボランティア登録人数は129名。

（うち新規登録者は46名）企業や団体のボランティア活動では8社、5団体が、清掃、庭の手入れ、ミールプログラム、ストレッチ、音楽会など多様な活動でサポートして下さった。

12月には、ともに歩んできたボランティアの皆さん、こども病院や地域の支援者の方々にご参加いただき「20周年感謝の集い」を開催した。

ハウスは、これからも地域社会の皆様にご協力、ご支援いただきながら、病気と向き合うこどもたちとご家族にとってより良いサポートができるよう取り組んでいきたい。

（小松 州子）

## 第 2 部 資 料 編

# 第1章 診療状況

総括

		2021年度	2022年度	2023年度
外 来	外来診療実日数 a	242日	242日	244日
	初診患者数	4,671人	4,140人	3,959人
	延外来患者数（併科及び入院中外来含む） b	94,205人	92,725人	91,137人
	1日平均外来患者数（併科及び入院中外来含む）	389.3人	383.2人	373.5人
	紹介率	91.7%	91.8%	95.3%
入 院	入院診療実日数 c	365日	365日	366日
	稼動病床数 d	241床	241床	241床
	新入院患者数 e	4,556人	4,661人	4,840人
	退院患者数 f	4,544人	4,662人	4,866人
	在院患者数（退院患者除く） g	52,260人	53,123人	54,070人
	延入院患者数（退院患者含む） h	56,804人	57,785人	58,936人
	1日平均入院患者数（退院患者含む）	155.6人	158.3人	161.0人
	病床利用率（退院患者含む）	64.6%	65.7%	66.8%
	平均在院日数 i	11.5日	11.4日	11.1日

<算出式>

1日平均外来患者数（併科及び入院中外来含む）= b/a

1日平均入院患者数（退院患者含む）= h/c

病床利用率（退院患者含む）=  $h \times 100 / (c \times d)$

平均在院日数 =  $g / \{(e+f) / 2\}$

2023 年度地域別実患者数

【入院】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
青葉区	79	73	86	95	111	99	94	85	104	98	86	89	1,099
泉区	45	49	45	61	66	54	39	51	46	57	37	37	587
太白区	49	43	47	64	55	49	41	45	43	41	47	60	584
宮城野区	28	32	32	31	33	33	31	36	28	33	31	28	376
若林区	24	24	19	23	30	27	20	21	23	26	22	32	291
山形県	24	17	24	24	25	26	29	26	22	15	23	34	289
名取市	15	21	15	23	29	19	26	19	21	21	13	20	242
大崎市	19	24	17	16	17	15	21	25	22	19	17	14	226
福島県	16	11	13	15	19	13	13	8	14	17	22	23	184
石巻市	18	19	16	11	14	8	14	16	17	13	14	24	184
富谷市	14	13	15	11	15	13	14	12	14	9	9	7	146
岩手県	13	12	11	13	19	7	14	7	16	9	10	14	145
宮城郡	7	12	7	12	16	8	16	10	11	14	14	11	138
登米市	10	7	13	11	15	13	4	14	11	13	8	16	135
柴田郡	8	8	17	10	17	7	9	8	12	11	8	13	128
多賀城市	12	8	6	9	16	11	7	16	14	10	6	9	124
黒川郡	5	6	11	8	11	6	16	22	6	6	9	9	115
青森県	9	8	15	11	11	8	10	7	3	11	5	11	109
岩沼市	9	12	9	12	9	8	12	6	8	5	9	7	106
亘理郡	8	7	5	17	14	6	8	8	6	10	8	4	101
栗原市	6	8	11	8	7	11	4	8	9	4	5	3	84
塩竈市	9	5	4	2	7	8	8	10	4	4	9	7	77
気仙沼市	5	8	5	7	4	6	5	3	3	3	2	7	58
角田市	1	3		11	6	2	5	6	2	4	8	8	56
秋田県	9	9	10	4	5	3	2	3	1	2	2	5	55
加美郡	6	7	8	6	4	4	4	2	3	5	3	3	55
東松島市	3	3	7	6	5	1	2	2	5	2	7	8	51
白石市	2	4	5	5	3	4	5	9	4	5	3	2	51
遠田郡	4	2	1	1	2	2	1	3	6	4	3	2	31
東京都			2		4	1	1		2	1	3	2	16
刈田郡		1	1	2	2		1		1	1	1	1	11
茨城県	2			3	2	2			1	1			11
神奈川県	1	3	1	2					1				8
千葉県	3		1	1			1	1	1				8
埼玉県		1	2							1		1	5
牡鹿郡			1				1	2	1				5
伊具郡		1	1	1	1							1	5
愛媛県	1		1			1				1			4
北海道				1	1					1		1	4
本吉郡	1	1								1		1	4
栃木県				1				1	1				3
大阪府				2									2
福岡県								2					2
新潟県					1		1						2
石川県												1	1
沖縄県	1												1
総計	466	462	484	540	596	475	479	494	486	478	444	515	5,919

【外来】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
青葉区	885	865	964	883	1,057	922	887	856	947	860	843	1,035	11,004
泉区	505	501	527	510	580	531	518	475	514	506	488	568	6,223
太白区	517	464	488	480	548	502	478	450	493	452	451	528	5,851
宮城野区	306	300	307	298	344	296	325	301	336	300	273	348	3,734
若林区	211	231	249	219	259	260	237	217	272	221	215	289	2,880
名取市	185	176	204	185	234	196	185	193	215	164	184	240	2,361
大崎市	176	159	178	167	201	169	169	169	180	172	163	188	2,091
柴田郡	154	140	147	139	174	138	161	137	159	132	141	164	1,786
富谷市	154	127	170	157	160	133	134	131	149	153	113	182	1,763
石巻市	126	115	143	112	159	130	117	131	137	129	118	122	1,539
山形県	117	129	105	125	184	127	135	130	124	101	87	154	1,518
福島県	125	95	116	137	168	120	119	110	126	123	90	156	1,485
登米市	136	107	122	135	146	100	122	119	109	102	123	124	1,445
岩沼市	128	103	97	108	106	97	116	105	106	110	103	124	1,303
宮城郡	111	104	108	112	114	102	107	97	112	109	85	125	1,286
黒川郡	109	97	106	108	121	88	103	84	100	97	92	117	1,222
多賀城市	100	84	109	86	107	100	95	89	96	88	81	123	1,158
亘理郡	85	59	80	85	88	71	82	71	96	77	75	94	963
岩手県	87	62	82	99	82	83	83	69	74	78	65	94	958
塩竈市	75	59	56	58	72	54	60	56	63	54	58	70	735
栗原市	54	41	61	55	70	51	50	48	58	48	37	64	637
気仙沼市	58	51	52	53	52	57	51	53	50	56	50	47	630
白石市	56	46	55	42	53	53	49	47	58	49	45	61	614
東松島市	48	43	47	52	63	40	38	45	52	41	42	53	564
角田市	38	35	32	40	46	37	49	44	43	40	29	59	492
遠田郡	37	37	44	40	45	43	34	42	46	36	43	43	490
加美郡	35	32	36	26	36	31	33	30	31	31	27	39	387
青森県	28	44	25	37	38	29	31	28	19	17	19	37	352
刈田郡	15	13	22	16	14	16	22	20	15	21	14	19	207
秋田県	11	15	12	19	24	9	16	15	8	6	3	16	154
伊具郡	13	16	12	7	12	12	13	8	8	10	6	10	127
本吉郡	9	8	7	6	8	8	9	6	7	9	4	9	90
牡鹿郡	5	6	3	3	9	3	10	7	6	7	6	5	70
東京都	7	4	5	7	9	3	4	5	7	8	5	5	69
千葉県	6	5	2	4	2	1	5	3	3	1	2	1	35
埼玉県	3	3	3	3	3	2	4	3	3	1	4	3	35
神奈川県	3	3	4	3	5			3	2	2	1		26
茨城県		1	2	2	2		2		2	1	1	1	14
石川県			1		1		1	1	2	2	2	2	12
群馬県	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	12
佐賀県	2			2			2	1		2	2	1	12
北海道	1		1		3	1	1		2	1	2		12
愛媛県		1	1	1	2		1	1	1	1	1		10
福岡県	2				2		1	2			1	1	9
大阪府		1			2				1	1	1	2	8
栃木県			1	1				1		1	1	1	6
愛知県	2	3											5
新潟県	1		1	1	1				1				5
沖縄県	1	1						1			1		4
長崎県	1						1	1			1		4
兵庫県	1	1			1	1							4
京都府				1								1	2
岡山県					1				1				2
富山県						1							1
オーストラリア										1			1
和歌山県										1			1
奈良県							1						1
広島県						1							1
静岡県												1	1
総計	4,730	4,388	4,788	4,626	5,408	4,619	4,662	4,406	4,835	4,423	4,199	5,327	56,411

年齢・性別別月別集計（入院 + 外来）

年齢区分	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年齢割合		
0歳	男	246	239	214	225	201	204	170	195	195	200	186	175	2,450	24.2%		
	女	199	193	193	187	186	174	172	186	177	182	166	172	2,187			
1歳	男	224	194	200	179	180	231	216	197	190	174	197	185	2,367			
	女	145	158	163	146	135	171	153	151	143	149	153	144	1,811			
2歳	男	128	127	151	139	138	155	134	139	138	148	146	160	1,703			
	女	117	139	129	123	127	130	133	136	112	117	108	111	1,482			
3歳	男	132	119	174	126	134	153	157	123	143	142	116	134	1,653			
	女	121	135	133	96	98	117	110	122	129	115	108	141	1,425			
4歳	男	161	159	166	138	128	140	149	134	129	126	128	137	1,695		16.5%	
	女	117	119	132	113	102	119	117	118	123	114	91	106	1,371			
5歳	男	211	200	203	185	179	198	176	183	169	168	144	157	2,173			
	女	127	95	148	118	117	117	126	115	112	117	104	124	1,420			
6歳	男	156	154	157	167	173	196	190	166	205	192	171	243	2,170			
	女	114	116	114	121	143	136	118	132	122	111	120	137	1,484			
7歳	男	162	142	148	186	203	156	198	144	161	150	143	190	1,983			15.4%
	女	92	104	115	122	149	95	99	98	102	108	85	151	1,320			
8歳	男	150	140	173	150	188	157	147	144	153	140	137	171	1,850			
	女	118	100	106	131	137	98	111	98	118	106	109	113	1,345			
9歳	男	156	134	171	145	182	148	160	154	170	147	126	179	1,872			
	女	116	103	103	92	142	87	109	87	99	110	78	110	1,236			
10歳以上 15歳未満	男	713	647	672	783	964	659	742	660	796	733	630	810	8,809	24.7%		
	女	567	489	535	579	728	499	539	504	591	486	484	611	6,612			
15歳以上	男	428	399	444	423	633	473	428	434	509	424	441	696	5,732	19.1%		
	女	496	445	528	492	637	481	487	480	535	442	472	685	6,180			
総計	男	2,867	2,654	2,873	2,846	3,303	2,870	2,867	2,673	2,958	2,744	2,565	3,237	34,457	55.3%		
	女	2,329	2,196	2,399	2,320	2,701	2,224	2,274	2,227	2,363	2,157	2,078	2,605	27,873	44.7%		
	合計	5,196	4,850	5,272	5,166	6,004	5,094	5,141	4,900	5,321	4,901	4,643	5,842	62,330	100.0%		

2023 年度 月別科別入院患者数

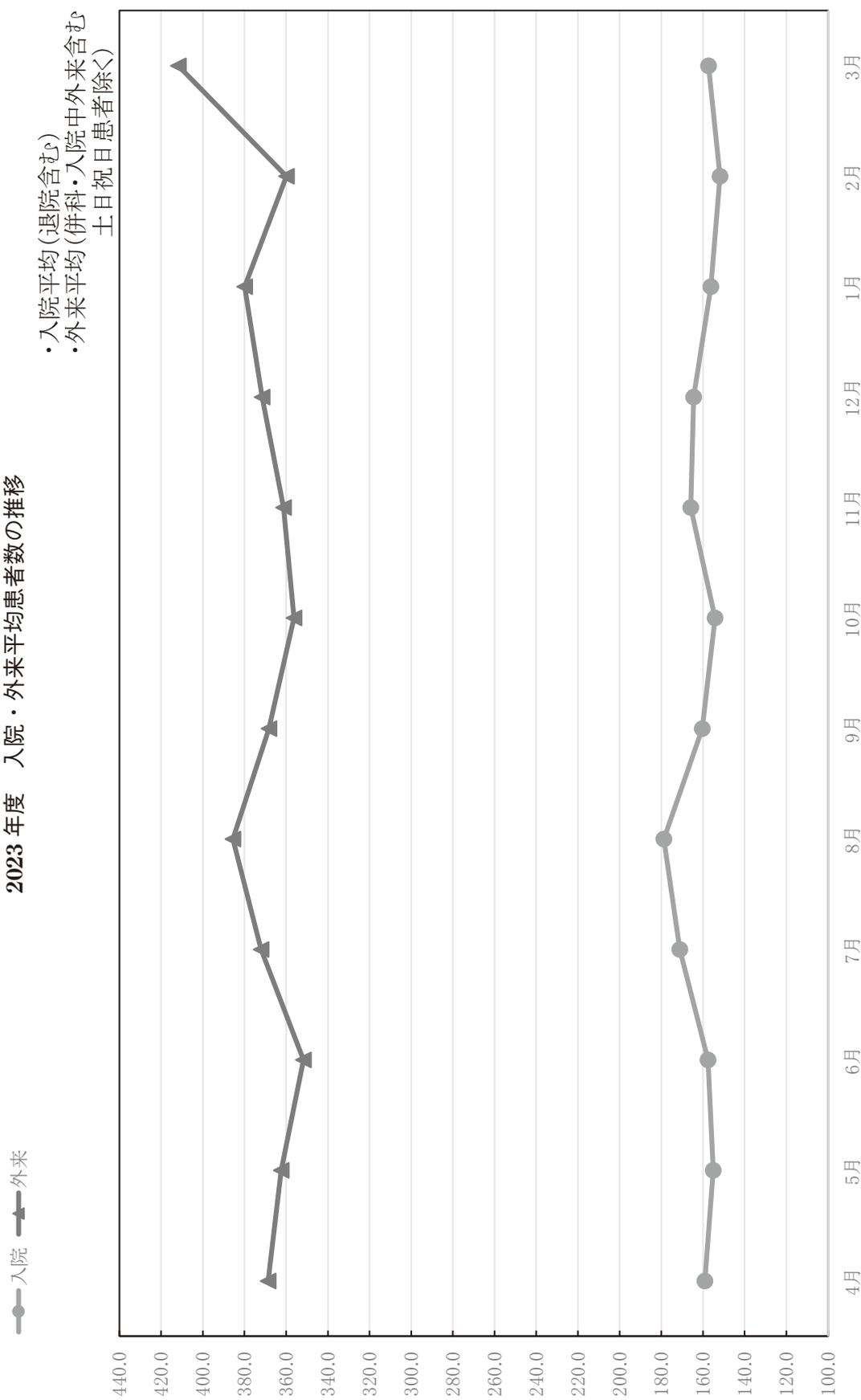
入 院		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新 生 児 科	在院患者数	718	726	613	780	786	729	509	698	750	716	603	655	8,283
	入 院	37	30	26	39	26	21	26	30	25	26	20	26	332
	退 院	29	27	26	29	25	27	21	27	20	26	22	21	300
綜 合 診 療 科	在院患者数	394	332	508	487	423	469	536	493	534	466	477	516	5,635
	入 院	118	118	113	130	145	125	128	126	119	118	101	124	1,465
	退 院	126	111	122	133	153	129	126	125	122	118	99	132	1,496
血 液 腫 瘍 科	在院患者数	522	527	409	429	389	375	374	342	218	141	225	307	4,258
	入 院	13	17	19	18	13	13	13	9	9	8	19	17	168
	退 院	11	21	19	18	12	15	12	13	14	7	14	17	173
循 環 器 科	在院患者数	372	463	380	420	418	335	340	286	267	325	317	388	4,311
	入 院	29	26	30	27	39	29	30	26	32	28	25	31	352
	退 院	30	35	32	30	41	31	30	33	36	25	25	35	383
神 経 科	在院患者数	483	628	758	821	976	732	604	808	942	912	730	786	9,180
	入 院	40	43	52	51	59	47	40	48	47	42	36	48	553
	退 院	44	47	53	50	64	57	43	53	48	52	37	60	608
外 科	在院患者数	178	225	162	182	133	153	154	202	238	252	224	183	2,286
	入 院	39	38	28	28	29	23	31	37	30	37	30	28	378
	退 院	39	43	23	31	31	27	30	32	36	37	26	33	388
心臓血管外科	在院患者数	181	246	122	140	217	216	174	187	192	156	145	154	2,130
	入 院	8	7	6	8	8	7	6	8	6	7	6	3	80
	退 院	8	7	7	5	6	9	7	8	6	6	5	6	80
脳神経外科	在院患者数	63	73	98	123	106	35	65	35	38	36	46	64	782
	入 院	8	11	12	12	11	6	8	5	8	7	9	12	109
	退 院	10	13	11	9	14	8	7	6	9	5	9	13	114
整 形 外 科	在院患者数	730	670	767	874	963	833	1,003	857	944	990	883	776	10,290
	入 院	19	17	18	26	17	17	17	10	21	24	16	25	227
	退 院	18	16	16	17	25	13	21	9	24	15	24	29	227
形 成 外 科	在院患者数	138	120	79	65	147	93	140	117	126	75	69	79	1,248
	入 院	25	27	21	21	26	20	24	21	14	31	25	22	277
	退 院	26	27	23	18	24	25	20	23	17	26	28	25	282
泌 尿 器 科	在院患者数	103	74	85	93	107	80	86	119	109	96	79	90	1,121
	入 院	21	18	18	29	27	15	22	21	25	22	14	31	263
	退 院	22	14	22	23	32	18	17	24	25	18	17	31	263
産 科	在院患者数	320	205	178	313	230	228	287	310	216	194	165	285	2,931
	入 院	37	27	28	41	23	25	33	25	27	32	15	35	348
	退 院	41	22	32	38	25	26	27	32	30	26	20	29	348
歯科口腔外科 矯正歯科	在院患者数	16	10	16	18	25	19	14	6	12	22	15	19	192
	入 院	8	5	8	9	13	9	7	3	6	11	9	9	97
	退 院	9	5	7	10	12	10	7	3	6	10	9	10	98
集 中 治 療 科	在院患者数	112	80	135	128	108	79	92	100	88	55	72	91	1,140
	入 院	4	11	12	9	9	8	6	8	8	7	4	6	92
	退 院						2			2		1	1	6
シヨートステイ	在院患者数	21	32	19	13	38	27	24	22	21	24	12	30	283
	入 院	5	9	6	7	12	9	9	6	10	10	5	11	99
	退 院	7	8	6	6	12	9	10	6	8	12	5	11	100
合 計	在院患者数	4,351	4,411	4,329	4,886	5,066	4,403	4,402	4,582	4,695	4,460	4,062	4,423	54,070
	入 院	411	404	397	455	457	374	400	383	387	410	334	428	4,840
	退 院	420	396	399	417	476	406	378	394	403	383	341	453	4,866

2023年度 月別科別延外来患者数

外 来		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新生児科	延患者数	311	284	334	360	387	336	317	329	333	323	333	381	4,028
	初診	4	3	6	6	2	4	2	3	4	4	5	3	46
	再診	107	106	115	145	148	106	105	88	113	119	113	137	1,402
	併科	200	175	213	209	237	226	210	238	216	200	215	241	2,580
総合診療科	延患者数	1,429	1,507	1,592	1,492	1,708	1,501	1,507	1,545	1,655	1,558	1,445	1,641	18,580
	初診	73	99	112	107	107	81	74	84	89	98	65	66	1,055
	再診	997	987	1,085	1,042	1,195	1,016	996	1,000	1,055	1,038	962	1,103	12,476
	併科	359	421	395	343	406	404	437	461	511	422	418	472	5,049
血液腫瘍科	延患者数	154	147	182	176	236	174	174	157	181	143	152	228	2,104
	初診	3	3	9	1	4	4	12	7	7	3	4	3	60
	再診	132	127	139	153	208	143	133	129	142	120	129	191	1,746
	併科	19	17	34	22	24	27	29	21	32	20	19	34	298
内分泌科	延患者数	162	127	150	159	207	150	151	136	170	140	140	169	1,861
	初診			1										1
	再診	121	95	104	114	128	101	99	103	119	103	101	110	1,298
	併科	41	32	45	45	79	49	52	33	51	37	39	59	562
循環器科	延患者数	480	411	465	462	591	465	445	403	419	413	441	562	5,557
	初診	15	22	22	21	15	12	12	15	9	7	11	14	175
	再診	378	307	354	345	464	362	345	319	329	299	312	403	4,217
	併科	87	82	89	96	112	91	88	69	81	107	118	145	1,165
神経科	延患者数	1,218	1,189	1,372	1,257	1,311	1,188	1,261	1,227	1,379	1,194	1,167	1,360	15,123
	初診	12	35	31	44	28	19	32	32	30	26	28	26	343
	再診	937	832	1,001	921	982	905	946	840	940	863	899	1,015	11,081
	併科	269	322	340	292	301	264	283	355	409	305	240	319	3,699
外科	延患者数	222	239	268	347	356	266	296	339	345	316	284	342	3,620
	初診	18	15	8	11	13	9	15	14	7	16	10	10	146
	再診	118	152	132	157	191	137	142	161	159	133	129	179	1,790
	併科	86	72	128	179	152	120	139	164	179	167	145	153	1,684
心臓血管外科	延患者数	75	88	101	116	119	45	61	78	54	46	32	36	851
	初診													7
	再診					2	1	1		1		2		7
	併科	75	88	101	116	117	44	60	78	53	46	30	36	844
脳神経外科	延患者数	119	111	114	132	149	112	113	104	129	96	71	114	1,364
	初診	39	36	28	30	21	28	27	28	32	32	26	23	350
	再診	50	41	45	62	74	53	53	41	45	34	30	60	588
	併科	30	34	41	40	54	31	33	35	52	30	15	31	426
整形外科	延患者数	626	580	617	623	552	603	605	607	593	554	538	602	7,100
	初診	20	19	22	19	15	21	18	12	13	16	21	18	214
	再診	491	441	474	481	442	459	462	476	458	433	410	468	5,495
	併科	115	120	121	123	95	123	125	119	122	105	107	116	1,391
形成外科	延患者数	365	343	302	332	384	320	348	299	294	316	274	393	3,970
	初診	26	33	29	16	24	19	15	36	26	24	19	24	291
	再診	264	249	222	271	299	253	286	224	219	241	204	308	3,040
	併科	75	61	51	45	61	48	47	39	49	51	51	61	639
泌尿器科	延患者数	337	366	393	350	475	370	386	304	400	358	297	442	4,478
	初診	29	26	26	15	24	21	24	27	21	20	26	25	284
	再診	254	261	285	258	377	293	303	216	305	250	211	358	3,371
	併科	54	79	82	77	74	56	59	61	74	88	60	59	823
産科	延患者数	253	276	280	261	301	211	227	224	206	218	218	229	2,904
	初診	38	54	50	44	44	26	36	29	37	36	40	39	473
	再診	215	222	230	217	256	185	190	194	169	182	178	190	2,428
	併科					1		1	1					3

外 来		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
眼 科	延患者数	215	224	215	238	234	217	227	200	228	235	209	245	2,687
	初 診		1	1	1	1		2	1	1	2		3	13
	再 診	115	111	109	119	134	103	111	106	109	111	102	127	1,357
	併 科	100	112	105	118	99	114	114	93	118	122	107	115	1,317
耳鼻咽喉科	延患者数	68	83	84	67	75	77	64	75	81	72	61	76	883
	初 診													
	再 診	34	28	34	26	39	34	28	28	39	29	29	30	378
	併 科	34	55	50	41	36	43	36	47	42	43	32	46	505
歯科口腔外科 矯正歯科	延患者数	711	613	695	556	869	741	675	605	779	671	646	861	8,422
	初 診	36	49	28	21	11	37	45	27	16	33	35	21	359
	再 診	675	564	667	535	858	704	630	578	763	638	611	840	8,063
	併 科													
児童精神科	延患者数	31	28	28	29	35	25	26	30	28	22	26	21	329
	初 診													
	再 診	25	17	24	26	30	24	21	23	24	18	20	19	271
	併 科	6	11	4	3	5	1	5	7	4	4	6	2	58
リハビリテーション科	延患者数	57	46	34	24	9	27	24	29	33	15	31	44	373
	初 診													
	再 診	1		1	1	1	2	1		1	1	1		10
	併 科	56	46	33	23	8	25	23	29	32	14	30	44	363
放射線科	延患者数	2			6	1	1	3			3		1	17
	初 診													
	再 診													
	併 科	2			6	1	1	3			3		1	17
麻酔集中治療科	延患者数	174	226	174	143	166	219	211	192	183	198	188	173	2,247
	初 診			3	4		1	1	1		1			11
	再 診		1	1		1	2		1		1		1	8
	併 科	174	225	170	139	165	216	210	190	183	196	188	172	2,228
発達診療科	延患者数	400	417	407	391	380	389	407	389	379	373	333	374	4,639
	新 患	14	12	13	17	10	8	12	13	11	7	10	11	138
	再 来	356	379	373	351	353	361	373	367	348	349	309	343	4,262
	併 科	30	26	21	23	17	20	22	9	20	17	14	20	239
合 計	延患者数	7,409	7,305	7,807	7,521	8,545	7,437	7,528	7,272	7,869	7,264	6,886	8,294	91,137
	初 診	327	407	389	357	319	290	327	329	303	325	300	286	3,959
	再 診	5,270	4,920	5,395	5,224	6,182	5,244	5,225	4,894	5,338	4,962	4,752	5,882	63,288
	併 科	1,812	1,978	2,023	1,940	2,044	1,903	1,976	2,049	2,228	1,977	1,834	2,126	23,890

### 2023年度 入院・外来平均患者数の推移



2023年度 月別診療行為別収入

(単位：円)

区分	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計	
入院収益	初診料	269,960	302,600	305,320	436,340	269,160	291,270	300,290	259,240	271,480	183,400	271,170	3,381,600	
	指導料	767,800	720,550	953,950	809,800	883,650	663,100	794,850	886,150	630,900	724,400	837,350	9,393,200	
	在宅料	3,931,140	4,536,590	4,057,420	3,643,380	4,215,760	4,823,570	3,983,130	3,740,550	4,407,830	4,007,830	2,872,190	6,140,870	50,360,260
	投薬料	3,313,670	1,893,090	2,265,160	1,963,920	2,672,130	2,757,360	2,502,050	3,835,040	3,993,480	2,098,150	2,403,140	2,766,720	32,463,910
	注射料	8,070,380	5,514,940	7,432,660	7,970,580	18,143,490	12,070,960	9,161,970	16,164,000	15,676,000	6,696,520	6,988,850	5,932,350	119,822,700
	処置料	5,863,760	7,394,240	4,176,520	5,298,490	6,966,610	5,044,550	4,531,340	8,817,340	6,604,770	3,369,970	4,059,040	8,466,300	70,592,930
	手術料	110,535,720	100,615,550	104,544,020	97,822,340	123,384,400	88,646,520	100,370,580	88,827,340	80,850,460	80,914,780	96,511,970	87,812,600	1,160,836,280
	検査料	3,325,240	3,374,490	3,477,850	2,828,640	3,872,380	3,291,690	3,789,040	4,344,840	4,304,300	3,891,950	3,844,510	4,057,660	44,402,590
	画像診断料	385,130	414,650	464,610	264,130	471,520	374,700	446,040	555,110	461,220	328,680	329,110	490,910	4,985,810
	その他	1,656,180	1,831,180	2,924,950	3,237,360	4,089,100	2,219,820	3,147,980	2,961,050	2,978,900	2,595,000	2,110,510	1,861,730	31,613,760
	入院料	278,725,670	297,822,520	283,072,750	314,971,050	320,778,800	280,467,840	284,562,760	293,882,640	289,745,830	258,177,670	242,473,770	285,123,900	3,429,805,200
	食事療養費	5,478,078	5,226,326	5,249,862	5,748,412	5,975,116	5,098,372	5,390,652	5,319,732	5,120,282	4,953,152	4,776,299	5,292,517	63,628,800
	小計	422,322,728	429,646,726	418,925,072	444,994,442	491,722,116	405,737,452	418,839,912	429,542,782	415,288,462	367,936,082	367,277,189	409,054,077	5,021,287,040
	外来収益	初診料	1,093,170	1,362,050	1,330,360	1,270,120	1,068,860	985,030	1,119,130	1,033,360	1,105,380	997,260	944,670	13,391,820
再診料		5,247,910	4,875,420	5,377,090	4,976,420	5,835,990	5,334,610	5,122,840	4,820,840	4,957,560	4,684,970	5,718,100	62,313,330	
指導料		4,969,090	4,417,060	5,954,100	5,425,960	5,646,300	4,785,200	4,727,750	4,720,800	4,963,010	4,541,330	4,559,030	5,326,780	60,036,410
在宅料		35,240,980	32,545,240	35,052,930	36,749,600	39,179,190	35,838,550	35,293,560	39,929,090	37,486,670	35,011,150	37,805,280	35,093,120	435,225,360
投薬料		103,700	121,090	251,260	227,370	201,940	232,950	311,000	206,930	372,690	204,400	259,800	116,200	2,609,330
注射料		29,707,560	42,786,980	45,100,780	39,969,960	50,528,280	40,580,400	47,412,150	41,511,100	46,440,270	44,411,840	45,403,050	48,600,640	522,453,010
処置料		1,470,920	1,304,180	1,936,050	2,155,940	2,284,720	2,048,880	2,038,420	2,000,190	2,661,820	2,434,140	2,031,140	2,659,760	25,026,160
手術料		527,130	679,190	413,330	426,450	427,800	383,010	391,700	340,270	412,680	306,620	479,650	506,230	5,294,060
検査料		14,971,240	14,797,280	17,642,350	16,850,060	20,663,200	16,041,420	16,868,060	15,497,420	16,770,980	16,538,390	15,271,840	18,877,320	200,789,560
画像診断料		5,285,390	4,409,130	4,790,500	5,581,760	6,929,360	5,645,870	5,613,590	4,263,610	4,557,500	4,251,010	3,911,400	6,098,520	61,337,640
その他		7,791,270	7,423,860	7,519,860	6,980,930	7,701,470	7,420,980	7,226,520	7,023,650	7,459,150	7,023,990	6,999,680	7,822,360	88,393,720
小計		106,408,360	114,721,480	125,368,610	120,614,570	140,467,110	119,296,900	126,088,020	121,433,030	127,519,710	120,785,810	122,403,100	131,763,700	1,476,870,400
合計		528,731,088	544,368,206	544,293,682	565,609,012	632,189,226	525,034,352	544,927,932	550,975,812	542,808,172	488,721,892	489,680,289	540,817,777	6,498,157,440

疾患別退院患者数（2023年度）

疾病分類（国際分類）	退院患者数(人)	平均在院日数(日)	主 な 疾 病 名	
感 染 症	73	8.8	急性胃腸炎、回腸炎、急性肝炎、ノロウイルス性胃腸炎、敗血症、突発性発疹症、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ウイルス性髄膜炎	
新 生 物	239	18.5	急性リンパ性白血病、骨髄性白血病、いちご状血管腫、頭蓋咽頭腫、太田母斑、下顎腫瘍、悪性リンパ腫	
血 液	90	15.2	特発性血小板減少性紫斑病、先天性フィブリノーゲン欠乏症、組織球形壊死性リンパ節炎、慢性特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、IgA血管炎	
内 分 泌	54	15.4	アレキサンダー病、ゴーシェ病2型、脱水症、ケトン性低血糖症、低血糖、栄養障害、肥満症	
精 神	18	17.7	運動発達遅滞、非器質性遺棄症、摂食障害、知的障害・要治療の行動機能障害あり、高次脳機能障害、せん妄、過換気症候群	
神 経	432	14.4	痙性四肢麻痺、脳性麻痺、低酸素性脳症、てんかん、痙性斜頸、非交通性水頭症、脊髄係留症候群、ウェスト症候群	
眼	2	1.0	内斜視、鼻涙管閉鎖症	
耳 鼻	5	5.8	急性中耳炎、真珠腫性中耳炎、急性滲出性中耳炎、耳介蜂巣炎	
循 環 器	57	17.1	慢性心不全、発作性心房頻拍、先天性乳び胸、感染性心内膜炎、大動脈弁逸脱、もやもや病、精索静脈瘤、小脳出血	
呼 吸 器	350	9.3	急性肺炎、急性気管支炎、気道狭窄、誤嚥性肺炎、気管支喘息発作、慢性呼吸不全、RSウイルス肺炎	
消 化 器	歯および顎	96	3.0	う蝕、正中過剰埋伏歯、乳歯晩期残存、歯髄炎
	消化器	448	7.1	大腸クローン病、潰瘍性大腸炎、胃食道逆流症、大腸ポリープ、腸重積症、イレウス、急性虫垂炎、非還納性肛径ヘルニア
皮 膚	46	9.0	アトピー性皮膚炎、蜂巣炎、類皮腫、癬痕拘縮、単径部膿瘍、癬痕拘縮、胼胝、毛包炎、褥瘡、皮膚膿瘍、皮膚潰瘍	
筋 骨 格	114	44.1	麻痺性尖足、外反膝、若年性特発性関節炎、母指ばね指、ヘルテス病、外反扁平足、後天性脚長不等	
尿 路	125	8.6	尿路感染症、亀頭炎、真性包茎、ネフローゼ症候群、陰のう水腫、神経因性膀胱、IgA腎症、尿管結石症、尿道皮膚瘻	
妊 娠・分 娩	347	9.5	切迫早産、既往帝王切後妊娠、胎児心疾患のための母体管理、前期破水、二絨毛膜二羊膜性双胎、重症妊娠高血圧症候群	
新 生 児	低出生体重児	87	53.3	低出生体重児、極低出生体重児、超低出生体重児、早産児
	その他	119	11.5	新生児呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、重症新生児仮死、新生児黄疸、遷延性肺高血圧症、心調律障害、過体重児
先 天 奇 形	神経	60	9.6	脊髄髄膜瘤、全前脳胞症、髄膜瘤を伴う水頭症、キアリ奇形、先天性水頭症、仙骨部脊椎破裂、小頭症
	循環器	421	21.3	心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症、両大血管右室起始症、左心低形成症候群、動脈管開存症
	呼吸器	27	4.4	先天性声門下狭窄症、喉頭軟化症、先天性気管狭窄症、先天性気管軟化症、肺分画症、先天性のう胞性肺疾患
	唇裂および口蓋裂	19	11.3	唇顎口蓋裂、唇顎裂、唇裂、硬口蓋裂
	消化器	114	12.2	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症、鎖肛、先天性総胆管拡張症、ヒルシュスプリング病、膵管胆管合流異常、総排泄腔遺残
	性器	112	6.2	停留精巣、尿道下裂、遊走精巣、埋没陰茎、陰茎弯曲、冠状溝部尿道下裂、精巣欠損
	尿路	87	5.5	先天性膀胱尿管逆流、先天性水腎症、尿管開口異常、先天性尿管瘤、総排泄腔外反症、異形成腎、低形成腎
	筋骨格	140	48.6	頭蓋骨癒合症、内反足、尖足、多合趾症、骨異形成症、股関節脱臼、関節拘縮症、軟骨無形成症、脚長不等、下肢形成不全
その他	160	10.2	単純性血管腫、副耳、異所性蒙古斑、染色体異常、ミラー・ディカー症候群、正中頸のう胞、内臓逆位	
症 状	103	4.2	痙攣重積発作、乳幼児突発性危急事態、咯血	
事 故	735	3.6	食物アレルギー、アナフィラキシー、消化管異物、脳外傷後遺症、急性薬物中毒、中心静脈カテーテル感染症	
そ の 他	37	5.3	COVID-19、気管切開術後、骨髄移植ドナー、人工肛門形成状態	
総 計	4,717	13.0		

入院行為別科別発生集計（保険診療分）

① ② ①×10+②

	件数	初診	再診	指導	在宅	投薬	注射	処置	手術	検査	画像	その他	入院料	DPC 包括	総点数	食事療養費 (円)	発生金額
2023/4/1	466	26,996	76,780	393,114	331,367	807,038	586,376	11,053,572	332,524	38,513	165,618	27,872,567			41,684,465	5,478,078	422,322,728
2023/5/1	462	30,260	72,055	453,659	189,309	551,494	739,424	10,061,555	337,449	41,465	183,118	29,782,252			42,442,040	5,226,326	429,646,726
2023/6/1	484	30,532	95,395	405,742	226,516	743,266	417,652	10,454,402	347,785	46,461	292,495	28,307,275			41,367,521	5,249,862	418,925,072
2023/7/1	540	43,634	80,980	364,338	196,392	797,058	529,849	9,782,234	282,864	26,413	323,736	31,497,105			43,924,603	5,748,412	444,994,442
2023/8/1	596	26,916	88,365	421,576	267,213	1,814,349	696,661	12,338,440	387,238	47,152	408,910	32,077,880			48,574,700	5,975,116	491,722,116
2023/9/1	475	22,137	72,070	482,357	275,736	1,207,096	504,455	8,864,652	329,169	37,470	221,982	28,046,784			40,063,908	5,098,372	405,737,452
2023/10/1	479	29,127	66,310	398,313	250,205	916,197	453,134	10,037,058	378,904	44,604	314,798	28,456,276			41,344,926	5,390,652	418,839,912
2023/11/1	494	30,029	79,485	374,055	383,504	1,616,400	881,734	8,882,734	434,484	55,511	296,105	29,388,264			42,422,305	5,319,732	429,542,782
2023/12/1	486	25,924	88,615	440,783	399,348	1,567,600	660,477	8,085,046	430,430	46,122	297,890	28,974,583			41,016,818	5,120,282	415,288,462
2024/1/1	478	27,148	63,090	400,783	209,815	669,652	336,997	8,091,478	389,195	32,868	259,500	25,817,767			36,298,293	4,953,152	367,936,082
2024/2/1	444	18,340	72,440	287,219	240,314	698,885	405,904	9,651,197	384,451	32,911	211,051	24,247,377			36,250,089	4,776,299	367,277,189
2024/3/1	515	27,117	83,735	614,087	276,672	593,235	846,630	8,781,260	405,766	49,091	186,173	28,512,390			40,376,156	5,292,517	409,054,077
総合計	5,919	338,160	939,320	5,036,026	3,246,391	11,982,270	7,059,293	116,083,628	4,440,259	498,581	3,161,376	342,980,520			495,765,824	63,628,800	5,021,287,040

外来行為別科別発生集計（保険診療分）

① ①×10

	件数	初診	再診	指導	在宅	投薬	注射	処置	手術	検査	画像	その他	総点数	発生金額	レセプト1件あたりの単価
R5.4	4,730	109,317	524,791	496,909	3,524,098	10,370	2,970,756	147,092	52,713	1,497,124	528,539	779,127	10,640,836	106,408,360	22,496
R5.5	4,388	136,205	487,542	441,706	3,254,524	12,109	4,278,698	130,418	67,919	1,479,728	440,913	742,386	11,472,148	114,721,480	26,144
R5.6	4,788	133,036	537,709	595,410	3,505,293	25,126	4,510,078	193,605	41,333	1,764,235	479,050	751,986	12,536,861	125,368,610	26,184
R5.7	4,626	127,012	497,642	542,596	3,674,960	22,737	3,996,996	215,594	42,645	1,685,006	558,176	698,093	12,061,457	120,614,570	26,073
R5.8	5,408	106,886	583,599	564,630	3,917,919	20,194	5,052,828	228,472	42,780	2,066,320	692,936	770,147	14,046,711	140,467,110	25,974
R5.9	4,619	98,503	533,461	478,520	3,583,855	23,295	4,058,040	204,888	38,301	1,604,142	564,587	742,098	11,929,690	119,296,900	25,827
R5.10	4,662	108,243	512,284	472,775	3,529,356	31,100	4,741,215	203,842	39,170	1,686,806	561,359	722,652	12,608,802	126,088,020	27,046
R5.11	4,406	111,913	482,084	472,080	3,992,909	20,693	4,151,110	200,019	34,027	1,549,742	426,361	702,365	12,143,303	121,433,030	27,561
R5.12	4,835	103,336	536,158	496,301	3,748,667	37,269	4,644,027	266,182	41,268	1,677,098	455,750	745,915	12,751,971	127,519,710	26,374
R6.1	4,423	110,538	495,756	454,133	3,501,115	20,440	4,441,184	243,414	30,662	1,653,839	425,101	702,399	12,078,581	120,785,810	27,309
R6.2	4,199	99,726	468,497	455,903	3,780,528	25,980	4,540,305	203,114	47,965	1,527,184	391,140	699,968	12,240,310	122,403,100	29,151
R6.3	5,327	94,467	571,810	532,678	3,509,312	11,620	4,860,064	265,976	50,623	1,887,732	609,852	782,236	13,176,370	131,763,700	24,735
総合計	56,411	1,339,182	6,231,333	6,003,641	43,522,536	260,933	52,245,301	2,502,616	529,406	20,078,956	6,133,764	8,839,372	147,687,040	1,476,870,400	26,181

## 2023 年度救急患者集計

### 救急救数

救急別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
救急車	81	97	160	164	113	97	79	105	113	99	70	94	1,272
急患	64	69	60	77	54	61	67	67	64	65	59	66	773
総計	145	166	220	241	167	158	146	172	177	164	129	160	2,045

救急車搬送率：救急車 ÷ 全救急患者数 × 100

62.2%

### 救急患者入院率

救急患者入院の有無	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
救急車	40	38	66	63	45	42	37	46	54	42	27	46	546
急患	33	33	28	43	25	29	36	34	34	26	23	34	378
総計	73	71	94	106	70	71	73	80	88	68	50	80	924

入院率：救急入院数 ÷ 全救急患者数 × 100

45.2%

### 年代別集計

年代別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
0歳	28	25	35	40	18	16	15	21	17	23	15	17	270
1歳	17	30	36	35	21	14	12	21	26	19	20	17	268
2歳	13	16	20	28	17	8	15	16	17	21	9	11	191
3歳	9	13	18	20	14	13	10	14	18	10	6	13	158
4歳	9	12	14	17	15	10	6	7	10	2	9	10	121
5歳	2	7	20	8	7	8	7	10	7	10	5	8	99
6歳	8	5	7	10	8	9	5	6	8	7	4	12	89
7歳	1	8	13	8	14	9	8	6	12	9	5	3	96
8歳	3	4	1	9	4	8	9	7	5	7	6	5	68
9歳	2	4	5	7	8	12	7	9	9	4	4	6	77
10歳～15歳	20	19	19	24	19	24	14	26	19	24	26	23	257
16歳以上	33	23	32	35	22	27	38	29	29	28	20	35	351
総計	145	166	220	241	167	158	146	172	177	164	129	160	2,045

小児率：3歳以下 ÷ 全救急患者数 × 100

43.4%

### 産科救急救数

科別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
産科	21	13	17	26	9	15	30	20	15	21	12	28	227
産科以外	124	153	203	215	158	143	116	152	162	143	117	132	1,818
総計	156	145	174	212	168	114	125	126	133	132	136	122	2,045

産科救急率：産科 ÷ 全救急患者数 × 100

11.1%

### 救急患者新患・再来数

新・再	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
再来	87	83	103	102	75	97	64	70	89	75	69	83	997
新患	58	83	117	139	92	61	82	102	88	89	60	77	1,048
総計	145	166	220	241	167	158	146	172	177	164	129	160	2,045

新患率：新患 ÷ 全救急患者数 × 100

51.2%

曜日別救急患者来院時間集計

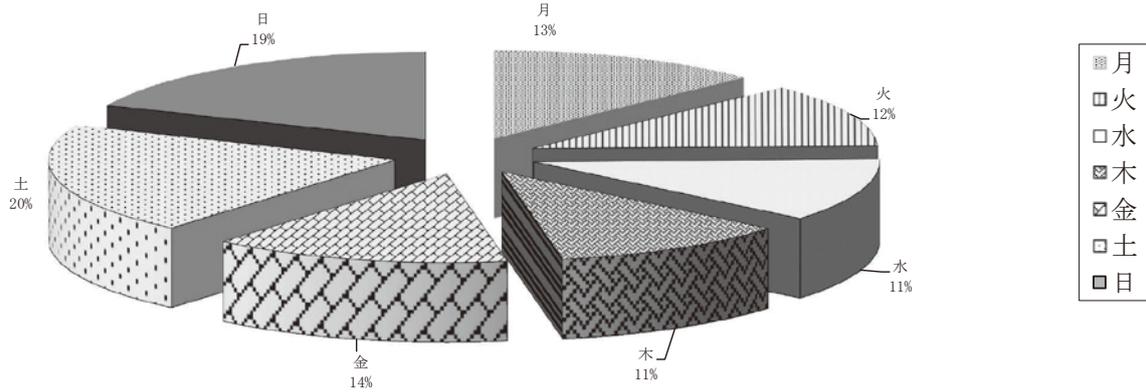
曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
月	9	26	22	35	28	22	28	16	16	32	17	12	263
火	21	18	32	26	12	19	23	15	16	21	15	21	239
水	18	26	26	23	15	16	13	27	16	24	16	15	235
木	21	20	33	13	22	14	13	25	23	14	14	16	228
金	19	18	29	31	23	14	19	29	30	21	23	29	285
土	27	38	39	52	33	40	24	35	44	27	23	33	415
日	30	20	39	61	34	33	26	25	32	25	21	34	380
総計	145	166	220	241	167	158	146	172	177	164	129	160	2,045

曜日	月	火	水	木	金	土	日	総計
曜日別来院数	263	239	235	228	285	415	380	2,045
来院率(%)	12.9	11.7	11.5	11.1	13.9	20.3	18.6	100.0

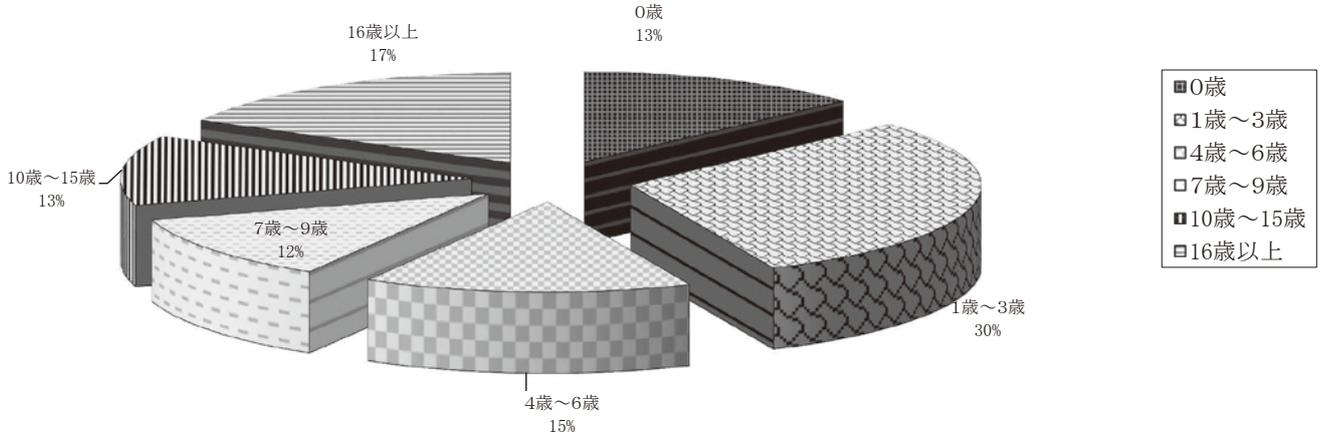
救急患者来院時間集計

時間帯	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
0時	3	7	3	9		4	3	2	6	5	4	3	49
1時	4	1	8	5	4	5	3	3	4	4	5	4	50
2時	1	4		5	2		7	1	4	7	1	2	34
3時	2	4	5	3	5		2	3	1	2	1	3	31
4時	3	1	2	6	4	3	3	1	3	1	3	4	34
5時		2	4	1		1		1	2	3	4	2	20
6時	1	5	10	5	1	5	3	5	3	5	2	5	50
7時	4	7	5	4	8	4	3	4	4	4	2	6	55
8時	8	7	8	4	8	3	5	11	12	10	8	5	89
9時	11	6	13	8	5	6	10	9	10	6	4	8	96
10時	2	6	7	13	12	6	10	6	10	12	10	13	107
11時	7	4	9	13	3	13	6	8	14	12	7	6	102
12時	4	10	4	14	9	8	6	10	11	7	8	4	95
13時	7	12	15	18	17	10	6	9	10	3	2	7	116
14時	6	10	9	13	8	7	7	16	7	7	9	6	105
15時	12	7	10	13	8	3	7	3	6	4	8	13	94
16時	2	7	5	10	2	7	3	5	5	9	1	8	64
17時	13	7	14	11	14	8	12	11	11	11	7	17	136
18時	8	11	9	19	12	11	8	9	9	9	9	7	121
19時	18	11	23	15	10	16	15	18	14	18	10	9	177
20時	8	11	25	17	11	12	11	13	13	8	7	9	145
21時	11	9	16	11	7	15	7	12	5	7	5	11	116
22時	7	10	10	19	10	4	4	5	8	6	6	4	93
23時	3	7	6	5	7	7	5	7	5	4	6	4	66
総計	145	166	220	241	167	158	146	172	177	164	129	160	2,045

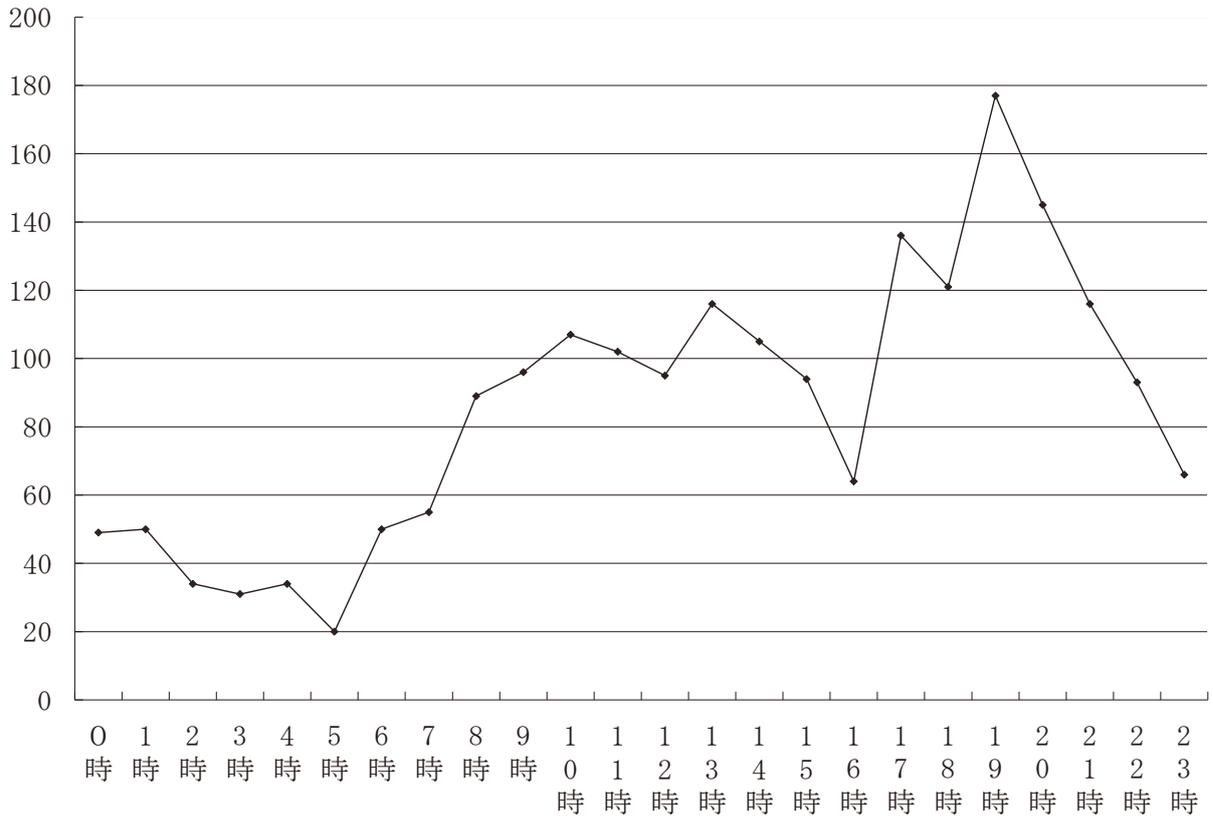
曜日別来院数



年齢別グラフ



救急患者来院時間別グラフ



## 第 2 章 経営収支状況

### 事業収支決算

(単位：千円)

		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	対前年比	
収 益	医 業 収 益	入院収入	5,071,754	5,155,146	5,073,513	▲ 81,633
		外来収入	1,714,505	1,549,510	1,524,689	▲ 24,821
		児童福祉収益	62,928	69,086	69,734	648
		その他医業収益	71,715	73,024	96,519	23,495
		小計	6,920,902	6,846,766	6,764,455	▲ 82,311
	医 業 外 収 益	受取利息配当金	967	1,252	1,249	▲ 3
		運営費負担金	3,145,700	3,011,009	3,075,659	64,650
		資産見返運営費負担金戻入等	365,850	350,983	341,246	▲ 9,737
		補助金等収益等	441,792	605,077	150,017	▲ 455,060
		その他医業外収益	46,718	44,199	226,590	182,391
		小計	4,001,027	4,012,520	3,794,761	▲ 217,759
特別利益	320	0	117	117		
計 A	10,922,249	10,859,286	10,559,333	▲ 299,953		
費 用	医 業 費 用	経費	8,965,832	9,230,466	9,420,203	189,737
		（内、人件費）	5,129,274	5,374,757	5,665,926	291,169
		（内、材料費）	2,015,854	1,831,861	1,716,385	▲ 115,476
		（内、委託費）	1,143,450	1,183,351	1,230,100	46,749
		減価償却費	1,063,719	1,108,320	1,069,051	▲ 39,269
		消費税損失（地方独法）	444,184	440,619	432,280	▲ 8,339
		その他				0
		小計	10,473,735	10,779,405	10,921,534	142,129
	医 業 外 費 用	支払利息	77,497	72,058	66,494	▲ 5,564
		その他	6,561	6,714	312,492	305,778
		消費税損失（公営企業法）				0
小計		84,059	93,558	378,986	285,428	
特別損失	439	641	6,308	5,667		
計 B	10,558,233	10,858,818	11,306,829	448,011		
当年度純損益 A - B	364,016	468	▲ 747,496	▲ 747,964		
当年度末累積損益	▲ 2,161,468	▲ 2,161,001	▲ 2,908,497	▲ 747,496		

\* 計数はそれぞれ千円未満を四捨五入しているため、合計と一致しないものがあります

比較貸借対照表

(単位：千円)

[資産の部]	令和5年3月31日(A)	令和6年3月31日(B)	差額(B)-(A)	[負債純資産の部]	令和5年3月31日(C)	令和6年3月31日(D)	差額(D)-(C)
I 固定資産				[負債の部]			
1 有形固定資産				I 固定負債			
土地	1,707,823	1,707,823	0	資産見返運営費負担金	1,155,696	1,098,760	▲ 56,936
建物	17,280,443	17,724,843	444,400	資産見返補助金等	231,004	189,926	▲ 41,078
減価償却累計額	▲ 8,444,956	▲ 8,961,300	▲ 516,344	資産見返寄附金	8,664	7,151	▲ 1,513
構築物	409,640	409,640	0	資産見返物品等受贈額	4,391,484	4,150,761	▲ 240,723
減価償却累計額	▲ 285,436	▲ 294,490	▲ 9,054	長期借入金	1,520,832	2,031,745	▲ 510,913
車両及運搬用具	27,265	27,265	0	移行前地方債償還債務	3,639,781	3,229,491	▲ 410,290
減価償却累計額	▲ 27,265	▲ 27,265	0	退職給付引当金	2,936,221	3,094,389	▲ 158,168
器具及備品	5,733,108	6,204,038	470,930	リース債務	41,340	3,180	▲ 38,160
減価償却累計額	▲ 4,654,278	▲ 5,039,077	▲ 384,799	固定負債合計	13,925,022	13,805,403	▲ 119,619
その他有形固定資産	29,557	29,557	0	II 流動負債			
減価償却累計額	▲ 3,200	▲ 3,200	0	寄附金債務	77,953	74,571	▲ 3,382
建設仮勘定	51,480	34,000	▲ 17,480	一年以内返済予定移行前地方債償還債務	403,876	410,290	6,414
有形固定資産合計	11,824,181	11,811,834	▲ 12,347	一年以内返済予定長期借入金	478,443	457,088	▲ 21,355
2 無形固定資産				未払金	953,349	933,926	▲ 19,423
電話加入権	691	691	0	未払消費税	748	2,814	2,066
ソフトウェア	258,091	141,342	▲ 116,749	一年以内支払予定リース債務	38,160	38,160	0
無形固定資産合計	258,782	142,033	▲ 116,749	預り金	37,442	40,067	2,625
3 投資その他の資産				賞与引当金	303,970	313,343	9,373
投資有価証券	1,200,218	800,060	▲ 400,158	流動負債計	2,293,941	2,270,257	▲ 23,684
長期前払費用	3,462	1,415	▲ 2,047	負債合計	16,218,963	16,075,660	▲ 143,303
長期前払消費税	130,058	156,644	26,586				
投資その他の資産合計	1,333,738	958,118	▲ 375,620	[純資産の部]			
固定資産合計	13,416,701	12,911,985	▲ 504,716	I 資本金			
II 流動資産				地方公共団体出資金	1,455,167	1,455,167	0
現金・預金	2,468,012	2,777,053	309,041	資本金合計	1,455,167	1,455,167	0
医業未収金	1,737,170	1,477,689	▲ 259,481	II 資本剰余金			
貸倒引当金	▲ 5,043	▲ 4,593	450	資本剰余金	2,730,836	2,730,836	0
未収入金	584,903	145,316	▲ 439,587	資本剰余金合計	2,730,836	2,730,836	0
薬品	24,341	28,870	4,529	III 繰越欠損金			
診療材料	10,375	10,594	219	当期末処理損失	▲ 2,161,001	▲ 2,908,497	▲ 747,496
貯蔵品	2,495	2,563	68	(うち当期総利益)	468	▲ 747,496	▲ 747,964
前払費用	2,776	2,047	▲ 729	繰越欠損金合計	▲ 2,161,001	▲ 2,908,497	▲ 747,496
その他流動資産	2,234	1,641	▲ 593	純資産合計	2,025,002	1,277,506	▲ 747,496
流動資産合計	4,827,264	4,441,181	▲ 386,083	負債純資産合計	18,243,965	17,353,166	▲ 890,799
資産合計	18,243,965	17,353,166	▲ 890,799				

\* 計数はそれぞれ千円未満を四捨五入しているため、合計と一致しないものがあります

## 経営分析

指標項目	指標計算式	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年対比
1 経常収支比率（減価償却前）	経常収益 ÷ 経常費用（減価償却前）	115.0%	111.4%	103.2%	▲ 8.2 P
2 経常収支比率（減価償却後）	経常収益 ÷ 経常費用（減価償却後）	103.4%	100.0%	93.4%	▲ 6.6 P
3 医業収支比率（減価償却前）※	医業収益 ÷ 医業費用（減価償却前）	80.4%	77.1%	74.6%	▲ 5.8 P
4 医業収支比率（減価償却後）※	医業収益 ÷ 医業費用（減価償却後）	71.6%	68.6%	66.7%	▲ 4.8 P
5 総収支比率	総事業収益 ÷ 総事業費用	103.4%	100.0%	93.4%	▲ 10.1 P
6 他会計繰入金対医業収益比率	他会計繰入金（運営費負担金 + 補助金） ÷ 医業収益	51.1%	52.8%	47.7%	▲ 3.4 P
7 他会計繰入金対経常収益比率	他会計繰入金（運営費負担金 + 補助金） ÷ 経常収益	32.4%	33.3%	30.5%	▲ 1.8 P
8 他会計繰入金対総収益比率	他会計繰入金（運営費負担金 + 補助金） ÷ 総収益	32.4%	33.3%	30.5%	▲ 1.8 P
9 人件費対医業収益比率	人件費 ÷ 医業収益	74.1%	78.5%	83.8%	9.6 P
10 委託費（保守委託を含む）対医業収益比率	委託費 ÷ 医業収益	16.5%	17.3%	18.2%	1.7 P
11 材料費対医業収益比率	材料費 ÷ 医業収益	29.1%	26.8%	25.4%	▲ 2.3 P
12 入院患者一日一人当りの診療収入	入院収益 ÷ 延入院患者数（退院数含む）	76,709円	76,647円	86,085円	▲ 62円
13 外来患者一日一人当りの診療収入	外来収益 ÷ 延外来患者数（新患 + 再来患者）	20,079円	18,853円	22,673円	2,594円
14 外来患者一日一人当りの診療収入	外来収益 ÷ 延外来患者数（入院中外来・併科含む）	15,458円	14,193円	16,730円	1,271円
15 医師一人一日当たり医業収益	入院外来収益 ÷ 医師数 ÷ 診療日数	183,077円	180,920円	200,310円	17,232円
16 看護師一人一日当たり医業収益	入院外来収益 ÷ 看護師数 ÷ 診療日数	48,560円	45,491円	49,939円	1,379円
17 医師一人一日当たり入院患者数	入院延べ患者数 ÷ 医師数 ÷ 診療日数	1.8人	1.8人	1.8人	0.0人
18 看護師一人一日当たり入院患者数	入院延べ患者数 ÷ 看護師数 ÷ 診療日数	0.5人	0.5人	0.4人	0.0人
19 医師一人一日当たり外来患者数	外来延患者数（新患 + 再来患者 土日祝日含む） ÷ 医師数 ÷ 診療日数	3.4人	3.3人	3.1人	▲ 0.4人
20 医師一人一日当たり外来患者数	外来延べ患者数（併科含む 土日祝日含む） ÷ 医師数 ÷ 診療日数	4.5人	4.4人	4.2人	▲ 0.3人
21 看護師一人一日当たり外来患者数	外来延患者数（新患 + 再来患者 土日祝日含む） ÷ 看護師数 ÷ 診療日数	0.9人	0.8人	0.8人	▲ 0.1人
22 看護師一人一日当たり外来患者数	外来延患者数（併科含む 土日祝日含む） ÷ 看護師数 ÷ 診療日数	1.2人	1.1人	1.0人	▲ 0.1人
23 100床当たりの医師数	医師数 ÷ 病床数 × 100	36.1人	36.1人	37.3人	1.2人
24 100床当たりの看護師数	看護師数 ÷ 病床数 × 100	136.1人	143.6人	149.8人	13.7人
25 100床当たりの薬剤師数	薬剤師数 ÷ 病床数 × 100	6.6人	6.6人	6.6人	0.0人
26 100床当たりの検査技師数	検査技師数 ÷ 病床数 × 100	5.4人	5.4人	5.4人	0.0人
27 100床当たりの放射線技師数	放射線技師数 ÷ 病床数 × 100	4.6人	4.1人	4.6人	▲ 0.5人
28 100床当たりの職員数	職員数 ÷ 病床数 × 100	232.4人	239.8人	249.0人	7.4人
29 総資本回転率	医業収益 ÷ [(期首総資本 + 期末総資本) ÷ 2]	0.4回	0.4回	0.4回	0.0回
30 自己資本回転率	医業収益 ÷ [(期首自己資本 + 期末自己資本) ÷ 2]	3.8回	3.4回	4.1回	0.3回
31 流動資産回転率	医業収益 ÷ [(期首流動資産 + 期末流動資産) ÷ 2]	1.5回	1.4回	1.5回	▲ 0.0回
32 固定資産回転率	医業収益 ÷ [(期首固定資産 + 期末固定資産) ÷ 2]	0.5回	0.5回	0.5回	0.0回
33 減価償却率	当期減価償却費 ÷ (有形固定資産 + 無形固定資産 - 土地 + 当期減価償却費) × 100	8.9%	9.7%	9.4%	0.6 P
34 固定比率	固定資産 ÷ 自己資本 × 100	680.0%	662.6%	1010.7%	▲ 17.4 P
35 流動比率	流動資産 ÷ 流動負債 × 100	237.7%	210.4%	195.6%	▲ 27.3 P
36 当座比率	(現金・預金 + 未収金 + 未収収益) ÷ 流動負債 × 100	235.5%	208.6%	193.6%	▲ 41.9 P
37 自己資本比率	自己資本 ÷ 総資本 × 100	10.9%	11.1%	7.4%	▲ 3.5 P
38 現金比率	現金・預金 ÷ 流動負債 × 100	143.4%	107.6%	122.3%	▲ 21.0 P
39 利子負担比率	支払利息 ÷ [借入金 + 移行前地方債償還債務] × 100	1.2%	1.3%	1.1%	▲ 0.1 P

## 第3章 業績

### 講演

#### 副院長

萩野谷和裕：脳性麻痺の診断と治療の進歩

日本新生児生育学会学術集会第67回全国大会 横浜、2023.11.2

萩野谷和裕：新生児期の脊髄性筋萎縮症の治療：当院の経験をもとに

SMA conference in Shizuoka 静岡、2023.6.7

萩野谷和裕：心身障害児（者）とご家族の地域生活と私たちの関わり

医療的ケア実践者研修会 仙台、2023.7.25

萩野谷和裕：脳性麻痺の遺伝子はあるのか？

日本小児神経学会学術集会第62回全国大会 岡山、2023.5.26

虻川 大樹：みんなで取り組もう！こどもの肥満と生活習慣～宮城県小児肥満対策マニュアル2021について～

宮城県栄養士設置市町村連絡協議会総会 仙台、2023.5.23

虻川 大樹：小児潰瘍性大腸炎

ヒュミラ 15周年 Anniversary Week ヒュミラ インターネットライブセミナー オンライン、2023.6.13

虻川 大樹：小児消化器疾患

東北医科薬科大学医学部3年次講義 仙台、2023.6.22

虻川 大樹：小児看護学援助論Ⅱ／小児消化器疾患

仙台赤門短期大学講義、2023.6.30

虻川 大樹：生活習慣と食事のとり方

ココロとカラダにeキャンブ 栗原、2023.7.17

虻川 大樹：宮城県における小児肥満の取り組み～小児科医が保育・教育の現場へ伝えたいこと～

宮城県特別支援学校保健部会研修会 オンライン、2023.7.31

虻川 大樹：宮城県における小児肥満の取り組み～小児科医が教育の現場へ伝えたいこと～

宮城県栄養教諭研修・養護教諭合同研修 名取、2023.8.29

虻川 大樹：小児の消化器疾患、症候学「腹痛」

東北大学医学部M4講義 仙台、2023.9.7

虻川 大樹：AYA世代のIBD移行期医療

IBD Transition Conference 千葉、2023.11.24

虻川 大樹：こどものおなかのお話 ～便秘、肥満、くりかえす腹痛～

専門力・実践力を活かしたこども理解セミナー 仙台、2023.11.26

虻川 大樹：小児消化器疾患

宮城学院女子大学講義 仙台、2023.11.27

虻川 大樹：これからの小児IBD診療～診断・治療・成人移行支援

IBD Webセミナー ―小児IBD診療を考える― 八戸、2023.12.11

虻川 大樹：小児医療の現場から ～宮城県における現状と課題～

Tohoku Medical Cafe 仙台、2024.3.5

#### アレルギー科

四竈 美帆：食物アレルギーについて

令和5年度 仙台市保育所連合会主催 給食担当者研修会 オンライン、2023.9.5

三浦 克志：食物アレルギー・アナフィラキシーの対応を考える

令和5年度 仙台市教育委員会主催 食物アレルギー研修会 仙台、2023.5.15

三浦 克志：アナフィラキシーガイドライン2022のポイント

ヴィアトリス社内勉強会 仙台 WEB、2023.6.1

三浦 克志：食物アレルギー・アナフィラキシーについて

仙台市教育委員会主催：養護教諭並びに栄養教諭・学校栄養職員年次研修 仙台 WEB、2023.9.1

三浦 克志：小児のアレルギー疾患

東北大学医学部 M4 講義、2023.9.14

三浦 克志：食物アレルギー・アナフィラキシーの対応を考える

宮城県教育委員会・宮城県学校保健会主催 令和5年度学校保健研修会 仙台 WEB、2023.9.15

三浦 克志：小児アトピー性皮膚炎におけるモイゼルト軟膏の使用を考える

大塚製薬株式会社主催 アトピー性皮膚炎診療におけるモイゼルトの適正使用方法を考える 仙台 WEB、2023.10.16

三浦 克志：知っておきたい乳幼児における食物アレルギーの基礎知識

仙台市主催 食物アレルギー研修会 仙台 WEB、2023.11.2

三浦 克志：正しく知って、正しく対応しよう～食物アレルギー～

宮城県環境生活部 食と暮らしの安全推進課主催 令和5年度第2回食の安全安心セミナー 仙台市、2024.2.19

三浦 克志：食物アレルギー研修

宮城県 令和5年度新任教頭研修会 仙台 WEB、2023.12.1

堀野 智史：当院のアトピー性皮膚炎診療とコレクテム軟膏の使い方

小児アトピー性皮膚炎 Expert Seminar in 宮城 オンライン、2023.11.30

堀野 智史：宮城県でのアトピー性皮膚炎診療均霑化を目指して

Pfizer Dermatology Seminar ～小児期アトピー性皮膚炎を考える～ オンライン、2023.12.22

## リウマチ・感染症科

梅林 宏明：BIO 臨床セミナー3 若年性特発性関節炎治療におけるトシリズマブの使い方

日本小児リウマチ学会総会・学術集会第32回学術集会 さいたま、2023.10.14

## 血液腫瘍科

佐藤 篤：小児、思春期および若年成人に発症した T-ALL の治療戦略

第75回東北小児白血病研究会 仙台、2023.4.22

佐藤 篤：小児の血液・免疫疾患

東北医科薬科大学小児科講義 仙台、2023.5.18

佐藤 篤：小児の悪性疾患

東北医科薬科大学小児科講義 仙台、2023.5.18

佐藤 篤：血友病 A 診療におけるエミシズマブの貢献～宮城県立こども病院の経験から～

第7回 Focus On Hemophilia 武蔵野市 オンライン、2023.5.25

佐藤 篤：血友病 A 診療におけるエミシズマブの貢献～宮城県立こども病院の経験から～

北日本 Hemophilia Seminar オンライン、2023.6.10

佐藤 篤：小児の血液疾患・腫瘍性疾患

仙台赤門短期大学看護学科 講義 仙台、2023.6.22

佐藤 篤：血友病 A 診療におけるエミシズマブの貢献～宮城県立こども病院の経験から～

PLUS CHUGAI Web セミナー on Hemophilia in 中越 柏崎 オンライン、2023.6.24

佐藤 篤：ヘムライブラ投与下の安全対策

PLUS CHUGAI 血友病安全性 e セミナー オンライン、2023.7.7

佐藤 篤：小児、思春期および若年成人に発症した T-ALL の治療展開

第9回奈良県輸血・造血細胞治療研究会 奈良市、2023.7.22

佐藤 篤：血友病とスポーツ

第15回宮城県立こども病院 血友病 夏の勉強会 仙台、2023.7.29

佐藤 篤：血友病と災害時の備え

多職種連携血友病セミナー～災害時の備え～ オンライン、2023.8.19

佐藤 篤：大谷賞受賞講演 血友病 A 患児・家族の生活の質に対するエミシズマブの効果に関する検討

第65回日本小児血液・がん学会学術集会 札幌、2023.9.29

佐藤 篤：血友病 A 診療におけるエミシズマブの貢献～宮城県立こども病院の経験から～

第1回小児血友病患者の関節を守る会～One Team で関節評価を～ オンライン、2023.10.20

佐藤 篤：小児の血液疾患・腫瘍性疾患

宮城学院女子大学 基礎医学2 講義 仙台、2023.10.30

Sato A : Treatment strategy for T-cell acute lymphoblastic leukemia in children

第18回 Congress of Asian Society for Pediatric Research オンライン、2023.11.12

- 佐藤 篤：T細胞性急性リンパ性白血病の治療 ～小児からAYA世代まで～  
Cancer Net Japan 血液がんフォーラム 2023 オンライン、2023.11.18
- 佐藤 篤：血友病の診断と診療の進歩  
第40回小児臨床検査研究会 大宮、2023.11.18
- 佐藤 篤：血友病診療における診療連携  
Hemophilia Academy in Winter 血友病患者さんの出血ゼロ／制限ゼロの実現を目指して オンライン、2023.11.30
- 佐藤 篤：血友病における成人診療科と小児科の診療連携  
第20回山形血液グループ研修会 山形市、2023.12.15
- 佐藤 篤：血友病診療における診療連携 Hemophilia Regional Cooperation Web Seminar 血友病患者さんの出血ゼロ／制限ゼロの実現を目指して  
オンライン、2023.12.21
- 佐藤 篤：日本の小児、AYA世代 T-ALL 治療の最前線  
日本の急性リンパ性白血病治療の最前線 東京、2024.3.1
- 佐藤 篤：小児血友病 A とその診療の進歩  
第37回近畿小児科学会 大阪、2024.3.10

## 神経科

- 萩野谷和裕：早期診断・早期治療の重要  
脊髄性筋萎縮症講演会～東北における SMA 新生児スクリーニングの展望～ 仙台、2023.12.7
- 萩野谷和裕：重症児の病態とケアについて  
利府支援学校塩釜校医療講話 仙台、2023.11.17
- 萩野谷和裕：早期治療にも関わらず、治療方針の変更が必要となった1例  
SMA アカデミー 東京、2024.3.9
- 堅田 有宇：ピルトラルセン単剤で長期治療継続中の2症例の経過  
東日本 DMD Premium Meeting 東京、2023.12.16

## 脳神経外科

- 林 俊哲：頭のかたちの話  
乳児健診研究会 仙台市、2024.2.3
- 林 俊哲：頭のかたちについて  
Neurosurgery Leaders conference 仙台、2023.2.27
- 林 俊哲：小児神経外科  
東北医科薬科大学医学部3年次講義 仙台、2023.5.11
- 林 俊哲：小児神経外科  
東北大学医学部4年次講義 仙台、2023.7.20

## 整形外科

- 落合 達宏：軟骨無形成症の整形外科管理のポイント  
第18回宮城小児整形外科研究会 仙台、2023.4.15
- 落合 達宏：教育研修講演「小児期膝・足部疾患の病態と治療」  
日本整形外科学会第96回学術集会 横浜、2023.4.15
- 落合 達宏：外科学IV（整形外科学）小児整形外科  
東北大学講義 仙台、2023.5.30
- 落合 達宏：教育研修講演「症候性足部変形と装具・靴治療」  
第21回足部疾患外傷セミナー 仙台、2023.6.3
- 落合 達宏：特別講演「小児骨性疾患における最新の術式と装具治療」  
日本義肢装具士協会学術大会第29回全国大会 仙台、2023.7.15
- 落合 達宏：ランチョンセミナー「軟骨無形成症の疾患概要と治療」  
日本小児整形外科学会第34回学術集会 神戸、2023.11.24

## 泌尿器科

坂井 清英：小児 VUR の治療戦略と下部尿路異常

県南排尿障害セミナー 奥州、2023.11.29

坂井 清英：東日本大震災における宮城県立こども病院の状況と対応

第 2 回令和 5 年度第 2 回 災害医療研修会（新宿区医師会） 東京、2024.2.3

## 産科

今井 紀昭：胎児外科治療の現状 ～こんな感じでやっています～

第 334 回青森県臨床産婦人科医会 青森、2023.4.15

## 歯科口腔外科・矯正歯科

後藤 申江：低出生体重児の口腔の特徴～摂食機能の問題点と支援の実際～

第 28 回新生児科指導医教育セミナー web、2024.3.2

## 麻酔科

五十嵐あゆ子：LMA removal and Endotracheal Tube extubation : Deep or Awake ?

アジア小児麻酔学会第 19 回大会 ソウル、2023.6.16

五十嵐あゆ子：障害児の術後痛

日本小児麻酔学会第 28 回大会 福井市、2023.10.7

篠崎 友哉：麻酔科領域講習 小児の術後痛管理

日本麻酔科学会第 70 回学術集会 神戸、2023.6.1

篠崎 友哉：シンポジウム 4 匠の技！？今からでもできる超音波ガイド下血管穿刺～動脈、そして静脈

日本小児麻酔学会第 28 回大会 福井、2023.10.8

五十嵐あゆ子：障がい児・者の痛みを考える

栃木県緩和ウインター WEB セミナー、2023.12.15

五十嵐あゆ子：コミュニケーション弱者（小児や障害者）の周術期の疼痛評価と鎮痛

日本慢性疼痛学会第 53 回全国大会 足利市、2024.2.24

篠崎 友哉：小児の術後鎮痛を適切に

第 4 回日本小児麻酔学会 教育セミナー 博多、2024.2.18

## 集中治療科

小野 頼母：総肺静脈還流異常症の周術期管理 ～手術前後で変化する血行動態に注目してみよう～

第 30 回小児集中治療ワークショップ 倉敷市、2023.11.4

小野 頼母、阿部 慶佑：循環ハンズオン ショックのはんずおん

第 30 回小児集中治療ワークショップ 倉敷市、2023.11.3

小野 頼母：小児の循環管理について

第 65 回宮城こどもかngo net. Web 開催、2023.5.8

小泉 沢：小児の呼吸管理

第 52 回日本呼吸療法医学会セミナー（オンライン） オンライン、2023.7.1

小泉 沢：非侵襲的陽圧換気（NPPV）

第 2 回日本呼吸療法医学会医師向け人工呼吸管理基礎教育プログラム第 2 回リフレッシュセミナー  
オンライン、2023.11.1

小泉 沢：知って納得、看られて安心、小児の呼吸

宮城看護ネット 仙台、2023.9.11

小泉 沢：ハンズオンセミナー：人工呼吸器

日本集中治療医学会サマーキャンプ in ニセコ ニセコ、2023.8.2

小泉 沢：ハンズオンセミナー：呼吸

第 30 回小児集中治療ワークショップ 倉敷、2023.11.4

小泉 沢：あなたにもできること、あなただからできること、大切な命を守る胸骨圧迫と AED

エコチルオンラインセミナー オンライン、2023.12.2

小泉 沢：知っていてほしい小児救急での重要ポイント

仙台市小児科医会・宮城県小児科医会主催 救急医療研修会 仙台、2023.12.16

## 薬剤部

中井 啓：小児領域の地域医療連携

医療薬学フォーラム 2023 山形、2023.7.22

清野 泰史：当院におけるトレーシングレポートの活用事例

宮城県立こども病院地域医療研修会 小児薬物療法研修会 仙台、2023.7.27

## 放射線部

町井 祐輔：現場から学ぼう！小児 CT の基礎「胸部領域」

第 36 回みやぎ CT リフレッシューズ研究会 仙台、2023.7.22

佐々木正臣：臨床に役立つ解剖

令和 5 年度フレッシューズセミナー 仙台、2023.9.2

大村 貴弘、富永 亜彩、佐々木正臣：Bone imaging 撮像の症例紹介

宮城 MAGNETOM 研究会第 22 回学術集会 仙台市、2023.12.2

富永 亜彩、佐々木正臣：小児血管撮像のいろいろ

第 22 回宮城 MAGNETOM 研究会 仙台市、2023.12.2

## 栄養管理部

櫻井奈津子：カラダに e 生活習慣と食事のとり方

令和 5 年度 ココロとカラダに e キャンプ 栗原、2023.7.17

小野日香里：カラダに e 生活習慣と食事のとり方

令和 5 年度ココロとカラダに e キャンプ 栗原、2023.7.17

日野美代子：人間栄養学と看護、健康づくりと食生活

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.7.3

日野美代子：栄養素の種類と働き

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.07.10

日野美代子：食物の消化と栄養素の消化・吸収

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.09.04

日野美代子：エネルギー代謝

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.09.11

日野美代子：食事と食品

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.09.25

日野美代子：栄養ケア・マネジメント

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.10.02

日野美代子：栄養状態の評価・判定

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.10.16

日野美代子：栄養状態の評価・判定

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.11.06

日野美代子：ライフステージと栄養

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.11.13

日野美代子：ライフステージと栄養

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.11.20

日野美代子：ライフステージと栄養

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.11.27

日野美代子：臨床栄養

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.12.04

日野美代子：臨床栄養

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.12.11

日野美代子：臨床栄養

学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 講義 仙台、2023.12.18

## リハビリテーション・発達支援部

洞口 亮：脳性麻痺の理学療法評価と治療

宮城県理学療法士会気仙沼支部研修会 気仙沼、2023.9.29

畑崎麻衣子：食事支援の方法と実際

光明支援学校 摂食指導研修会、2023.7.14

畑崎麻衣子：こどもたちの理解と配慮における言語聴覚の新たなステージ

専門力・実践力を活かしたこども理解セミナー、2023.11.12

畑崎麻衣子、阿部 由香

宮城県歯科医師会 令和5年度障害児・者の口腔ケア支援者研修 仙台市、2023.12.16

阿部 由香：通級指導の教員への助言者および構音訓練の方法についての講演

宮城県特別支援教育研究会 仙台市、2023.11.22

熊谷 綾：自閉症スペクトラムに対するの評価とアプローチ

ケアーズ訪問看護リハビリステーション社内研修会 仙台市、2024.2.15

二階堂照代：「視る力の発達と評価～学習活動におけるつまずきとの関連～」

宮城県立拓桃支援学校 令和5年度専門性向上研修会 仙台市、2023.8.24

## 成育支援局

大塚 有希：こどもと家族が自分らしく生きること

第1回宮城こどもホスピスプロジェクト 地域研修会 仙台、2023.4.29

和田 志保：医療講話「宮城県立こども病院における臨床心理士の役割について」

講義（拓桃支援学校） 仙台、2023.7.26

小川 真紀：「HBOC患者の予防的切除の意思決定に関わる要因についての検討」

第29回遺伝性腫瘍学会学術集会 高知、2023.6.17

小川 真紀、室月 純、今井 紀昭：疾患を持つ児の妊娠継続の意思決定からその後のカップルの心理的変化と遺伝カウンセリングのニーズの変化

日本遺伝カウンセリング学会第47回学術集会 松本、2023.7.7

小川 真紀、室月 淳、今井 紀昭：出生前の多発形態異常から複数の疾患が疑われた末、微細不均型転座と診断された症例

日本小児遺伝学会第46回学術集会 那覇、2023.12.8

## 感染管理室

森谷 恵子：保育所における感染症対策について

第1回仙南保育所連合会保育部会研修会 角田、2023.5.18

## 緩和ケアチーム

佐藤 篤：緩和ケアチームの活動報告

令和5年度緩和ケアチーム主催勉強会 仙台、2023.11.28

## 外来

鈴木 千鶴

日本小児臨床アレルギー学会 PAE 講習会 ファシリテーター 東京、2023.6.18

## 診療支援部

谷地 美貴

保育心理士養成講座 仙台市、2023.12.10

## 学会発表

### 副院長

Jong Y-J, Karachunski P, Statland J, Lorentzos M, Takeshima Y, Haginoya K, Werner C : Ataluren slows the decline of muscle function in patients with nmDMD : a metaanalysis of results from three randomized, double-blind, placebo-controlled trials.  
World Muscle Society 2023 Charleston, 2023. 10. 3-7 (Poster)

Wu Shiwen, Gulati Sheffali, Komaki Hirofumi, Escobar-Cedillo RE, Kostera-Pruszczyk A, Lu X, Shin J-H, Haginoya K, Penematsa V, Chou C, Gordon G : Ataluren delays clinically meaningful milestones of decline in 6MWD in patients with nmDMD from Study 041, a phase 3, placebo-controlled trial.  
World Muscle Society 2023 Charleston, 2023. 10. 3-7 (Poster)

虻川 大樹、角田 文彦、星 雄介、鈴鴨由美子、山田麻衣子、熊谷 秀規 : IBD 患者の成人移行支援 (トランジション) の現状と課題  
第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 神戸、2023.12.1

水落 建輝、虻川 大樹、清水 泰岳、新井 勝大、清水 俊明 : 小児潰瘍性大腸炎の最新治療指針と今後の課題  
第 126 回日本小児科学会学術集会 東京、2023.4.14

清水 泰岳、新井 勝大、水落 建輝、虻川 大樹、清水 俊明 : 小児クローン病の治療指針と今後の課題  
第 126 回日本小児科学会学術集会 東京、2023.4.14

藤原 幾磨、嘉山 益子、虻川 大樹、鈴木 大、武田美由紀、岡崎 勘造、西井 亜紀、白土 晃、呉 繁夫 : 宮城県小児肥満対策マニュアルの作成及び動画制作の取り組み  
第 126 回日本小児科学会学術集会 東京、2023.4.14

### 新生児科

山西 智裕、内田 俊彦、森 ひろみ、及川 剛、越浪 正太、渡邊 達也 : 出生直後から遷延する低血糖、低ナトリウム血症、哺乳不良を認めた下垂体茎断裂による先天性複合型下垂体機能低下症  
日本小児科学会第 126 回学術集会 東京、2023.4.14-16 (展示)

武蔵 堯志、頓所 滉平、熊坂 衣織、高梨 愛佳、内田 俊彦、渡邊 達也 : PEX6 遺伝子の新規 variant による Zellweger 症候群  
日本新生児成育医学会・学術集会第 67 回学術集会 横浜、2023.11.3

### 消化器科

星 雄介、成重 勇太、加藤 歩、角田 文彦、虻川 大樹 : 肺アスペルギルス症を合併した小児潰瘍性大腸炎の一例  
第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会 仙台、2023.10.21

山西 智裕、星 雄介、成重 勇太、加藤 歩、角田 文彦、虻川 大樹、遠藤 悠紀、橋本 昌俊、西 功太郎、遠藤 尚文、武山 淳二 : 慢性便秘症を契機に診断された Hirschsprung 病の幼児例  
日本小児科学会宮城地方会 第 235 回学術集会 仙台、2023.6.25

篠崎 まみ、成重 勇太、星 雄介、角田 文彦、虻川 大樹、中島 雄大、遠藤 悠紀、西 功太郎、遠藤 尚文、武山 淳二 : 歯肉・口唇の腫脹と肛門病変を呈し、クローン病が疑われる 4 歳女児  
第 18 回仙台小児 IBD 研究会 オンライン、2023.5.27

加藤 歩、成重 勇太、星 雄介、角田 文彦、虻川 大樹、木越 隆晶、稲垣 徹史、其田 健司、小野 頼母、小泉 沢、佐々木健吾、他 : 改定版 King's score が予後予測に有用であった急性肝不全型 Wilson 病の 2 例  
第 235 回日本小児科学会宮城地方会 仙台、2023.6.25

加藤 歩、成重 勇太、星 雄介、角田 文彦、虻川 大樹、佐々木健吾、戸子台和哲 : 急性肝不全型 Wilson 病の予後予測における改訂版 King's score の妥当性  
第 39 回日本小児肝臓研究会 横浜、2023.7.15

漆山 みき、虻川 大樹、諸井林太郎、篠崎 まみ、成重 勇太、星 雄介、角田 文彦、角田 洋一、正宗 淳 : 非小児期発症例と比較した小児期発症炎症性腸疾患の臨床的特徴と長期予後の検討  
第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会 仙台、2023.10.22

萩原真一郎、清水 泰岳、南部 隆亮、神保 圭佑、梶 恵美里、西澤 拓哉、角田 文彦、岩間 達、石毛 崇、工藤 孝広、新井 勝大 : 超早期発症型炎症性腸疾患におけるカプセル内視鏡の実際 : 他施設共同研究  
第 24 回日本小児 IBD 研究会 さいたま、2024.3.2

南部 隆亮、岩間 達、清水 泰岳、萩原真一郎、恵谷 ゆり、西澤 拓哉、石毛 崇、加藤 健、水落 建輝、星 雄介、虻川 大樹、他：小児 IBD 患者が感じる心理的サポートの現状と課題：Respect IBD 研究  
第 24 回日本小児 IBD 研究会 さいたま、2024.3.2

## アレルギー科

- 四竈 美帆、堀野 智史、山口 祐樹、宮林 広樹、秋 はるか、三浦 克志：重症心身障害児に対するペースト食を用いた注入による食物負荷試験の検討  
日本小児臨床アレルギー学会第 39 回学術集会 福岡、2023.7.15
- 堀野 智史、尾崎 理史、山口 祐樹、宮林 広樹、秋 はるか、相澤 洋之、藤野 直也、杉浦 久敏、三浦 克志：宮城県の食物アレルギーに関わる教職員の現状とアンメットニーズ  
第 60 回日本小児アレルギー学会学術大会 京都、2023.11.18
- 山口 祐樹、堀野 智史、宮林 広樹、秋 はるか、三浦 克志：当院の乳経口免疫療法の有効性と安全性の検討  
第 60 回日本小児アレルギー学会学術大会 京都、2023.11.18-19 (展示)
- 山口 祐樹、堀野 智史、宮林 広樹、泉田 亮平、桜井 博毅、秋 はるか、三浦 克志：エンテロウイルス D68 感染に伴い呼吸不全に至った気管支喘息重積発作の一例  
第 72 回日本アレルギー学会学術大会 東京、2023.10.21
- 宮林 広樹、山口 祐樹、秋 はるか、堀野 智史、三浦 克志：過去 5 年間の当院における小児アナフィラキシー患者動向  
第 57 回東北アレルギー懇話会 仙台、2023.6.3
- 宮林 広樹、山口 祐樹、秋 はるか、堀野 智史、三浦 克志：当院における小児アトピー性皮膚炎患者への経口 JAK 阻害薬の使用経験  
第 36 回東北小児喘息アレルギー研究会 宮城、2023.7.2
- 宮林 広樹、山口 祐樹、秋 はるか、堀野 智史、三浦 克志：当院の鶏卵経口免疫療法の有効性と安全性  
第 72 回日本アレルギー学会学術大会 東京、2023.10.20
- 宮林 広樹、山口 祐樹、秋 はるか、堀野 智史、三浦 克志：当院の小麦経口免疫療法の有効性と安全性  
第 60 回日本小児アレルギー学会学術大会 京都、2023.11.19
- 宮林 広樹、山口 祐樹、秋 はるか、堀野 智史、三浦 克志：小児の運動誘発気管支収縮を気道過敏性試験で診断した 1 例  
第 5 回日本アレルギー学会東北地方会 宮城、2023.11.25

## 血液腫瘍科

- Yoshida N, Yabe M, Yabe H, Umeda K, Osone S, Koike T, Sato M, Kato K, Sato A, Hashii Y, Atsuta Y : OUTCOMES AFTER CORD BLOOD TRANSPLANTATION FOR INHERITED BONE MARROW FAILURE SYNDROMES : A REPORT FROM THE JSTCT INHERITED DISEASE WORKING GROUP  
第 49 回 Annual Meeting of EBMT Paris, 2023.4.23-26 (Poster)
- 力石 健、小沼 正栄、南條 由佳、小寺 麻実、佐藤 篤、今泉 益栄：L-アスパラギナーゼ + グルココルチコイド治療中の高トリグリセリド血症が小児血液腫瘍患児に与える影響  
第 75 回東北小児白血病研究会 仙台、2023.4.22
- 南條 由佳、小沼 正栄、力石 健、佐藤 篤、今泉 益栄：骨髄移植後 EBV-HLH を発症した治療抵抗性縦隔 T リンパ芽球性リンパ腫の 1 例  
第 20 回東北地区小児がん診療病院合同 WEB カンファレンス オンライン、2023.7.28
- 力石 健、小沼 正栄、南條 由佳、佐藤 篤、今泉 益栄：L-asparaginase+Glucocorticoid 治療中の高トリグリセリド血症は骨壊死ならびに薬剤性糖尿病に関連する  
第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 札幌、2023.9.29-10.1 (展示)
- 小寺 麻実、佐藤 篤、早坂 広恵、小川 真紀、南條 由佳、鈴木 資、鈴木 信、小沼 正栄、力石 健、今泉 益栄：インヒビター保有血友病 A に対する Emicizumab 管理下における第 VIII 因子製剤再曝露後インヒビターの変化  
第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 札幌、2023.9.29-10.1 (展示)
- 入江 亘、名古屋祐子、力石 健、鈴木 資：小児がんの子どもをもつ家族の療養生活を支援する Web サイト「Family-PON」の開発に向けた取り組み  
第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 札幌、2023.9.30
- 八田 善弘、佐藤 篤、嘉田 晃子、齋藤 明子、早川 文彦、山崎 悦子、渡辺 新、堀部 敬三、清井 仁、松

- 村 到、宮崎 泰司：LL-T11/T-ALL-211-U 研究の AYA 世代症例における血液内科と小児血液科登録例の予後  
第 85 回日本血液学会学術集会 東京、2023.10.13
- 石田 悠、嶋田 博之、谷澤 昭彦、土岐 典子、東梅 友美、佐藤 篤、日野もえ子、松本 公一、熱田 由子、安井 昌博、長村登喜子：小児・AYA 期に発症した de novo BP CML の造血幹細胞移植成績  
第 85 回日本血液学会学術集会 東京、2023.10.14
- 児玉 祐一、西 眞範、佐藤 篤、今村 知世、出口 隆生、平川 晃弘、齋藤 明子、小川千登世、多賀 崇、足立 壯一、嶋田 博之：小児再発・難治フィラデルフィア染色体陽性白血病に対するポナチニブ安全性確認試験  
第 85 回第 85 回日本血液学会学術集会 東京、2023.10.15
- 南條 由佳、小沼 正栄、力石 健、佐藤 篤、今泉 益栄、神宮 啓一：早期再発後化学療法抵抗性を示し、放射線照射後造血細胞移植を実施した縦隔 T リンパ芽球性リンパ腫の 1 例  
第 85 回日本血液学会学術集会 東京、2023.10.13-15 (展示)
- Hama A, Yoshida N, Hasegawa D, Kato M, Watanabe K, Hasegawa D, Hashii Y, Sato A, Tabuchi K, Aoki J, Yamamoto S : Outcomes of Hematopoietic Cell Transplantation for Patients with Refractory Cytopenia with Multilineage Dysplasia : A Comparison Children with Adolescents and Young Adults  
第 65 回 American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition San Diego, 2023.12.9-12 (Poster)
- Kato M, Okamoto Y, Imamura T, Kada A, Saito M A, Sato A, Taga T, Adachi S, Horibe K, Manabe A, Koh K : A Nationwide Clinical Trial ALL-B12 : An Optimized Therapy for Pediatric B-Precursor Acute Lymphoblastic Leukemia with Excellent Overall Survival and Minimal Non-Relapse Mortality : A Report from the Japan Children's Cancer Group  
第 65 回 American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition San Diego, 2023.12.10
- 小沼 正栄：Defibrotide と  $\beta$ D グルカンの関連性  
第 22 回東北地区小児がん診療病院合同 WEB カンファレンス オンライン、2024.1.26
- 小沼 正栄：微量の血便が持続している臍帯血移植後 AML 症例  
第 21 回東北地区小児がん診療病院合同 WEB カンファレンス オンライン、2023.10.27
- 南條 由佳：骨髄移植後の EBV-HLH に対し、PT-CY を用いたハプロ移植を施行した T-LBL の検討  
第 47 回仙台 BMT 懇話会 仙台、2024.1.29
- 力石 健、南條 由佳、小沼 正栄、佐藤 篤、今泉 益栄：Kasabach-Merritt 現象を伴わないカボジ様血管内皮腫の 1 例  
第 15 回東北小児血液疾患研究会 仙台、2024.2.24
- 坂本 謙一、宮本 智史、今井 耕輔、佐藤 真穂、今泉 益栄、柳町 昌克、加藤 剛二、佐藤 篤、日野もえ子、田淵 健、梅田 雄嗣：小児二次性血球貪食性リンパ組織球症における造血細胞移植の後方視的解析  
第 46 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 東京、2024.3.22
- 下村 良充、北村 哲久、村田 誠、松尾恵太郎、加藤 光次、佐藤 篤、田淵 健、熱田 由子、福田 隆浩、諫田 淳也、寺倉精太郎：慢性移植片対宿主病に対する施設容量の影響  
第 46 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 東京、2024.3.22

## 循環器科

- 木村 正人、宮下 進、今井 紀昭、室月 淳、北川 陽介、岡崎三枝子、小野寺洋平、松本 敦、鈴木 康太、桃井 伸緒：東北 6 県の胎児心エコー検査の現状  
第 30 回日本胎児心臓病学会学術集会 東京都、2024.2.17
- 木村 正人：当院における器質的心疾患をもたない胎児先天性完全房室ブロックの治療方針  
第 59 回日本小児循環器学会総会・学術総会 横浜市、2023.7.6-7.8 (展示)
- 木村 正人、北川 陽介、岡崎三枝子、松本 敦、鈴木 康太、桃井 伸緒：東北 6 県の胎児心エコー検査の現状  
第 58 回東北発達心臓病研究会 仙台市、2023.11.18

## 神経科

- 堅田 有宇：MeCP2 の C 末端における新規ナンセンス変異により発達性てんかん性脳症を来した女児例  
日本小児神経学会第 65 回学術集会 岡山県、2023.5.26 (展示)
- 堅田 有宇、川嶋 有朋、児玉 香織、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕：早期治療介入により予後良好に救命できた急性壊死性脳症の男児例  
第 199 回東北小児神経研究会 仙台、2024.1.21

- 遠藤 若葉、中村 春彦、川嶋 有朋、児玉 香織、大久保幸宗、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕：2型ゴーシェ病における息詰め発作の検討  
日本小児神経学会第65回学術集会 岡山、2023.5.26
- 遠藤 若葉、富樫 紀子、中村 春彦、川嶋 有朋、児玉 香織、堅田 有宇、乾 健彦、萩野谷和裕：クロナゼパムが奏功したミオクロニー欠神てんかんの一例  
第198回東北小児神経研究会 仙台、2023.7.22
- 乾 健彦、中村 春彦、児玉 香織、川嶋 有朋、大久保幸宗、遠藤 若葉、富樫 紀子、菊池 敦生、萩野谷和裕：鎌状動脈洞、後頭静脈洞遺残を呈した MCTT (MN1 C-terminal truncation) 症候群の一例  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 大久保幸宗、中村 春彦、川嶋 有朋、児玉 香織、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕、村山 圭：ミトコンドリア ATP6 変異による MELAS/Leigh overlap 症候群の1例  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 川嶋 有朋、中村 春彦、児玉 香織、大久保幸宗、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕、菊池 敦生：難治性てんかんを学童期に発症した BRAF 遺伝子変異による CFC 症候群の1例  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 児玉 香織、中村 春彦、川嶋 有朋、大久保幸宗、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕、菊池 敦生：ADCY5 遺伝子の体細胞モザイク変異による発作性非運動誘発性ジストニアの1例  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 富樫 紀子、遠藤 若葉、川嶋 有朋、池田 美紀、児玉 香織、大久保幸宗、乾 健彦、萩野谷和裕：小児専門病院における神経疾患患者の成人移行の現状と課題  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 中村 春彦、川嶋 有朋、児玉 香織、大久保幸宗、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子、菊池 敦生、才田 謙、三宅 紀子、松本 直通、萩野谷和裕：覚醒時の過呼吸および呼吸停止をきたす CDKL-5、EHMT1、HECW2 遺伝子変異の3例  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 遠藤 若葉、中村 春彦、川嶋 有朋、児玉 香織、大久保幸宗、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕、田中総一郎：2型ゴーシェ病における息詰め発作の検討  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 堅田 有宇、及川 善嗣、植松有里佳、菊池 敦生、植松 貢：MeCP2 の C 末端における新規ナンセンス変異により発達性てんかん性脳症をきたした女児例  
第65回日本小児神経学会学術集会 岡山、2023.5.25-27
- 遠藤 若葉、富樫 紀子、中村 春彦、川嶋 有朋、児玉 香織、堅田 有宇、乾 健彦、萩野谷和裕：クロナゼパムが奏功したミオクロニー欠神てんかんの一例  
第198回四季会 仙台、2023.7.22
- 堅田 有宇、川嶋 有朋、児玉 香織、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子：早期治療介入により予後良好に救命できた急性壊死性脳症の男児例  
第199回東北小児神経学研究会 四季会 仙台、2024.1.21
- 乾 健彦、中村 春彦、児玉 香織、川嶋 有朋、堅田 有宇、遠藤 若葉、富樫 紀子、萩野谷和裕：重症心身障害児に対するスピーチバルブの使用経験  
院内療育研究会、2023.8
- 高橋 幸利、西村 成子、高尾恵美子、笠井 理沙、榎田 かつお、河野 剛、竹澤 祐介、植松 貢、富樫 紀子、萩野谷和裕、下山 佳織：Live cell-based assay による AMPA 型 GluR subunit 抗体測定法の開発  
第56回日本てんかん学会 東京、2023.10.19-21
- 涌澤 圭介、中村 春彦、児玉 香織、堅田 有宇、川嶋 有朋、遠藤 若葉、乾 健彦、富樫 紀子、萩野谷和裕：心的外傷経験のある自己免疫性脳炎患者は、心的外傷に関する精神症状を呈するか  
第19回日本小児神経学会東北地方会 福島、2023.10.28
- Christian Werner, Shiwen Wu, Sheffali Gulati, Hirofumi Komaki, Rosa E Escobar-Cedillo, Anna Kostera-Pruszczyk, Jin-Hong Shin, Kazuhiro Haginoya, Vinay Penematsa, Connie Chou, Jonathan Blaize and Paula Williams, on behalf of the Study 041 investigators Ataluren delays clinically meaningful milestones of decline in 6MWD in patients with nmDMD from Study 041, a phase 3, placebo-controlled trial.  
Muscular Dystrophy Association (MDA) Clinical and Scientific Conference, March 3-6, 2024, Orlando, FL, US

## 外科

- 佐々木英之、大久保龍二、福澤 太一、工藤 博典、安藤 亮、櫻井 毅、橋本 昌俊、多田 圭佑、和田  
基：「小児外科特有の疾患に対する感染症対策」胆道閉鎖症手術後早期における胆管炎制御についての検討  
第 39 回日本小児外科学会秋季シンポジウム 2023.10.28
- 中島 雄大、西 功太郎、遠藤 悠紀、遠藤 尚文：内視鏡下手術における Suture grasper を用いた手技工夫  
第 46 回東北小児外科学会 2023.9.15
- 中島 雄大、西 功太郎、遠藤 悠紀、遠藤 尚文：4 歳時に脾臓摘出を要した多発脾嚢胞の 1 例  
第 99 回日本小児外科学会東北地方会 2023.9.16
- 中澤 新、中島 雄大、西 功太郎、遠藤 悠紀、遠藤 尚文：外傷性の十二指腸・空腸損傷、腸間膜血腫の急性期に  
保存加療を選択した一例  
第 99 回日本小児外科学会東北地方会 2023.9.16
- 中島 雄大、西 功太郎、遠藤 悠紀、遠藤 尚文：小腸固有筋層の形成不全により胎便関連性腸閉塞を発症し多発小腸穿  
孔を認めた 1 例  
第 98 回日本小児外科学会東北地方会 2023.6.10
- 遠藤 悠紀、西 功太郎、中島 雄大、遠藤 尚文：術前診断に苦慮した十二指腸重複症の 1 例  
第 98 回日本小児外科学会東北地方会 2023.6.10
- 遠藤 悠紀、橋本 昌俊、西 功太郎、遠藤 尚文：当科で加療した小児卵巣成熟奇形腫莖捻転に対する二期的手術の有用  
性の検討  
第 60 回日本小児外科学会学術集会 2023.6.3
- 橋本 昌俊、西 功太郎、遠藤 悠紀、遠藤 尚文：メッケル憩室におけるデュラホイ病変の病理学的意義  
第 60 回日本小児外科学会学術集会 2023.6.1

## 脳神経外科

- 林 俊哲、君和田友美、富永 悌二：頭蓋形状矯正ヘルメット治療の現状と展望  
日本小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9
- 犬飼 円、林 俊哲、君和田友美、武山 淳二：画像診断が困難であった矢状縫合早期癒合症の 2 例 病理学的所見を  
加えて  
小児神経外科学会第 51 回学術集会、2023.6.9
- 君和田友美、林 俊哲：当科における小児脳血管障害の治療経験  
小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9
- 水野 敬悟、林 俊哲：頭蓋多縫合早期癒合症に対し、早期に罹患縫合切除術をしこうした 1 例  
第 65 回日本脳神経外科学会東北支部会 盛岡、2023.9.2
- 林 俊哲、君和田友美、遠藤 英徳：脊髄円錐脂肪腫のタイプ別治療方針について  
日本脳神経外科学会学術総会第 82 回学術集会 横浜、2023.10.25
- 林 俊哲、君和田友美、遠藤 英徳：脊髄脂肪腫術後の安静度制限の撤廃  
第 40 回日本こども病院神経外科医会 大府、2023.12.13
- Hayashi T：Diagnosis, surgical procedure, and prevention of re-tethering in spinal lipoma  
第 4 回 Congress of Asian-Australasian Society for pediatric Neurosurgery Yokohama, 2023.12.15
- 犬飼 円、林 俊哲、君和田友美、武山 淳二、富永 悌二：画像診断が困難であった矢状縫合早期癒合症の 2 例 病  
理学的所見を加えて  
日本小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9
- 君和田友美、林 俊哲、佐藤 健一、新妻 邦泰、富永 悌二：当科における小児脳血管障害の治療経験  
日本小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9
- 水野 敬悟、林 俊哲：頭蓋多縫合早期癒合症に対し、早期に罹患縫合切除術を施行した 1 例  
第 65 回日本脳神経外科学会東北支部会 盛岡、2023.9.2
- 林 俊哲：Diagnosis, surgical procedure, and prevention of re-tethering in spinal lipoma  
第 4 回 Congress of Asian-Australasian society for pediatric neurosurgery Yokohama, 2023.12.15
- 林 俊哲、君和田友美、富永 悌二：頭蓋形状矯正ヘルメット治療の現状と展望  
日本小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9
- 犬飼 円、林 俊哲、君和田友美、武山 淳二：画像診断が困難であった矢状縫合早期癒合症の 2 例病理学的所見を加  
えて  
日本小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9

- 君和田友美、林 俊哲、佐藤 健一、新妻 邦泰、富永 悌二：当科における小児脳血管障害の治療経験  
日本小児神経外科学会第 51 回学術集会 宇都宮、2023.6.9
- 水野 敬悟、林 俊哲：頭蓋多経合早期癒合症に対し、早期に罹患経合切除術をしこうした 1 例  
第 65 回日本脳神経外科学会東北支部会 盛岡、2023.9.2
- 林 俊哲、君和田友美、遠藤 英徳：脊髄円錐脂肪腫のタイプ別治療方針について  
日本脳神経外科学会学術総会第 82 回学術集会 横浜、2023.10.25
- 林 俊哲、君和田友美、遠藤 英徳：脊髄脂肪腫術後の安静度制限の撤廃  
第 40 回日本こども病院神経外科医会 大府、2023.11.3
- Hayashi T : Diagnosis, surgical procedure, and prevention of re-tethering in spinal lipoma  
4<sup>th</sup> Congress of Asian-Australasian Society for pediatric Neurosurgery Yokohama, 2023.12.15

## 整形外科

- 落合 達宏：日本臨床スポーツ医学会・日本小児整形外科学会合同シンポジウム「障害児の運動参加からパラリンピアンまで」先天性下肢疾患の幼児期からのスポーツ参加への取り組み  
第 34 回日本臨床スポーツ医学会 横浜、2023.11.11
- 落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香、小松 繁允：パネルディスカッション「年長児ペルテス病の治療（保存か手術か？術式の選択は？）」年長児ペルテス病にトモシンセシスを用いた治療期間短縮への取り組み：導入前後の 2 症例の比較  
日本小児整形外科学会第 34 回学術集会 神戸市、2023.11.23
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：6 cm 以上の脚長不等に対する二段式装具の使用経験  
第 53 回日本リハビリテーション医学会東北地方会 仙台、2023.3.4
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：小児の胸骨分節脱臼骨折の一例  
東北整形災害外科学会第 120 回学術集会 福島、2023.6.10
- 水野 稚香：Valgus-extension osteotomy with external fixation for coxa vara in a child with Kniest dysplasia  
第 20 回日仏整形外科学会 横浜、2023.7.8
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：先天性脛骨欠損症 Jones type I と極小 type II に対する創外固定を使った中心化術の一工夫  
日本創外固定学会第 36 回学術集会 郡山、2023.7.14
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：当科の脳性麻痺児のジストニアに対するボトックス治療の傾向  
日本ボツリヌス治療学会第 10 回全国大会 名古屋、2023.9.24
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：主題「低侵襲な手術・処置」脳性麻痺児の股関節亜脱臼に対する経皮的長内転筋切離術の有用性と限界  
第 40 回日本脳性麻痺の外科研究会 東京、2023.10.28
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：パネルディスカッション「脳性麻痺児の尖足治療～保存療法へのお誘い～」(日本脳性麻痺の外科研究会合同企画) 脳性麻痺児の尖足変形の基礎  
日本小児整形外科学会第 34 回学術集会 神戸、2023.11.23
- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：パネルディスカッション「内反足再発例に対する治療方針をあらためて考える（再発の定義、頻度、対応）」先天性内反足の再発に対する re-Ponseti 法の治療成績  
日本小児整形外科学会第 34 回学術集会 神戸、2023.11.24
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：両大腿骨外反骨切り術を施行した特発性先天性内反足の 1 例  
第 62 回日本小児股関節研究会 千葉、2023.6.23
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：二分脊椎の内反尖足変形に対する皮下切腱と術後矯正キャストの組み合わせ治療  
第 40 回日本二分脊椎研究会 福岡、2023.7.8
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：当院における Ollier 病 5 例の下肢創外固定手術の検討  
日本創外固定学会第 36 回学術集会 郡山、2023.7.14
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：症候性尖足に対する Baker 法の短期成績  
日本足の外科学会第 48 回学術集会 大阪、2023.10.26
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：軟骨無形成症に対する下肢延長術の治療成績  
日本小児整形外科学会第 34 回学術集会 神戸、2023.11.24
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：爪・膝蓋骨症候群の外反膝に対しエイトプレートによる骨端線成長抑制術が奏功した 1 例  
第 35 回日本整形外科学会骨系統疾患研究会 神戸、2023.11.24

高橋 祐子、落合 達宏、水野 稚香、小松 繁允：保存療法で改善した距骨滑車中央部骨軟骨障害の1例  
日本小児整形外科学会第34回学術集会 神戸、2023.11.24

## 泌尿器科

長澤 美幸、佐竹 洋平、伊藤 明宏、坂井 清英：自然妊娠が成立し、出産をなし得た総排泄腔外反の1例  
日本泌尿器科学会総会第110回学術集会 神戸、2023.4.22

城之前 翼：シン・ヤングドクター デイバートコンテスト 腎盂尿管移行部通過障害のRI検査 99mTc-腎シンチグラフィ  
第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 神戸、2023.7.20

城之前 翼：胎児期・小児期の副腎におけるアルドステロン合成動態の推移の把握  
第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 神戸、2023.7.21

城之前 翼、山崎 有人、手塚 雄太、尾股 慧、小野 美澄、坂井 清英、佐藤 文俊、笹野 公伸、鈴木 貴：胎児期・小児期の副腎におけるアルドステロン合成動態の病理組織学的解析  
第27回日本臨床内分泌病理学会学術総会 大分、2023.9.22

城之前 翼、山崎 有人、武山 淳二、坂井 清英、笹野 公伸、鈴木 貴：胎児期・小児期の副腎におけるアルドステロン合成動態の解明  
第31回日本ステロイドホルモン学会学術集会 東京、2024.3.9

久保田優花、武田詩奈子、城之前 翼、相野谷慶子、坂井 清英：小児精巣腫瘍9例の後方視的検討  
第266回日本泌尿器科学会東北地方会 仙台、2023.5.13

久保田優花、武田詩奈子、城之前 翼、清水 徹、相野谷慶子、坂井 清英：腎機能および膀胱機能が良好に維持された尿管管開存の一例  
第32回日本小児泌尿器科学会総会 神戸、2023.7.19-7.21 (展示)

坂井 清英：胎児診断された両側 UPJO Grade4 の3例について：当院での対応  
第14回宮城小児腎・泌尿器研究会 仙台、2023.5.19

武田詩奈子、久保田優花、城之前 翼、相野谷慶子、坂井 清英：下位尿管閉鎖に伴う巨大水腎尿管に対し腹腔鏡下尿管摘除を施行した2例  
第110回泌尿器科学会総会 神戸、2023.4.20

武田詩奈子、江里口智大、久保田優花、城之前 翼、相野谷慶子、坂井 清英：二分脊椎患児の抗コリン薬抵抗性神経因性膀胱に対する Vibegron の使用経験  
第266回東北地方会 仙台、2023.5.13

武田詩奈子、久保田優花、城之前 翼、相野谷慶子、坂井 清英：当院で経験した膀胱皮膚瘻の16例  
第32回日本小児泌尿器科学会 神戸、2023.7.20

武田詩奈子、久保田優花、城之前 翼、相野谷慶子、坂井 清英：適切な尿路管理により両側高度巨大尿管が改善した non-neurogenic neurogenic bladder の2例  
第30回日本排尿機能学会 千葉、2023.9.7

武田詩奈子、久保田優花、城之前 翼、相野谷慶子、坂井 清英：当院で経験した膀胱皮膚瘻の16例  
第42回東北 EBM フォーラム 仙台、2024.1.13

## 産科

今井 紀昭、桃野 友太、石川 源、宮下 進、室月 淳：胎児期に硬膜下血腫を発症した X 連鎖性潜性末節骨短縮型点状軟骨異形成症の1例  
第59回日本周産期・新生児医学会 名古屋、2023.7.9-7.11 (展示)

今井 紀昭、高橋 新：妊娠26週時に腹腔鏡下子宮筋腫核出術後の parasitic myoma による大網捻転を発症した1例  
第63回日本産科婦人科内視鏡学会 大津

今井 紀昭、田上 和磨、宮下 進、室月 淳：当科における頸管長短縮例に対する頸管ベッサリーの使用経験  
第16回日本早産学会 富山

## 歯科口腔外科・矯正歯科

後藤 申江、谷地 美貴、田代 早織、柴田 堯子、御代田浩伸：舌咬傷の経過観察中に疼痛発作が出現し歯科治療に苦慮した1例  
日本障害者歯科学会学術大会第40回学術集会 札幌、2024.11.11 ~ 2024.11.12 (展示)

## 麻酔科

久保 良介、五十嵐あゆ子、篠崎 友哉、戸田 法子、菊地 千歌：低酸素療法中の左心低形成症候群の乳児に対する開腹術をレミゾラムを用いた全静脈麻酔で管理した一例

日本小児麻酔学会第 2828 回大会 福井、2023/10/7～10/8 (展示)

篠崎 友哉、戸田 法子：前鋸筋-肋間筋面ブロック後に気胸を認めた小児症例

日本区域麻酔学会第 10 回学術集会 大阪、2023.4.14-15 (Poster)

菊地 千歌、五十嵐あゆ子、戸田 法子、田中 捷馬：小児専門施設である当院における全身麻酔中のエフェドリンとフェニレフリンの投与状況

日本臨床麻酔学会第 43 回大会 宮崎、2023.12.8

大石和佳子、菊地 千歌、篠崎 友哉、戸田 法子、五十嵐あゆ子：創部持続浸潤麻酔で術後疼痛管理を試みた小児開腹手術の 3 症例

小児麻酔・集中治療・鎮痛懇話会 仙台、2024.2.10

## 集中治療科

其田 健司、小野 頼母、泉田 侑恵、遠藤 悠紀、橋本 昌俊、西 功太郎、遠藤 尚文、小泉 沢：当院 PICU に入室した急性腹症の特徴

第 126 回日本小児科学会学術集会 東京、2023.4.16

小野 頼母、泉田 侑恵、落合 智徳、其田 健司、正木 直樹、帯刀 英樹、崔 禎浩：心臓手術後の難治性乳糜を早期に予測しうる心臓手術周術期の指標

第 59 回日本小児循環器学会総会・学術総会 横浜市、2023.7.6-7.8 (展示)

小野 頼母、田邊 雄大、其田 健司、小泉 沢：24 ヶ月齢未満の下気道感染に対する HFNC 中に気管挿管を予測するためのプロトコール

第 235 回日本小児科学会宮城地方会 仙台市、2023.6.25

其田 健司、小野 頼母、泉田 侑恵、小泉 沢：自己洗腸が契機と考えられた Na 血症による意識障害の 1 例

日本小児救急医学会総会第 36 回学術集会 東京、2023.7.22-23 (展示)

其田 健司、小野 頼母、泉田 侑恵、矢内 敦、小泉 沢：小児における超音波ガイド下血管穿刺の成功に関連する因子の検討

日本集中治療医学会東北支部学術集会第 7 回学術集会 弘前、2023.7.8

小泉 沢：我が国の PICU 10 年の軌跡 日本小児集中治療連絡協議会施設調査まとめ

日本集中治療医学会第 51 回学術集会 +AW2911+AW2909：AW2+AW2706：AW2912

## 看護管理室

菊地 純子、齋藤 綾佳、高橋みちる、上西 莉沙、三浦 優花、吉本 裕子：夜勤における PNS での効果的な情報共有や業務調整の実践報告

第 11 回 PNS 研究会 福井市、2024.3.2

## 薬剤部

中井 啓、遠藤 美緒、川名三知代、大黒 幸恵、大山かがり、川下 晃代、三浦 哲也、赤羽 三貴、小村 誠、江藤不二子、石川 洋一：小児薬物療法研究会の薬剤耐性 (AMR) 啓発活動の実態と薬薬協働による啓発方法の考察

日本小児臨床薬理学会第 50 回学術集会 大阪市、2023.9.30～2023.10.1 (展示)

江藤不二子、川名三知代、川下 晃代、三浦 哲也、大山かがり、大黒 幸恵、遠藤 美緒、小村 誠、赤羽 三貴、中井 啓、石川 洋一：薬剤耐性 (AMR) 資材配布企画が地域薬剤師に与えた影響の調査研究：小児薬物療法研究会にて実施した事前セミナーの意義の考察

日本小児臨床薬理学会第 50 回学術集会 大阪市、2023.10.1

相馬 伸樹、佐藤 篤、五十嵐あゆ子、力石 健、中島 範子、齋藤 綾佳、吉本 裕子、遠藤由紀子、吉田 沙蘭、余谷 暢之、田上 恵太：オンラインを活用した多地点連携小児緩和ケアネットワークの構築

日本緩和医療学会学術大会第 28 回学術集会 神戸、2023.6.30

館内謙太郎、相馬 伸樹、戸羽 香織、中井 啓：当院における退院時薬剤管理サマリーの運用実態調査

日本小児臨床薬理学会第 50 回学術集会 大阪、2023.9.30～2023.10.1 (展示)

館内謙太郎、相馬 伸樹、戸羽 香織、中井 啓：当院における退院時薬剤管理サマリーの運用実態調査

第 154 回宮城県病院薬剤師会学術研究発表会 仙台、2024.3.16

## 放射線部

西川 順子、町井 祐輔、佐々木正臣、板垣 良二、佐々木清昭：CT 検査における天井吊り下げ式防護板の散乱線防護効果と有用性

東北放射線医療技術学術大会第 13 回大会 山形、2023.11.3

本郷 悠知、佐々木正臣、富永 亜彩、渡邊 貴志、佐々木清昭：核医学検査時におけるバーコード認証を用いた照合システムの構築

東北放射線医療技術学術大会第 13 回大会 山形県、2023.11.3

大村 貴弘、佐々木正臣、町井 祐輔、本郷 悠知、佐々木清昭：ポータブル撮影、一般撮影時におけるバーコード認証を用いた患者照合システムの構築

東北放射線医療技術学術大会第 13 回大会 山形市、2023.11.3

佐々木正臣、町井 祐輔、富永 亜彩、本郷 悠知、大村 貴弘、渡邊 貴志、西川 順子、吉田 智子、中山 未月、板垣 良二、佐々木清昭：病棟撮影時の患者誤認インシデント事例から見た再発防止策の検討

(公社)宮城県放射線技師会 第 31 回総合学術大会 仙台、2023.12.10

大村 貴弘、佐々木正臣、富永 亜彩：Bone imaging 撮像の症例紹介

宮城 MAGNETOM 研究会第 22 回学術集会 仙台市、2023.12.2

## リハビリテーション・発達支援部

猪谷 俊輝：遺伝性痙性対麻痺児の SDR 術後 6 か月までの経過報告—運動・歩行機能を中心に—

第 57 回東北・北海道肢体不自由児施設療育担当職員研修会 盛岡、2023.9.8

猪谷 俊輝、洞口 亮：入院でのリハビリテーションにより Canadian Occupational Performance Measure (COPM) が改善した脳性麻痺の 1 例

第 27 回宮城県理学療法学術大会 仙台、2024.2.4

森下 裕子、吉田さやか：早期診断・治療を受けた SMA の運動発達～PT の関わりから～

第 68 回全国肢体不自由児療育研究大会 東京都、2023.10.26

## 診療情報室

外山 理江、渡邊 勝、菅野まりえ、高橋 礼奈：コ・メディカルが理想とする診療録とは～専門的知見が加わった質的監査～

第 49 回日本診療情報管理学会 十和田市、2023.9.15

## 外来

山田麻衣子、鈴鴨由美子、成重 勇太、加藤 歩、星 雄介、角田 文彦、虻川 大樹：小児炎症性腸疾患 (IBD) 患者の成人移行期支援内容の評価と課題

第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会 仙台、2023.10.21

## 論 文

### 副院長

板沢 鋼絹、山本 洋平、東谷 輝、唐沢 貴生、大谷 勝記、大瀧 潮、萩野谷和裕：脳卒中様発作を合併した PMM2-CDG の 3 歳男児例

青森県立中央病院医誌 68 : 14-20, 2023

Yokoyama K, Yamamoto Y, Nambu R, Hagiwara S, Abukawa D, Mizuochi T, Kudo T, Sado T, Iwata N, Ishige T, Iwama I, et al. : Safety and efficacy of vedolizumab in pediatric patients with ulcerative colitis : multicenter study in Japan.

J Gastroenterol Hepatol 38 : 1107-1115, 2023

Nakase H, Hayashi Y, Yokoyama Y, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai H, Abukawa D : Final analysis of COVID-19 patients with inflammatory bowel disease in Japan (JCOSMOS) : a multicenter registry cohort study.

Gastro Hep Advances 2 : 1056-1065, 2023

### 消化器科

角田 文彦：IBD の鑑別

小児科診療 86 : 429-433, 2023

Hagiwara S, Abe N, Hosoi K, Hara T, Ishige T, Shimizu H, Mizuochi T, Kakiuchi T, Kunisaki R, Matsuoka R, Kakuta F : Utility of a rapid assay for prostaglandin E-major urinary metabolite as a biomarker in pediatric ulcerative colitis.

Scientific Reports 13 : 1-10, 2023

Nambu R, Arai K, Kudo T, Murakoshi T, Kunisaki R, Mizuochi T, Kato S, Kumagai H, Inoue M, Ishige T, Kakuta F : Clinical outcome of ulcerative colitis with severe onset in children : a multicenter prospective cohort study.

J Gastroenterol 58 : 472-480, 2023

成重 勇太、加藤 歩、泉田 亮平、星 雄介、桜井 博毅、角田 文彦、虻川 大樹：ホスホマイシンナトリウムの内服により偽膜性腸炎を発症した女児例

小児科臨床 76 : 727-730, 2023

### アレルギー科

堀野 智史、三浦 克志：【プライマリケア医に必要な情報をまるっと整理 くすりの使い方便利帳】(第 2 章) 炎症、免疫、アレルギーに作用する薬剤 抗アレルギー薬 ヒスタミン受容体拮抗薬 (第二世代)

内科 131 : 590-594, 4

堀野 智史、三浦 克志：小児喘息の基本知識から最新情報まで 急性期治療 A to Z

アレルギー 72 : 323-328, 2023

四籠 美帆、堀野 智史、山口 祐樹、宮林 広樹、秋 はるか、三浦 克志：重症心身障害児に対する食物アレルギー緊急時対応指導の経験

日本小児臨床アレルギー学会誌 22 : 28 ~ 32, 2023

宇根岡 慧、堀野 智史、三浦 克志：乳幼児喘息との鑑別を要した先天性気管狭窄症の 1 例

アレルギーの臨床 44 : 209-212, 2024

Horino S, Yamaguchi Y, Miyabayashi H, Aki H, Nanjyou Y, Onuma M, Rikiishi T, Yabe H, Imaizumi M, Sato A, Miura K : Topical therapy and skin care for transplant-associated atopic dermatitis in children and adolescents.

Pediatr Transplant 28 : e14653, 2024

堀野 智史、伊藤 浩明：ガイドライン解説 食物アレルギー診療ガイドライン 2021 (第 19 章) 災害への備え

日本小児アレルギー学会誌 37 : 263-266, 2023

Ando T, Miura K, Kitaura J, Maruyama N, Narita M, Takasato Y, Nogami K, Nagao M, Ebisawa M, Ohya Y, Yasudo H : Sensitization to macadamia 7S globulin amino-terminus with clinical relevance in Japanese children with macadamia nut allergy

Allergol Int. 72 : 351-353, 2023

Korematsu S, Miura K, Fujisawa T, Saito N, Tezuka J, Kobayashi I, Okada K : Suppressed pediatric asthma hospitalizations during the COVID-19 pandemic in Japan, from a national survey.

Clin Transl Allergy. 14 : e12330, 2024

相澤 洋之、藤野 直也、松本周一郎、佐野 寛仁、齋藤 拓矢、畠山 哲八、市川 朋宏、小荒井 晃、堀野 智史、三浦 克志、杉浦 久敏：宮城県内におけるアレルギー疾患医療実態調査

アレルギー 72 : 26-36, 2023

## リウマチ・感染症科

Shimizu M, Nishimura K, Iwata N, Yasumi T, Umabayashi H, Nakagishi Y, Wakiguchi H, Kubota T, Mouri M, Kaneko U, Mori M : Treatment for macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis in Japan  
Int J Rheum Dis. 26 : 938-945, 2023

Iwata N, Nishimura K, Hara R, Imagawa T, Shimizu M, Tomiita M, Umabayashi H, Takei S, Seko N, Wakabayashi R, Yokota S : Long-term efficacy and safety of canakinumab in the treatment of systemic juvenile idiopathic arthritis in Japanese patients : Results from an open-label Phase III study  
Mod Rheumatol. 33 : 1162-1170, 2023

## 血液腫瘍科

Sato A, Hatta Y, Imai C, Oshima K, Okamoto Y, Deguchi T, Hashii Y, Koh K, Watanabe A, Miyazaki Y, Horibe K : Nelarabine, intensive L-asparaginase, and protracted intrathecal therapy for newly diagnosed T-cell acute lymphoblastic leukaemia in children and young adults (ALL-T11) : a nationwide, multicenter, phase 2 trial including randomisation in the VHR group  
Lancet Haematol 10 : e419-e432, 2023

佐藤 篤 : T細胞性急性リンパ性白血病  
小児科診療 特集 小児・AYA世代がん診療の現在と未来 86 : 893-896, 2023

Irie M, Niihori T, 鈴木 資、Nannjyou Y, Onuma M, 力石 健、Sato A, Maeda M, Aoki Y, Imaizumi M, Sasahara Y : Reduced-intensity conditioning is effective for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in infants with MECOM-associated syndrome  
Int J Hematol 117 : 598-606, 2023

Kawaguchi K, Umeda K, Miyasato S, Yoshida N, Yabe H, Koike T, Cho Y, Sato A, Tabuchi K, Atsuta Y, Imai K : Graft-versus-host disease-free, relapse-free, second transplant-free survival in allogeneic hematopoietic cell transplantation for genetic disorders  
Bone Marrow Transplant 58 : 600-602, 2023

Ishida H, Imamura T, Tatebe Y, Ishihara T, Sakaguchi K, Suenobu S, Sato A, Miyamura T, Saito MA, Hara J, Horibe K : Impact of asparaginase discontinuation on outcomes of children with acute lymphoblastic leukaemia receiving the Japan Association of Childhood Leukaemia Study ALL-02 protocol  
Br J Haematol 201 : 1200-1208, 2023

Imai C, Sato A, Hiwatari M, Shimomura Y, 森谷 邦彦、片山紗乙莉、Taga T, Horibe K, Koh K, Manabe A, Okamoto Y : Outcomes following induction failure in Japanese children with acute lymphoblastic leukemia  
Int J Hematol 118 : 99-106, 2023

Ishida H, Shimada H, Tanizawa A, Shimizu Y, Tachibana T, Sato A, Hino M, Matsunoto K, Atsuta Y, Yasui M, Naganuma-Inoue T : Allogeneic stem cell transplantation for children and adolescents/young adults with de novo blastic phase chronic myeloid leukemia in the tyrosine kinase inhibitor era  
Am J Hematol 98 : E200-E203, 2023

Fujii N, Onizuka M, Fukuda T, Ikegami K, Kawakita T, Sato A, Ichinohe T, Atsuta Y, Ogata M, Suzuki R, Nakasone H : Clinical characteristics of late-onset interstitial pneumonia after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation  
Int J Hematol 118 : 242-251, 2023

Yano M, Ishida H, Hara J, Kawaguchi H, Ito E, Saito MA, Miyamura T, Sato A, Hori H, Horibe K, Imamura T : Outcome of hematopoietic stem cell transplantation in pediatric patients with acute lymphoblastic leukemia not in remission enrolled in JACLS ALL-02  
Int J Hematol 118 : 364-373, 2023

名古屋祐子、佐藤 篤、木村 慶、相馬 伸樹、吉本 裕子、高橋久美子、坂田 悠佳、蜂谷ゆかり、長澤 朋子、大塚 有希、五十嵐あゆ子 : 小児専門病院に勤務するスタッフが感じる緩和ケアの困難感の変化—小児専門病院単施設の調査報告—  
Palliat Care Res 18 : 235-240, 2023

Horino S, 山口 祐樹、宮林 広樹、Aki H, Nannjyou Y, Onuma M, 力石 健、Yabe H, Imaizumi M, Sato A, Miura K : Topical therapy and skin care for transplant-associated atopic dermatitis in children and adolescents  
Pediatr Transplant 28 : e14653, 2023

Ishida H, Arakawa Y, Hasegawa D, Usami I, Hashii Y, Arai Y, Fujita N, Tanaka J, Sato A, Atsuta Y, Imamura T : Reduced-intensity allogeneic transplantation for children and adolescents with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia  
Ann Hematol 103 : 843-854, 2024

Shimomura Y, Kitamura T, Murata M, Kato K, Ishimaru F, Sato A, Tabuchi K, Atsuta Y, Fukuda T, Kanda J, Terakura S : Impact of Center Volume on Chronic Graft Versus Host Disease in Patients With Allogeneic Stem Cell Transplantation  
Transplant Cell Ther 30 : 326.e1-326.e14, 2024

## 神経科

- Sugeno N, Hasegawa T, Haginoya K, Kubota T, Ikeda K, Nakamura T, Ishiyama S, Sato K, Yoshida S, Koshimizu E, Uematsu M, Miyatake S, Matsumoto N, Aoki M : Detection of Modified Histones from Oral Mucosa of a Patient with DYT-KMT2B Dystonia.  
Mol Syndromol. 2023 ; 14 : 461-468.
- Shibuya M, Shichiji M, Ikeda M, Kodama K, Miyabayashi T, Sato R, Okubo Y, Endo W, Inui T, Togashi N, Nagao M, Sato K, Sato T, Kanzaki M, Segawa O, Masui K, Ishigaki K, Haginoya K : The Clinical Course and Treatment of a Case of Refractory Systemic Juvenile Myasthenia Gravis Successfully Treated with Thymectomy.  
Tohoku J Exp Med. 2024;262 : 29-31.
- Okubo Y, Shibuya M, Nakamura H, Kawashima A, Kodama K, Endo W, Inui T, Togashi N, Aihara Y, Shirota M, Funayama R, Niihori T, Fujita A, Nakayama K, Aoki Y, Matsumoto N, Kure S, Kikuchi A, Haginoya K : Neonatal developmental and epileptic encephalopathy with movement disorders and arthrogyposis : A case report with a novel missense variant of SCN1A.  
Brain Dev. 2023 ; 45 : 505-511.

## 脳神経外科

- Hayashi T, Kim JW, Kim SK, Shirane R : Technical evolution of pediatric neurosurgery : Moyamoya disease  
Childs nervous system 39 : 2819-2827, 2023
- Aoki H, Hayashi T, Mugikura S, Kimiwada T, Sakai K, Ainoya K, Ota H, Takase K, Shimanuki Y : Role of magnetic resonance imaging in the screening of closed spinal dysraphism  
Neurologia Medico Chirurgicalica Tokyo 63 : 473-481, 2023
- Inukai M, Hayashi T, Kimiwada T, Takeyama J, Sanada T, Shimanuki Y, Kitami M, Kumabe T, Endo H : Atypical sagittal suture craniosynostosis : Pathological considerations for early closure of the anterior part of the sagittal suture.  
Childs Nervous System 40 : 575-580, 2024
- 林 俊哲 : 目で見て学ぶ脊髄・末梢神経疾患の診察法。脊髄係留症候群  
脊椎脊髄ジャーナル 36 : 927-931、2023
- Hayashi T, Kim JW, Kim SK, Shirane R : Technical Evolution of Pediatric Neurosurgery : Moyamoya Disease.  
Childs Nervous System 39 : 2819-2827, 2023
- 林 俊哲、Kim JW, Kim SK, Shirane R : Technical Evolution of Pediatric Neurosurgery : Moyamoya Disease.  
Childs Nervous System 39 : 2819-2827, 2023
- 林 俊哲、Kim JW, Kim SK, Shirane R : Technical Evolution of Pediatric Neurosurgery : Moyamoya Disease.  
Childs Nervous System 39 : 2819-2827, 2023
- 青木 英和、林 俊哲、Mugikura S, Kimiwada T, Sakai K, Ainoya K, Ota H, Takase K, Shimanuki Y : Role of magnetic resonance imaging in the screening of closed spinal dysraphism  
Neurologia Medico-Chirurgica Tokyo 63 : 473-481, 2023
- 犬飼 円、林 俊哲、Kimiwada T, Takeyama J, Sanada T, Shimanuki Y, 北見 昌広、kumabe T, Endo H : Atypical sagittal suture craniosynostosis : Pathological considerations for early closure of the anterior part of the sagittal suture.  
Childs Nervous System 40 : 575-580, 2024
- Hayashi T, Kim JW, Kim SK, Shirane R : Technical evolution of pediatric neurosurgery : Moyamoya disease.  
Childs' nervous system 39 : 2819-2827, 2023
- Aoki H, Hayashi T, Mugikura S, Kimiwada T, Sakai K, Ainoya K, Ota H, Takase K, Shimanuki Y : Role of magnetic resonance imaging in the screening of closed spinal dysraphism  
Neuralgia Medico-Chirurgicalica Tokyo 63 : 473-481, 2023
- 林 俊哲 : 目で見て学ぶ脊髄・末梢神経疾患の診察法。脊髄係留症候群  
脊椎脊髄ジャーナル 36 : 927-931、2023

## 整形外科

- 落合 達宏 : 特集「扁平足の診断と治療 - 新たな名称「PCFD」の概念を含めて」幼児期扁平足の診断と治療  
整形・災害外科 66 : 351-362、2023

- 水野 稚香、落合 達宏、高橋 祐子、小松 繁允：ダウン症候群のインソールの治療効果の検討  
靴の医学 36 : 29-32、2023
- 小松 繁允、落合 達宏、高橋 祐子、水野 稚香：主題「筋離術後の再手術について」ハムストリング筋腱の再延長術：直視下での延長と皮下切腱の短期比較  
日本脳性麻痺の外科研究会誌 32 : 15-22、2023

## 泌尿器科

- 坂井 清英、城之前 翼、久保田優花、武田詩奈子、相野谷慶子：胎児診断された両側高度腎盂尿管移行部通過障害（ureteropelvic junction obstruction : UPJO）の3例：当院における対応  
小児泌尿器科学会雑誌 32 : 72-81、2023
- 坂井 清英：RN フォーラムの30年を振り返る  
第30回 日本逆流性腎症フォーラム記録集 30 : 3-7、2024
- 坂井 清英：令和5年度災害医療研修会「災害医療の体験談」東日本大震災における宮城県立こども病院の状況と対応  
新宿区医師会誌 64 : 365-368、2024
- 坂井 清英：プロからプロへ「停留精巣、膀胱尿管逆流（VUR）、先天性水腎症の手術時期は？」  
日本医事新報 5190 : 49-50、2023

## 放射線科

- Inukai Madoka, Hayashi Toshiaki, Kimiwada Tomomi, Takeyama Junji, Sanada Takehiko, Shimanuki Yoshihisa, Kitami Masahiro, Kumabe Toshihiro, Endo Hidenori : Atypical sagittal suture craniosynostosis : pathological considerations for early closure of the anterior part of the sagittal suture  
Child's Nervous System 40 : 575-580, 2023
- Hidekazu Aoki, Shimanuki Y : Role of Magnetic Resonance Imaging in the Screening of Closed Spynal Dysraphism  
Nuerol Med Chir (Tokyo) 63 : 473-481, 2023
- Miyazaki O, Oguma E, Nishikawa M, Tanami Y, Hosokawa T, Kitami M, Aoki H, Hattori S, Motoori K, Watanabe K, Ida K, Hishiki T, Kitamura M, Nozawa K, Takimoto T, Hiyama E : Usefulness of central radiologic review in clinical trials of children with hepatoblastoma.  
2023 Pediatr Radiol. 2023 Mar ; 53(3) : 367-377. doi : 10.1007/s00247-022-05530-4.Epub

## 薬剤部

- 西川 陽介、中井 啓、大内友季江、宮内 康夫、谷藤 弘淳、森川 昭正、山田 卓郎、片山 潤、菊地 正史：宮城県における新型コロナウイルス感染症流行下の薬学実務実習の形態に関する調査  
医療薬学 49 : 294-302、2023
- 大山かがり、川名三知代、中井 啓、石川 洋一：薬剤耐性（AMR）資材配布企画が地域薬剤師に与えた影響の調査研究：小児薬物療法研究会で啓発活動が続ける意義の考察  
日本小児臨床薬理学会雑誌 36 : 126-132、2023
- 名古屋祐子、佐藤 篤、木村 慶、相馬 伸樹、吉本 裕子、高橋久美子、坂田 悠佳、蜂谷ゆかり、長澤 朋子、大塚 有希、五十嵐あゆ子：小児専門病院に勤務するスタッフが感じる緩和ケアの困難感の変化—小児専門病院単施設の調査報告—  
Palliat Care Res 18 : 235-240、2023

## 著書

### アレルギー科

- 滝沢 琢己、三浦 克志、堀野 智史：第 11 章喘息管理：種々の側面  
一般社団法人日本小児アレルギー学会編「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023」  
株式会社 協和企画、東京都、194-210、2023
- 海老澤元宏、三浦 克志、伊藤 浩明：厚生労働科学研究班による食物経口負荷試験の手引き 2023  
厚生労働科学研究班編「厚生労働科学研究班による食物経口負荷試験の手引き 2023」  
厚生労働省、東京都、1-28、2023
- 宮林 広樹：症例編乳幼時期 小麦アレルギー  
海老澤元宏編「症例を通して学ぶ食物アレルギーのすべて」  
南山堂、東京都、2023
- 宮林 広樹、堀野 智史、三浦 克志：食物アレルギーによるアナフィラキシー  
鈴木慎太郎編「アレルギーの臨床」  
北隆館、東京都、667-671、2023

### リウマチ・感染症科

- 梅林 宏明：厚生労働科学研究費補助金 免疫・アレルギー疾患政策研究事業「移行期 JIA を中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤等の適正使用に資する研究」研究班編「若年性特発性関節炎患者支援の手引き」  
羊土社、2023
- 梅林 宏明：小児科疾患「若年性特発性関節炎」  
福井次矢 高木誠 小室一成編「今日の治療指針 2024」  
医学書院、東京、1496-1497、2024

### 産科

- 今井 紀昭：交通事故  
公益社団法人 日本産婦人科医会編「研修ノート 合併症妊娠」  
公益社団法人 日本産婦人科医会、東京、71-74、2023

### 麻酔科

- 篠崎 友哉、五十嵐あゆ子：小児の術中気道トラブル 食道閉鎖根治術の既往がある乳児  
宮津光範編「LiSA Life Support and Anesthesia 2024 VOL.31 NO.3」  
メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、230-233、2024

### 集中治療科

- 小泉 沢：非挿管呼吸補助（NPPV と HFNC）  
大崎真樹編「Cardiac PICU スタンダード」  
金芳堂、東京、30-41、2023
- 小野 頼母：PART II 各論 CHAP.01 心室中隔欠損（VSD）  
大崎真樹編「Cardiac PICU スタンダード」  
金芳堂、京都市、146-154、2023
- 小野 頼母：PART III 各施設の practice、CHAP.10 栄養管理  
大崎真樹編「Cardiac PICU スタンダード」  
金芳堂、京都市、386-394、2023
- 小野 頼母：PART IV 合併症、CHAP.03 壊死性腸炎（NEC）と消化管トラブル  
大崎真樹編「Cardiac PICU スタンダード」  
金芳堂、京都市、416-422、2023
- 小泉 沢：総論 管理方法 呼吸管理：HFNC、人工呼吸器を含めて  
「小児内科 55 巻 8 号 特集 小児の集中治療の実践—躬行実践—」  
東京医学社、東京、2023

## 栄養管理部

櫻井奈津子：医療型障害児への食育実践  
日本食育学会編「食育の百科事典」

丸善出版株式会社、2023

## 診療支援部

谷地 美貴：てんかんの対応

小笠原 正、石井里香子、梶 美奈子、寺田ハルカ編「あなたの歯科医院に障害のある患者さんが来院したら？ 歯科衛生士のための障害者歯科入門」

医歯薬出版社、京都、2023

太田 五月：眼科の判断力トレーニング file2 小児が検査に集中できない  
「眼科ケア 第25巻5号」

メディカ出版、大阪、66～68、2023

## 表彰

### 血液腫瘍科

佐藤 篤：日本小児血液・がん学会 大谷賞、2023.9.29

### 泌尿器科

城之前 翼：日本臨床内分泌病理学会研究賞（奨励賞）、2023.9.23

### 集中治療科

小泉 沢：宮城県知事感謝状：宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部アドバイザリーボード、2024.3.26

### 薬剤部

相馬 伸樹：オンラインを活用した多地点連携小児緩和ケアネットワークの構築

優秀演題賞、2023.6.30

### 放射線部

本郷 悠知：核医学検査時におけるバーコード認証を用いた照合システムの構築、2023.11.3

### リハビリテーション・発達支援部

猪谷 俊輝、洞口 亮：入院でのリハビリテーションにより Canadian Occupational Performance Measure（COPM）が改善した脳性麻痺の1例（第27回宮城県理学療法学会大会 大会奨励賞）、2024.2.28

## 治験・研究

### 治験

治験責任医師	所属	治験の標題	治験依頼者
虻川 大樹	消化器科	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症 2 型を対象とした KDN-413 の有効性と安全性の検討を目的とした医師主導治験	医師主導
萩野谷和裕	神経科	日本人小児および成人患者を対象にレノックス・ガストー症候群、ドラベ症候群または結節性硬化症と関連する発作に対する併用療法として、カンナビジオール経口液剤 (GWP42003-P) の安全性および有効性を検討する非盲検試験	IQVIA サービスーズジャパン株式会社
富樫 紀子	神経科	ISIS396443 試験に参加した脊髄性筋萎縮症患者を対象とする非盲検継続試験	サイオネス・ヘルス・クリニカル株式会社 (Biogen MA Inc.)
五十嵐あゆ子	麻酔科	小児患者を対象とした MR19A13A の有効性及び安全性を検討する第 II/III 相試験	丸石製薬株式会社
梅林 宏明	リウマチ・感染症科	1 歳以上 18 歳未満の若年性特発性関節炎 (JIA) 患者を対象としたバリシチニブの長期安全性及び有効性を評価する第 III 相多施設共同試験	日本イーライリリー株式会社
萩野谷和裕	神経科	A PHASE 3, RANDOMIZED, DOUBLE-BLIND, PLACEBO-CONTROLLED EFFICACY AND SAFETY STUDY OF ATALUREN IN PATIENTS WITH NONSENSE MUTATION DUCHENNE MUSCULAR DYSTROPHY AND OPEN-LABEL EXTENSION ナンセンス変異型デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者を対象としたアタルレンの第 III 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、有効性及び安全性試験 (非盲検延長投与期を含む)	株式会社 EPS アソシエイト (PTC Therapeutics, Inc.)
佐藤 篤	血液腫瘍科	FVIII インヒビターを保有しない 12 歳未満の血友病 A 小児患者を対象としてエミズマブ投与の長期安全性及び関節に与える影響を評価する製造販売後臨床試験	中外製薬株式会社
虻川 大樹	消化器科	アラジール症候群患者の治療における TAK-625 の有効性及び安全性を検討する第 3 相「非盲検試験	武田薬品工業株式会社
梅林 宏明	リウマチ・感染症科	1 歳以上 18 歳未満の全身型若年性特発性関節炎患者を対象としたバリシチニブ経口投与の安全性及び有効性を評価する二重盲検無作為化プラセボ対照治療中止試験	日本イーライリリー株式会社
萩野谷和裕	神経科	デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者を対象とした TAS-205 の無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験及び非盲検継続投与試験 (第 3 相)	大鵬薬品工業株式会社
稲垣 徹史	腎臓内科	痛風を含む高尿酸血症の小児患者を対象とした FYU-981 の検証的試験	株式会社富士薬品
稲垣 徹史	腎臓内科	痛風を含む高尿酸血症の小児患者を対象とした FYU-981 の長期継続試験	株式会社富士薬品
稲垣 徹史	腎臓内科	2 歳以上 6 歳未満の小児高血圧症患者を対象に、TAK-536 を長期投与したときの安全性、有効性及び薬物動態を検討する第 3 相多施設共同非盲検長期投与試験	武田薬品工業株式会社
虻川 大樹	消化器科	中等症から重症の活動期にある潰瘍性大腸炎を有する小児患者を対象とした経口 CP-690, 550 (トファシチニブ) の寛解導入および維持非盲検試験	ファイザー株式会社
虻川 大樹	消化器科	中等症から重症の活動期潰瘍性大腸炎の小児患者を対象とした、ウステキヌマブの非盲検静脈内投与による寛解導入療法及びランダム化二重盲検皮下投与による寛解維持療法の有効性、安全性及び薬物動態を検討する第 3 相試験	ヤンセンファーマ株式会社

虻川 大樹	消化器科	中等症から重症の活動期クローン病の小児患者を対象とした、ウステキヌマブの非盲検静脈内投与による寛解導入療法及びランダム化二重盲検皮下投与による寛解維持療法の有効性、安全性及び薬物動態を検討する第 III 相試験	ヤンセンファーマ株式会社
虻川 大樹	消化器科	クローン病を伴う小児患者の肛門周囲複雑瘻孔の治療における darvadstrocel の有効性及び安全性を、24 週間及び最長 52 週間の継続観察期にわたり検討する第 3 相多施設共同非盲検試験	武田薬品工業株式会社
萩野谷和裕	神経科	ナンセンス変異型デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者を対象としたアタルレン (PTC124) の非盲検、長期安全性、有効性、忍容性試験	メドベイス・ジャパン株式会社 (PTC Therapeutics, Inc.)
稲垣 徹史	腎臓内科	高カリウム血症を有する小児患者を対象に SZC の安全性及び有効性を評価する非盲検試験	アストラゼネカ株式会社
梅林 宏明	リウマチ・感染症科	多関節型若年性特発性関節炎の小児被験者におけるウパダシチニブの薬物動態、安全性及び忍容性を評価する非盲検反復投与試験	アッヴィ合同会社
梅林 宏明	リウマチ・感染症科	高安静脈炎患者を対象としてウパダシチニブの有効性及び安全性を評価する第 III 相多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照試験	アッヴィ合同会社
虻川 大樹	消化器科	小児患者 (2 歳以上、18 歳未満) を対照にウステキヌマブを検討する第 3 相多施設共同、非盲検、長期継続投与バスケット試験	ヤンセンファーマ株式会社
三浦 克志	アレルギー科	JTE-061 クリーム第 III 相臨床試験 - 小児アトピー性皮膚炎患者を対象として基剤クリーム対照比較試験 (二重盲検期) 及び継続投与試験 (延長期) -	日本たばこ産業株式会社
虻川 大樹	消化器科	中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎を有し、副腎皮質ステロイド、免疫調節薬及び/又は生物学的製剤に対して効果不十分、不耐容又は医学的禁忌である小児患者を対象に、非盲検導入療法、無作為化二重盲検維持療法及び非盲検長期継続投与を通じてウパダシチニブの有効性、安全性及び薬物動態を評価する第 III 相多施設共同試験	アッヴィ合同会社
虻川 大樹	消化器科	中等症から重症の活動期クローン病の小児患者におけるグセルクマブの有効性、安全性及び薬物動態 (小児クローン病における IL-23p 阻害の有効性を検証する第 III 相、多施設共同、ランダム化プラットフォーム試験)	ヤンセンファーマ株式会社
虻川 大樹	消化器科	小児クローン病患者を対象としてミリキズマブを評価する第 III 相、多施設共同、ランダム化試験 (小児クローン病における IL-23p 阻害の有効性を検証する第 III 相、多施設共同、ランダム化プラットフォーム試験)	日本イーライリリー株式会社
虻川 大樹	消化器科	Z-338 第 III 相比較臨床試験 - 小児機能性ディスベプシア患者を対象とした Z-338 100 mg の薬物動態の確認、ならびにプラセボに対する有効性及び安全性の評価 -	ゼリア新薬工業株式会社

## 製造販売後調査

調査責任医師	所属	調査の標題	調査依頼者
萩野谷和裕	神経科	スピンラザ髄注 12 mg 使用成績調査	バイオジェン・ジャパン株式会社
佐藤 篤	血液腫瘍科	テムセル HS 注 使用成績調査	JCR ファーマ株式会社
梅林 宏明	リウマチ・感染症科	イラリス皮下注用 150 mg ・イラリス皮下注射液 150 mg 特定使用成績調査 (sJIA)	ノバルティスファーマ株式会社
佐藤 篤	血液腫瘍科	ピーリンサイト点滴静注用 35 µg 一般使用成績調査 (全例調査)	アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社

佐藤 篤	血液腫瘍科	ビーリンサイト点滴静注用 35 µg 特定使用成績調査 (長期使用)	アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社
真田 武彦	形成外科	自家培養表皮ジェイスの先天性巨大色素性母斑に対する使用成績調査	株式会社ジャパン・テイツシュ・エンジニアリング
虻川 大樹	消化器科	デファイテリオ静注 200 mg 一般使用成績調査	日本新薬株式会社
遠藤 若葉	神経科	ビプリブ点滴静注用 400 単位 使用成績調査	武田薬品工業株式会社
佐藤 篤	血液腫瘍科	デファイテリオ静注 200 mg 一般使用成績調査	日本新薬株式会社
梅林 宏明	リウマチ・感染症科	ベンリスタ点滴静注用 小児特定使用成績調査	グラクソ・スミスクライン株式会社
萩野谷和裕	神経科	ビルテプソ点滴静注 250 mg 特定使用成績調査	日本新薬株式会社
富樫 紀子	神経科	ゾルゲンスマ点滴静注 特定使用成績調査	ノバルティスファーマ株式会社
萩野谷和裕	神経科	エブリスデイドライシロップ 60 mg 一般使用成績調査	中外製薬株式会社
虻川 大樹	消化器科	ラパリムス錠 (難治性リンパ管疾患) 一般使用成績調査	ノーベルファーマ株式会社
奈良 隆寛	発達診療科	ビバンセカプセル 20 mg、30 mg 特定使用成績調査	武田薬品工業株式会社
佐藤 篤	血液腫瘍科	バイクロット配合静注用 使用成績調査	日本血液製剤機構
富樫 紀子	神経科	ピムパット錠 50 mg・100 mg・ドライシロップ 10% 特定使用成績調査	第一三共
菅野 潤子	内分泌科	クリースビータ皮下注 10 mg・20 mg・30 mg 特定使用成績調査	協和キリン
虻川 大樹	消化器科	マヴィレット配合錠・マヴィレット配合顆粒 特定使用成績調査	アッヴィ合同会社
虻川 大樹	消化器科	イラリス皮下注用・皮下注射液 150 mg 使用成績調査	ノバルティスファーマ株式会社
佐藤 篤	血液腫瘍科	コセルゴカプセル 10 mg、25 mg 特定使用成績調査	アレクシオンファーマ合同会社
落合 達宏	整形外科	コセルゴカプセル 10 mg、25 mg 特定使用成績調査	アレクシオンファーマ合同会社
萩野谷和裕	神経科	フィンテプラ内用液 2.2 mg/mL 特定使用成績調査	日本新薬株式会社

## 特定臨床研究

受付番号	研究責任医師	所属	研究課題名
1	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児 B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第 II 相および第 III 相臨床試験実施計画書 ALL-B12
2	佐藤 篤		IDRF (Image Defined Risk Factors) に基づく手術適応時期の決定と、段階的に強度を高める化学療法による、神経芽腫中間リスク群に対する第 II 相臨床試験
5	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児高リスク成熟 B 細胞性腫瘍に対するリツキシマブ追加 LMB 化学療法の安全性と有効性の評価を目的とした多施設共同臨床試験 B-NHL-14
7	佐藤 篤	血液腫瘍科	再発・治療抵抗性リンパ芽球性リンパ腫 StageIII/IV に対する DexICE 治療の有効性及び安全性を検証する多施設共同第 II 相臨床試験
9	佐藤 篤	血液腫瘍科	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子検索を主目的とした多施設共同試験 JPLSG-ALB-NHL-14
11	佐藤 篤	血液腫瘍科	第 1・第 2 寛解期小児急性骨髄性白血病を対象としたフルダラビン・シタラビン・メルファラン・低線量全身照射による前処置を用いた同種移植の安全性・有効性についての臨床試験 AML-SCT15

12	佐藤 篤	血液腫瘍科	Asia-wide, multicenter open-label, phase II non-randomized study involving children with Down syndrome under 21 year-old with newly diagnosed, treatment naïve acute lymphoblastic leukemia. アジア広域における 21 歳未満のダウン症候群小児患者の未治療の急性リンパ性白血病についての多施設共同非盲検非無作為化第 II 相試験 (ASIA DS-ALL2016)
13	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児および若年成人における EB ウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症に対するリスク別多施設共同第 II 相臨床試験
14	佐藤 篤	血液腫瘍科	初発時慢性期および移行期小児慢性骨髄性白血病を対象とした ダサチニブとニロチニブの非盲検ランダム化比較試験
16	佐藤 篤	血液腫瘍科	MLL 遺伝子再構成陽性乳児急性リンパ性白血病に対するクロファラビン併用化学療法の有効性と安全性の検討をする多施設共同第 II 相試験および MLL 遺伝子再構成陰性乳児急性リンパ性白血病に対する探索的研究
17	佐藤 篤	血液腫瘍科	ダウン症候群に発症した小児急性骨髄性白血病に対する 層別化治療の多施設共同第 II 相試験 (AML-D16)
18	佐藤 篤	血液腫瘍科	初発小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病 (Ph+ALL) に対する ダサチニブ併用化学療法の第 II 相臨床試験
19	佐藤 篤	血液腫瘍科	一過性骨髄異常増殖症 (TAM) に対する化学療法による標準治療法の確立を目指した第 2 相臨床試験
21	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児の再発・難治性未分化大細胞リンパ腫に対する骨髄非破壊的前処置を用いた同種造血幹細胞移植の有効性と安全性を評価する他施設共同非盲検無対象試験
23	佐藤 篤	血液腫瘍科	FVIII インヒビター保有先天性血友病 A 患者における免疫寛容導入療法実施下及び実施後のエミシズマブの安全性を評価する多施設共同臨床研究
24	佐藤 篤	血液腫瘍科	Asian-wide, multicenter, non-blind, non-randomized, phase II trial for children with Ambiguous Lineage Acute Leukemia/ アジア広域における 21 歳未満の分類系統不明瞭な急性白血病 (ALAL) に対する多施設共同非盲検無対象第二相試験
25	桜井 博毅	リウマチ・感染症科	先天性トキソプラズマ症に対するピリメタミン・スルファジアジン・ホリナート併用療法の効果・安全性評価研究
27	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児急性骨髄性白血病を対象とした微小残存病変を用いた層別化治療、および非低リスク群に対する寛解導入後治療におけるゲムツズマブオゾガマイシン追加の有効性及び安全性を検討するランダム化比較第 III 相試験 (AML20)
28	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児および若年成人におけるランゲルハンス細胞組織球症に対するリスク別多施設共同第 II 相臨床試験 (JPLSG-LCH-19-MSMFB)
29	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児ホジキンリンパ腫に対する FDG-PET 検査による初期治療反応性判定を用いた治療法の効果を確認する第 II 相試験 HL-14
30	佐藤 篤	血液腫瘍科	若年性骨髄単球性白血病に対するアザシチジン療法の多施設共同非盲検無対象試験 (JPLSG-JMML-20)
31	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児・AYA・成人に発症した B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第 III 相臨床試験 (JPLSG-ALL-B19)
32	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児・AYA 世代および成人 T 細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験 (JPLSG-ALL-T19)
33	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児・AYA 世代の限局期成熟 B 細胞性リンパ腫に対するリツキシマブ併用化学療法の有効性の評価を目的とした多施設共同臨床試験 (JPLSG-B-NHL-20)
34	乾 健彦	神経科	先天性グリコシル化異常症患者を対象とした乳糖補充療法の有効性及び安全性を評価する非無作為化、単群、多施設共同試験
35	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児の複数回再発・難治 ALL に対する少量シタラピンとプリナツマブによる寛解導入療法の第 II 相試験 (JPLSG-ALL-R19 BLIN)
36	佐藤 篤	血液腫瘍科	再発難治 CD19 陽性 B 細胞性急性リンパ性白血病に対する同種造血細胞移植後のプリナツモマブによる維持療法の安全性および有効性に関する多施設共同非盲検無対象試験：第 I-II 相試験 (JPLSG-SCT-ALL-BLIN21)
37	佐藤 篤	血液腫瘍科	再発ランゲルハンス細胞組織球症に対するハイドロキシウレア (ハイドレアカプセル) の安全性と有効性を探索するパイロット研究

38	虻川 大樹	消化器科	TNF $\alpha$ 阻害薬使用患者への弱毒生ワクチン接種多施設共同前向き試験
----	-------	------	---

## 臨床研究

受付番号	研究責任者	所属	研究課題名
18	富樫 紀子	神経科	ミトコンドリア病患者に対するジクロロ酢酸ナトリウムの使用について
23	今泉 益栄	血液腫瘍科	同種末梢造血幹細胞移植および顆粒球輸血における健常ドナーへのG-CSF投与と成分採血
27	佐々木英之	外科	胆道閉鎖症の年次登録と予後追跡調査による疫学研究
50	今泉 益栄	血液腫瘍科	日本骨髄バンクおよび日本さい帯血バンクネットワークの非血縁ドナーによる同種造血幹細胞移植療法
103	佐々木英之	外科	腸管不全関連肝機能障害 (IFALD; intestinal failure associated liver disease) に対する $\omega$ 3 系脂肪酸優位含有脂肪製剤 (Omegaven 注射薬) の臨床使用
108	三浦 克志	アレルギー科	食物アレルギーの経口減感作療法に関する研究
118	室月 淳	産科	胎児に対する輸血
127	三浦 克志	アレルギー科	子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査)
133	坂井 清英	泌尿器科	わが国の膀胱尿管逆流症患者に関する多施設共同の長期プロスペクティブスタディー
149	虻川 大樹	消化器科	反復性腹痛患者における炎症免疫異常ならびに成育環境要因の役割に関する研究
155	今泉 益栄	血液腫瘍科	宮城県におけるリンパ球系腫瘍症例の長期的かつ継続的な予後追跡による疫学的調査研究
166	虻川 大樹	消化器科	難治性腸管パーチュエット病に対するサリドマイド投与
168	佐藤 篤	血液腫瘍科	JACLS ALL-02 研究における、低リスク群症例、ダウン症併発例、年長児例、芽球高 2 倍体例、および t (17; 19) 転座例の解析
180	佐藤 篤	血液腫瘍科	JACLS ALL02 研究における再発症例、CD10 陰性/MLL 遺伝子再構成陽性 B 前駆細胞性 ALL 症例、t (1; 19) 転座/E2A/PBX1 陽性症例、および t (12; 21) 転座/TEL/AML1 陽性症例の解析
182	虻川 大樹	消化器科	日本小児炎症性腸疾患レジストリシステムの構築及びそれに基づく実態調査と自然史の解明のための研究
191	室月 淳	産科	胎児診断を目的とした妊婦に対する絨毛生検
214	角田 文彦	消化器科	セレン欠乏を認める小児消化器疾患に対する亜セレン酸ナトリウム内服液投与
236	佐藤 篤	血液腫瘍科	日本小児白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG) における小児血液腫瘍性疾患を対象とした前方視的研究
256	今泉 益栄	血液腫瘍科	小児固形腫瘍観察研究 (No.146 は終了)
266	室月 淳	産科	脆弱 X 症候群の出生前遺伝子診断
267	川目 裕	総合診療科	原因不明遺伝子関連疾患の全国横断的症例収集・バンキングと網羅的解析
282	萩野谷和裕	神経科	ミトコンドリア病患者への塩酸チアミン投与による治療
287	萩野谷和裕	神経科	遺伝性難治疾患の網羅的エクソーム・全ゲノム解析の拠点構築に関する研究
288	萩野谷和裕	神経科	精神発達遅滞の遺伝学的解析
289	萩野谷和裕	神経科	過去の MRI 画像を基にした脳性麻痺の各病型の再検討
295	萩野谷和裕	神経科	遺伝子異常による小児神経疾患の脳画像に関する研究
296	萩野谷和裕	神経科	遺伝性神経疾患の原因遺伝子解明のための研究
298	今泉 益栄	血液腫瘍科	非血縁者間骨髄・末梢造血幹細胞移植における検体保存事業への協力について
308	佐藤 篤	血液腫瘍科	経口ペクロメタゾン製剤 (Clipper) による難治性消化管移植片対宿主病 (GVHD) の治療

309	室月 淳	産科	低ホスファターゼ症周産期型と診断された児の周産期管理と周産期予後に関する全国調査
312	萩野谷和裕	神経科	ミトコンドリア病患者の培養線維芽細胞を用いた治療薬開発
320	梅林 宏明	リウマチ科	日本における若年性特発性関節炎患者の現状と問題点を全国的に継続的に明らかにするための共同臨床研究
321	坂井 清英	泌尿器科	5 $\alpha$ -還元酵素欠損者に対する DHT (ジヒドロテストステロン) 軟膏使用
336	川部 早江	成育支援局	PSI 育児ストレスインデックスを用いた親子入院前後の親子関係の変化に関する研究
341	小澤 晃	循環器科	薬剤溶出性バルーンを用いた肺静脈狭窄に対するカテーテル治療
346	佐藤 篤	血液腫瘍科	造血細胞移植医療の全国調査
353	虻川 大樹	総合診療科	小児医療情報収集システムを用いたコホート研究
356	萩野谷和裕	神経科	RO7034067 の II 型及び III 型脊髄性筋萎縮症患者を対象とした第 II/III 相臨床試験
364	室月 淳	産科	出生前スクリーニングにおける母体血 cell free DNA の有用性に関する研究
365	室月 淳	産科	骨形成不全症の出生前遺伝子診断の実施計画
366	篠崎 友哉	麻酔科	当院の手術中止症例の理由と中止による影響
399	佐藤 篤	血液腫瘍科	先天性血小板減少症の遺伝子解析
411	稲垣 徹史	腎臓内科	ステロイド薬または免疫抑制薬内服下での弱毒生ワクチン接種の多施設共同前向きコホート研究
412	室月 淳	産科	位相差トラッキング法による分娩中の胎児の循環動態の評価
413	富樫 紀子	神経科	スコボラミン軟膏の塗布について
415	佐藤 篤	血液腫瘍科	急性リンパ性白血病における分子遺伝学的検査の意義と実行可能性を検証するための多施設共同前向き観察研究 ALL-18
418	菅野 潤子	内分泌科	不動を原因とした骨粗鬆症の観察研究
425	君和田友美	脳神経外科	小児水頭症に対する脳室腹腔 (VP) シャントの治療効果の評価
432	室月 淳	産科	母体血胎児全染色体領域ゲノム量的検査
435	室月 淳	産科	日本産科婦人科学会周産期委員会 周産期登録事業及び登録情報に基づく研究
436	桜井 博毅	リウマチ・感染症科	国内におけるパレコウィルス A3 感染症の前方視的疫学調査
439	佐藤 篤	血液腫瘍科	21trisomy を除く症候群に合併した急性リンパ性白血病の全国調査 (臨床的特徴の把握と生殖細胞系列・体細胞系列遺伝子変異の検出)
448	佐藤 篤	血液腫瘍科	エミシズマブ定期投与中の FVIII インヒビターを保有しない先天性血友病 A 患者における、身体活動及び出血イベント、日常生活の質、安全性を評価する多施設共同、前向き観察研究
452	虻川 大樹	消化器科	小児胆汁うっ滞性肝疾患の病態進展機構の理解、予後予測因子の探索に関する研究
458	落合 達宏	整形外科	日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 構築に関する研究
459	落合 達宏	整形外科	日本小児整形外科学会疾患登録 (JPOA レジストリー)
460	虻川 大樹	消化器科	先天性アミノ酸代謝異常症、糖代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症の遺伝子診断
461	角田 文彦	消化器科	小児好酸球性消化管疾患の内視鏡所見についての検討
463	室月 淳	産科	自動操作かつ遠隔操作が可能な超音波検査ロボットの妊婦での検証
469	佐藤 篤	血液腫瘍科	血友病保因者の実態調査
476	林 俊哲	脳神経外科	二分脊椎症に関する研究
477	林 俊哲	脳神経外科	モヤモヤ病に関する研究
480	佐藤 篤	血液腫瘍科	日本小児血液・がん学会専門医研修施設における小児がん患者へのケアの実態
486	久保田優花	泌尿器科	腎・泌尿器科疾患に対する治療効果と治療後の状態・予後についての臨床研究

487	三浦 克志	アレルギー科	小児の魚アレルギーにおける主要アレルゲンの解析
488	三浦 克志	アレルギー科	喘息発作の全国サーベイランスを介した呼吸器感染症の早期検出と流行把握の研究
489	虻川 大樹	総合診療科・消化器科	遺伝子異常に伴う炎症性腸疾患の病態解明・鑑別診断技術の確立を目指した遺伝学的解析ならびにバイオバンク研究
496	萩野谷和裕	神経科	日本人ゴーシェ病患者における血漿中 Lyso-Gb1 濃度とゴーシェ病の治療効果との関連を検討する観察研究
499	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	若年性皮膚筋炎における病態解明を目指した免疫学的解析に関する多施設共同研究
503	室月 淳	産科	子宮頸管拡張時の傍頸管ブロック（宇津変法）による疼痛緩和の評価
509	林 俊哲	脳神経外科	乳幼児画像診断に関する研究
514	稲垣 徹史	腎臓内科	遺伝子変異同定ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対するカルシニューリンインヒビター治療の後方視的観察研究
515	角田 文彦	消化器科	小児小腸バルーン内視鏡に関する実態調査：治療内視鏡・腹部術後内視鏡の有効性と安全性
517	佐藤 篤	血液腫瘍科	血友病患者の次世代治療をめざした多面的アウトカムに関するコホート研究
518	佐藤 篤	血液腫瘍科	20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究
524	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児思春期・若年成人リンパ腫に対する前方視的観察研究（PL-19）
528	佐藤 篤	血液腫瘍科	フルダラビン・シタラビン・メルファラン・低線量全身照射による前処置を用いた同種移植におけるメルファランの薬物動態と移植後早期合併症との関連の探索的研究（SCT-MEL-AUC20）
529	林 俊哲	脳神経外科	小児頭部外傷に関する研究
531	虻川 大樹	消化器科	小児期発症自己免疫性肝疾患の新規バイオマーカーと病因遺伝子の探索研究
533	室月 淳	産科	遺伝性 PNKP 異常症の出生前遺伝子診断
535	三浦 克志	アレルギー科	定型負荷試験食を用いた食物経口負荷試験の安全性に関する研究
541	林 俊哲	脳神経外科	頭蓋骨縫合早期癒合症に関する研究
542	谷河 翠	リウマチ・感染症科	宮城県における RS ウイルス感染症の後方視的疫学調査
544	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児の血栓止血異常に関わる病態解明と管理法の開発に関する研究－遺伝性血小板減少症の健康関連 QOL 調査－
546	橋本 昌俊	外科	小児炎症性腸疾患における necroptosis 関連因子、glucocorticoid receptor 関連因子の臨床病理学的検討
548	佐藤 篤	血液腫瘍科	フォローアップを終了した小児がん経験者の QOL 調査研究
550	萩野谷和裕	神経科	遺伝性末梢神経障害に関する後方視的研究
551	萩野谷和裕	神経科	遺伝性痙性対麻痺に関する後方視的研究
552	萩野谷和裕	神経科	重度脳障害児に出現する発作性交感神経過緊張に関する後方視的研究
553	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	成人診療施設へ転院した患者に対する、成人移行期支援の課題を抽出するためのアンケート調査
555	小野 頼母	集中治療科	下気道感染による急性呼吸不全に対して高流量鼻カニューラ酸素（HFNC）療法を施行した乳幼児における HFNC の治療効果判定に有用な臨床的指標の探索
557	谷地 美貴	診療支援部 歯科	歯科医院における障害者の受け入れ状況の把握と課題の抽出
558	木越 隆晶	腎臓内科	末期腎不全のため腹膜透析を行っている多中心性手根足根骨骨融解症候群症例の骨融解に対するプラリア皮下注シリンジの投与に関して
561	篠崎 友哉	麻酔科	手術前の体調管理についての実態調査
562	橋本 昌俊	外科	小児腸管免疫制御機構の病理組織学的検討
563	橋本 昌俊	外科	メッケル憩室の病理組織学的検討
564	宮下 進	産科	胎児発育不全における臓器血流再分配と胎児血圧評価
565	宮下 進	産科	子宮内圧および脈波伝播速度を用いた胎児血圧の推定

566	小野 頼母	集中治療科	小児の胸部 CT データを用いた肺および心臓 3D モデルの作成
567	武田詩奈子	泌尿器科	脊髄脂肪腫に伴う神経因性膀胱の機能的予後に関する臨床的検討
568	宮下 進	産科	新生児蘇生法講習会におけるシミュレータによる人工呼吸手技スキル評価
571	成重 勇太	消化器科	小児期発症炎症性腸疾患における神経内分泌細胞の発現動態についての臨床病理学的検討
573	小野 頼母	集中治療科	先天性心疾患を有する新生児・乳児における心臓手術周術期の中心静脈カテーテル関連血栓の危険因子の探索
575	桜井 博毅	リウマチ・感染症科	宮城県における RS ウイルス感染症の後方視的疫学調査
577	虻川 大樹	消化器科	医療機関を対象とした小児 C 型肝炎患者に関するアンケート調査
578	岡田 敬子	看護部	小児炎症性腸疾患患者の成人移行期支援内容の評価と課題
579	佐藤 篤	血液腫瘍科	血液悪性腫瘍の小児におけるアスパラギナーゼ治療中の高トリグリセリド血症が与える影響についての後方視的検討
581	吉本 裕子	看護部	家族の付き添い制限のあるコロナ禍に血液疾患で長期入院を経験した思春期患者の思い
582	佐藤 篤	血液腫瘍科	慢性疾患による長期入院児の SNS 利用に関する研究
583	林 俊哲	脳神経外科	脊髄脂肪腫発生における原因遺伝子の検討
584	三浦 克志	アレルギー科	医療用医薬品の外用療法では疾患のコントロールが十分でない、又は外用療法が医学的に推奨されない、中等症から重症のアトピー性皮膚炎を有する小児患者における、前向き、観察的、縦断的研究
587	武田詩奈子	泌尿器科	二分脊椎患者の抗コリン薬抵抗性神経因性下部尿路機能障害に対する Vibegron の有用性
588	田上 和磨	産科	一絨毛膜二羊膜双胎妊娠の予後について
589	其田 健司	集中治療科	日本の小児集中治療室 (PICU, pediatric intensive care unit) における持続的腎代替療法 (CRRT, continuous renal replacement therapy) の前向き多機関レジストリ研究
591	室月 淳	産科	潜性遺伝性疾患の保因者検査の精度確認研究
592	小沼 正栄	血液腫瘍科	piggyBac トランスポゾン法によるキメラ抗原受容体遺伝子改変自己 T 細胞療法後の長期フォローアップ
593	正木 直樹	心臓血管外科	純型肺動脈閉鎖症の遠隔予後と潜在的な心筋虚血の検証
594	星 雄介	消化器科	小児炎症性腸疾患における血栓塞栓症の実態調査
595	篠崎 智哉	麻酔科	小児の抜管における SedLine® による覚醒度の評価
596	谷河 翠	リウマチ・感染症科	環境水中の RSV サーベイランスに基づく RS ウイルス感染症流行予測モデルの構築
597	佐藤 篤	血液腫瘍科	血液悪性腫瘍、造血不全の小児における D-index を用いた新たな感染症予防法の探索
601	佐藤喜久子	看護部	医療型障害児入所施設における COPM 実践に関する看護師が感じている効果
602	岡田 敬子	看護部	気管切開管理中の在宅療養患者における外出時のバッグバルブマスクの携帯状況と家族の思い
C001	佐藤 篤	血液腫瘍科	ASIA DS-ALL2016 試験 (Asia-wide, multicenter open-label, phase II non-randomized study involving children with Down syndrome under 21 year-old with newly diagnosed, treatment naïve acute lymphoblastic leukemia.)
C002	乾 健彦	神経科	神経筋変性疾患の遺伝子解析研究
C003	三浦 克志	アレルギー科	実臨床での小児ダニ舌下免疫療法の継続率および効果に関する調査
C004	佐藤 篤	血液腫瘍科	先天性骨髄不全症候群レジストリ研究
C005	虻川 大樹	消化器科	小児期発症胆汁うっ滞性肝疾患を対象とした多施設前向きレジストリ研究【RADDAR-J [17]】
C009	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	自己免疫疾患における患者レジストリを包含した難病プラットフォーム体制の構築と、それを活用した長期にわたる全国規模の多施設共同研究
C010	萩野谷和裕	神経科	デュシェンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究 (Remudy-DMD)

C011	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	全身型若年性特発性関節炎に対する Tocilizumab (アクテムラ) 臨床試験後追跡調査
C012	虻川 大樹	消化器科	疾患レジストリを利用した原発性硬化性胆管炎の病態・自然経過・予後因子の解明【RADDAR-J [13]】
C013	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児急性リンパ性白血病の異なるプロトコール間での QOL 比較研究: JACLS 修正 ALL-02vs.BFM-ALLoriented protocol (JACLS QoALL-20)
C015	虻川 大樹	消化器科	ミトコンドリア病の生化学診断、責任遺伝子解析、病態解明、患者レジストリおよび治療法の開発に関する研究
C016	萩野谷和裕	神経科	脊髄性筋萎縮症患者を対象とした手の作業能力に対するリスジプラムの有効性評価方法に関する研究、前向き観察研究
C017	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児・成人悪性腫瘍がん幹細胞の同定に関する研究
C018	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児・AYA・成人に発症した B 前駆細胞性または T 細胞性急性リンパ性白血病の初回寛解導入療法および早期強化療法に関連した凝固障害に対する包括的凝固線溶機能解析を用いた探索的研究 (JPLSG-Thromb ALL-B19&T19)
C019	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児固形腫瘍に対するゲノムプロファイリング検査の臨床実装に向けた実行可能性を検討するための多施設共同前向き観察研究 (JCCG-TOP2)
C020	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	我が国の若年全身性エリテマトーデス患者の現状と妊娠転帰を含む長期・短期予後に関する前向きコホート研究
C021	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	日本人小児全身性エリテマトーデス患者における全身性エリテマトーデス分類基準の妥当性に関する検討
C022	萩野谷和裕	神経科	NGS を用いた希少難病家系の網羅的ゲノム解析の追加研究
C023	角田 文彦	消化器科	小児消化器内視鏡全国調査 2022
C024	佐藤 篤	血液腫瘍科	日本における組織球症 Histiocytosis を対象とした前方視的観察研究 (LCH-19-Histio)
C025	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	小児リウマチ性疾患の登録 (レジストリ) 研究
C026	虻川 大樹	消化器科	特発性膵炎患者における遺伝学的検索と臨床像の解析
C027	角田 文彦	消化器科	腸管パーचेット病重症度の妥当性を評価するための調査研究
C028	三浦 克志	アレルギー科	アレルギー拠点病院ネットワークを活用したアナフィラキシー症例集積研究
C029	三浦 克志	アレルギー科	定型負荷試験食を用いた食物経口負荷試験のレジストリー研究
C030	虻川 大樹	消化器科	小児期発症病態における非侵襲的バイオマーカーの検討
C031	虻川 大樹	消化器科	日本人炎症性腸疾患患者を対象としたマルチオミックスコホート解析およびバイオバンク構築 (IBD-MOCHA)
C032	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児遺伝性血液疾患を対象とした前方視的研究
C033	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児腎悪性腫瘍の治療法開発に必要な新規バイオマーカー・病理所見・画像所見を同定するための国際的前向き観察研究 (UMBRELLA-J)
C034	三浦 克志	アレルギー科	ナッツ類アレルギーノ診断における新規アレルゲンコンポーネントの臨床的有用性の検討
C035	稲垣 徹史	腎臓内科	アルポート症候群レジストリ研究
C036	三浦 克志	アレルギー科	アレルギー拠点病院ネットワークを活用したアナフィラキシー患者参画縦断的調査
C037	佐藤 篤	血液腫瘍科	わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する前向きコホート研究
C038	佐藤 篤	血液腫瘍科	わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する大規模調査研究
C039	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児がんサバイバーにおける quality of life ならびにサルコペニア・神経心理学的合併症・心臓健康管理に関する WEB アンケート調査
C040	佐藤 篤	血液腫瘍科	JACLS における再発 T 細胞性急性リンパ性白血病の後方視的調査研究
C041	佐藤 篤	血液腫瘍科	造血細胞移植および細胞治療の全国調査
C043	宮下 進	産科	日本における新しい推定胎児体重の基準値作成に関する研究

C044	坂井 清英	泌尿器科	性索間質性精巣腫瘍の長期予後・病理標本アーカイブスの構築に関する多機関後ろ向き共同研究
C045	城之前 翼	泌尿器科	機能性副腎皮質疾患におけるステロイドホルモン過剰・腫瘍発生の病態解明
C046 (378)	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児急性骨髄性白血病難治例の前方視的観察研究 (AML-R15)
C047 (462)	虻川 大樹	消化器科	小児 C 型肝炎に対するグレカプレビル水和物・ピブレンタスビル配合錠の有効性と安全性に関する前方視的多施設観察研究
C048	小泉 沢	集中治療科	小児集中治療における Quality of Dying and Death (PICU-QODD) 医療者評価用尺度の日本語版開発と信頼性・妥当性の検証
C049	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児がん患者の学校生活支援ツール「より良い学校生活の過ごし方 (試用版)」の使用感についてのアンケート調査
C050	佐藤 篤	血液腫瘍科	白血病細胞の invitoro 薬剤感受性に影響を与える因子の解明
C051	宮下 進	産科	周産期登録情報とレセプト情報を活用した周産期医療の長期的影響に関する疫学的研究
C052	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	SLE,JDM の再燃マーカーとしての、interferon stimulated genes の有用性に関する研究
C053	梅林 宏明	リウマチ・感染症科	免疫疾患における新規自己抗体・高原・バイオマーカーの探索
C054	小泉 沢	集中治療科	小児における集中治療後症候群の実態調査：多施設前向きコホート研究
C055	虻川 大樹	消化器科	難病のゲノム医療推進に向けた全ゲノム解析基盤に関する先行的研究開発
C056	桜井 博毅	リウマチ・感染症科	小児における B 群連鎖球菌感染症ナショナルサーベイランス
C057	佐藤 篤	血液腫瘍科	新生児・乳児期血友病 A 患者におけるエミシズマブの安全性及び有効性を評価する多機関共同前向き観察研究 (HINODE Study)
C058	虻川 大樹	消化器科	10 代の IBD 患者に求められる心理的関与とケアの研究
C059	佐藤 篤	血液腫瘍科	小児急性リンパ性白血病における同種移植後の非感染性呼吸器合併症の実態調査
C060	虻川 大樹	消化器科	小児期発症性潰瘍性大腸炎の発症時免疫状態と治療応答性に関する研究
C061	佐藤 篤	血液腫瘍科	低・中間リスク群神経芽腫の残存腫瘍に対する観察研究 JCCG-JN-LI-21
C062	坂井 清英	泌尿器科	ゲノムワイド関連解析による膀胱尿管逆流発症関連遺伝子の探索
C063	萩野谷和裕	神経科	iPS 細胞を用いた神経疾患のバリア破綻機序の解明と臨床応用
C064	小泉 沢	集中治療科	患者情報システムを用いた集中治療部の機能評価 (JIPAD 事業)
C065	三浦 克志	アレルギー科	重症・難治性アレルギー疾患の患者レジストリの構築および病態解明
C066	小原 慶子	看護部	「支援者向け：妊娠中に子どもが重篤な疾患と診断された妊婦・家族の『子どもとの過ごし方』に関する意思決定支援ガイド」使用のフィージビリティスタディ (実行可能性研究) - 1 施設の周産期支援者対象に -

## 認定医・専門医、学会・研究会等の役職

### 理事長

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
今泉 益栄	日本小児科学会 日本小児科学会 日本血液学会 日本血液学会 日本小児血液・がん学会 日本造血細胞移植学会  日本小児科学会 日本造血細胞移植学会 日本小児血液・がん学会 日本小児血液・がん学会血小板委員会 日本小児がん研究グループ 日本小児がん研究グループ (JCCG) 日本小児がん研究グループ監査委員会	指導医 専門医 指導医 専門医 暫定指導医 造血細胞移植認定医	代議員 評議員 評議員 委員 運営委員 運営委員 委員長

### 副院長

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
白根 礼造	日本脳神経外科学会 日本小児神経外科学会 International Society for Pediatric Neurosurgery 日本小児神経外科学会 日本小児神経外科学会 日本脳卒中学会 日本脳循環代謝学会	専門医 認定医	member 会長候補選出委員 理事（財務担当） 評議員 評議員
萩野谷和裕	日本小児科学会 日本小児神経学会 日本てんかん学会  日本脳性麻痺発達医学会 日本小児神経学会 日本てんかん学会 東北小児神経研究会・四季会 日本てんかん学会東北地方会 乳児けいれん研究会 小児神経筋懇話会 東北大学医学部	小児科専門医 小児神経専門医 臨床てんかん専門医	副理事長 理事 評議員 代表 幹事 世話人 世話人 臨床教授・客員教授
虻川 大樹	日本小児科学会 日本小児科学会 厚生労働省 日本小児科医会  日本小児栄養消化器肝臓学会 日本小児肝臓研究会 日本小児消化管感染症研究会 日本小児内視鏡研究会	指導医 専門医 臨床研修指導医 子どもの心相談医 認定医	運営委員 世話人 世話人

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本小児IBD研究会 日本胆道閉鎖症研究会 東北大学医学部 東北小児消化器病研究会 日本小児科学会 宮城県小児科医会 仙台小児IBD研究会 日本小児保健協会 日本小児栄養消化器肝臓学会 日本小児栄養消化器肝臓学会		世話人・幹事 幹事 臨床教授 代表世話人 代議員 副会長 代表世話人 代議員 副理事長 理事・代議員

### 新生児科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
渡邊 達也	日本小児科学会 日本周産期・新生児医学会 日本周産期・新生児医学会 日本新生児成育医学会 東北新生児医療カンファランス 新生児医療連絡会 東北大学医学部	専門医・指導医 周産期(新生児)専門医 周産期(新生児)指導医	評議員 幹事 幹事 非常勤講師
内田 俊彦	日本小児科学会 日本周産期新生児医学会	専門医 新生児専門医	

### 消化器科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
角田 文彦	日本小児科学会 日本小児科学会 日本小児栄養消化器肝臓学会 厚生労働省 日本小児栄養消化器肝臓学会 日本小児小腸内視鏡検討会 仙台小児IBD研究会 東北小児消化器病研究会	指導医 専門医 認定医 臨床研修指導医	代議員 世話人 世話人・事務局 世話人・事務局
星 雄介	日本ヘリコバクター学会 日本小児科学会	ヘリコバクター ピロリ感染症認定医 専門医	

### アレルギー科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
三浦 克志	日本小児科学会 日本小児科学会 日本アレルギー学会 日本アレルギー学会 厚生労働省 仙台市小児科医会	指導医 専門医 指導医 専門医 臨床研修指導医 理事	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	仙台市小児科医会 宮城県医師会 宮城県免疫アレルギー懇話会 東北小児喘息アレルギー研究会 東北小児喘息アレルギー研究会 日本アレルギー学会 日本アレルギー協会 日本アレルギー学会 日本アレルギー学会 日本アレルギー協会東北支部会 日本小児アレルギー学会 日本小児アレルギー学会 日本小児アレルギー学会 日本小児アレルギー学会 日本小児アレルギー学会 日本小児アレルギー学会 日本小児臨床アレルギー学会 日本小児臨床アレルギー学会 東北大学医学部 東北大学医学部 東北医科薬科大学		学術交流委員会委員長 環境保健委員会委員 世話人 代表幹事 監事 代議員 理事 Anapylaxis 対策委員会 理事 理事 評議員 理事 編集委員会委員 薬務委員会委員長 災害対応委員会副委員長 理事 代議員 臨床准教授 非常勤講師 臨床教授
堀野 智史	日本小児科学会 日本小児科学会 厚生労働省 日本アレルギー学会 日本アレルギー学会 日本アレルギー学会 日本小児アレルギー学会 日本小児アレルギー学会	指導医 専門医 臨床研修指導医 指導医 専門医	代議員 代議員 理事
秋 はるか	日本小児科学会 日本アレルギー学会	専門医 専門医	
宮林 広樹	日本小児科学会	専門医	
山口 祐樹	日本小児科学会 日本アレルギー学会	専門医 専門医	

#### リウマチ・感染症科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
梅林 宏明	日本小児科学会 日本小児科学会 日本リウマチ学会 日本リウマチ学会 ICD 制度協議会 日本リウマチ学会 日本リウマチ学会 日本リウマチ学会 日本小児リウマチ学会 日本小児リウマチ学会 日本小児リウマチ学会	指導医 専門医 リウマチ指導医 リウマチ専門医 ICD (infection control doctor)	小児リウマチ調査検討小委員会委員 専門医資格認定委員会委員 移行期医療検討小委員会委員 理事 ガイドライン作成委員会委員 移行支援委員会委員

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本小児リウマチ学会 東北小児膠原病研究会 東日本小児リウマチ研究会 東北大学医学部		総務委員会 副委員長 代表世話人 幹事 非常勤講師
桜井 博毅	日本小児科学会	専門医	

## 血液腫瘍科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
佐藤 篤	日本小児科学会 日本小児科学会 日本血液学会 日本血液学会 日本小児血液・がん学会 日本小児血液・がん学会 日本がん治療認定医機構 日本造血細胞移植学会  日本小児血液・がん学会 日本小児血液・がん学会 日本小児血液・がん学会 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 日本小児白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG) 日本小児白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG) 日本小児白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG)  日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植登録一元管理委員会 日本小児がん研究グループ 小児白血病研究会 小児白血病研究会 日本造血細胞移植学会  日本造血細胞移植学会 日本造血細胞移植学会 日本血栓止血学会  日本造血・免疫細胞療法学会 東北大学医学部 宮城学院女子大学 仙台赤門短期大学 東北医科薬科大学	専門医 認定指導医 指導医 専門医 指導医 専門医 がん治療認定医 造血細胞移植認定医	評議員 規約委員会副委員長 庶務・財務委員会 委員 副運営委員長 ALL 委員会委員 Ph1ALL 小委員会委員長 プロトコールレビュー委員会 委員 委員  企画広報委員会 委員 ALL 小委員会 委員 理事 晩期合併症ワーキンググループ メンバー 造血細胞移植登録一元管理委員会委員 評議員 血友病診療連携委員会 施設 認定審査会 委員 評議員 臨床教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師
南條 由佳	日本小児科学会 日本小児科学会 日本血液学会 日本小児血液・がん学会	指導医 専門医 専門医 専門医	
鈴木 信	日本小児科学会	専門医	
鈴木 資	日本小児科学会	専門医	

## 循環器科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
木村 正人	日本小児科学会 日本小児循環器学会 日本胎児心臓病学会	小児科専門医 専門医 認定医	評議員
川合英一郎	日本小児科学会 日本小児科学会 日本小児循環器学会	専門医 指導医 専門医	
小澤 晃	日本小児科学会 日本小児循環器学会 厚生労働省 日本小児循環器学会  東北小児心臓病研究会	専門医 専門医 臨床研修指導医 Amplatz PDA 開鎖セット教育 担当医師	幹事

## 神経科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
富樫 紀子	日本小児科学会 宮城県小児保健協会 日本小児神経学会	専門医	理事 広報交流委員会 委員
乾 健彦	日本小児科学会 日本小児神経学会 厚生労働省 日本てんかん学会	専門医 専門医 臨床研修指導医 てんかん専門医	
大久保幸宗	日本小児科学会 日本小児神経学会	専門医 専門医	
遠藤 若葉	日本小児科学会 日本小児神経学会	専門医 専門医	

## 外科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
佐々木英之	日本外科学会 日本小児外科学会 日本小児外科学会 日本肝臓学会 日本がん治療認定医機構 日本小児血液・がん学会  日本小児外科学会 日本小児外科学会	専門医 専門医 指導医 専門医 がん治療認定医 小児がん認定外科医	評議員 専門医制度施設認定委員
西 功太郎	日本外科学会 日本小児外科学会	専門医 専門医	
遠藤 悠紀	日本外科学会 日本小児外科学会 日本がん治療認定医機構 日本肝臓学会	専門医 専門医 がん治療認定医 専門医	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
中島 雄大	日本外科学会 日本がん治療認定医機構	専門医 がん治療認定医	

### 心臓血管外科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
崔 禎浩	日本外科学会 日本外科学会 心臓血管外科学会専門医認定機構  心臓血管外科学会専門医認定機構 日本心臓血管外科学会 日本心臓血管外科学会 東北小児心臓病研究会 日本小児循環器学会 東北医科薬科大学 東北大学医学部 山形大学医学部	専門医 指導医 心臓血管外科専門医 修練指導医	評議員・国際会員 評議員 代表世話人 評議員 非常勤講師 臨床教授・非常勤講師 臨床教授・非常勤講師
帯刀 英樹	日本外科学会 心臓血管外科学会専門医認定機構  心臓血管外科学会専門医認定機構 成人先天性心疾患学会 補助人工心臓治療関連学会協議会  日本心臓血管外科学会 日本小児循環器学会 東北発達心臓研究会	専門医 心臓血管外科専門医 修練指導医 専門医 小児用補助人工心臓実施医	評議員 評議員 幹事
正木 直樹	日本心臓血管外科学会 日本外科学会	専門医 外科専門医	

### 脳神経外科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
林 俊哲	日本脳神経外科学会 日本脳神経外科学会 日本神経内視鏡学会 日本小児神経外科学会 日本脳卒中の外科学会 日本小児神経学会 日本小児神経外科学会 日本小児神経外科学会 日本小児神経外科学会 日本小児神経外科学会 日本小児神経外科学会 Congress of Neurological surgeons	専門医 指導医 技術認定医 認定医 技術指導医	教育委員 医療安全委員長 評議委員 学術委員審査選出委員 学術研究委員会委員長 編集委員 Editorial board
君和田友美	日本脳神経外科学会 日本脳神経外科学会 日本脳卒中学会 日本脳卒中学会	指導医 専門医 指導医 専門医	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本神経内視鏡学会 日本小児神経外科学会 日本脳神経外科学会 日本脳神経外科学会 日本小児神経外科学会 International Society for Pediatric Neurosurgery	認定医 認定医	医療問題検討委員 代議員 学術委員 active member

### 整形外科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
落合 達宏	日本整形外科学会 日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会 日本リハビリテーション医学会 日本リハビリテーション医学会 東北大学医学部 東北大学医学部 宮城県リハビリテーション協議会 日本脳性麻痺の外科研究会 日本二分脊椎研究会 日本足の外科学会 日本小児整形外科学会 日本小児整形外科学会 日本小児整形外科学会 東北医科薬科大学 東北医科薬科大学 日本創外固定学会 日本靴医学会 Journal of Orthopaedic Science 日本ポツリヌス治療学会 日本小児股関節研究会	指導医 専門医 指導医 専門医	代議員 非常勤講師 臨床准教授 委員 幹事 世話人 評議員 理事 評議員 編集委員長 非常勤講師 臨床教授 評議員 評議員 Editorial Board Member 理事 幹事
水野 稚香	日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会 日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会 日本小児整形外科学会 日本整形外科学会	指導医 指導医 専門医 専門医	評議員 小児整形外科委員
小松 繁允	日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会	専門医 専門医	

### 形成外科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
真田 武彦	日本形成外科学会	専門医	

### 泌尿器科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
坂井 清英	日本泌尿器科学会 日本泌尿器科学会	指導医 専門医	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本腎臓学会 日本腎臓学会 日本小児泌尿器科学会 東北大学医学部 東北医科薬科大学医学部 弘前大学医学部 日本逆流性腎症フォーラム 日本小児ストーマ・排泄管理研究会 日本小児泌尿器科学会 金沢医科大学 日本胎児治療学会	指導医 専門医 認定医	臨床教授 臨床教授 講師 幹事 東北地区世話人 評議員 非常勤講師 幹事
相野谷慶子	日本泌尿器科学会 日本泌尿器科学会 日本小児泌尿器科学会	指導医 専門医 認定医	
城之前 翼	日本小児泌尿器科学会 日本小児外科学会 日本外科学会 日本小児外科学会	認定医 専門医 専門医	U45 ワーキンググループ メンバー
久保田優花	日本泌尿器科学会	専門医	
武田詩奈子	日本泌尿器科学会 日本泌尿器科学会	専門医 指導医	

## 産科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
室月 淳	日本産科婦人科学会 日本超音波医学会 日本超音波医学会 日本周産期・新生児医学会  日本周産期・新生児医学会  日本人類遺伝学会 日本人類遺伝学会 日本周産期・新生児医学会  日本産科婦人科学会 日本周産期・新生児医学会 日本超音波医学会 日本超音波医学会東北地方会 日本遺伝カウンセリング学会 日本産科婦人科遺伝診療学会 日本人類遺伝学会 日本母体胎児医学会 日本胎児治療学会	専門医 超音波指導医 超音波専門医 周産期（母体・胎児）指導医 周産期（母体・胎児）専門医 臨床遺伝指導医 臨床遺伝専門医 NCPR インストラクター	代議員 評議員 編集委員会査読委員 幹事 評議員 評議員 評議員 幹事 幹事

### 歯科口腔外科・矯正歯科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
御代田浩伸	日本矯正歯科学会 仙台シェーグレン症候群研究会 仙台口腔成育研究会	認定医	世話人 世話人
後藤 申江	日本小児歯科学会 日本障害者歯科学会 日本障害者歯科学会 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 日本障害者歯科学会 東北摂食嚥下リハビリテーション研究会 東北障害者歯科臨床研究会	専門医 専門医 認定医指導医 認定士	代議員 幹事 幹事

### リハビリテーション科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
高橋 祐子	日本整形外科学会 日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会 日本リハビリテーション医学会 日本小児整形外科学会	指導医 専門医 指導医 専門医	評議員

### 発達診療科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
奈良 隆寛	日本小児科学会 日本小児神経学会 日本小児神経学会 ハイリスク児フォローアップ研究会 日本小児神経学会	専門医 専門医 指導医	常任幹事 評議員
涌澤 圭介	日本小児科学会 日本小児神経学会 日本小児精神神経学会 子どものこころ専門医機構 ソマティックエクスペリエンシング	専門医 専門医 認定医 専門医 プラクティショナー	

### 放射線科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
鳥貫 義久	日本医学放射線学会 日本核医学会 日本小児放射線学会	放射線診断専門医 専門医	代議員
北見 昌広	日本医学放射線学会 日本超音波医学会	放射線診断専門医 超音波専門医	

## 麻酔科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
五十嵐あゆ子	日本麻酔科学会 日本麻酔科学会 小児麻酔学会 日本小児麻酔科学会 日本小児麻酔科学会 日本麻酔科学会	指導医 専門医 認定医	評議員 理事 代議員
井口 まり	日本麻酔科学会 日本麻酔科学会 日本麻酔科学会	指導医 専門医 認定医	
篠崎 友哉	日本麻酔科学会 日本麻酔科学会	専門医 認定指導医	
菊地 千歌	日本麻酔科学会 日本麻酔科学会 日本麻酔科学会 日本小児麻酔科学会	認定医 専門医 指導医 認定医	

## 集中治療科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
小泉 沢	日本集中治療医学会 日本集中治療医学会 日本小児科学会 日本呼吸療法医学会 日本呼吸療法医学会 PALS 宮城県	集中治療専門医  小児科専門医 呼吸療法専門医  インストラクター 災害時小児周産期リエゾン	小児集中治療委員会委員  セミナー委員会委員
其田 健司	日本小児科学会	小児科専門医	
小野 頼母	日本小児科学会 日本小児循環器学会  日本小児循環器学会  日本心エコー図学会 日本心臓血管麻酔学会	専門医 ASD治療 TEE 認証医 小児循環器専門医  SHD心エコー 図認証医 日本周術期経食道心エコー(JB-POT) 認定医	
泉田 侑恵	日本小児科学会	専門医 認定指導医	

## 臨床病理科

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
武山 淳二	日本病理学会 日本臨床細胞学会	病理専門医 細胞診専門医	

看護部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
本地眞美子	宮城県看護協会 日本看護協会		理事（副会長） 代議員
横内 由樹	宮城県看護協会		推薦委員
小島マユミ	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
森谷 恵子	日本看護協会	感染管理認定看護師	
井上 達嘉	日本手術看護学会		東北手術看護学会役員
一柳 智恵	日本周産期・新生児医学会	NCPR インストラクター	
高橋久美子	宮城県看護協会仙台黒川支部		会計
佐々木エミ	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
島 美奈子	宮城県腎臓協会	宮城県院内臓器移植コーディネーター	
長澤 朋子	日本看護協会 日本周産期・新生児医学会	新生児集中ケア認定看護師 NCPR インストラクター	
星 恵美子	日本看護協会 日本周産期・新生児医学会	新生児集中ケア認定看護師 NCPR インストラクター	
加藤 優子	宮城県腎臓協会	宮城県院内臓器移植コーディネーター	
沼倉 智行	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
堀川 美恵	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	宮城県児童発達支援管理責任者	
齋藤 弘美	日本看護協会 日本小児ストーマ・排泄管理研究会	皮膚・排泄ケア認定看護師	世話人
遠藤 博美	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
葛西 香織	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
鈴木 千鶴	日本看護協会 日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会	小児看護専門看護師 3学会合同呼吸療法認定士 小児アレルギーエドゥケーター	
齋藤 淳子	宮城県看護協会仙台黒川支部		職能委員
安部 緑梨	日本看護協会 日本医療教授システム学会国際トレーニングセンター	小児救急看護認定看護師 BLS インストラクター	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
入江 千恵	日本看護協会	小児看護専門看護師	
大村 佳祐	日本医療教授システム学会国際トレーニングセンター	BLS インストラクター	
村山 佳菜	日本看護協会	皮膚・排泄ケア認定看護師	
長岡 幸恵	宮城県看護協会		広報委員
千葉 綾	日本母体救急システム普及協議会 日本助産学会	J-CIMELS ベーシックインストラクター	広報委員
村上 香織	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会	小児アレルギーエドゥケーター	
橋 ゆり	日本看護協会 日本小児看護学会	小児看護専門看護師 日本小児看護学会誌 専任査読者	

## 薬剤部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
中井 啓	日本薬剤師研修センター 宮城県病院薬剤師会 東北医科薬科大学 小児薬物療法研究会 宮城県病院薬剤師会	認定実務実習指導薬剤師	理事 臨床講師（実務実習） 小児薬物療法研究会 運営委員 薬学教育特別委員会副委員長
戸羽 香織	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	
相馬 伸樹	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	
中島 範子	日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	
西川真璃絵	日本病院薬剤師会 日本薬剤師研修センター	日病薬病院薬学認定薬剤師 小児薬物療法認定薬剤師	
石賀 圭	日本化学療法学会 日本薬剤師研修センター	抗菌化学療法認定薬剤師 小児薬物療法認定薬剤師	
萱場麻紀子	日本病院薬剤師会 日本薬剤師研修センター	日病薬病院薬学認定薬剤師 小児薬物療法認定薬剤師	
館内謙太郎	糖尿病療養指導士認定機構 日本薬剤師研修センター	日本糖尿病療養指導士 小児薬物療法認定薬剤師	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本薬剤師会 日本アンチ・ドーピング機構 日本病院薬剤師会	JPALS 認定薬剤師 CL レベル 6 公認スポーツファーマシスト 日病薬病院薬学認定薬剤師	
及川茉佑子	日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	
濱町友里恵	日本薬剤師研修センター 公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構	研修認定薬剤師 スポーツファーマシスト	
清野 泰史	吸入療法アカデミー	吸入指導薬剤師	

### 放射線部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
板垣 良二	日本小児放射線技術研究会 宮城県放射線技師会 宮城県放射線技師会		監事 理事 第 3 支部支部長
佐々木正臣	日本診療放射線技師会 日本診療放射線技師会  日本診療放射線技師会 日本診療放射線技師会  日本診療放射線技師会 宮城県放射線技師会 宮城県放射線技師会 宮城県放射線技師会 日本診療放射線技師会 宮城県放射線技師会 宮城 MAGNETOM 研究会 日本診療放射線技師会 東北地域診療放射線技師会	放射線管理士 放射線機器管理士  臨床技術能力検定 MRI3 級 画像等手術支援認定診療放射線技師 マスター放射線技師	技師教育推進委員会委員長 学術部副部長 技師教育推進委員会委員長 教育委員 理事 世話人 補欠代議員 東北放射線医療技術学術大会プログラム委員

### 検査部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
小原登志子	バイオ技術教育学会 日本エム・イー学会 日本人類遺伝学会 日本染色体遺伝子検査学会 日本臨床検査医学会 日本臨床検査医学会	バイオ技術第 I 種取得 第 2 種 ME 技術実力検定取得 臨床細胞遺伝学認定士 染色体分析一般技術認定取得 緊急臨床検査士 二級臨床検査士(血液学)	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本臨床検査医学会 日本不整脈心電学会 日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査同学院	二級臨床検査士 (神経生理) 心電図検定3級 精度管理責任者 POCT測定認定 士	
高崎 健司	日本臨床検査医学会 日本臨床検査医学会 日本臨床検査医学会 日本臨床細胞学会 日本臨床細胞学会 日本臨床衛生検査技師会 日本臨床栄養代謝学会 日本臨床衛生検査技師会 宮城県臨床検査技師会 宮城県細胞検査士会 宮城県臨床細胞学会	緊急臨床検査士 二級臨床検査士 (血液学) 二級臨床検査士 (病理学) 細胞検査士 特定化学物質及 び四アルキル鉛 等作業主任者 認定病理検査技 師 NST 専門療法 士 精度管理責任者	アドバイザー 委員 評議員
河治 賢弘	日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院	二級臨床検査士 (微生物学) 二級臨床検査士 (神経生理学) POCT測定認定 士	
伊深 智啓	日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院 日本輸血細胞治療学会	二級臨床検査士 (微生物学) 二級臨床検査士 (神経生理学) 日本輸血細胞治 療学会 認定輸 血検査技師	
柳川 淳子	日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会 日本エム・イー学会	認定心電検査技 師 二級臨床検査士 (血清学) 第2種ME技 術実力検定取得	
田中三香子	日本臨床検査医学会	緊急臨床検査士	
須田那津美	日本臨床検査同学院 日本臨床微生物学会、日本臨床検査医学会、日 本臨床衛生検査技師会他 日本臨床微生物学会、日本臨床検査医学会、日 本臨床衛生検査技師会他 宮城県臨床検査技師会	二級臨床検査士 (微生物学) 認定臨床微生物 検査技師 感染制御認定臨 床微生物検査技 師 (ICMT)	微生物部門学術部門員
車田 眞澄	日本臨床細胞学会 国際細胞学会	細胞検査士 国際細胞検査士	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	国際細胞学会 国際細胞学会 日本臨床検査同学院 日本臨床検査技師会 日本食品安全協会 一般社団法人安全衛生マネジメント協会	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 有機溶剤作業主任者 二級臨床検査士(病理学) 認定病理検査技師 健康食品管理士 化学物質管理者	
佐藤 愛理	日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院	2級臨床検査士(微生物学) 緊急臨床検査士	
本田 天斗	日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院	POCT測定認定士 緊急臨床検査士 二級臨床検査士 神経生理学	
武藤 結衣	日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院 日本臨床検査同学院	二級臨床検査士(微生物学) 緊急臨床検査士 POCT測定認定士	

#### 栄養管理部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
日野美代子	日本糖尿病療養指導士認定機構 日本病態栄養学会 日本栄養士会 宮城県高等看護学校 学校法人医療創生大学 葵会仙台看護専門学校 宮城栄養サポートチーム (NST) 研究会	日本糖尿病療養指導士 病態栄養認定管理栄養士 静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士	非常勤講師 非常勤講師 宮城栄養サポートチーム(NST)研究会 世話人
秋山 佳子	公益社団法人 日本心理学会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 一般社団法人日本臨床栄養代謝学会	日本心理学会認定心理士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 NST 専門療法士	
四竈 美帆	日本静脈経腸栄養学会 日本臨床栄養代謝学会 日本小児臨床アレルギー学会 日本栄養経営実践協会	NST 専門療法士 NST 専門療法士 小児アレルギーエデュケーター 栄養経営士	

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
	日本フードスペシャリスト協会 東北地区小児アレルギーケア研究会	フードスペシャリスト	副会長
櫻井奈津子	一般社団法人日本臨床栄養代謝学会	NST 専門療法士	

### 臨床工学部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
布施 雅彦	日本生体医工学会 日本生体医工学会 日本透析医学会 高圧ガス保安協会 4 学会合同体外循環技術認定士認定委員会 3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会	第 1 種 ME 技術実力検定取得 臨床 ME 専門認定士 透析技術認定士 特定高圧ガス取扱主任者 体外循環技術認定士 3 学会合同呼吸療法認定士	
岩佐 昌弘	日本生体医工学会 日本透析医学会 日本体外循環技術医学会 宮城県臨床工学技士会	第 2 種 ME 技術実力検定取得 透析技術認定士 体外循環技術認定士	渉外委員
三好 誠吾	3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会 日本生体医工学会 日本生体医工学会 日本医療機器学会 日本医療機器学会 日本医療情報学会 四病院団体協議会 労働基準局 日本ボイラ協会 高圧ガス保安協会 日本医療福祉設備協会 4 学会合同体外循環認定士認定委員会 宮城県 宮城県臨床工学技士会	3 学会合同呼吸療法認定士 第 1 種 ME 技術実力検定取得 臨床 ME 専門認定士 第 2 種滅菌技士 医療機器情報コミュニケーションータ (MDIC) 医療情報技師 診療情報管理士 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 普通第一種圧力容器作業主任者 高圧ガス第 1 種販売主任者 認定ホスピタルエンジニア 体外循環技術認定士 第二種電気工事士	ME 機器・医療安全委員

## 診療支援部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
谷地 美貴	日本障害者歯科学会 日本歯科衛生士会  新潟大学 日本障害者歯科学会	指導歯科衛生士 認定歯科衛生士 (障害者歯科)	非常勤講師 歯科衛生士連携委員
田代 早織	日本歯科衛生士会	認定歯科衛生士 (障害者歯科)	
太田 五月	日本視能訓練士協会 宮城教育大学 北海道・東北視能訓練士会 合同研究会 宮城県立視覚支援学校 みやぎ視能訓練士の会	認定視能訓練士	招へい講師 実行委員長 外部専門員 副会長

## 成育支援局

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
土屋 昭子	日本医療保育学会 日本医療保育学会	医療保育専門士	理事
小野寺奈奈枝	日本医療保育学会	医療保育専門士	
村上美由希	日本医療保育学会	医療保育専門士	
大塚 有希	日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会 日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会		副会長 理事

## リハビリテーション・発達支援部

氏名	所属学会等	認定医・専門医等	役職等
松田由紀子	日本胸部外科学会  日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
洞口 亮	日本理学療法士協会	発達障害認定理学療法士	
猪谷 俊輝	日本胸部外科学会  日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士	
阿部 由香	日本言語聴覚士協会	認定言語聴覚士 (吃音・構音領域)	
関原 真美	日本小児リハビリテーション医学会		評議員

## 院内講演会・研修会・勉強会等

月	日	時間	内容	講師等
4月	12日	19:00～ 19:30	令和5年度第1回地域医療研修会 *オンライン 第10回 オンライン月イチセミナー「認定遺伝カウンセラー」 「小児領域の遺伝カウンセリング – マイクロアレイ染色体検査や網羅的遺伝学的検査など」	成育支援局 地域・家族支援グループ 認定遺伝カウンセラー 小川 真紀
5月	10日	19:00～ 19:30	令和5年度第2回地域医療研修会 *オンライン 第11回 オンライン月イチセミナー「脳神経外科」 「頭の形のお話」	脳神経外科 科長 林 俊哲
5月	15日	18:00～ 18:57	令和5年度第3回地域医療研修会 *オンライン 第1回感染対策研修会抗菌薬兼適正使用研修会 「コロナ5類時代の宮城こどもの感染対策」	リウマチ・感染症科 部長 兼 感染管理室長 榎井 博毅 リウマチ・感染症科 医師 谷河 翠
6月	14日	19:00～ 19:30	令和5年度第4回地域医療研修会 *オンライン 第12回 オンライン月イチセミナー「循環器科」 「先天性心疾患のカテーテル治療について」	循環器科 科長 小澤 晃
7月	12日	19:00～ 20:00	令和5年度第5回地域医療研修会 *オンライン 第15回 オンライン「七夕の集い」 講演1「小児の遺伝性血液疾患の病因探索 – Bed to Bench, and back to Bed」	理事長 今泉 益栄
			講演2「もしかして、その症状は小児外科疾患かも？」	外科 部長 西 功太郎
7月	27日	19:00～ 20:40	令和5年度第6回地域医療研修会 *オンライン 「小児薬物療法研修会」	
			一般講演1「当院におけるトレーシングレポートの活用事例」	薬剤師 清野 泰史
			一般講演2「小児在宅の事例報告 – 医療的ケア児に薬局薬剤師ができること –」	めでしまの郷オレンジ薬局 薬剤師 大瀧 透氏
			特別講演 「小児神経疾患の薬物療法」	神経科 科長 富樫 紀子
9月	13日	19:00～ 19:32	令和5年度第7回地域医療研修会 *オンライン 第13回 オンライン月イチセミナー 「放射線科」 「胸腺のお話」	放射線科 部長 北見 昌広
10月	11日	19:00～ 19:30	令和5年度第8回地域医療研修会 *オンライン 第14回 オンライン月イチセミナー「麻酔科」 「上気道炎と麻酔」	麻酔科 部長 戸田 法子
11月	8日	19:00～ 19:30	令和5年度第9回地域医療研修会 *オンライン 第15回 オンライン月イチセミナー「腎臓内科」 「検尿の見方」	腎臓内科 科長 稲垣 徹史

月	日	時間	内容	講師等
11月	22日	18:00～ 19:00	令和5年度第10回地域医療研修会 *ハイブリッド 第2回感染対策研修会兼抗菌薬適正使用 研修会 「COVID-19の流行後の小児病院で行う 感染対策」	あいち小児保健医療総合センター 総合診 療部 総合診療科 医長 伊藤 健太 先生
12月	13日	19:00～ 19:53	令和5年度第11回地域医療研修会 *オンライン 第16回オンライン月イチセミナー「総 合診療科/遺伝外来」 「小児病院で遺伝学的検査を検討する ときのコツ」	東京慈恵会医科大学附属病院 遺伝診療部 教授 川目 裕 先生
1月	16日	18:00～ 19:38	令和5年度第12回地域医療研修会 *オンライン オンライン第3回安全対策研修会 「職種のサイロを超えた医療安全へ —心理的に安全なコミュニケーション を考える—」	近畿大学病院 安全管理センター 医療安全対策部 部長 辰巳 陽一 先生
1月	23日	18:00～ 19:00	令和5年度第13回地域医療研修会 *オンライン オンライン虐待対応研修会 「児童虐待対応について — 仙台市児相 の取組 —」	仙台市こども若者局 児童相談所 所長 中村 洋氏
2月	5日	18:00～ 19:33	令和5年度第14回地域医療研修会 *ハイブリッド 緩和ケア研修会 「ちいさな命の希望を紡ぐ ～周産期医 療と緩和ケア～」	名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母 子医療センター 新生児部門 助教 上田 一仁 先生
2月	14日	19:00～ 19:30	令和5年度第15回地域医療研修会 *オンライン 第17回 オンライン月イチセミナー「臨 床病理科」 「メッケル憩室に関する新知見 — 血便 の原因は胃粘膜ではありません —」	臨床病理科 科長 武山 淳二
2月	22日	18:00～ 19:00	令和5年度第16回地域医療研修会 *ハイブリッド 成人移行期支援研修会 「小児専門医療施設における成人移行支 援への取組み」	国立研究開発法人 国立成育医療研究セン ター 総合診療部 統括部長 窪田 満 先生
3月	5日	18:00～ 19:30	令和5年度第17回地域医療研修会 *オンライン 看護連携講座 「伝わる言葉」	仙台育英学園高等学校 教諭 硬式野球部 監督 須江 航氏
3月	13日	19:00～ 19:30	令和5年度第18回地域医療研修会 *オンライン 第18回オンライン月イチセミナー「リ ウマチ・感染症科」 「不明熱とリウマチ性疾患」	リウマチ・感染症科 科長 梅林 宏明

## 第4章 こどもの行事・慰問・視察 等

### 【2023 年度慰問】

日程	内容	場所
7月28日	ヴァイオリンとピアノのコンサート（きょうゆうプロジェクト）	たくとう広場
年6回	ハートフルカート（ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい）	各病棟
9月13日	「AmazonGoesGold」 イベント ガチャガチャ設置イベント	本館病棟・拓桃館病棟
9月20日	ミヤギテレビ杯ダンロップ女子ゴルフオンラインゲーム交流会	本館2階病棟
10月3日	院内ラジオ（難病のこどもとその家族に夢を）3名（患者・家族・職員）	病院ラウンジ
10月18日	クリスタルハープ演奏（個人）	本館3階病棟
11月2日	介助犬慰問（社団法人日本介助犬協会）	たくとう広場
11月8日	絵本作家 とよたかずひこさんによる 絵本の読み聞かせ	たくとう保育室
12月5日	点灯式（プルデンシャル生命 クリスマス DVD 鑑賞会 声優山寺宏一さんよりビデオレター）	愛子ホール
令和6年 3月21日	ヴァイオリンとピアノのコンサート（きょうゆうプロジェクト）	本館2階、3階、4階病棟

### 【2023 年度年間行事】

日程	内容	時間・場所
4月6日～5月10日	5月人形展示	本館・拓桃館
4月12日～5月12日	鯉のぼり掲揚	プレイガーデン
7月5日～8月10日	七夕飾り	本館・拓桃館
8月3日	夏祭り前夜祭（院内放送で実行委員の挨拶、御神輿や出店紹介）	17:30～17:45
8月4日	本館4階病棟夏祭り	たくとう広場 10:00～10:50
	本館3階病棟夏祭り	たくとう広場 11:00～11:50
	本館2階病棟夏祭り	たくとう広場 13:15～14:15
	拓桃館2階病棟夏祭り	たくとう広場 14:30～15:15
	拓桃館3階病棟夏祭り	たくとう広場 15:20～16:45
	夏祭り花火	19:30～19:45
9月27日	院内ハロウィン装飾	
10月19日	拓桃館ハロウィン	拓桃館2階病棟
10月19日	拓桃館ハロウィン	拓桃館3階病棟・たくとう広場
10月27日	本館2階・3階・4階病棟・新生児病棟・PICUハロウィン	本館各病棟
11月8日～11月10日	こども病院芸術祭2023	愛子ホール
11月9日～12月25日	クリスマスイルミネーション点灯	本館プレイガーデン
11月27日～12月25日	院内クリスマス装飾	本館・拓桃館
12月22日	拓桃館3階病棟クリスマス	たくとう広場
	拓桃館2階病棟クリスマス	拓桃館2階病棟
	本館2階病棟・3階病棟・4階病棟・新生児病棟・PICUクリスマス	本館各病棟
	職員によるパフォーマンス放映（院内テレビ放送）	
12月22日	クリスマスプロジェクションマッピング	① 17:30～② 17:50～まほうの広場

日程	内容	時間・場所
12月26日 ～令和6年1月19日	お正月装飾	本館・拓桃館
令和6年1月4日	拓桃館2階病棟 餅つき会	14:30～15:30
1月5日	拓桃館3階病棟 餅つき会	10:15～11:15
	本館2階病棟 餅つき会	14:45～15:30
	本館3階病棟 餅つき会	15:30～16:00
	本館4階病棟 餅つき会	16:00～16:30
2月1日	拓桃館2階病棟（幼児）節分豆まき	9:45～10:45 ステーション前
	拓桃館3階病棟（幼児）節分豆まき	10:45～11:15 たくとう広場
	拓桃館3階病棟（小中学生）節分豆まき	15:30～16:30 たくとう広場
2月2日	拓桃館2階病棟（学童）節分豆まき	14:00～14:40 ステーション前
	本館2階病棟・3階病棟・4階病棟・新生児病棟・PICU 節分豆まき	15:00～16:00 各病棟内
2月15日	国際小児がん Day ゴールドリボンツリー設置	本館2階病棟 本館外来正面
2月5日～3月4日	ひな人形設置	本館・拓桃館

## 病院見学・視察実施状況

	医療関係	福祉関係	官公庁	学校関係	一般	月別合計
4月合計	0	0	0	0	0	0
5月合計	1	0	0	0	0	1
6月合計	1	0	0	0	0	1
7月合計	3	0	0	0	0	3
8月合計	8	0	0	1	0	9
9月合計	4	1	0	1	0	6
10月合計	4	0	0	4	0	8
11月合計	3	0	0	0	0	3
12月合計	2	0	0	0	0	2
1月合計	3	0	0	0	0	3
2月合計	5	0	0	0	0	5
3月合計	4	0	0	3	0	7
2023年度合計	38	1	0	9	0	48

## 令和5年度「院長さん きいて！」の回収状況

区分	感謝	要望	提案	苦情	その他	月計	累計	前年度累計
4月	1	4	0	4	0	9	9	11
5月	3	5	0	1	1	10	19	18
6月	1	2	0	4	1	8	27	24
7月	3	8	1	8	0	20	47	31
8月	2	3	0	2	0	7	54	35
9月	3	1	0	3	1	8	62	37
10月	4	3	0	6	1	14	76	41
11月	1	6	0	2	0	9	85	49
12月	3	2	1	1	2	9	94	55
1月	2	0	0	6	0	8	102	62
2月	1	5	0	5	1	12	114	71
3月	1	2	0	1	0	4	118	80
計	25	42	2	42	7	118		

(参考)

区分	感謝	要望	提案	苦情	その他	計	備考
4年度	15	39	1	24	1	80	

令和5年度 ホームページからの意見回収状況

区分	感謝	要望	提案	苦情	その他	月計	累計	前年度 累計
4月	0	0	0	0	0	0	0	1
5月	0	0	0	1	0	1	1	2
6月	0	0	0	1	0	1	2	3
7月	1	0	0	2	0	3	5	4
8月	0	0	0	0	0	0	5	5
9月	0	0	0	0	0	0	5	6
10月	1	0	0	0	0	1	6	7
11月	1	0	0	0	0	1	7	12
12月	0	0	0	3	0	3	10	13
1月	0	0	0	2	0	2	12	13
2月	0	0	0	0	0	0	12	14
3月	1	1	0	1	0	3	15	18
計	4	1	0	10	0	15	80	

(参考)

区分	感謝	要望	提案	苦情	その他	計	備考
4年度	3	7	0	8	0	18	

## 第5章 寄 付

### 1. 現金での寄付「こども病院資金」（令和5年度）

「こども病院資金」の目的	寄付者（個人、法人等）の意思を実現し、宮城県立こども病院の療養環境等の整備に要する経費に充てるため、「こども病院資金」を設置
件数	48件
寄付金総額	9,369,643円
使途の決定	次に掲げる基準に基づき「こども病院資金使途等検討委員会」が行う。 [使途決定基準] ① 消費されるものではなく、一定期間（概ね1年間）以上形の残るもの ② 患児個人が消費するものではなく、不特定多数の患児が共用できるもの ③ 原則として、直接的に患児に関わるものであること
購入品（購入予定含む）	入院患者向け Wi-Fi の整備、図書（絵本・雑誌等）、CD・DVD、玩具、教材、行事用品等

### 2. 現物での寄付（令和5年度）

件数	30件
寄付内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書（絵本等）</li> <li>・夏祭り用品</li> <li>・花火一式</li> <li>・救急カート</li> <li>・起立保持具</li> <li>・おむつ</li> <li>・バギー</li> <li>・折り紙</li> <li>・七夕飾り</li> <li>・車いす</li> <li>・靴下</li> <li>・カレンダー</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
備考	30件中、評価額10万円以上の現物寄付は7件

## 第6章 ボランティア活動

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
活動日数	日	22	21	22	21	22	20	21	20	20	19	19	20	247	
活動延べ人数	人	329	309	359	321	291	295	401	424	321	317	281	327	3,975	
内訳	外来案内	人	67	68	69	64	53	55	81	80	74	67	68	78	824
	外来プレイルーム	人	39	43	42	47	33	37	61	56	47	47	65	52	569
	緑のボランティア	人	26	17	38	36	16	29	33	27	11	1	0	13	247
	こども図書館	人	88	78	88	69	76	77	90	90	96	88	67	94	1,001
	お話し会	人	9	5	6	9	8	7	10	4	11	9	7	12	97
	イベント・アート	人	57	49	52	49	40	39	51	33	42	27	38	39	516
	ソーイング	人	0	0	1	1	3	1	0	0	0	0	0	1	7
	イベント	人	0	0	0	0	17	0	0	0	0	47	0	0	64
	移動図書	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車椅子清掃	人	15	19	14	15	16	14	16	13	15	12	11	15	175
	玩具修理	人	0	4	1	0	0	0	0	4	0	5	0	0	14
	広報委員	人	4	4	15	7	4	8	8	14	4	0	0	4	72
	スネークギャラリー	人	11	12	6	10	8	8	5	12	12	8	11	6	109
	ボランティア運営委員会	人	0	0	2	0	6	6	0	0	0	0	2	0	16
	ボランティア連絡係打ち合せ	人	0	0	6	9	0	0	30	80	0	0	0	0	125
	拓桃子どもたちのお遊び相手	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	拓桃玩具消毒	人	13	10	19	5	11	14	16	11	9	6	12	13	139
	学卒支援	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	人	329	309	359	321	291	295	401	424	321	317	281	327	3,975
	ボランティア当月末登録者数	人	159	160	160	160	160	163	182	186	185	183	181	181	
内訳	前月末登録者数	人	169	159	160	160	160	160	163	182	186	185	183	181	32
	新規登録者数	人	0	1	0	0	0	4	21	6	0	0	0	20	
	辞退者数	人	10	0	0	0	0	1	2	2	1	2	2	0	
合計		159	160	160	160	160	163	182	186	185	183	181	181		
その他の活動件数	車椅子清掃修理件数	件	206	262	214	208	265	194	257	199	211	200	234	218	2,668
	こども預かり件数	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車貸出数	件	8	6	5	3	1	3	2	19	7	5	6	9	74
	図書貸出人数	人	32	71	23	45	52	31	47	34	39	25	37	56	492
	玩具修理	件	0	5	1	0	0	0	0	11	0	5	0	0	22
合計		246	344	243	256	318	228	306	263	257	235	277	283	3,256	
その他	図書館利用人数	人	434	407	379	416	548	374	400	338	399	415	419	517	5,046
	図書貸出冊数	冊	144	254	109	180	178	119	155	118	143	88	144	238	1,870

# 第7章 施設概要

## 1) 沿革

1969	「小児病院設立要望書」東北大学医学部小児科から県へ
1989	小児科多田啓也、加齢研小児科今野多助、産婦人科矢嶋聰、小児外科大井龍司の四教授による「宮城県母子保健・小児医療センター（仮称）設立要望書」
1992.12	「宮城県における小児病院について」宮城県小児科医会小児病院検討委員会報告
1993.1	「宮城県に母子総合医療施設を設立するための意見書」（東北大学医学部教授会内母子総合医療施設設立懇話会）
1993.2	「宮城県総合保育保健センター（仮称：母子総合医療施設）設立の要望」（日本母性保護医協会宮城県支部） 「宮城県母子総合医療センター設立推進協議会」（代表：大井龍司教授）設立。以後こども病院建設運動の中心に。 協議会の「母子総合医療センターの設置について」の請願が県議会で採択（第248回第3号）
1995.4	「協議会ワーキンググループ（横山義正座長）」四本柱（周産期、心疾患、悪性腫瘍、神経疾患）を提案 小児医療の現状分析を三菱総合研究所に委託（「小児総合医療対策費」として県予算で500万円計上）
1996.3	三菱総研「小児総合医療対策に関する調査」を県に提出
1996.4	こども病院の設置に関して前年度調査結果に基づき検討実施（県予算で20万円計上）
1996.10	「こどもの健康週間：こどもの病院をみやぎにも」がキャッチフレーズとして定着
1996.12	署名運動開始、3か月間で最終集計数199,303名
1997.4	宮城県知事へ署名を提出
1997.8	「小児総合医療整備のあり方検討委員会（久道茂委員長）」発足
1998.2	「宮城県小児総合医療整備のあり方報告書—基本構想策定のために—」策定（あり方検討委員会）
1998.6	検討委員会「作業部会（林富座長）」活動開始
1998.12	「宮城県小児総合医療整備のあり方報告書—基本計画策定のために—」策定（あり方検討委員会作業部会合同委員会）
1999.3	「宮城県小児総合医療整備基本計画—すべての子どもにいのちの輝きを—」策定
1999.5	「小児総合医療施設建設・運営検討会議（林富座長）」設置。基本設計に入る。
1999.12	こども病院運営主体が財団法人厚生会に決定
2000.5	「子ども病院の基本設計に関する最終報告—元気のでるファミリーホスピタル—」策定（建設・運営検討会議）
2000.7	実施計画検討委員会を設置。細部の協議に入る。
2000.8	財団法人厚生会「宮城県立こども病院開設準備室」設置
2001.3	「宮城県立こども病院（仮称）実施計画—元気のでるファミリーホスピタル—」策定 病院開設許可 平成13年3月1日
2001.4	第一期新人看護師27名採用
2001.11	着工（大成、日産、奥田JV）
2001.12	安全祈願祭施行
2002.4	第二期職員採用（医師、看護師、技師、その他）
2002.11	ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい 工事安全祈願祭施行
2003.8	竣工引渡
2003.10	レリーフ除幕式「おおきなふ（佐藤忠良先生作）」平成15年10月21日 宮城県立こども病院 落成式典 平成15年10月22日
2003.11	第一段階稼働〔開院〕病床数88床 平成15年11月11日
2004.4	第二段階稼働 病床数124床 2階病棟オープン 血液腫瘍科、内分泌科*、眼科*、耳鼻いんこう科*、整形外科*診療開始（※は非常勤体制）
2004.4	開院記念植樹（職員一同）「アスナロの樹」平成16年4月21日
2004.5	照明普及賞優秀施設賞受賞（主催 社団法人照明学会）平成16年5月21日
2005.4	第三段階稼働〔フルオープン〕病床数160床 4階病棟オープン 循環器科、心臓血管外科診療開始
2006.1	地方独立行政法人移行準備室設置
2006.3	医療福祉建築賞2005受賞（主催 社団法人日本医療福祉建築協会）平成18年3月3日
2006.4	地方独立行政法人に移行（公設民営・管理委託方式から）平成18年4月1日
2006.7	登録医療機関制度新設
2006.10	地域医療支援病院の名称使用の許可 平成18年11月15日
2008.5	病院機能評価（Ver.5.0）認定 平成20年5月19日
2008.6	第11回公共建築賞東北地区優秀賞（主催 社団法人公共建築協会）平成20年6月19日
2009.3	「宮城県立こども病院改革プラン」策定 平成21年3月19日
2009.9	病床数変更（NICU：9床→12床 / GCU・HCU：18床→15床）
2010.3	第2期中期計画（平成22年度～平成25年度）策定
2011.1	安全対策室設置 平成23年1月1日（医療安全推進室に室名変更 平成28年4月1日）
2011.3	東日本大震災（マグニチュード9.0）平成23年3月11日
2012.4	感染管理室設置 平成24年4月1日
2013.1	第二次医療情報システム稼働（電子カルテ導入）平成25年1月1日
2013.11	病院機能評価（機能種別版評価項目3rdG：Ver.1.0）認定 平成25年11月1日
2013.11	宮城県立こども病院開院10周年記念式典 平成25年11月23日
2013.12	ボランティア10周年記念式典 平成25年12月5日・6日
2014.3	第3期中期計画（平成26年度～平成29年度）策定
2015.4	宮城県拓桃医療療育センターの運営を県から地方独立行政法人宮城県立こども病院に移行 平成27年4月1日
2015.7	拓桃館竣工 平成27年7月17日
2016.3	宮城県立拓桃医療療育センター移転統合、宮城県立拓桃園開所、整形外科常勤化、発達診療科診療開始、 拓桃館3階病棟オープン、病床数214床 平成28年3月1日
2016.3	宮城県立拓桃園開所・宮城県立拓桃支援学校移転記念式典 平成28年3月5日
2016.4	拓桃館2階病棟オープン、病床数241床 平成28年4月1日
2016.4	診断群分類による診療報酬（DPC / PDPS）制度制度による診療報酬請求開始
2017.12	臨床研究推進室設置 平成29年12月1日
2018.3	第4期中期計画（平成30年度～平成33年度）策定
2018.4	院内保育所「まほうのもり保育園」開所 平成30年4月1日
2018.11	病院機能評価（機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0）認定 平成30年11月1日
2018.11	開院15周年ボランティア祭 平成30年11月9日
2018.11	宮城県立こども病院開院15周年記念講演会 平成30年11月29日
2019.4	病床数変更（ICU：7床→8床 / 本館2階病棟：36床→35床）
2020.1	入退院センター設置 令和2年1月1日
2020.2	第三次医療情報システム稼働 令和2年2月1日
2022.3	第5期中期計画（令和4年度～令和7年度）策定
2022.4	療育支援部（拓桃園）設置、循環器センター設置、ICUをPICUに変更 令和4年4月1日
2023.11	病院機能評価（機能種別版評価項目3rdG：Ver.3.0）認定 令和5年11月1日
2023.11	ボランティア20周年祭 令和5年11月9日
2023.11	宮城県立こども病院開院20周年記念式典 令和5年11月11日
2023.12	リカバリー室使用開始 令和5年12月1日
2024.4	広報室設置 令和6年4月1日

## 2)-1 施設・設備概要

### 1. 所在地

宮城県仙台市青葉区落合四丁目3番17号

### 2. 敷地面積 47,854.4 m<sup>2</sup>

### 3. 本館・拓桃館構造概要

- ・構造概要 基礎 直接基礎（免震構造）  
構造 鉄筋コンクリート造  
階数 地上4階
- ・面積 延床面積 26,972.94 m<sup>2</sup>

	階数	床面積 (m <sup>2</sup> )
本館	1階	6,210.45
	2階	4,903.76
	3階	4,961.56
	4階	1,846.34
	PH階	108.33
	小計	18,030.44
拓桃館	1階	3,077.14
	2階	2,937.19
	3階	2,758.44
	4階	169.73
	小計	8,942.50
合計		26,972.94

### 4. 付属建物概要

#### ① 外部工作物

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・面積 総延床面積 813.41 m<sup>2</sup>

工作物名	床面積 (m <sup>2</sup> )
外来駐輪場1	41.14
エントランス庇 (車イス利用者駐車場1)	215.04
車イス利用者駐車場2・ 外来駐輪場2	222.92
職員駐輪場	36.00
回廊	273.41
足洗い場	21.66
合計	813.41

#### ② エネルギー・医療サービス棟

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 812.01 m<sup>2</sup>

#### ③ RI・厨芥処理施設棟

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 65.50 m<sup>2</sup>

#### ④ ゴミ集積所1

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 40.00 m<sup>2</sup>

#### ⑤ ゴミ集積所2

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 40.00 m<sup>2</sup>

#### ⑥ ゴミ集積所3

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 8.29 m<sup>2</sup>

#### ⑦ ボランティアハウス

- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 340.30 m<sup>2</sup>

#### ⑧ 院内保育所

- ・構造 木造
- ・階数 地上1階
- ・面積 延床面積 218.69 m<sup>2</sup>

### 5. 昇降機設備

#### 【本館】

- エレベーター（人荷用・荷用） 7台
- 小荷物搬送設備 3台
- 自動搬送設備 一式

#### 【拓桃館】

- エレベーター（人荷用・荷用） 4台
- 自動搬送設備 一式
- ※制御盤は本館

### 6. 関連施設

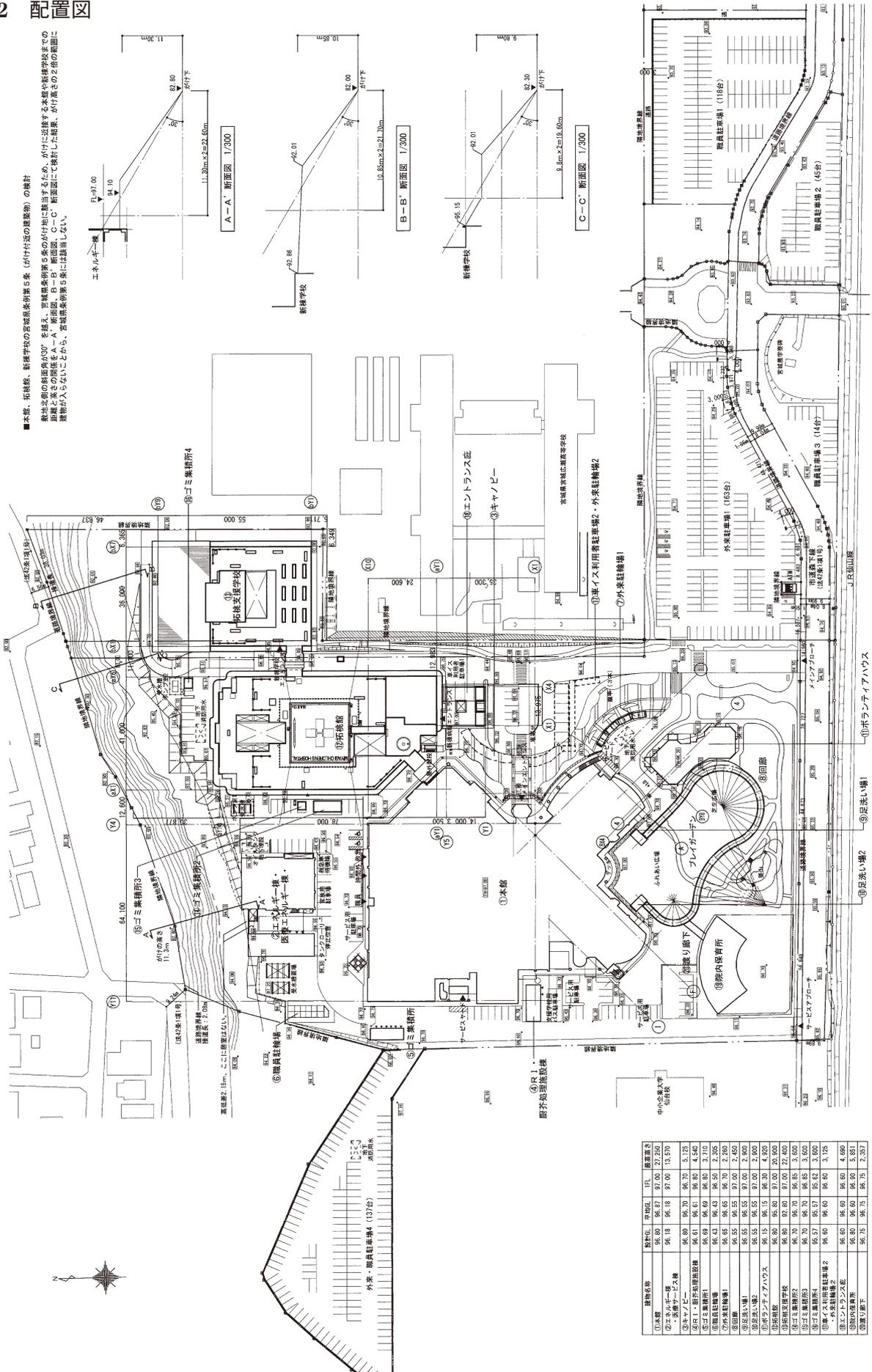
ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだい

- 施設概要 ・階数 地上2階
- ・延床面積 1,679 m<sup>2</sup>
- ・宿泊施設 16室

## 2)-2 配置図

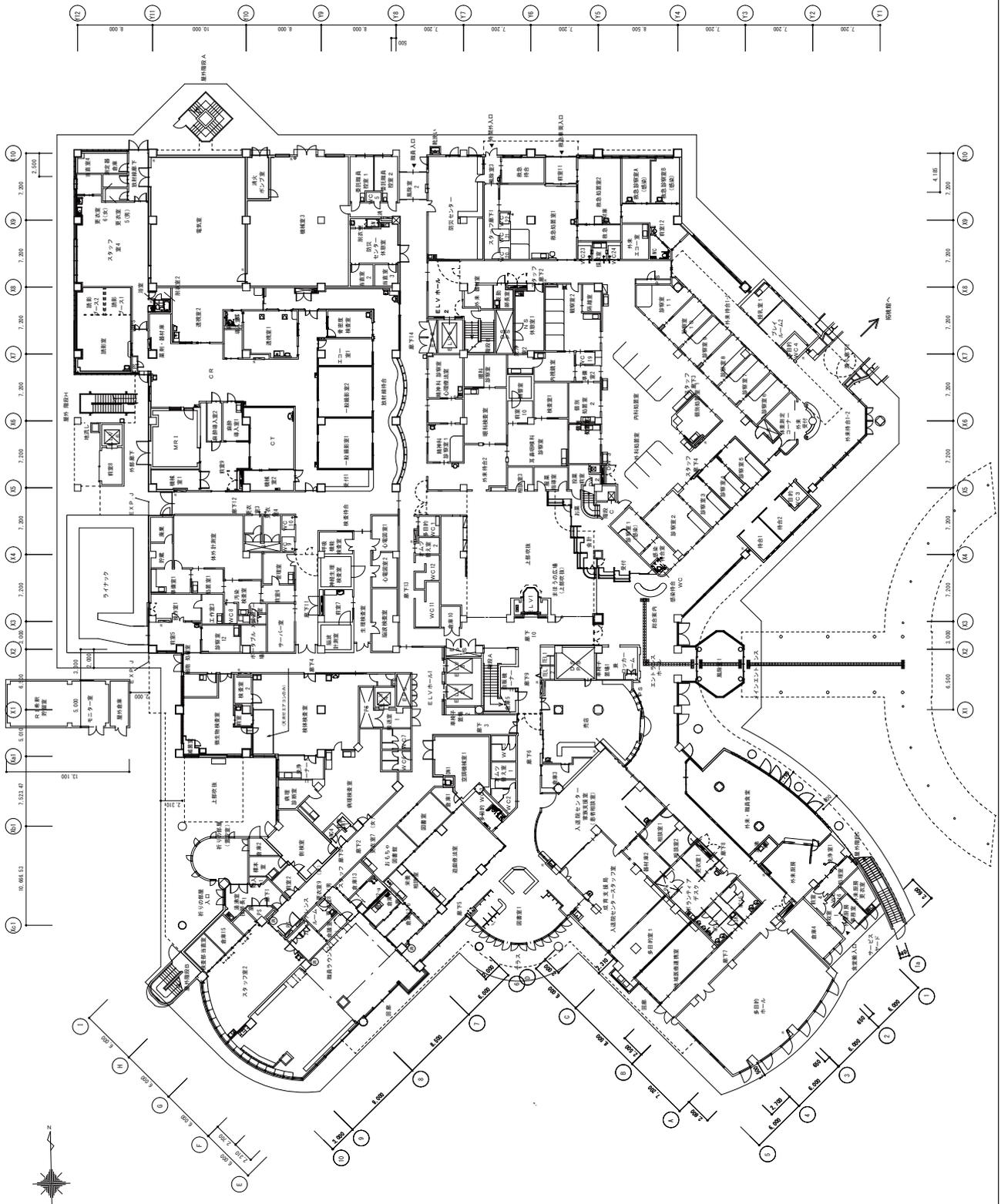
■ 本館、五徳館、新棟学校の築地乱れ敷積層5条（がけ付近の建設物）の検討

敷地北側の前面積が30%を超過し、密積層表積積層5条のがけ付近に該当するため、がけに近接する本館や新棟学校までの距離が高いことから、A-A'断面図にて検討した結果、がけ高さの2倍の範囲に埋積が入らないうえ、一部積層表積積層5条に埋積しない。

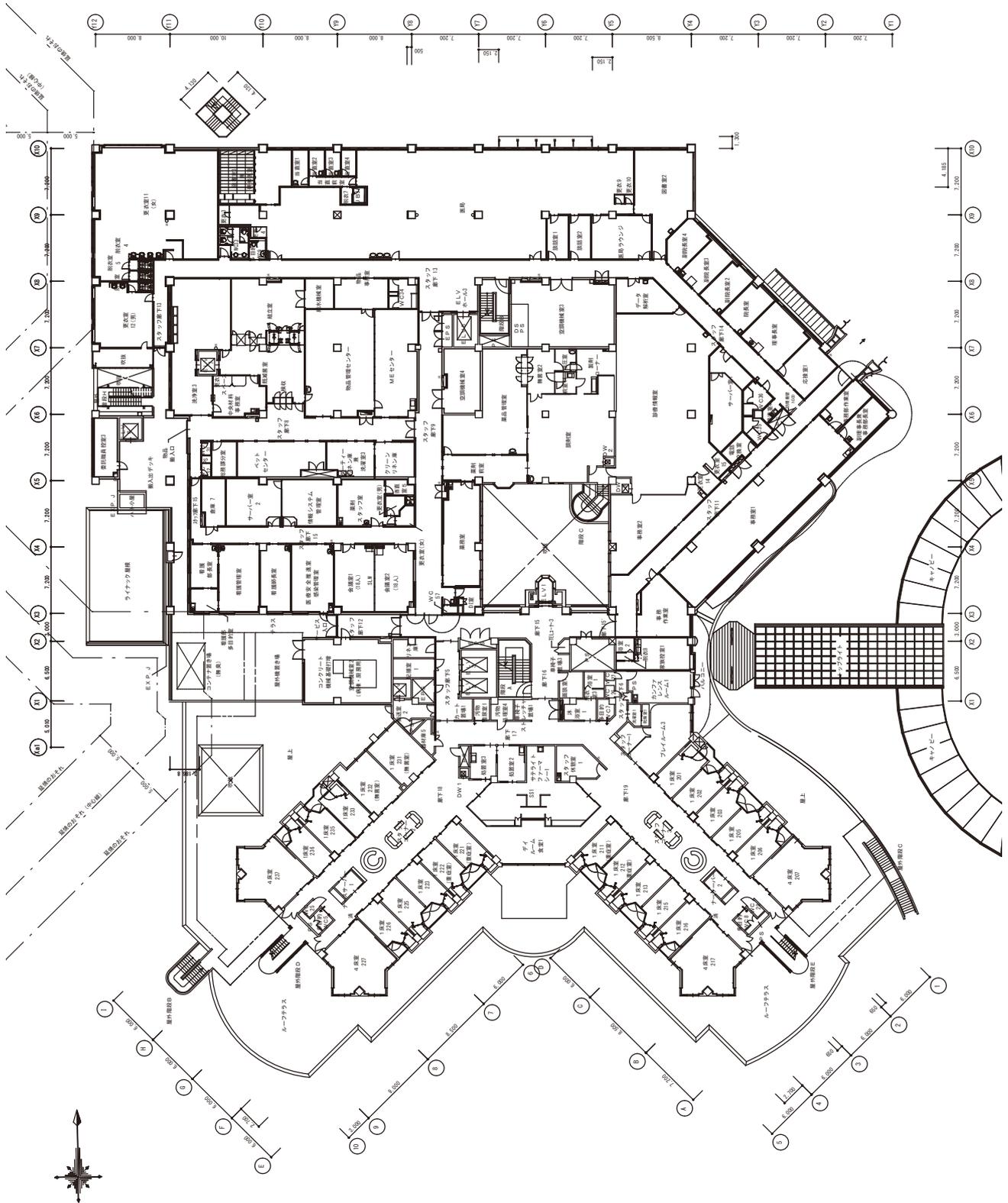


建物名称	敷地面積	平均区画	坪単	積層表積
①木館	96.80	96.87	97.00	27,250
②エネコラー棟	96.18	96.18	97.00	13,570
③・新棟学校	96.90	96.70	96.70	4,132
④ロビー・廊下処理設備	96.81	96.61	96.80	4,540
⑤ゴミ集積所1	96.09	96.09	96.80	3,710
⑥職員駐輪場	96.43	96.43	96.50	2,305
⑦外車駐輪場	96.05	96.05	96.70	2,260
⑧回廊	96.55	96.55	97.00	2,450
⑨足洗いや	96.52	96.52	97.00	2,800
⑩ボランティアハウス	96.15	96.15	96.30	4,820
⑪折角交換学校	96.80	96.80	97.00	20,950
⑫折角交換学校	96.70	96.70	97.00	22,400
⑬ゴミ集積所2	96.70	96.70	96.85	3,600
⑭ゴミ集積所3	96.17	96.27	96.82	3,800
⑮外車駐輪場2	96.10	96.09	96.60	3,175
⑯エネコラー敷	96.00	96.00	96.60	4,600
⑰折角交換学校	96.10	96.00	96.50	5,351
⑱足洗いや	96.15	96.15	96.75	2,351

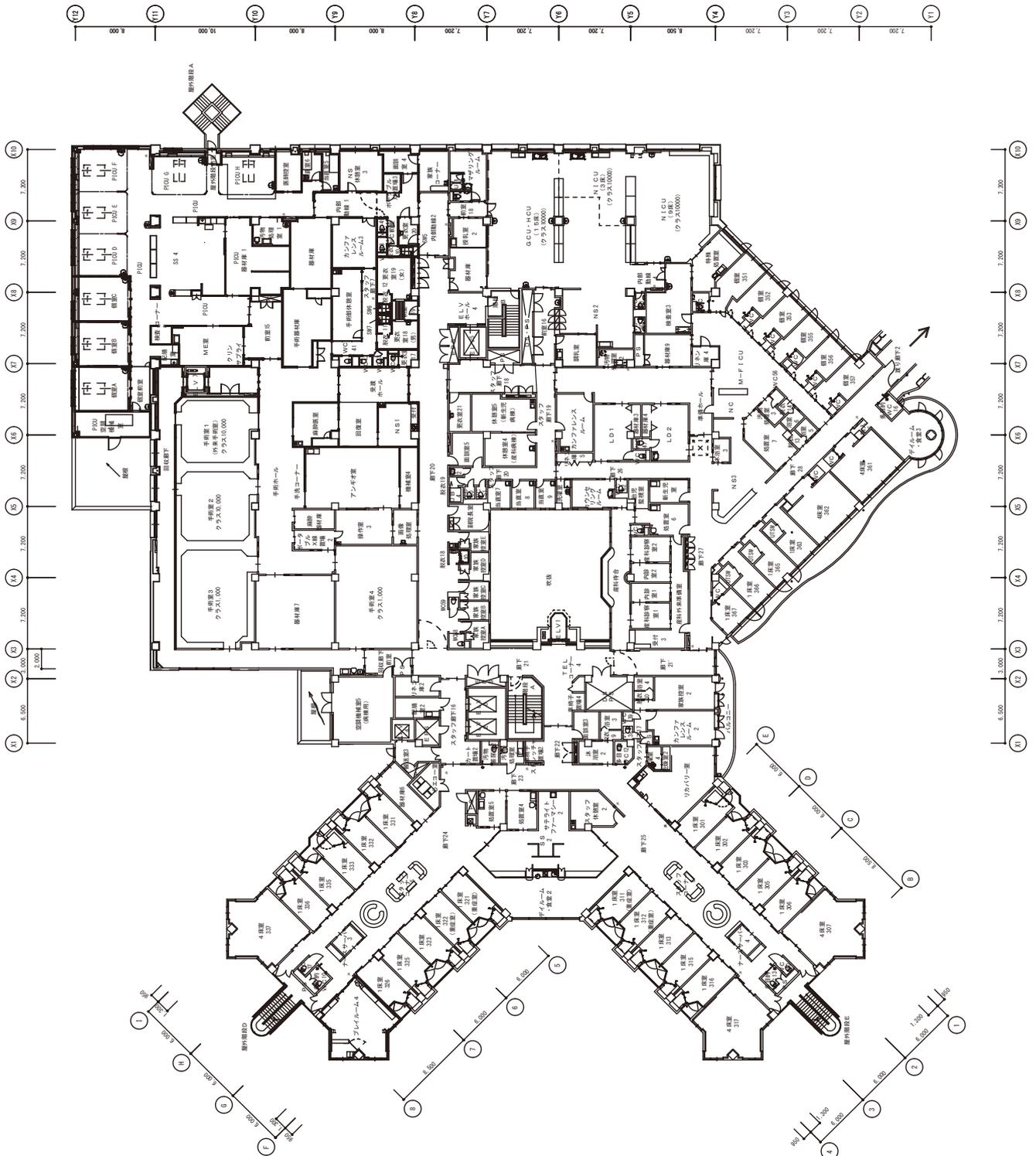
本館 平面図1階



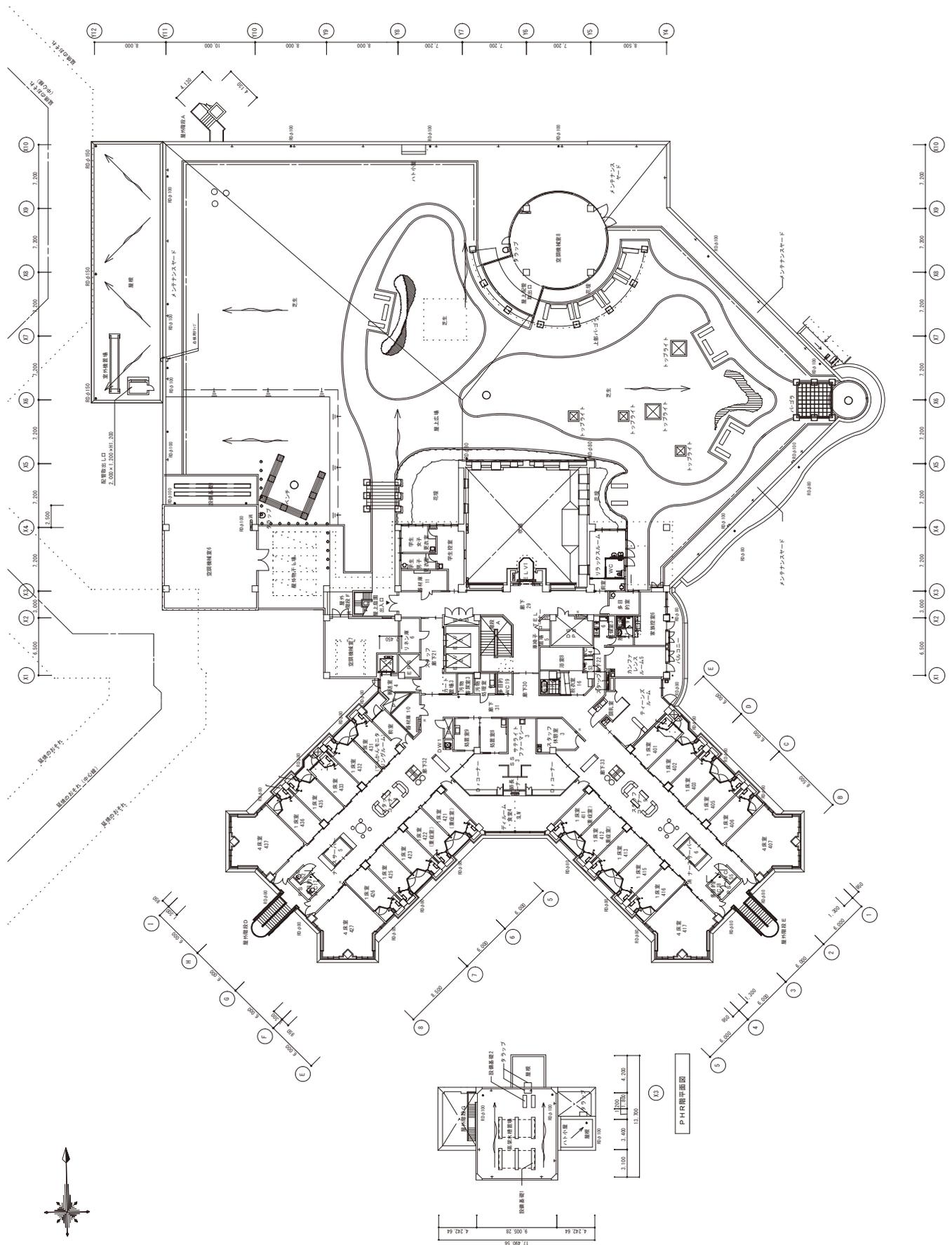
本館 平面図2階



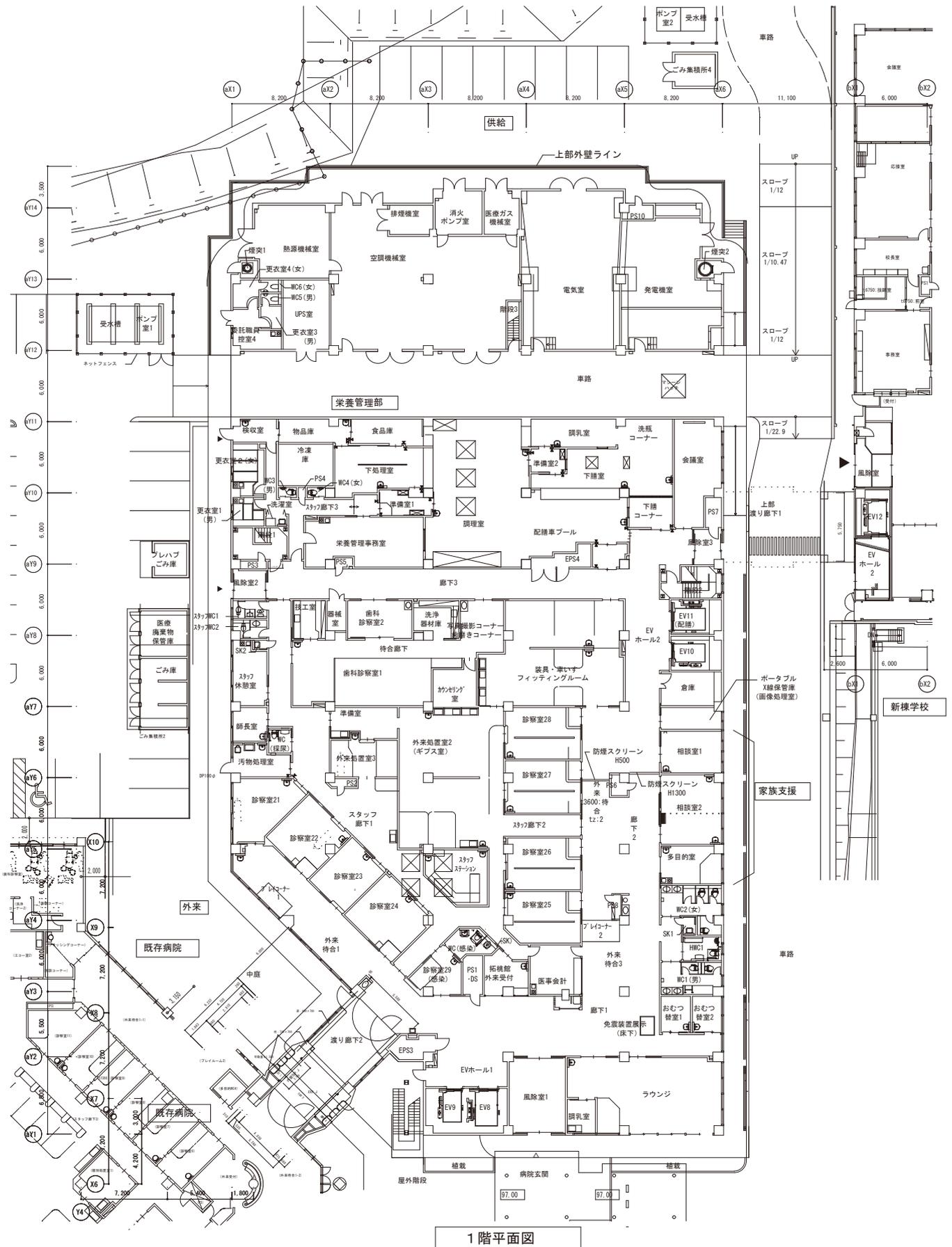
本館 平面図3階



# 本館 平面図 4階

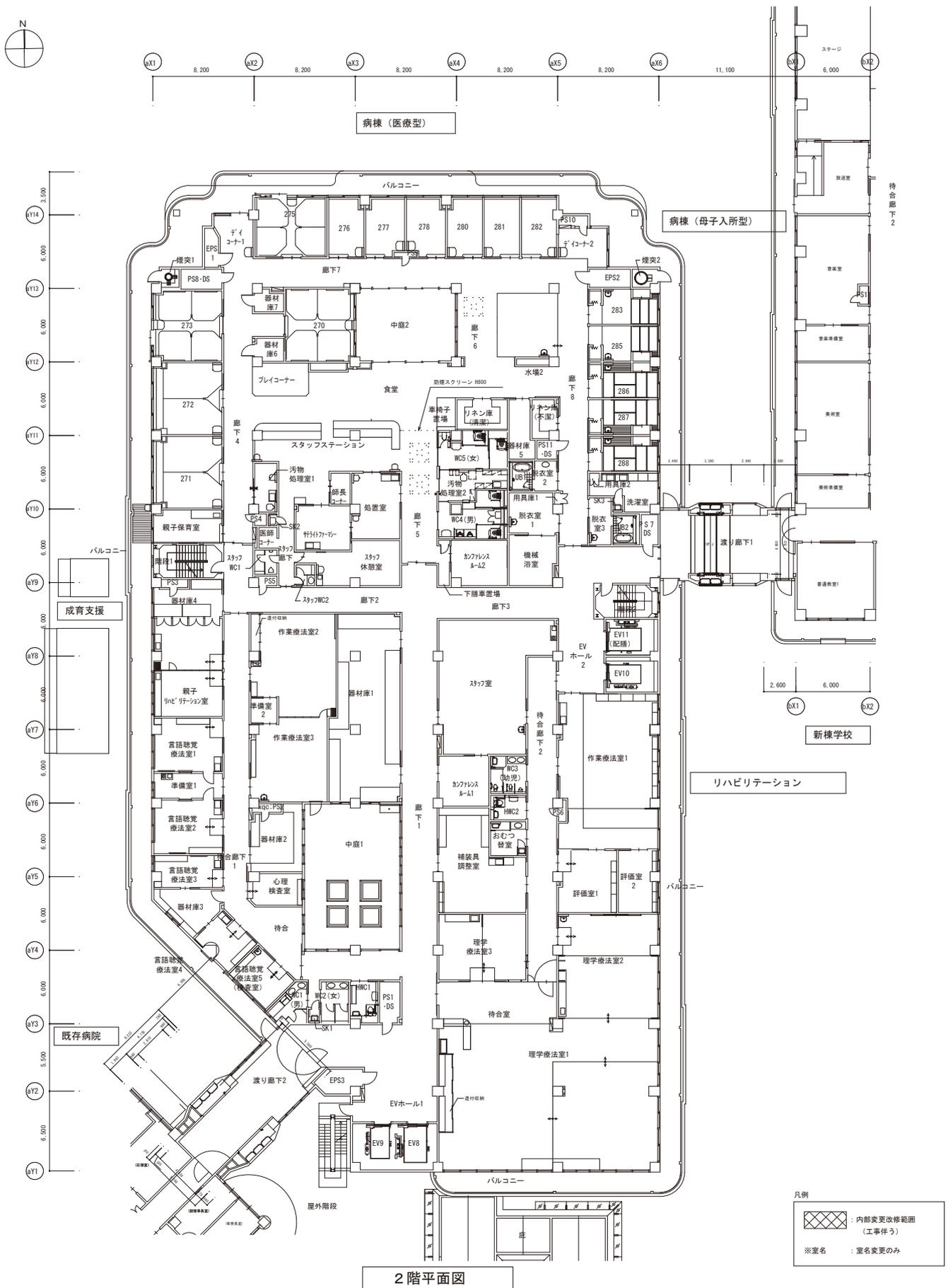


# 拓桃館 平面図 1階

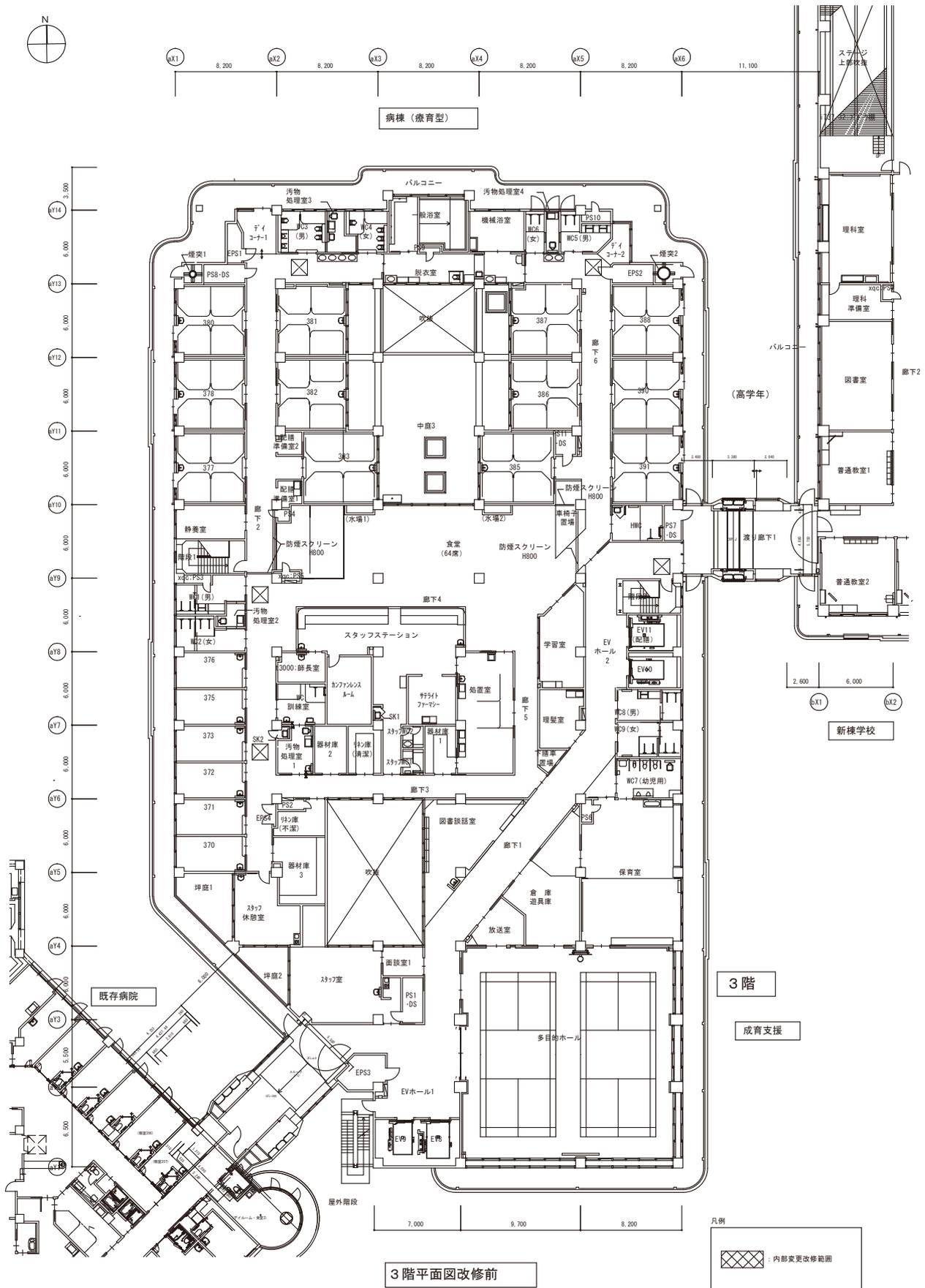


1階平面図

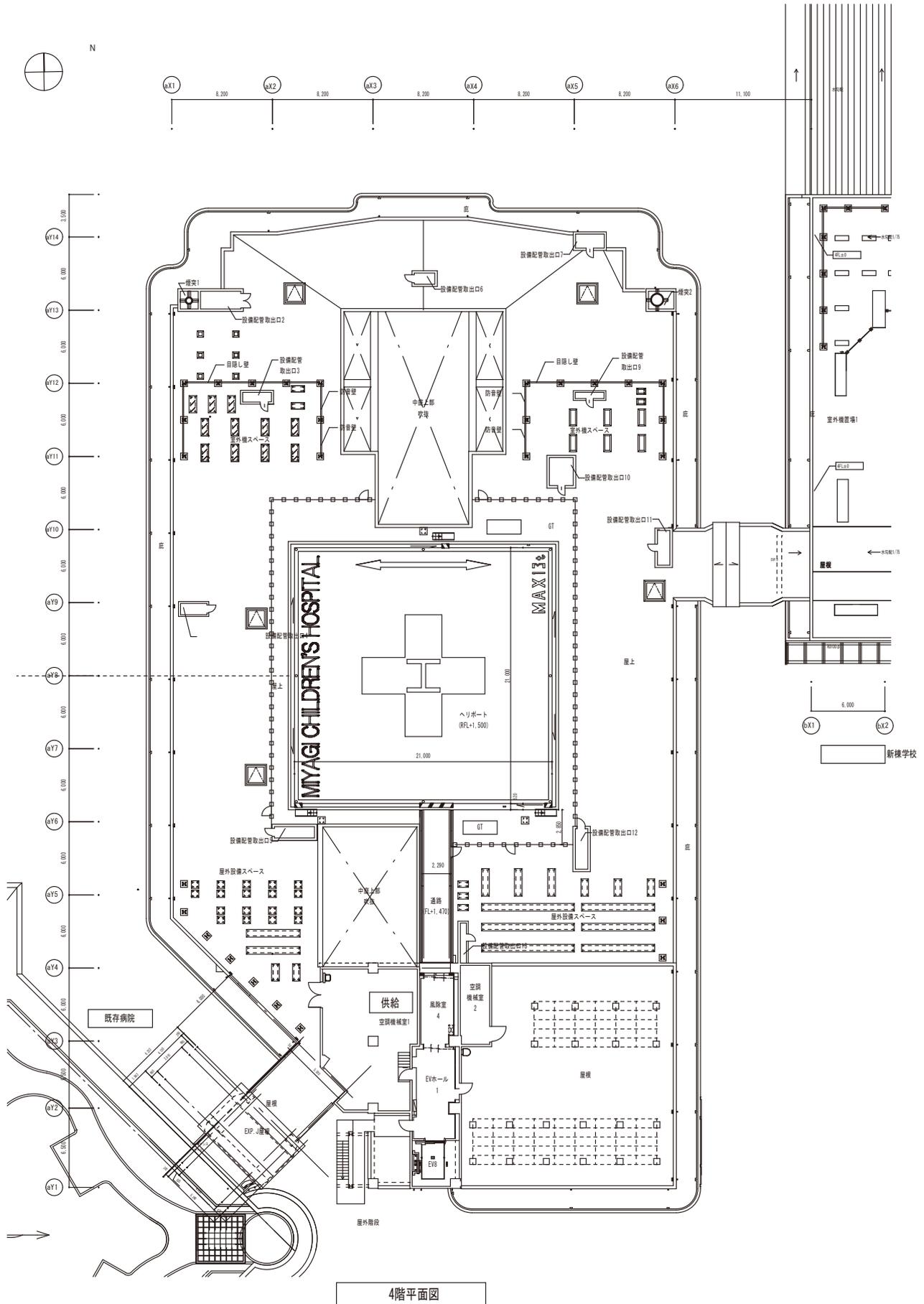
拓桃館 平面図 2階



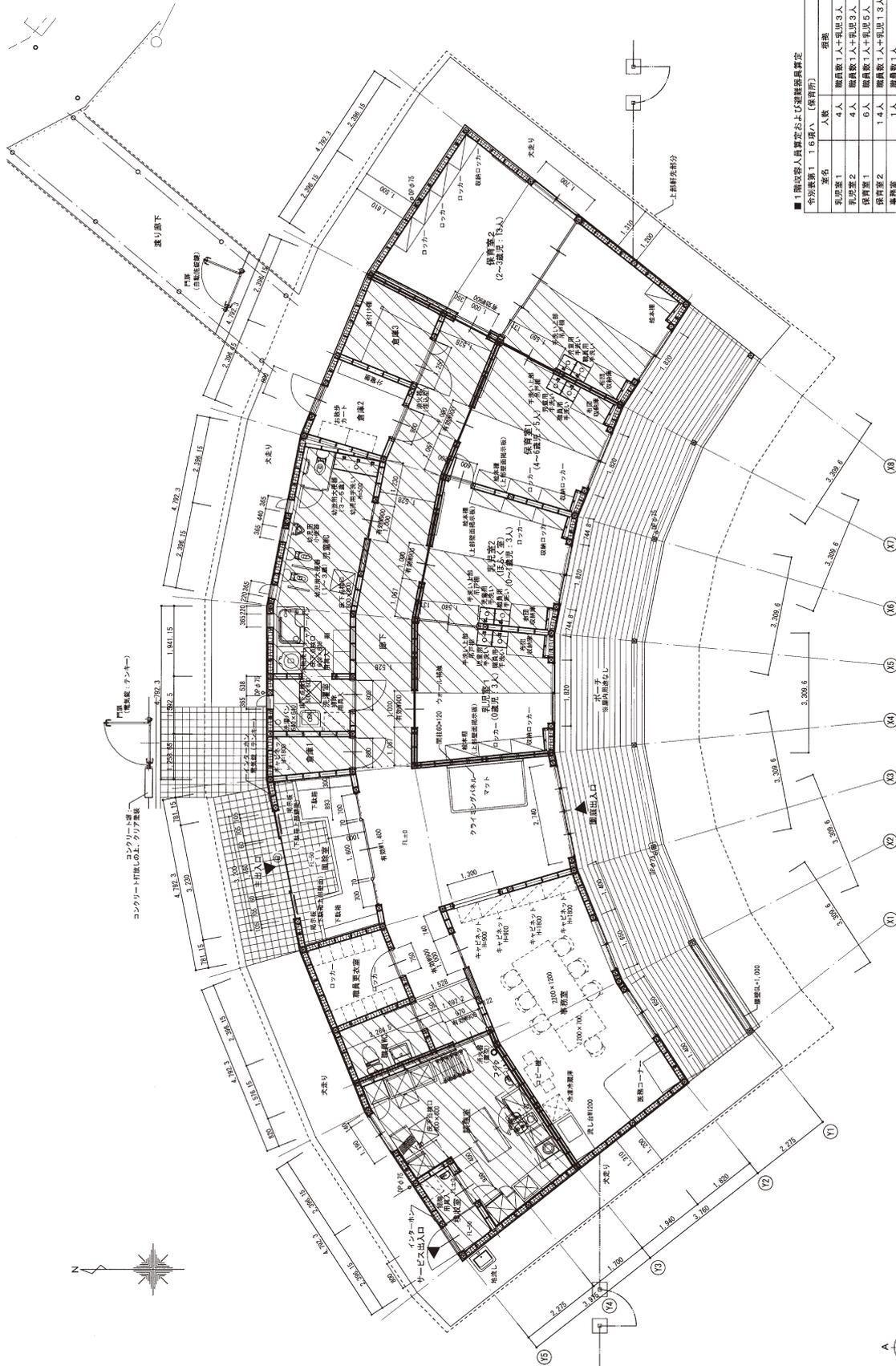
# 拓桃館 平面図 3階



拓桃館 平面図 4階



# 保育園 平面図1階

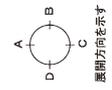


■1階改修人員算定および避難人員算定

令別表第1 16項ハ〔保育所〕	
名称	人数
乳児室1	4人
乳児室2	4人
保育室1	6人
保育室2	14人
事務室	1人
調理室	1人
合計	30人

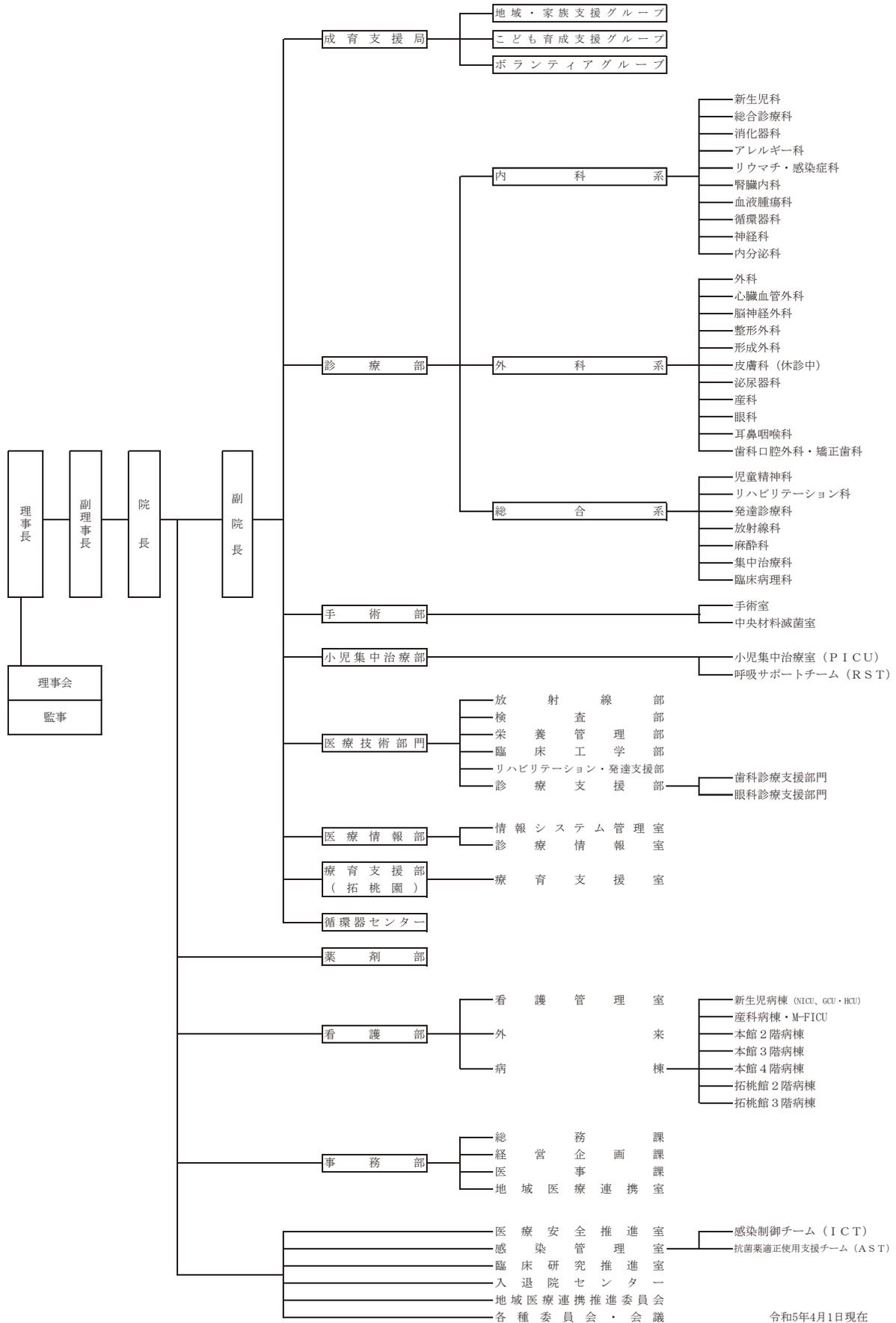
※1階は避難経路の確保を要しないため、対象外  
避難人員の設置数算定は改修人員  
避難員共計30名

1階平面詳細図 1/50



### 3) 組 織

#### 組織図









委託職員数一覧

【委託業務従事者数】

令和5年3月31日現在

	防災センター	電話交換室	物品管理センター	中央材料滅菌室	栄養管理部				検体検査室 臨床検査技師	クリーンリネン庫	医事課外来業務	クラーク業務	診療情報室／医事課（入院）	地域医療連携室	入退院センター	情報システム管理室	合計
					管理栄養士	栄養士	調理師	調乳業務調理補助									
設備	12																12
警備	13																13
電話交換		4															4
清掃	25																25
物流管理 （物品管理・院内滅菌）			7	16													23
患者給食					1	1	6	13									21
臨床検査									6								6
リネン										4							4
医事											14						14
クラーク												19					19
診療情報室													3				3
地域医療連携室														2			2
入退院センター															2		2
病院情報システム運用																3	3
合計	50	4	7	16	1	1	6	13	6	4	14	19	3	2	2	3	151

※ 常勤、非常勤を問わず実数で計算

#### 4) 会議・委員会

下記の会議及び委員会を設置・開催し、病院運営全般について協議検討し、医療サービスの向上、医療の質の向上及び業務の効率的な運営に努めている。

会 議	役 割 ・ 機 能
病院運営会議	理事長（病院長）、副理事長、理事（事務部長）をもって組織し、毎週水曜日に会議を開催し、法人運営に係る主要事項について審議決定している。
病院管理会議	病院長・副院長・成育支援局長、診療部長、事務部長、看護部長、薬剤部長をもって組織し、病院運営に係る主要事項について審議決定している。
診療科長会議	病院長、副院長、各診療科長、看護部長、事務部長をもって組織し、毎月第2火曜日に開催している。診療体制、臨床研究、業務運営等、診療科に係わる病院の方針、課題、その他主要事項に関し報告するとともに、意見交換等を行う。
部門長会議	病院長、事務部長並びに各部署所属長をもって組織し、毎月第4金曜日に開催している。病院運営会議、病院管理会議等での審議決定事項及び各部署の主要事項等の指示、伝達並びに意見交換等を行う。
委 員 会	役 割 ・ 機 能
倫理委員会	人を対象とする医学の研究や臨床応用に関する倫理的配慮の審査
治験審査委員会	治験薬の臨床検査に関する受託審査
脳死下臓器提供倫理委員会	院内脳死下臓器提供体制の整備、事例発生時の倫理的適否の判断・検討
安全対策委員会	医療事故・紛争の予防対策、発生後の適切な対処の検討
リスクマネージャー会議	インシデントレポートの集計と分析・検討
感染対策委員会	院内感染対策及び感染発生時における適正な処理等の検討
ICT 会議	院内感染及び職業感染に関する状況の把握と報告、院内ラウンドの実施及び改善の提案
AST 会議	抗菌薬の適正使用を支援する実働組織
薬事委員会	使用薬品の医学・薬学的評価、薬品管理、各申請の許認可
施設・医療機器委員会	医療機器の効率的調達並びに使用に関して必要となる事項の調査・検討
診療材料委員会	診療材料の効率的調達並びに使用に関して必要となる事項の調査・検討
救急運営委員会	救急医療を円滑に行うための具体的事項に関する計画立案
病棟・外来運営委員会	病床運営を円滑にするため、業務運営上の具体的事項についての計画・立案
診療記録管理委員会	診療記録管理及び保管管理に関し必要となる事項の調査・検討
地域医療連携委員会	地域の医療機関などとの連携に関する事項、地域医療連携室の業務に関する事項の検討
地域医療連携推進委員会	医療機関と連携し地域における小児医療の安定的提供を確保し、地域小児医療水準の向上に貢献するための取組を円滑に推進するための検討
臨床研修委員会	研修プログラムの策定並びに研修評価システムの構築
栄養委員会	栄養管理業務運営上の具体的事項の計画立案
病院栄養サポートチーム (NST)	適切な栄養管理を行うための活動・研究の計画立案及び栄養療法（ケア）の質向上の検討・提案
緩和ケアチーム	患者の疼痛・倦怠感・呼吸困難等の身体症状または不安・抑うつ等の精神症状の緩和ケアの検討
呼吸器サポートチーム (RST)	呼吸療法・呼吸ケアに関する諸問題や安全管理に関する事項の検討・提案
医療ガス安全管理委員会	医療ガス配管に関する事項の調査・調整
輸血療法委員会	輸血に伴う医療の安全な遂行と事故対策の検討
臨床検査運営委員会	検査部の円滑な運営を積極的に図るために必要となる事項、調査・検討
褥瘡対策委員会	褥瘡発生状況の調査・防止対策並びに職員への褥瘡予防・治療に関する知識の普及等の計画立案
安全衛生委員会	安全で快適な労働環境の提供及び職員の健康・福祉の増進についての検討
情報システム管理委員会	医療情報システムの管理並びに情報システムの安全かつ効率的運用に必要となる事項の調査・検討
DPC マネージメントチーム	診断群分類別包括評価（DPC）を生かした病院マネジメントの立案・検証
災害対策委員会	防災訓練の計画実施、防災マニュアル等の改訂
行事委員会	入院中のこどもの QOL を高め、入院生活を豊かにし、様々な時間と空間がもてるような行事の企画・検討・実施
ボランティア運営委員会	ボランティアの効率的な運営に関する連絡・調整
成育支援運営委員会	成育支援部門の基本的事項の検討・調整
療育支援委員会	拓桃園の運営に関する検討及び方針の整理
学校・病院運営連絡会	病院と拓桃支援学校の教育支援に関する基本的事項の連絡・協議
入退院センター会議	ペイシェントフローマネジメント（PFM）実現のため、入退院に関する事項の検討、調整
成人移行期支援委員会	宮城県立こども病院に通院している慢性疾患患者が各発達段階（学童期、思春期、青年期、成人期）に応じて自分の病気に対する理解を深め、患者の自立と社会的参加を計画的に支援するための当院における成人移行期支援の体制を構築する。
集中治療部運営委員会	PICU（集中治療室）の円滑な運営に関する連絡・調整
手術部運営委員会	手術室の各科別使用割当並びに室内の感染予防対策等手術室の円滑な運営に関し必要となる事項の連絡・調整

委員会	役 割 ・ 機 能
宮城県立拓桃園虐待防止・身体拘束適正化委員会	宮城県立拓桃園が行う利用者に対する福祉サービス等における以下の内容の検討 ・利用者の安全と人権擁護の観点における虐待の防止とその適切な対応の検討 ・利用者の身体拘束、行動制限に関する必要性の検証と最小化及び利用者の権利擁護の検討
臨床倫理委員会	臨床医学の研究や倫理的配慮の審査・検討
放射線管理運営委員会	放射線安全管理組織体制・放射線障害予防規程等の検討・承認
周産期部門運営委員会	周産期病棟の円滑な運営に必要となる事項の連絡・調整
家族関係支援委員会	当院で扱う児童虐待事例への適切・円滑な対応と再発防止並びに児童の健全な育成と家族関係の援助を図るために必要となる事項の検討
クリニカルパス委員会	クリニカルパスの導入並びに円滑な運用に必要となる事項の調査・検討
情報公開・個人情報保護検討委員会	診療情報の開示請求並びに情報開示請求に関する審査・調査・検討
リハビリテーション委員会	リハビリテーションに関わる複数診療科の連携及びリハビリテーションに関する事項の検討
広報委員会	広報活動の企画・実施、広報紙の発行、病院の広報に関する検討
こどもの環境委員会	こどもの心を明るく元気にし、成長を支える環境（例 アート）の検討
こども病院資金用途等検討委員会	こども病院資金の用途等の検討及び現物寄付の受納の可否等の検討
年報編集委員会	年報編集・発刊に伴う具体的事項についての計画立案
学術支援委員会	研究事業を円滑に進めるために必要となる事項の調査・検討
保育所運営委員会	院内保育所の運営並びに整備に関わる事項の検討
在宅支援運営委員会	診療の継続を必要とする患者家族に対する退院支援及び在宅療養支援の検討
内部統制委員会	内部統制の推進に係る方針の策定、計画の立案、対策の検証
働き方改革推進委員会	医師の働き方改革を円滑に推進するために必要となる医療従事者の負担軽減及び処遇改善の必要性等についての周知・提言、「医師労働時間短縮計画」の作成・評価等
化学療法プロトコル審査委員会	当院で実施する化学療法プロトコルの妥当性、安全性、有効性に関する審査および登録
未承認医薬品・医療機器等安全性評価部会	当院で実施する未承認医薬品・医療機器等を用いた医療に関する、安全性および倫理的・科学的妥当性、適切な使用方法の審査
契約事務審査委員会	入札及び契約制度、指名停止の措置、暴力団排除の措置に関する調査・審議

5) 許認可・施設基準等一覧

2024（令和6）年4月1日現在

項 目	備 考
病院開設許可	平成18年4月1日地独法化
病院等使用許可	平成18年4月1日地独法化
保険医療機関指定	
医療型障害児入所施設	
指定障害福祉サービス事業者（短期入所）	
臨床研修施設（協力型）	医科、歯科
薬学生実務実習受入施設	
生活保護法による指定医療機関	
母子保健法による指定養育医療機関	
宮城県地域周産期母子医療センター	
仙台市小児科病院群輪番制参加病院	
労災保険指定医療機関	
母体保護法設備指定医療施設	
障害者自立支援法による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）	
障害者自立支援法による指定自立支援医療機関（精神通院医療）	
難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関	
児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関	
非血縁者間骨髄採取認定施設	
母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する実施施設	
結核医療機関	
アレルギー疾患医療拠点病院	
小児救急医療拠点病院	
宮城県難病地域拠点病院	
宮城県肝炎治療特別促進事業 治療実施医療機関	
宮城県肝炎治療特別促進事業 診断書作成医療機関	
NIPTを実施する医療機関	基幹施設
地域医療支援病院名称使用許可	
東北大学病院医療連携施設	
小児がん連携病院	連携先 東北大学病院
日本医療機能評価機構 病院機能評価認定病院 一般病院2	機能種別版評価項目 3rdG : Ver.3.0
日本小児総合医療施設協議会会員施設 2型（小児病棟・療養型）	
日本臨床衛生検査技師会／日本臨床検査標準協議会 精度保証施設	
日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設	

○ 学会関係認定・指定一覧

項 目	備 考
日本小児科学会小児科専門医研修施設	
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	
日本周産期・新生児医学会 周産期（新生児）専門医 認定施設	基幹研修施設
日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（母体・胎児） 暫定認定施設	基幹認定施設

項 目	備 考
日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法（NCPR）トレーニングサイト施設	
日本炎症性腸疾患学会 IBD 指導施設	
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修正施設	総合診療科、アレルギー科
日本小児臨床アレルギー学会小児アレルギーエデュケーター認定教育研修施設	
日本小児感染症学会認定指導医（専門医）教育研修プログラム施設	
日本血液学会認定血液研修施設	
日本がん治療認定医機構認定研修施設	
日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医研修施設	
日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植 認定診療科	血液腫瘍科
日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設	
JPIC 学会経皮心房中隔欠損閉鎖術認定施設	
JPIC 学会経皮動脈管閉鎖術認定施設	
日本小児神経学会小児神経科専門医制度研修施設	神経科、発達診療科
日本てんかん学会研修施設	
日本小児外科学会専門医制度認定施設	
日本外科学会外科専門医制度関連施設	
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設	
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所	C 項施設、東北大学病院の関連施設
日本整形外科学会研修認定施設	
日本形成外科学会専門研修連携施設	東北大学病院を専門研修基幹施設とする専門研修プログラム
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設	拠点教育施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	
日本集中治療医学会専門医研修施設	PICU
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	連携専門医療型
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設	
日本リハビリテーション医学会研修施設	
日本障害者歯科学会認定歯科衛生士臨床研修施設	
日本障害者歯科学会臨床研修施設	
日本血栓止血学会 血友病診療拠点病院	
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設	
日本先天性心疾患インターベンション学会・日本心血管インターベンション治療学会 合同教育委員会 経皮的心房中隔欠損閉鎖術施設	
日本先天性心疾患インターベンション学会・日本心血管インターベンション治療学会 合同教育委員会 経皮的動脈管閉鎖術施設	
子どものこころ専門医機構子どものこころ専門医研修連携施設	

○ 新型コロナウイルス感染症関係認定・指定一覧

項 目	備 考
新型コロナウイルス感染症重点医療機関	
入院協力医療機関	
診療・検査医療機関	
帰国者・接触者外来設置機関	

## ○届出施設基準

令和 6 年 3 月 31 日現在

No	施設基準名	受理番号	受理番号	算定開始年月日 (又は変更年月日)
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	(病初診)	第 24 号	平成 30 年 10 月 1 日
2	歯科外来診療環境体制加算 2	(外来環 2)	第 390 号	平成 30 年 9 月 1 日
3	一般病棟入院基本料	(一般入院)	第 1987 号	令和 5 年 1 月 1 日
4	救急医療管理加算	(救急医療)	第 39 号	令和 2 年 4 月 1 日
5	診療録管理体制加算 1	(診療録 1)	第 50 号	平成 30 年 3 月 1 日
6	医師事務作業補助体制加算 1	(事補 1)	第 216 号	令和 5 年 11 月 1 日
7	急性期看護補助体制加算	(急性看補)	第 510 号	令和 5 年 1 月 1 日
8	療養環境加算	(療)	第 321 号	令和 4 年 10 月 1 日
9	医療安全対策加算 1	(医療安全 1)	第 179 号	平成 29 年 4 月 1 日
10	感染対策向上加算 1	(感染対策 1)	第 13 号	令和 4 年 4 月 1 日
11	患者サポート体制充実加算	(患サポ)	第 193 号	平成 29 年 4 月 1 日
12	報告書管理体制加算	(報告管理)	第 4 号	令和 5 年 7 月 1 日
13	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア)	第 35 号	平成 29 年 4 月 1 日
14	ハイリスク妊娠管理加算	(ハイ妊娠)	第 89 号	平成 29 年 8 月 1 日
15	ハイリスク分娩管理加算	(ハイ分娩)	第 69 号	平成 29 年 8 月 1 日
16	データ提出加算	(データ提)	第 87 号	平成 28 年 4 月 1 日
17	入退院支援加算	(入退支)	第 328 号	令和 2 年 6 月 1 日
18	小児特定集中治療室管理料	(小集)	第 1 号	令和 4 年 5 月 1 日
19	総合周産期特定集中治療室管理料	(周)	第 23 号	令和 4 年 1 月 1 日
20	新生児治療回復室入院医療管理料	(新回復)	第 14 号	令和 4 年 2 月 1 日
21	小児入院医療管理料 1	(小入 1)	第 14 号	令和 5 年 12 月 1 日
22	小児入院医療管理料 4	(小入 4)	第 45 号	平成 30 年 3 月 1 日
23	短期滞在手術等基本料 1	(短手 1)	第 25 号	令和 4 年 4 月 1 日
24	看護職員処遇改善評価料 102	(看処遇 102)	第 1 号	令和 4 年 10 月 1 日
25	移植後患者指導管理料 (造血幹細胞移植後)	(移植管造)	第 20 号	平成 29 年 8 月 1 日
26	小児運動器疾患指導管理料	(小運指管)	第 4 号	令和 2 年 4 月 1 日
27	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア)	第 19 号	平成 30 年 6 月 1 日
28	外来腫瘍化学療法診療料 1	(外化診 1)	第 39 号	令和 4 年 12 月 1 日
29	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎)	第 19 号	平成 22 年 5 月 1 日
30	薬剤管理指導料	(薬)	第 332 号	平成 29 年 8 月 1 日
31	医療機器安全管理料 1	(機安 1)	第 120 号	平成 30 年 5 月 1 日
32	歯科治療時医療管理料	(医管)	第 238 号	平成 29 年 8 月 1 日
33	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	(在洗腸)	第 1 号	平成 30 年 7 月 1 日
34	遺伝学的検査	(遺伝検)	第 8 号	平成 30 年 5 月 1 日
35	染色体検査の注 2 に規定する基準	(染色体)	第 1 号	令和 4 年 4 月 1 日
36	骨髄微小残存病変量測定	(骨残測)	第 2 号	令和元年 6 月 1 日
37	先天性代謝異常症検査	(先代異)	第 2 号	令和 2 年 4 月 1 日
38	抗アデノ随伴ウイルス 9 型 (AAV9) 抗体	(AAV9)	第 2 号	令和 4 年 4 月 1 日
39	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	(ウ細多同)	第 7 号	令和 4 年 9 月 1 日
40	検体検査管理加算 (II)	(検 II)	第 92 号	平成 29 年 8 月 1 日

No	施設基準名	受理番号	受理番号	算定開始年月日 (又は変更年月日)
41	遺伝カウンセリング加算	(遺伝カ)	第13号	令和3年12月1日
42	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	(血内)	第44号	平成30年3月1日
43	胎児心エコー法	(胎心エコー)	第11号	平成29年8月1日
44	神経学的検査	(神経)	第195号	令和6年3月1日
45	小児食物アレルギー負荷検査	(小検)	第5号	平成19年6月1日
46	画像診断管理加算2	(画2)	第98号	令和6年1月1日
47	CT撮影及びMRI撮影	(C・M)	第594号	平成30年4月1日
48	冠動脈CT撮影加算	(冠動C)	第44号	平成30年4月1日
49	心臓MRI撮影加算	(心臓M)	第31号	平成27年9月1日
50	小児鎮静下MRI撮影加算	(小児M)	第1号	平成30年4月1日
51	外来化学療法加算1	(外化1)	第232号	令和4年12月1日
52	無菌製剤処理料	(菌)	第157号	平成29年8月1日
53	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	(脳I)	第296号	平成29年8月1日
54	運動器リハビリテーション料(I)	(運I)	第411号	平成29年8月1日
55	呼吸器リハビリテーション料(I)	(呼I)	第312号	平成29年8月1日
56	障害児(者)リハビリテーション料	(障)	第32号	平成29年8月1日
57	歯科口腔リハビリテーション料2	(歯リハ2)	第134号	平成28年11月1日
58	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	(頭移)	第3号	平成29年8月1日
59	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(ペ)	第138号	平成30年3月1日
60	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	(大)	第92号	平成30年3月1日
61	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰囊水腫手術(鼠径部切開によるもの)	(膀胱埋囊)	第5号	令和4年7月1日
62	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	(内胎)	第1号	平成24年4月1日
63	胎児胸腔・羊水腔シャント術	(胎羊)	第6号	平成29年8月1日
64	無心体双胎焼灼術	(無心)	第2号	令和2年6月1日
65	胎児輸血術及び臍帯穿刺	(胎輸臍穿)	第2号	令和2年6月1日
66	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	(胃瘻造)	第58号	平成27年4月1日
67	輸血管理料II	(輸血II)	第61号	平成27年2月1日
68	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前)	第97号	平成30年5月1日
69	凍結保存同種組織加算	(凍保組)	第1号	平成30年12月1日
70	麻酔管理料(I)	(麻管I)	第546号	令和5年10月1日
71	高エネルギー放射線治療	(高放)	第26号	平成27年6月1日
72	病理診断管理加算1	(病理診1)	第16号	平成26年11月1日
73	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組)	第22号	令和5年3月1日
74	クラウン・ブリッジ維持管理料	(補管)	第1358号	平成18年4月1日
75	歯科矯正診断料	(矯診)	第70号	平成28年12月1日
76	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	(顎診)	第78号	平成29年8月1日
77	入院時食事療養/生活療養(I)	(食)	第798号	平成30年12月1日
78	一酸化窒素吸入療法			

## 編集後記

年報「いのちの輝き」の第20号、2023年度版をお届けします。  
お忙しいなか原稿を執筆していただいた方々、ならびに編集委員の方々に感謝いたします。  
(真田 武彦)

### 年報編集委員会

真田 武彦 (委員長)、武山 淳二、佐藤 知子、鈴木 睦子、室井あかり、千葉帆乃夏、獨古 咲良  
野田 円香、平澤 空、佐藤 静美、和地 杏香、坂本 莉代、三輪 愛、島村 舞  
勝治みなみ、西川 順子、須田那津美、佐藤ひかり、高橋 礼奈、土屋 昭子、橋本 和誠  
岩崎かおり、水野 拓、青木 楓雅

---

年報 いのちの輝き

2023年度 第20号

発行月 2024年12月

発行 地方独立行政法人  
宮城県立こども病院

〒989-3126 宮城県仙台市青葉区落合四丁目3番17号

電話番号 022-391-5111 (代表)

F A X 022-391-5118 (代表)

制作 笹氣出版印刷株式会社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番45号

---



宮城県立 **こども** 病院